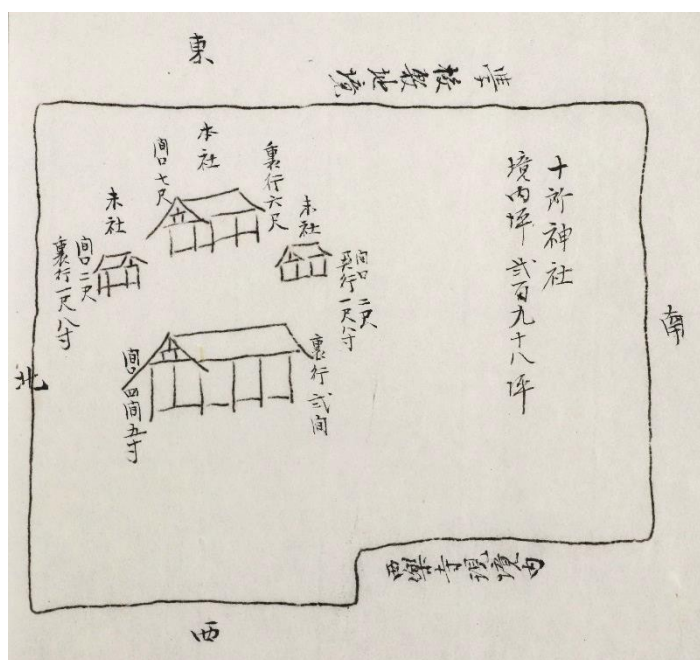
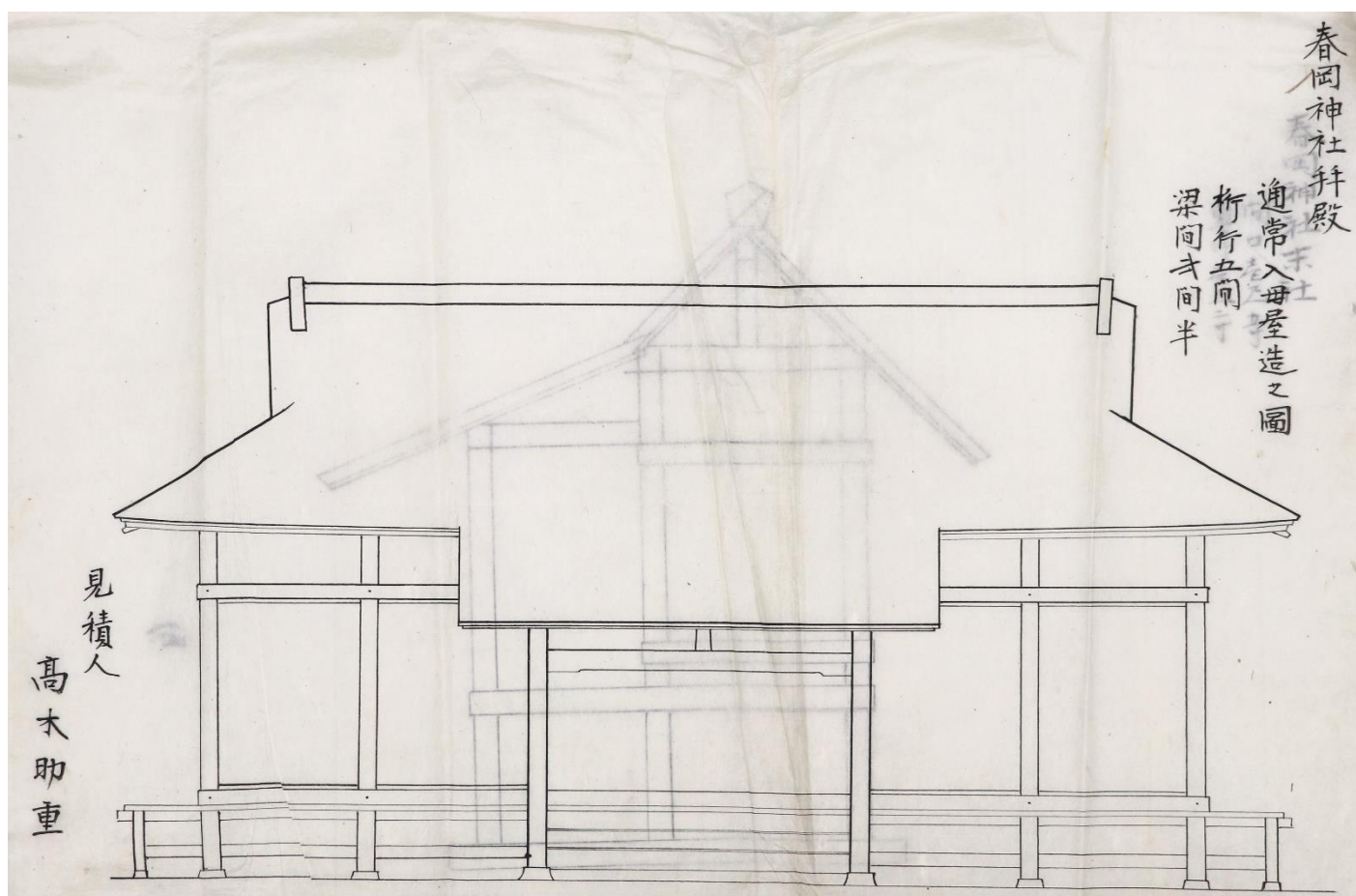




宇刈・春岡 神社関係史料集



杉山侑暉 編著
袋井市歴史文化館



本書 137 号明治 29 年（1896）3 月付け『春岡神社拜殿建築目論見帳』（17 字刈近代役場文書 803）より

目次

序 1

本書からの引用について 2

凡例 3

宇刈・春岡 神社関係史料集(史料編) 7

- 一 元和五年(一六一九) 付け「十所大権現鐘銘」(西楽寺文書近世一三八二) 9
- 二 延宝三年(一六七五) 八月十五日付け『遠江国周智郡宇刈之郷西楽寺本末帳』(西楽寺文書近世八〇三) 11
- 三 延宝四年(一六七六) 付け「遠江周智郡宇刈之郷西楽寺謹言上」(西楽寺文書近世三) 14
- 四 宝永三年(一七〇六) 付け「十所大権現棟札下書」(西楽寺文書近世一六五五) 16
- 五 正徳四年(一七一四) 正月付け『八幡宮古記』(西楽寺文書近世九七三) 17
- 六 延享二年(一七四五) 十月『遠江国周智郡宇刈之郷西楽寺本末帳』(西楽寺文書近世八〇五) 21
- 七 安永元年(一七七二) 『真俗二諦留記』(西楽寺文書近世九七〇) 24
- 八 安永四年(一七七五) 『真俗二諦留記』(西楽寺文書近世九七一) 32
- 九 天明二年(一七八二) 四月付け「一札之事(俟約)」(富永鉄夫家文書一) 41
- 一〇 寛政三年(一七九一) 十一月「中泉神主と神宮寺一件」(西楽寺文書近世九七四) 43
- 一一 寛政六年(一七九四) 五月二十一日 44
- 一二 「乍恐以書付奉申上候事(中泉神宮寺訴訟／鎌田山金剛院・中泉神宮寺一件)」(西楽寺文書近世九七五) 44
- 一三 寛政六年(一七九四) 五月「鎌田山金剛院・中泉神宮寺一件入(包紙)」(西楽寺文書近世九七六) 45
- 一四 弘化二年(一八四五) 十二月『正月御備莊取扣帳』(西楽寺文書近世一六八四) 46
- 一五 弘化四年(一八四七) 正月『年中行事扣』(西楽寺文書近世一六八六) 53
- 一六 嘉永五年(一八五二) 正月『正月御備莊取様荒増記』(西楽寺文書近世一六八九) 75
- 一七 安政二年(一八五五) (明治写)『安政元震災手記』(一二宇刈近代役場文書五四二) 79

- 一七 慶応四年（一八六八）四月付け「覚（中泉八幡宮神宮寺仏像避難）」（西楽寺文書近世一九〇五） 81
- 一八 年月日不明（近世）「西楽寺堂社事」（西楽寺文書近世五） 82
- 一九 『当山諸由緒扣』（抄）（西楽寺文書近世一一） 83
- 二〇 年月日不明（近世）「西楽寺鎮守」（西楽寺文書近世一二〇九） 91
- 二一 未（明治四年（一八七一か）八月七日付け「十所神社・津嶋神社社地書上」（西楽寺文書近世二六九三） 93
- 二二 壬申（明治五年（一八七二）か）六月二十七日付け「壬申六月廿七日五分方御下札扣」（西楽寺文書近世二七四九） 94
- 二三 明治六年（一八七三）五月付け「西楽寺・十所神社立木調」（西楽寺文書近世四一五六） 96
- 二四 明治八年（一八七五）三月付け「独立学校願」（二一春岡村外二ヶ村戸長役場文書七九八） 100
- 二五 明治九年（一八七六）五月付け『合祀願（宇刈村八幡社）』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四四一） 104
- 二六 明治九年（一八七六）六月二十九日付け「記（中村八幡社遷座推進派の主張）」（宇刈村方文書五二） 106
- 二七 明治九年（一八七六）七月二十七日付け「示談約定書之事（宇刈村八幡社移遷につき中村人民と示談約定）」（宇刈村方文書五三） 109
- 二八 年月日不明「中村八幡社遷座に対し中村小前一同より異議につき」（宇刈村方文書五四） 112
- 二九 年月日不明「願（八幡社遷座反対派Ⅱ中村小前惣代の主張）」（宇刈村方文書五五） 113
- 三〇 明治十年（一八七七）四月九日『村社加列願（十所神社）』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四五二） 115
- 三一 明治十二年（一八七九）七月十六日付け
- 「番外（盆祭における所謂大念仏類似の地蔵和讃・鉦鼓禁止の徹底）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四六六） 122
- 三二 明治十二年（一八七九）九月付け『遠江国周智郡春岡村村社 十所神社宝物古器古文書目録』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四七三） 123
- 三三 明治十二年（一八七九）十二月十二日付け
- 「庶第四百九十七号（明治十二年静岡県甲第七号社寺文庫経蔵調査の回答を早く提出せよ）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四七四） 125
- 三四 明治十三年（一八八〇）二月二十日付け「山名神社所属戸数」（二〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一五八） 126
- 三五 明治十三年（一八八〇）五月二十二日付け
- 「丙第百拾式号（八幡社遷座跡払下につき差支の有無を調査したところ据置希望の回答。詳細調査せよ）」
- （一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書七五） 127
- 三六 明治十三年（一八八〇）五月二十六日付け
- 「上申書（八幡社遷座跡払下につき、払い下げられては神輿の置き場が無くなると上申）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三） 128
- 三七 明治十三年（一八八〇）十月一日付け「烟火打揚願（宇刈神社祭典）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二二） 130
- 三八 明治十三年（一八八〇）十月一日付け「御届書（宇刈神社祭典）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二二） 131

- 三九 明治十三年（一八八〇）十月一日付け「射的願（宇刈神社祭典）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二三） 132
- 四〇 明治十三年（一八八〇）十月二日付け「火薬購求願（宇刈神社例祭）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二四） 133
- 四一 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「烟火打揚願（宇刈神社祭典）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七一） 134
- 四二 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「射的願（宇刈神社祭典）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七二） 136
- 四三 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「願書（宇刈神社例祭屋台・山車曳行）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七三） 138
- 四四 明治十三年（一八八〇）十月十八日付け
- 四五 「号外（村学校敷地内より発掘の埋蔵物につき内務省博物館へ差し出すべし）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六三） 140
- 四六 明治十三年（一八八〇）十月十九日付け「記（村学校敷地内より発掘の埋蔵物につき荷造り）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六四） 141
- 四七 「記（警察署より村学校敷地内より発掘の埋蔵物につき受取証）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六五） 142
- 四八 明治十三年（一八八〇）十一月二十二日付け
- 四九 「村第六百二拾九号（宇刈村学校敷地内より発掘の埋蔵物につき内務省博物館からの代金案について確認）」
（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六六） 143
- 五〇 「乙第八号（宇刈村学校敷地内より発掘の埋蔵物につき代金案合意）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六九） 145
- 五一 明治十四年（一八八二）三月十九日付け「地目改称願（八幡社遷座跡地）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一〇五） 146
- 五二 明治十四年（一八八二）六月六日付け「会第六十五号（十所神社通減祿之儀）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九） 148
- 五三 明治十四年（一八八二）七月付け「官地御払下願（八幡社遷座跡地）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一一三） 151
- 五四 明治十四年（一八八二）九月二十日付け「煙火打揚願（宇刈神社祭典）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四八八） 155
- 五五 明治十四年（一八八二）九月二十一日付け「祭典御届（宇刈神社）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四八九） 157
- 五六 明治十四年（一八八二）九月二十二日付け「屋台車願（宇刈神社祭典）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九〇） 158
- 五七 明治十四年（一八八二）九月二十五日付け「火薬購求願（可睡斎不動尊及び宇刈社祭典）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九二） 159
- 五八 明治十四年（一八八二）九月付け「射的願（宇刈神社祭典）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九二） 161
- 五九 明治十四年（一八八二）十一月三日付け「届出（天長節にて氏子限り稽古的）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九四） 163
- 六〇 明治十四年（一八八二）十二月二日付け「公第四拾五号（十所神社通減祿ノ儀）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇） 164

- 六〇 明治十四年（一八八二）十二月二十日「上申書（春日・十所神社両社の総代人取定）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九五） 168
- 六一 明治十五年（一八八二）五月六日付け
「上申書（人民及社寺等所蔵之地誌・歴史・系譜・金石・古文書類精密搜索し差し出すべし）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三〇二〇） 169
- 六二 明治十五年（一八八二）十月二日付け「射的願（宇刈神社祭典）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七九） 171
- 六三 明治十五年（一八八二）十月二日付け「屋台車願（宇刈神社祭典）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八〇） 174
- 六四 明治十五年（一八八二）十月二日付け「烟火奉納願（宇刈神社例祭）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八一） 175
- 六五 明治十六年（一八八三）七月八日付け「社明細帳（元八幡社）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇〇―一） 179
- 六六 明治十七年（一八八四）十月二十日付け「風損木御払下願（十所神社境内）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇八） 188
- 六七 明治十七年（一八八四）十一月十四日付け「庶第三百四十三号（売暦・大麻頒布一般禁止）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八九三） 190
- 六八 明治十七年（一八八四）十二月二十七日付け「依頼書（宇刈神社大祓通知方依頼）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五一） 191
- 六九 明治十八年（一八八五）一月二十七日付け「周智郡宇刈村宇刈神社所有物予約書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二四） 192
- 七〇 明治十八年（一八八五）二月六日付け「御届（十所神社収入物無し）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五一五） 193
- 七一 明治十八年（一八八五）三月三十日付け「春日神社境内神武天皇祭遙拝執行通知」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二三） 194
- 七二 明治十八年（一八八五）四月十六日付け「関口隆吉訓示（県社以下神社維持方法）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二三） 195
- 七三 明治十八年（一八八五）九月二十九日付け
「庶第四百十三号（郷村社に奉仕の祠官掌試験の儀）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二） 196
- 七四 明治十八年（一八八五）十月一日付け「射的願書（宇刈神社祭典）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三三） 197
- 七五 明治十八年（一八八五）十月三日付け
「上申書（春岡村外二ヶ村内試験未済の祠官掌なしの旨上申）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三） 199
- 七六 明治十八年（一八八五）十月十四日「御届（十所神社祭典執行）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三四） 200
- 七七 明治十八年（一八八五）十一月六日付け
「庶第四百七十号（県郷村社奉仕の祠官・祠掌にして試験未済の者の受験につき）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五四） 201
- 七八 明治十八年（一八八五）十一月七日付け「庶第四百七拾三号（売暦・大麻頒布一般禁止）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五五） 202
- 七九 明治十八年（一八八五）十二月十四日付け
「庶第五百八十三号（神仏例祭は今後届出するに及ばず）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五六） 203
- 八〇 年月日不明（明治十八年（一八八五））「迂蘭盆念仏取締方之事」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二三八七） 204
- 八一 明治十九年（一八八六）一月三十日付け「旅行御届（伊勢大神宮参詣）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三二一〇） 205

- 八二 明治十九年（一八八六）三月十七日付け「旅行御届（伊勢大神宮参詣）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三二一五）
 八三 明治十九年（一八八六）四月二日付け「旅行御届（伊勢大神宮参詣）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三二一八）
 八四 明治十九年（一八八六）七月十三日付け
 「御願（山名神社祭典につき例年のとおり村中屋台曳行願）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二九）
 八五 明治十九年（一八八六）八月二十日付け
 「庶第五百五十九号（神社経費收支方法を早く提出せよ）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五七）
 八六 明治十九年（一八八六）九月付け「神社祠掌撰挙願（宇刈神社）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三一）
 八七 明治十九年（一八八六）十月二日付け「御願（宇刈神社祭典につき村中屋台曳行）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三二）
 八八 明治十九年（一八八六）十月二日付け「煙火打揚願（宇刈神社祭典）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三三）
 八九 明治十九年（一八八六）十月二日付け「祭典御届（宇刈神社祭典）」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三五）
 九〇 明治十九年（一八八六）十月二十三日付け
 「庶第六百七十九号（大麻類似の神札を密かに頒布する者あり）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三三〇）
 九一 明治十九年（一八八六）十一月十九日付け「御請書（十所神社官林盗伐品差押）」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三三三）
 九二 明治十九年（一八八六）十一月二十二日付け
 「庶第七百四十二号（三重県山田宮川町中森重平外二人山田宮川橋際へ鳥居建築の企て。神宮司庁により差し止め）」
 （一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三三三）
 九三 明治二十年（一八八七）一月十二日付け
 「庶第十四号（神仏各宗管長に於て教師に補したる者届出に及ばず）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五八）
 九四 明治二十年（一八八七）三月二十六日付け
 「庶第五百五十一号（出雲大社維持のため保存会設立、会長代理巡回）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二六八）
 九五 明治二十年（一八八七）三月三十一日付け「御願（春日社祭典につき屋台曳行）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二六九）
 九六 明治二十年（一八八七）三月三十一日付け「御届（春日神社祭典執行）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七〇）
 九七 明治二十年（一八八七）七月十一日付け「御届（山名神社大祭執行）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七四）
 九八 明治二十年（一八八七）七月十一日付け「御届（山名神社氏子惣代決定）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七五）
 九九 明治二十年（一八八七）七月十三日付け「御願（山名神社祭典につき村中曳屋台・踊り屋台）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七六）
 一〇〇 明治二十年（一八八七）九月十四日付け「御届（上山梨村熊野王子社神事祭執行）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七七）
 一〇一 明治二十年（一八八七）十月二日付け「祭典御届（宇刈神社）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八六）

- 一〇二 明治二十年（一八八七）十月二日付け「御願（宇刈神社祭典につき屋台曳行）」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八七）
 一〇三 明治二十年（一八八七）十月二日付け「煙火打揚願（宇刈神社祭典）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七八）
 一〇四 明治二十年（一八八七）十月十四日付け「例祭御届（十所神社）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七九）
 一〇五 明治二十年（一八八七）十一月六日付け「臨時祭典願（宇刈神社修覆のため）」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二八二）
 一〇六 明治二十年（一八八七）四月十日付け
 「地第貳拾貳号（社寺境内立木枯損等にて伐採を願ひ出るときは立木の類別及び番号を記載）」（一二宇刈近代役場文書二七〇）
 一〇七 明治二十二年（一八八九）四月十一日付け「訓第貳号（社寺境内立竹ノ義）」（一二宇刈近代役場文書二七一）
 一〇八 明治二十二年（一八八九）四月二十二日付け
 「祠掌兼務願（十所神社祠掌欠員につき宇刈神社祠掌山田左内が兼務）」（一七宇刈近代役場文書七七六）
 一〇九 明治二十二年（一八八九）十一月十二日付け
 「庶第五四二号（郷村社神官につき欠員でも撰挙せざる向きあり不都合少なからず／春岡神社）」（一七宇刈近代役場文書七八〇）
 一一〇 明治二十二年（一八八九）十一月十六日付け「社境内損木無代下付願（十所神社）」（一七宇刈近代役場文書七八二）
 一一一 明治二十二年（一八八九）十一月二十八日付け
 「地第六十三号（文明十四年以後創立の社寺にして官有地にあらざるもの）」（一七宇刈近代役場文書七八四）
 一二二 明治二十二年（一八八九）十二月二十三日付け
 「御届書（春日神社受持祠掌欠員につき宇刈神社祠掌山田左内を受持祠掌に）」（一七宇刈近代役場文書七八五）
 一二三 明治二十三年（一八九〇）三月二十二日『十所神社明細帳』（二四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇）
 一二四 明治二十三年（一八九〇）三月二十六日付け「庶第九十号（十所神社・春日神社合祀）」（一二宇刈近代役場文書二七二）
 一二五 明治二十三年（一八九〇）四月七日付け「庶第九十八号（村内社寺仏堂立木調要再調査照会）」（一二宇刈近代役場文書二七三）
 一二六 明治二十三年（一八九〇）四月二十七日付け「十所神社図」（二七宇刈近代役場七八七）
 一二七 明治二十三年（一八九〇）六月二日付け「社第三二一八号・庶第三一八九号（十所神社・春日神社合祀）」（二七宇刈近代役場文書七八八）
 一二八 明治二十三年（一八九〇）六月三日付け「庶第八十号（十所神社・春日神社合祀）」（一二宇刈近代役場文書二七四）
 一二九 明治二十三年（一八九〇）六月五日付け
 「庶第八十一号（維新前旧政府より建造物修覆費を支給されていた社寺取調）」（一二宇刈近代役場文書二七五）
 一二〇 明治二十三年（一八九〇）九月十八日付け「庶第貳百八十八号（春岡神社明細帳を早く提出せよ）」（一二宇刈近代役場文書二七七―二）
 一二一 明治二十三年（一八九〇）九月二十二日付け
 「庶第貳百九十四号（春岡神社明細帳は、従前の明細帳を訂正すれば良いので別に作成を要さず）」（一二宇刈近代役場文書二七七―二）
 259
 258
 254
 257
 256
 255
 254
 253
 252
 251
 250
 249
 248
 247
 246
 245
 244
 243
 242
 241
 239
 238
 237
 236
 235
 234
 233
 232

- 一二二 明治二十三年（一八九〇）十月十日付け「庶第三百十六号（西樂寺所屬藥師堂之義）」（一二字刈近代役場文書二七八） 260
- 一二三 明治二十三年（一八九〇）十一月四日付け「庶第三百五拾五号（神宮大麻曆頒布）」（一二字刈近代役場文書二八〇） 261
- 一二四 明治二十四年（一八九一）七月二日付け「庶第七十号（社寺総代人改選方之義）」（一二字刈近代役場文書二八四） 262
- 一二五 明治二十四年（一八九一）八月十日付け「願（宇刈神社増築願）」（一二字刈近代役場文書二九三） 263
- 一二六 明治二十四年（一八九一）八月十七日付け
- 「庶第貳百五号（社寺総代人改選につき婦女の選定は許さず）」（一二字刈近代役場文書二九四） 268
- 一二七 明治二十四年（一八九一）九月八日付け「庶第二百二十一号（神道出雲教会拡張）」（一二字刈近代役場文書二九八） 269
- 一二八 明治二十四年（一八九一）九月十二日付け「庶第貳百貳十三号（官有地社寺境内使用及収益規程之件）」（一二字刈近代役場文書二九九） 270
- 一二九 明治二十四年（一八九一）九月二十一日付け
- 「庶第貳百三十五号（枯損木障礙木の内危険につき緊急を要するものは伺出不要）」（一二字刈近代役場文書三〇〇） 271
- 一三〇 明治二十四年（一八九一）十一月二十七日付け「庶第三百七十号（社寺宝物其他調速やかに完結せよ）」（一二字刈近代役場文書三〇三） 272
- 一三一 明治二十五年（一八九二）四月二十六日付け
- 「回答（県郷社その他延喜式内外古社に伝わる祭典等無し）」（一二字刈近代役場文書三〇八） 273
- 一三二 明治二十六年（一八九三）二月十九日付け「御届（春日神社・十所神社宝物等取調）」（一七字刈近代役場文書七九八） 274
- 一三三 明治二十六年（一八九三）六月一日付け
- 「地第二三八号（十所神社跡地を阿弥陀堂境内へ編入は聞き届け難し）」（一二字刈近代役場文書三一〇） 276
- 一三四 明治二十八年（一八九五）十一月十二日付け「庶第三十三号（春岡神社拝殿焼失原因取調）」（一七字刈近代役場文書八〇〇） 277
- 一三五 明治二十九年（一八九六）一月十六日付け「神社焼失ニ付再建願（春岡神社）」（一七字刈近代役場文書八〇一） 278
- 一三六 明治二十九年（一八九六）一月二十一日付け「春岡神社建築目論見帳」（一七字刈近代役場文書八〇七） 284
- 一三七 明治二十九年（一八九六）三月付け「春岡神社拝殿建築目論見帳」（一七字刈近代役場文書八〇三） 288
- 一三八 明治二十九年（一八九六）三月付け「春岡神社末社拝殿再建ニ付立木無代御下附願」（一七字刈近代役場文書八〇四） 296
- 一三九 明治二十九年（一八九六）三月付け「春岡神社末社拝殿焼失ニ付再建願」（一七字刈近代役場文書八〇五） 298
- 一四〇 明治二十九年（一八九六）十月二十三日付け「神社落成御届（春岡神社）」（一七字刈近代役場文書八〇八） 300
- 一四一 明治四十二年（一九〇九）五月十日「春日（春岡）神社明細帳」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇二） 302
- 一四二 明治四十二年（一九〇九）五月十日「春日（春岡）神社明細帳」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五七〇） 317
- 一四三 年月日不明（明治）「庶第六九号（宇刈神社祭典は同年の風害により経費節減）」（一七字刈近代役場文書八四八） 321
- 一四四 大正八年（一九一九）三月二十四日付け「報告書（幡鎌隆俊死去）」（山梨役場文書二二二六） 322

- 一四五 昭和十三年（一九二八）二月八日付け「官国幣社以下神社昭和十三年紀元節祭ニ関スル件依命通牒」（一七字刈近代役場文書八二三）
- 一四六 昭和十三年（一九三八）二月二十四日付け「庶第九四号 祈年祭執行ノ間」（一七字刈近代役場文書八二四） 324
- 一四七 昭和十三年（一九三八）五月二十七日付け「周第一四号 冊子「神社と祭祀」送付ノ件」（一七字刈近代役場文書八二九） 325
- 一四八 昭和十三年（一九三八）七月五日付け「庶第三五七号（神社水害被害状況調査方ノ件）」（一七字刈近代役場文書八三三） 326
- 一四九 昭和十三年（一九三八）十月六日付け「庶第五六五号（宇刈神社・春岡神社例祭執行）」（一七字刈近代役場文書八三六） 327
- 一五〇 昭和十三年（一九三八）十月六日付け「村社大祭供進使参向ニ付警衛願」（一七字刈近代役場文書八三七） 328
- 一五一 昭和十三年（一九三八）十月六日付け「村社例祭執行御届」（一七字刈近代役場文書八三八） 329
- 一五二 昭和二十年（一九四五）十月五日付け「周総第五〇四号 神社ノ制札等ニ関スル件（宇刈村）」（一七字刈近代役場文書八四七） 330
- 一五三 昭和二十年（一九四五）十月五日付け「周総第五〇四号 神社ノ制札等ニ関スル件（山梨町／参考資料）」（山梨役場文書二五〇八） 332
- 一五四 年不明四月六日付け「宇刈神社境内増設につき」（一七字刈近代役場文書八五〇） 334
- 一五五 年不明四月八日付け「春日神社例祭通知」（一七字刈近代役場文書八五三） 335
- 一五六 年月日不明「中村八幡社古器物古文書等目録」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七六） 336

序

本書は、西楽寺講座のお散歩企画（現時点で名称不定です）のための参考資料として、宇刈、春岡の神社関係史料を翻刻、収録したものです。西楽寺講座は、西楽寺の文化財を守っていくために、「まずは西楽寺の歴史、価値を明らかにして、周りに広めていこう」というコンセプトのもと始まった講座です。

立ち上げの段階で、袋井市生涯学習課文化財係にお話をいただきましたので、幸いなことに、私（杉山）は最初期から関わることができています。当時の記録を調べたところ、はじめにお話をいただいたのは令和六年（二〇二四）四月十五日のことでした。

最初は講座を受けてくれる講師探しから始まりましたので、初期、しばらくの間は、私が西楽寺文書のお話をさせていただきましたが、今では、考古学や仏像など、色々なジャンルの講座が行なわれています。

最近では、地域の歴史の中での西楽寺の歴史、という視点から、お散歩企画も立ち上がっています。春岡、西楽寺周辺を歩きながら、（もちろん西楽寺が中心的な話題ですが）地域の歴史を話していく、という企画です。

本書は、その中で、春岡神社周辺を歩く企画が立ち上がっている関係から、神社関係の史料を集めたものです。

明治の頃には、宇刈と春岡は、役場がお互いを含む範囲のことを取り扱っていたようで（その辺りの実態も明らかにしたいと思いつつ、史料が膨大なでなかなか進んでいません）、袋井市歴史文化館所蔵の役場史料では、宇刈と春岡を截然と分けることはできませんでした。

そこで、それならいっそ宇刈と春岡の神社関係史料を集めてしまおう、ということで、本書ができあがった次第です。

本書に収録した史料は、言うまでもないことですが、現存している宇刈・春岡の神社関係史料の全てではありません。

まだ調査段階、あるいは調査がされていない史料群があり、その中にも関係史料があるようです。そうした史料はあまり多くはないかもしれませんが、そちらの史料調査が進みしたら、本書の第二巻として、皆様にご紹介できる日が来ると思います。

本書には、江戸時代から昭和まで、一五〇点ほどの史料を収録しました。

宇刈、春岡は、西楽寺文書という大史料群によって、史料群の性格による内容の偏り（当然のことながら西楽寺関係史料がその中心）はありますが、江戸時代のことでも特に詳しく分かる地域です（とはいえ、まだ西楽寺文書の調査は始まったばかりです）。役場文書は、明治のものがかなり多く残っており、高い解像度で明治のことが分かります。

しかし、一方で、宇刈、春岡の大正、昭和の史料はほとんど残っていません。本書収録史料にもそのあたりの事情が反映されています。大正、昭和の史料については、読者の皆様の調査研究の成果もお待ちしております。

西楽寺文書につきましては、令和七年（二〇二五）十月三日に、西楽寺の丸山住職と、西楽寺講座についてお話しした際に、過去の展示資料、講座資料の再掲許可とともに、西楽寺講座（お散歩企画）での史料の使用許可をいただきました。心から御礼申し上げます。

本書からの引用について

読者の皆様が、御自身の研究において、本書から史料を引用するときのことについて記しておきます。

- 1、本書から史料を引用する際は、史料群名と史料番号が正式な史料の識別情報ですから、そちらを記載ください。
- 2、本書から引用した場合は、史料群名と史料番号に加え、『宇刈・春岡 神社関係史料集』〇〇号などと記載ください。具体的な書き方は、左例を御参照ください。

例①

西楽寺文書近世一三八二『宇刈・春岡 神社関係史料集』一号

例②

元和五年（一六一九）付け〔十所大権現鐘銘〕（西楽寺文書近世一三八二）。『宇刈・春岡 神社関係史料集』一号。

- 3、本書では、書名部分を「本書」とした書き方で史料の出典を表示しています。
- 4、本書から史料を引用した場合は、袋井市歴史文化館への御連絡は不要です。とはいえ、こちらでも、袋井市の史料を取り上げてくださった研究の内容は是非知りたいので、御研究が掲載されている書誌情報などを御教示いただければ幸いです。
- 5、本書収録史料の写真については、袋井市歴史文化館に御相談ください。
- 6、連絡先につきましては、組織の改編などで、施設名、連絡先が変更になる場合がありますので、本書を掲載しているホームページのお問合せページなどを御参照ください。

凡例

(本書の構成)

- 1 本書は、袋井市歴史文化館所蔵史料及び西楽寺所蔵文書から、宇刈、春岡の神社関係史料を翻刻・収録したものである。ここに収録した史料が、現在残されている宇刈、春岡の神社関係史料の全てではない。
- 2 本書に収録した史料の内、個人蔵のものは西楽寺文書のみであり、残りの文書群は、袋井市歴史文化館所蔵である。なお、西楽寺文書は中世と近世に分けて番号が付けられており、西楽寺所蔵文書近世には、明らかに近世ではないものも含まれているが、その分類を行なったのは杉山ではないためご容赦いただきたい。
- 3 西楽寺文書については、令和七年(二〇二五)十月三日に、丸山住職から、かつて行なった西楽寺展や西楽寺講座の資料の公開許可とともに、講座用の使用許可をいただいた。心より感謝申上げたい。
- 4 本書は、袋井市生涯学習課文化財係も関わっている(主担当・杉山)西楽寺講座のために編集したものである。西楽寺講座では、地域の歴史の中での西楽寺の歴史、という視点から、春岡周辺のお散歩企画も行なっており、その中で、春岡神社周辺を歩く企画に関係して編集した。西楽寺本体に関わる史料の翻刻よりも先に、神社関係史料の翻刻となった点は申し訳ないが、西楽寺文書の膨大さゆえ、西楽寺本体の翻刻にはまだ時間がかかるため、ご容赦いただきたい。
- 5 翻刻は杉山侑暉(袋井市歴史文化館・袋井市教育委員会生涯学習課文化財係兼任)が行った。
- 6 本書に収録した史料は、宇刈、春岡の神社に関する史料である。宇刈と春岡は、明治には、役場が互いを含む範囲の行政を取り扱っていたため、史料を截然と分けることが実質不可能であるため、双方の史料を収録することとした。
- 7 収録方針は以下のとおり。

イ 宇刈、春岡に残された史料で、神社が登場する史料を収録する。宇刈、春岡に残された史料に登場する神社の場合、その神社の所在地は、

宇刈・春岡でなくとも構わない。

ロ 宇刈、春岡に残された史料で、神社に関係する政策などの史料を収録する。

ハ 宇刈、春岡以外の地域に残された史料で、宇刈・春岡の神社に関係する史料を収録する。

ニ その他、宇刈、春岡の神社史について、参考となると考えられるものを収録する。

- 8 本書収録史料群の内、明治の役場文書は、袋井市史編纂者が、同じような史料群名で、それぞれ史料番号を1から振り直してナンバリングしたため、史料番号から史料を特定することが極めて困難となっている。そのため、特に分かりにくい史料群名については、袋井市立図書館編『袋井市郷土史料目録 第7集(宇刈地区)』(袋井市教育委員会、一九九六年/以下「目録」と略称する)に収録されている順番を史料群名の頭につけた。

目録の収録順は左のとおり。

- 一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書
- 一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書
- 一二宇刈近代役場文書
- 一三宇刈近代役場文書
- 一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書
- 一五宇刈村方文書
- 一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書
- 一七宇刈近代役場文書

この内、宇刈村方文書については、他の史料群名と紛れる可能性が低かったため、「一五」を付けなかった。また、本書には、一三宇刈近代役場文書が収録されていないが、これは、一三宇刈近代役場文書に神社関係史料がないわけではなく、断片的な残り方のため、目録の表題だけでは探しきれない可能性が高く、現在調査を続けているということである。

9 本書収録史料は、史料の成立時期を基準に、基本的に編年順に並べている。史料の理解のためにセット関係にある史料を隣に並べたものもあるため、配列は厳密ではない。そうした配列の史料については「翻刻注」欄にその旨記載した。年のみ分かり月日が不明の史料はその年の最後に配置し、年月までは分かるが日が分からない史料は、その月の最後に配置した。年不明の記事は全体の最後に配置し、月日が分かるものはその月日の順に並べた。年月日不明の史料は末尾に収録した。史料の成立時期は杉山が考証したものもある。

10 同年月日の史料については、同史料群のものは史料番号順に、異なる史料群のものは、目録に収録されている史料群の順に並べた。

(翻刻の方針)

11 文字起しは、基本的には史料原本の文字組の通りに行った。
12 断らない限り、句読点及び返り点は杉山による。史料原文の書き込みが多いときは、あえて杉山が句読点や返り点を打ったことを書いた場合がある。

13 異体字や変体仮名は、人名・地名を除き、基本的に現在通用している文字に改めた。人名・地名は、極力史料の表記にあわせた。

14 和暦の簡易的な西暦換算や、平仮名の原文を読みやすくするための漢字表記などの注は、() に括って該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所の左側に付した場合がある。

15 印が捺されている箇所は印の形にかかわらず(印)とした。場合によって(受付印)など、印の性格も含めた表記にしている。印面が読めるものは、印面を() で括って(印)などの右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所の左側に付した場合がある。印面の文中の改行箇所は

「／」で表した。

16 数多くの行政書類を処理するために、人名や職名などを印で捺している場合などは、印の文面を「」や『』で括って本文中に記し、その右側に「(印)」と注記した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

17 受付印は(受付印)と表し、ページやセクションなどの切れ目で文字起しをした。印面の文中の改行箇所は「／」で表した。

18 割印は、上が欠けているものは「割印」、下が欠けているものは「割印」とし、印面が読めるものは、印面を「」で括って(印)などの右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。印面の文中の改行箇所は「／」で表した。

19 文字の抹消については、見せ消しの場合は、該当する文字の左側に「と」を付した。見せ消しではなく抹消された文字は、文字数が分かる場合は「■」で表した。文字数が分からない場合は「■」で表した。抹消箇所の形状によっては、抹消部分を『』で括り、右側に(抹消)と付したことがある。

20 抹消前の文字が分かる場合は、抹消前の文字を「(×助)」のような形で、該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所の左側に付したことがある。抹消前の文字が分からない場合は、文字数が分かるときは「(×■)」で、文字数が分からないときは「(×■)」で表した。

21 判読困難箇所は、文字数が分かる場合は「□」で表した。判読困難箇所でも文字数が分からない場合は「□」で表した。有疑箇所は「力」という注記を該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

22 文字は読めるが、文意が通らない場合や、不自然な表現の場合は「ママ」という注記を該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

23 衍字は「衍」という注記を該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

24 明らかな誤字は、正しい文字を「」に括って該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

25 付箋や鰭付(一部が糊付けされた貼紙／鰭付は紙面の内部に収まるように貼られたもの)、押紙(全面に糊付けされた貼紙)、また書込などで、文字起しのための余白が足りない場合は(☆)などでその場所を表し、ページやセクションなどの切れ目で文字起しをした。

26 罫紙を使用した史料について、罫線の外に書かれている文字には、罫外にある旨を()に括って該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所を左側に付したことがある。

27 冊子状の史料の場合は、以下のように翻刻した。

イ 表紙がある場合は、表紙を極力そのままに写したものを、(表紙)という注とともに掲げた。この場合、表紙の裏側を「表紙見返」とし、その次のページを一葉目表と数えた。

ロ 表紙がない場合は、史料冒頭から一葉目表と数えた。

ハ 例えば一葉目表は「(1)」、六葉目裏は「(6)」のように表記し、文字起しの上部に注記した。

28 それぞれの史料の末尾に、史料の形態と状態、大きさを()に括って記した。西楽寺文書には「西楽寺所蔵」と記した。

イ 末尾の注記に、「ガリ版印刷」、「印刷」など、史料の文字の書き方を記した場合がある。その場合、その史料は、そこに記した記載方法で作られた文書であり、手書部分は後の加筆箇所となる。加筆箇所や異筆箇所は『』に括り、（手書）、（鉛筆）など記載方法の注記を該当箇所の右側に付した。文字組の都合によっては該当箇所の左側に付した場合がある。

ロ 印刷された本文に手書きで加筆した箇所は、基本的に（手書）と注記した。鉛筆や赤鉛筆、その他特筆すべき方法で記載されている場合は、その記載方法で注記した。

ハ 大きさについては、内容の中心となる文章あるいは文字が読める方向を縦とし、その向きに直行する方向を横とした。

ニ 「手書」などの書き方は、できるだけ統一したつもりだが、それぞれの史料はそれぞれの時期に翻刻したものであるため、表記に揺れがあるかもしれない。ご容赦いただきたい。

29 必要と考えた史料については紙の折り目を表記した。史料の折り目については、山折り線は二つの長さの線が交互に連なる破線（――）で表し、谷折り線は同じ長さの線による破線（――）で表した。それぞれの破線の下に（山折り線）、（谷折り線）と注記した。本書で注記した山折り、谷折りの線は、袋井市史編纂者が折った折り目ではなく（言うまでもなく、史料に新たな折り目を付けることは史料破壊である）、史料作成者、史料受取人が折った線である。

（史料の形態）

30 作成者以外の者に内容が伝わることで効力を発揮する史料を「文書」と呼ぶ。それ以外の史料（つまり他人に見せずとも効力を発揮する史料）を「記録」と呼ぶが、一般に文献史学で「記録」というと「目次記」を指す。

31 紙を一枚そのまま折らずに使用した文書を「縦紙」と呼ぶ。かなり古風な言い方だが、近代の公文書で、ペラ一枚のものをうまく言う表現が見つからなかったため、基本的に、本書に収録した一枚ものの文書は「縦紙」としている。

32 紙を横長に折って使用した文書を「折紙」と呼ぶ。

33 複数枚の紙を継ぎ、巻いた状態でやりとりした文書を「巻紙」と呼ぶ。

34 その他、特殊な形態の史料は、そのままの形態を末尾の注記に記した。

35 冊子状の史料の内、長辺を綴じ、紙を縦長に使用したものを「縦帳」、短辺を綴じ、紙を横長に使用したものを「横帳」と呼ぶ。一箇所のみ綴じたものは「綴」とした。ただし、袋井市史編纂者によって綴じられたとみられる史料が多いため、本書に収録した「綴」史料は、もとは別々の文書だった可能性が高い。言うまでもなく、調査者が史料に穴を開けて勝手に綴じることが史料破壊である。

36 罫紙を使用している場合は、末尾にその情報を記した。罫紙に、罫紙設置組織の名称が印刷されている場合は、その情報も記した。組織名以外にも紙面に印刷されている史料は、文字起しの中に印刷内容を組み込んだ場合がある。

宇刈・春岡

神社関係史料集

一 元和五年（一六一九）付け〔十所大権現鐘銘〕（西樂寺文書近世一三八二）

○□四戸三障退失依一意ノ鎮陳ニ「」

□□□□者 韻

奉為遠州周知郡宇苅郷西樂寺「」

十所大権現寄進鑄新鐘建立仏前鐘「」

是生滅法ツク時「」

処也夕諸行无常之金音。五障之迷「」

水游泥澄速ニ自性之開心逢朝「」

之睡眠以ニ百人之発音。驚覺。施ニ時性「」

法水添レ流而精現当ニ一世之所願而巳

願以此功德 普及「」

我等与衆生 皆共「」

時代常陸国笠間之生権大僧都法印有宝字頭住

林徳寺賢栄 福智坊円「」

大 坊尊悦 水之坊「」

円樹院舜清 願成寺「」

多法寺宥敬 梅本坊宥戒

西尾五郎左右衛門 村松庄九郎

大施主紀州高野山往生院観音院之内久度山「」

大工 山田 九郎兵衛

小工 五郎左衛門

下山梨村 ○九衛門

厚見 三郎右衛門

大石 彦助

原田 弥惣左衛門

（一六一九）
元和五_{己未} 施主 白「」

(紙背)

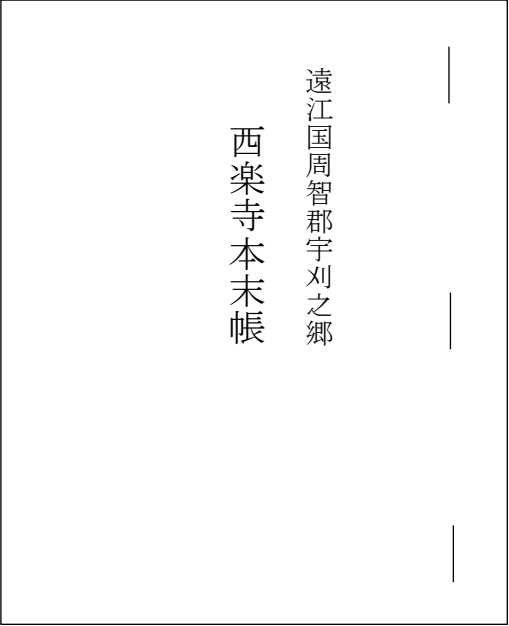
「鐘願主

有宝」

(西樂寺所藏、堅紙、下部破損甚大、縦(297)mm×横(420mm))

二 延宝三年（一六七五）八月十五日付け『遠江国周智郡宇刈之郷西楽寺本末帳』（西楽寺文書近世八〇三）

（表紙）



（1 才）

西楽寺本末帳

一、御朱印高百七拾石

末寺

一、本寺醍醐報恩院 西楽寺（印）

（1 ウ）

以下衆徒

大 坊（印）

松本坊（印）

福知坊（印）

梅本坊（印）

(2 ㉔)

岸坊(印)

願成寺(印)

林徳寺(印)

多法寺(印)

右者 御朱印百七拾石之内。

(2 ㉕)

以下門徒

飯田村

遍照寺(印)

同村

大日寺(印)

同村

普門院(印)

谷川村

(☆) 久昌院(印)

村松村

一、大猷院様御朱印 末寺 油山寺(印)

久保村

八幡社領之内拾八石 神宮寺(印)

右八箇寺者衆徒、六箇寺者門徒。

(☆ 挟み込み文書(押紙はずれか))

「観音寺儀、古来帳面ニ普門院^与

有之候。当時寺号相唱候付、

観音寺^与書改、差上候。尤、右之所

書仕差上候畢。

」

(3 ㊦)

都合拾四箇寺

(一六七五)

延宝三_乙卯年八月十五日 西樂寺 (印)

(挟み込み文書、縦 156mm×横 66mm)

(西樂寺所蔵、縦帳、縦 310mm×横 226mm×厚 2mm)

三 延宝四年（一六七六）付け「遠江周智郡宇刈之郷西樂寺謹言上」（西樂寺文書近世三）

〔第一断簡〕

（端裏書）

「公儀^エ書上候伽藍書并縁起」

遠江国^{周智郡}宇刈之郷西樂寺謹言上

本堂者 阿弥陀如来之三尊 春日之御作

鎮守者 十所大権現 社頭拝殿有

荒神天神 此両末社者十所大権現之為^ニ末社^一

護摩堂 鐘樓堂 弘法大師之影堂有

厥西樂寺者、仁王四十五代

聖武天皇之依^ニ勅命^一神龜元年^{（七二四）}_{甲子}行基菩薩草創之

為^ニ梵閣^一、至^ニ中古^一堂社退転之時節、寛治元年^{（一〇八七）}_{丁卯}

堀河院之御宇、六条右大臣顯房公企^ニ再興^一、備^ニ

叡慮^仁改^ニ成真言之会場^一、醍醐山報恩院之為^ニ末寺^一。

然所^ニ武田信玄遠州^江発向之刻、西樂寺堂社仏閣

坊舎等被^レ及^ニ放火^一候。此旨

権現様浜松御居城之節、達^ニ上聞^一候。或時西樂寺^江

被^レ為^レ立^ニ御馬^ヲ、駿州建穂^ニ罷在候幸遍与申沙門

（西樂寺所蔵、巻紙、返り点杉山、糊はずれ二点、第一断簡 縦314mm×横（445）mm）

〔第二断簡〕

被_レ召出_二、西楽寺被_レ成_二下御祈禱所_一与被_レ為_二
仰付_二候。以来御祈禱之護摩每_下日修_上法、無_二懈怠_一致_二勤行_一、
十所大権現供無_二退失_一致_二勤修_一御卷数御板札從_レ其
御城_江差上申候。幸遍西楽寺致_二拝領_二堂社仏閣、
建立仕候右之堂社零落仕候_ニ付、葺替仕度存候得共、
近年者買人手前樽木不自由_ニ被_レ成、弥以自分_ニ修覆
不_レ被_レ成候。遠州舟明_ニ而御樽木五万丁於_二御拝領_一者難_レ有
奉_レ存候。以_二御憐愍_一ヲ_一堂社葺替仕、上納金之儀者
西楽寺_{領高}。百七拾石之内五拾石 御寄附御座候。修理を以
御朱印之内_ニ而年々差上申候様_ニ被_レ為_二 仰付_一被_レ下候者、
難_有忝可_レ奉_レ存候。仍御訴訟之趣粗言上如_レ件。

遠州宇刈之郷

(一六七六)

延宝四年

西楽寺

寺社

御奉行様

(西楽寺所蔵、巻紙、返り点杉山、糊はずれ二点、第二断簡 縦 315mm×横 452mm)

四 宝永三年（一七〇六）付け「十所大権現棟札下書」（西楽寺文書近世一六五五）

	(一七〇六)	
(釈迦)	宝 永 三 丙 戌 天	遠州周智郡宇都郷安養山
(鹿島)	ク 春日大明神	(大目)
(大目)	(巴) シ 天照太神宮	(巴ン) 富士大権現
(阿弥陀)	(キリーク) 八幡太菩薩	(十一面觀音)
(千手觀音)	(巴) ク	(キヤ) 白山妙理権現
(那智)	(阿弥陀/本宮)	(藥師)
	(熊野三所)	(牛頭天王宮)
	(地蔵)	(カ) 愛宕大権現
	(西楽寺八葉尊昭并衆徒敬白)	

月 日

キウ
タマス

(山折り線)

当山十所権現本節昔乱世以来糾紛而不定
近來林徳寺之住有榮当山之古記見出之依之

(ボローン) (シリ)

孤 (ヒトリ)

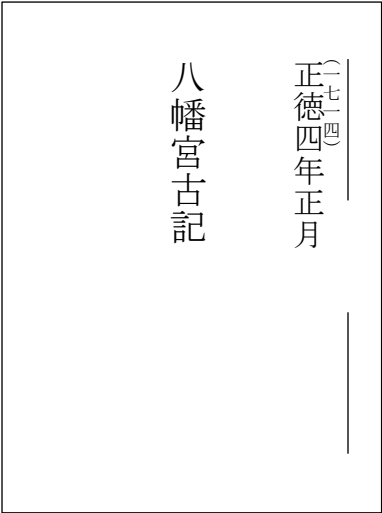
新記之後棄住僧不可孤疑現住尊昭并衆徒
宥相有榮有勸有範有元有山有喜異口同音

敬白

(西楽寺所蔵、豎紙、縦 380mm×横 282mm)

五 正徳四年（一七一四）正月付け『八幡宮古記』（西楽寺文書近世九七三）

（表紙）



正徳四年正月

八幡宮古記

（1 表）

八幡宮

一、御朱印高貳百五拾石

八幡領遠江国豊田郡

（1 裏）

貞享四年（一六八七）終、四月改レ之。
元禄元年（一六八八）終、四月改レ之。
宝永元年（一七〇四）終、四月改レ之。
正徳元年（一七二二）終。

（2 表）

一、御朱印高貳百五拾石

八幡領遠江国豊田郡中泉村貳百

五拾石并社中諸役免附、任去慶

長八年八月廿日先判之旨、弥不レ可

有^レ相違^二之状如^レ件。

元禄五年二月六日 御朱印之写

右之御朱印、当御代と迄五通有^レ之。

(2ウ)

右長兵衛代

(一六二六) (一七〇三)

一、御本社

元和式辰年御建立。元禄十六未年迄^一
八十九年^二成。正徳四年午迄百〇年^三成。
(一七二四)

但^シ棟札ニ秀忠公息女建立^ト有^レ。

同断

一、らう門

(一六三五) 寛永十二^亥年御建立。同年迄八十壹
年^ニ成。正徳四年迄九十三年^ニ成。
(一六三二) (一七二四) (一七二三)

寛永八年^辛建立。正徳三巳年迄八十

一、御本地堂

三年^ニ成。前^トかわら葺^ニ候へ共、同巳年葺替、こ
けら^ニ成。七月上旬取掛、八月十三日終。
(一七二三)

(3ウ)

右棟札写、真木の裏ニ書付有^レ之。

(一六三一)
寛永八^辛天

遠江国豊田郡中泉辨八幡御本地堂秋鹿
(府カ)

長兵衛建立也。他所之^ニ於^ニ以仕大工
(ママ)

周州住賀棠郡野^{ママ}村之住人。
(賀茂郡カ)

奉建立八幡御本地堂成就所

十一月廿六日^辛、無神月廿六日、吉日以長銀初仕。

極月上旬立納所也。

藤原朝臣中島辨兵衛・与兵衛
(カ／前文「長泉□八幡御本地」の判読困難箇所と同形)

社僧神宮寺安養山西楽寺之内権大僧都

宥尊代、同二代目宥長駿州志田郡之住僧有^レ之。如^レ此

棟木四本上たるきの四方ニ書付有^レ之。

(3ウ)

右内近代法名信岸

(一六四七)

一、石鳥居

正徳四年亥ニ建立。元禄十六未年迄
五十七年ニ成ル。正徳四年迄六十九年成。
(二七〇三)
(二七一四)

同断

(一六四九)

惣石垣

正保六丑年建立。元禄十六未迄五十五年ナル。
正徳四年迄六十七年ニ成。
(二七〇三)
(二七一四)

(4 才)

境台

丁ノ式丁四十九間

南北百八十九間

東西八十六間

丁ノ壹丁廿六間

南北百六拾七間

鳥居

十三間
十式間

広サ八間

北百五間袖垣十四間
南五十四間袖垣十六間

今浦川堺 南北百廿七間
東西七十四間

但シ榊木迄

(4 才)

一、御拝殿御造栄

延宝四辰年正月十一日方同年
八月成就。正徳三巳迄三十九年成。
(一六七六)
(二七二三)

一、御幣殿

三間
四間

京間 拝殿
六間
四間

一、木末社

(裏表紙)

「三十六才未年男」

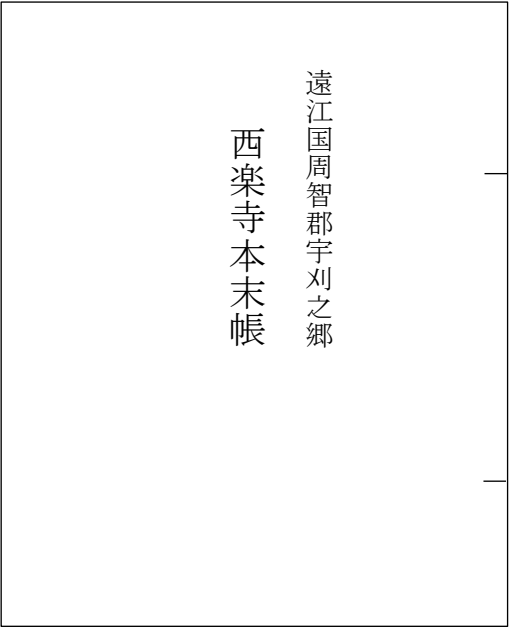
(西楽寺所蔵、堅帳、縦237mm×横159mm×厚1mm)

〔翻刻注〕

この史料の著者は、宝永か正徳のあたりで計算間違いを起こしているようだ。

六 延享二年（一七四五）十月『遠江国周智郡宇刈之郷西樂寺本末帳』（西樂寺文書近世八〇五）

（表紙）



（一六） 西樂寺本末帳

一、御朱印高百七拾石
安養山
摂取院

一、本寺醍醐報恩院
西樂寺（印）

（一〇） 末寺

一、御朱印四拾七石
衆徒
油山寺（印）
村松村

(2 村)

(2 町)

(3 村)

(3 町)

大 坊 (印)
松 本 坊 (印)
福 知 坊 (印)
梅 本 坊 (印)
岸 之 坊 (印)
願 成 寺 (印)
林 德 寺 (印)
多 法 寺 (印)
右者 御朱印百七拾石之内配分有。

門徒

御朱印
久保村
一、八幡社領之内拾八石
神宮寺 (印)

飯田村
遍照寺 (印)
同村
大日寺 (印)
同村
觀音寺 (印)
谷川村
久昌院 (印)

都合拾四箇寺西樂寺門末

(一七四五)
延享二乙丑年 十月

(西樂寺所藏、豎帳、縦315mm×横226mm×厚2mm)

七 安永元年（一七七二）『真俗二諦留記』（西樂寺文書近世九七〇）

（表紙）

（一七七二）
安永 一 春

真俗二諦留記

高平山境塚築立一件

（1カ） 三月廿九日

一、高平山堺塚御さ立候事、早朝方門前半六ニ申付候而、炭土器
為ニ持遣ニ候席ニ、山廻リ藤七を使として飯田村助右衛門殿、七郎右衛門殿方江
乍断御立会被下候様ニ申遣之処、七郎右衛門儀入湯罷出候。留守助右衛門殿
無レ抛用事有レ之由延引申来候处、当院先師四五年已前方
山堺□□ニ申候由、久々ニ而今日思ひ立候間、野地先年方覺有レ之通リへ
証シ相立候而、塚堅メ為レ致、七郎右衛門堺ニ者、少々申分有レ之間、帰郷次第ニ
立会可レ申存候間、助右衛門方山堺ばかり相知れ候分築立候而、
又々藤七を以助右衛門方へ口上申遣候者、今日者御用事ニ付、御立会
不ニ申下ニ候处、山堺之儀者拙僧先年方覺之通リ見計ひ候而、
家来共ニ印シ為レ付候。万一間違之筋も有レ之候ハ、御見分ノ上、
其元御家来ニなる共、被ニ御申付、為レ置可レ被下候段申遣候事。
且又大分之間違ニ而御心ニ不ニ相叶ニ儀も御座候ハ、野地も罷出候而
御立会御相談可レ申段藤七ニ申付遣候处、返事ニ委細承知仕候。

(2ウ)

万一間違候儀も御座候て、倅なる共見分上又と申進通候との
返事ニ而皆と乍レ□歸寺、堺立会働人足等之事、弟子
真心門前彦^{ひこ}右衛門、長介、藤七事、与重、門前源右衛門孫友吉、彦右衛門孫
十蔵、門前半六、右之通りニ御座候。

一、下村彦兵衛殿、惣太夫殿入来由。

晦日

一、山なし養祭堂^カ入来。飯田村善次郎、利右衛門兩人来^ル。

私共村方御末寺大日寺無住難義ニ被^レ存候間、上江觀音寺看主
貞頭儀実体者故、当分御願申度との事、竹子各持参。

四月朔日

一、門前小作百姓歩食米拝借相願候段、年願披露。且又

谷川久昌院留守居拝借米願申出候。

八日晴天

一、朝四つ時方釈迦堂ニ出仕。誕生会法用勤之。^(×真■)

惠觀着座讃。祭文真心。導師浴仏作法登壇。

祭文了^テ、松本坊経願了而拙門後讃。吉慶二段導師小呪^ヲ

□^ヲ出^ス。四白松本坊洗浴了退散。花堂弥陀宝蔵へ移^ス。

一、門前弥五郎来^ル。来^ル五月母十三年之由。斎米持参。取越勤也。

十三日

一、高平山寺倅飯田助右衛門口上申来。先頃山堺塚

被^レ成^ニ御筑^一候へ共、少と間違候様ニ覺候間、御立会被^レ下候様^{ニ而}
返事ニ致^ニ承知^一候間、明十四日可^レ参段申遣候。

十四日

一、高平山絵図持参、面談申聞候者、申分も無^レ之由少とノ処
見指塚改^メ、堺相立事。

十五日

(2カ)

一、大日寺看主海運帰寺之儀、飯田惣且中訴訟申来候間、
帰住申付候也。

十六日

一、大日寺海運、旦那利兵衛同道。昨日聞済候為^{〔×返事〕}礼入来。

一、真応不動法修法始候也。

廿日

一、忍教如行護摩勤行、不動法開白。

廿六日

一、靈是山後住之儀弥内証相決。松本坊本了得心^ニ而、
其趣三倉久右衛門殿^并金剛院^へ野地方書状遣候。

廿七日

一、靈是山弟子元真房入来。新薬沓袋持参。

五月朔日

一、油山寺帰寺之由手紙申来。

二日

一、油山寺入来。弟子行伝房同道為進物多はこ入^ニ
弟子目見^へ式百文持参。馳走返^ス。

一、江戸真福寺様諸堂大破之由、勸化申来。宗旨改

御触一包^ニ来^ル。然^ルニ御祈祷護摩修行^ニ取掛^リ、多用^ニ付

写為^ニ延引^ニ御役六日到着^{トシテ}鎌田^へ七日^ニ為^ニ持遣^一候。

七日

一、江戸御廻状鎌田山^へ為^ニ持遣^一候。請取返事来^ル。

八日

一、^{〔×甲〕}庚申待。大風雨。松本坊掛河^へ宗旨印形^ニ遣^一宿。

九日晴天

一、松本坊帰山。山なし孫惣殿^江祈祷札守為^ニ持遣^一候。

十日

(3 才)

(3 才)

(4 木)

一、恒例御祈禱護摩結願。

十一日

一、加行護摩開白

十二日

一、興教大師法樂二教盆下。油山寺資行伝房初出仕遣候。

十五日

一、大般若 如二恒例一。衆八人勤之申。

十六日雨天

一、山梨正福寺入院披露入来。 山梨善蔵母初七日参詣。

一、門前源右衛門血脉相願候間、戒名相考相認置候也。

廿一日 雨天

一、月並御願供。

廿三日

一、忍教 山中へ帰ル。

一、紀州椀屋来ル。 木具代惣而三分式百文渡遣候。孫右衛門取次。

木具膳三式人前、盥台杓枚八十四枚、靈膳五枚惣而十四枚也。

廿五日

一、手作畑 近年年貢則不埒ニ相成候由、為二吟味一松本坊惣門^{千并}

勘右衛門、弥五郎、只七立会ニ而相改置候。委細帳面通。

廿八日

一、秋葉山^江 惠観、半六兩人代参ニ遣候。 思案坊権現^江参詣。

慈門方□□院道途久昌院へ立寄、弁当遣、帰寺。

六月十五日

一、祇園会鎮守拝殿法樂。

廿九日

一、^{〔虫損ノ文字無いか〕}例年之通惣寺中、学頭、寺内弟子不レ残鎮守掃除ニ罷出候事、惣門前、
□□百姓等本尊場より惣門外迄同斷。廟所も同斷。

(5 木)

七月五日

- 一、下村三沢役人参リ、懸川方住職証文出候様申ニ付、地中へ聞合、例無レ之由返答遣候。
- 一、学頭、寺中共ニ水向莊嚴之事先例之通。

七夕出仕五節句之通。

十三日

- 一、入会鐘時、学頭、衆徒出家不^{〔×手〕}殘^{〔×手〕}廟所水向ニ出仕。理趣經陀羅尼畢ノ讃畢ノ鉢廻向外之水向了歸寺。

十四日

- 一、下村役人参リ懸川役所相濟候由申。
- 一、学頭境内ノ坊中へ不^レ殘水向ニ可^レ参事先例之通^リ。
- 一、近辺壇中へ棚施餓鬼ニ出家中遣候事。同断。
- 一、□之濟候度地中へ申遣^ス。妙光之三十二年忌ニ当^ル。

十五日

- 一、初而之義早朝方地中へ参り差図候。
- 一、当院施餓鬼如ニ往古ニ相濟。但シ油山寺、神宮寺病氣不参。断人來^ル。谷川老僧先達而断。觀音寺断なし。併^{〔規〕}諸法事軌則悉如ニ先年勤之^二了。

十六日

- 一、破垣 御通例。

十七日

- 一、東照宮 法樂寺内ニ而勤也。

(6才)

- 一、油山寺入來。拙寺本尊薬師如来三十三年ニ相当^ルニ付、來^ル八月十五日方三十日之間御開帳。依^レ之近日領主も村役人相頼届ケ申上度旨、先本寺表向願ニ入來候由。且寺中衆万端取持吳候様ニ頼旁萬端兼緩と物語。歸^ル。

八月六日

- 一、門前兵介倅民介油山寺へ当分奉公ニ遣候。

(6ウ)

七日

一、松本坊状況出立。 同晚刻賢真房入来。

十一日

一、油山寺使僧堯伝口上。油山寺申様弥来十五日開帳仕度奉_レ存候。「
其節御法用可_レ被_ニ成_一下一段相出、次_ニ諸道具不_レ苦思召候ハ、御借
可_レ被_レ下由申来候間、両様共_ニ聞届了。

十四日

一、明十五日油山薬師開帳_ニ付、本堂出仕。取越勤之。先師御斎
同断。

十五日半日雨

(7カ)

八月

一、朝五上刻出駕。陸尺四人。挾箱式荷。長柄、草履取、合羽竈支度相調
出勤申候。於_ニ油山_ニ法用二箇御願供之通 鎌田山甚海坊_(カ)・松春坊_(カ)
当寺中岸坊、梅福本坊、元真房、真応房、油山堯伝八口、扇僧
当院方百疋_(香料トシテ)遣_レ之。寺中三ヶ寺式十疋宛遣_レ之。油山寺へ安着
之様子客殿上_江口輿横着_ケ、入院ノ節_与同断。已後本堂へ登_リ下_リも
同様。 小食粥、汁、香ノ物、 法用後二汁五菜ノ飯。煎茶_{ニ而}
出立日入会時分_ニ帰寺。則刻堯伝使僧_{ニ而}礼_ニ来、式百疋。方丈
三十疋ツ、寺中三ヶ寺へ式百疋ツ、。余僧へ鎌田兩人_江三百文ツ、
三百文家頼中_与シテ来_ル。面談口上返事_{ニ而}返_ス。

一、大般若御経 油山寺方来月朔日修行仕度旨申来。

且亦衆僧之儀も天氣次第五人被_レ遣被_レ下候様_ニ申参_リ候。
其旨致_ニ承知_一候様返事申遣候。朔日雨天。九月三日_ニ
扇五人遣候。

九月十五日

一、油山寺 本堂薬師開帳も閉帳之由相聞候。尤先
年者閉帳_ニも当山方参_リ候由、門前之者共_方有_レ聞候。

(7ウ)

当山ニも先例書も無レ之。且亦法流相統寺故、勝手ニ
閉帳も可レ然事ニ存候。翌十六日者願使を以申来候ハ、
拙山薬師開帳も御願を以首尾好昨日閉帳仕候間、
御内々御知らせ申候。後刻直参可レ申上段智方迄
為レ知来候故、用意相待居候所、昼過入来如レ例。
先以開帳も無レ滞昨日閉帳仕候。為ニ御礼ニ参上之由銀包
持参。面談挨拶返ス。門前ノ者共申ニハ、開閉共ニ御出有レ之。
寺格ニ相覚候由及ニ吟味ニ候処、先例書無レ之、両寺共ニ其沙汰無レ之。
記録なし。愚案ニ開帳等之儀者先例無レ之寺院なれハ、
只届ケのミニ而も、又者、願のミニ而も可ニ相済ニ候ヘ共、先格当山導師ニ
参り候各故初ニ者参リ可レ申事、閉迄此方方参り候ハ、法流□
益無レ之様ニ存候。急度先格なれハ記録可レ有レ之、畢竟我
俣ニ末寺を押付たる□□も見苦事歟。先当山も
昨日十五日方恒例大般若護摩立方取込故早々。

(8ウ)

十月八日

一、松本坊看主之儀、靈是山弟子賢真坊^江、岸之坊、梅本坊、福智坊
烈座申渡了。

一、御廻状 袋井宿問屋八兵衛方届。明六ツ時鎌田^江可レ遣旨申付候。

同十三日

一、当冬講^カ 闡掟定^カ惟古^カ単^カ。問^{行伝}講^{真忠}本座相済。

同廿四日快晴

一、松本坊先住忍浄義、今日靈是山金剛院^江入院、家山西氏也。

大河内庄屋并且中惣代清右衛門□□当院方見送^{リス}。

智門使僧興陸尺下部等五六人ニ而□遣候。

廿九日 雨天

(8ウ)

一、京都智山方 武州忍組智元房明瑞房兩人
入来御鑑□方状届。

十一月朔日

同 二日

一、金巻兩入状 江戸真福寺奉加者^{并ニ}百疋入長久寺^江
入院賀儀智元房^江相頼遣候。今日掛河淑迄
半六送^{リニ}遣候へく申候。

(西樂寺所藏、堅帳、虫損、縦242mm×横171mm×厚2mm)

八 安永四年（一七七五）『真俗二諦留記』（西樂寺文書近世九七一）

（表紙）

（一七七二）
安永第四_乙未春

真俗二諦留記

飯田篠右衛門宗旨滯一件有

（一七七五）
（1 ㊦） 安永四_未正月元日

一、如_二恒例_一於_二本堂_一修法。鎮守仁王經、釈迦堂法樂相濟。於_二書院_一寺中不_レ殘集会、年礼、雜煮、盞等畢、次門前百姓年頭礼如_二先格_一相濟了。

一、大坊・梅本坊_江年礼_二廻_ル。歸寺。御祈祷護摩結願。

二日

一、本堂其外出仕。元日同斷。<sub>油山寺
神宮寺</sub>年礼有_レ之。

一、寺中岸之坊其外_へ年礼濟。林光寺、宝藏寺、極樂寺_二礼_二廻_ル。歸寺次第寺中其外由緒之者_へ節振舞有_レ之。

三日

一、本堂鎮守其外出仕同斷。

四日

(2 才)

一、江戸御礼番^ニ付参府。 発足。 未明。

院代岸之坊、御祈祷修行智門へ申渡。 留守居大井坊也。

五日

一、久津部陣屋年礼^ニ参。 次油山寺一色藤兵衛へ寄。

六日

七日

一、恒例出仕。 本堂、鎮守、尺迦堂、寺中参会礼有^レ之。

八日

一、於^ニ薬師^ニ修法有^レ之。

九日

(2 ウ)

十日

十一日

一、恒例金剛宝蔵供物下^ケ。 寺中へ振舞有^レ之。

十二日

一、興教大師 法楽。 即身蔵誦^レ之。 寺中出仕

十三日

十四日

十五日

一、恒例於^ニ本堂^ニ御祈祷大般若。 導師岸之坊勤^レ之。
尤少衆之間朝昼^ニ二席^ニ勤^レ之也。

十六日

十七日

一、東照宮 法楽御結。

(3 才)

十八日

十九日

廿日

廿一日
一、大師御願供法用有_レ之。

廿二日、廿三日無_二別条_一。

廿四日

一、地藏講 法用岸之坊導師勤_レ之。

廿五日

一、先師齋日。

廿六日

一、同尊照。^{〔昭〕}寺内はかり。

廿七日

廿八日

一、江戸御札相済帰着。

廿九日

二月朔日

一、鎮守法楽。無_二別条_一。

二日

一、京智積院様御通行之由、池田_方申来昼時_方浜松宿_へ

越、池田_ニ一宿。三日_ニ浜松_へ通_ル。梅_口市左衛門方_ニ一宿候而

拝顔相済。四日帰寺。

五日

六日七日八日九日十日十一日

十二日

一、興教大師法楽。声字義。

十三日十四日

十五日

一、恒例涅槃会出仕。於_二本堂_一勤_レ之。

十六日十七日十八日十九日廿日

(4ウ)

廿一日

一、御願供出仕。於_二大師堂_一・金剛界法用了。

廿二日

一、岸之坊先師并左師近老御齋法事有_レ之。

廿三日廿四日

一、地藏講法用如_レ常。廿五日乃至_二廿九日_一無_二別条_一。

三月朔日

一、鎮守出仕等 如_レ常。

三月節句

一、於_二本堂・鎮守_一出仕。常之通。

四日五日六日七日八日九日十日十一日

十二日

一、大師法楽(ウーン)字義。 油山行伝房出仕。御願供役割

唄油山寺、表白梅本坊・岸之坊、祭文真応、奠供智門、賛_{前神宮寺、後}

散花松本坊、調声行伝房。

十五日 十六日十七日無_二別条_一。

一、出仕。

十八日

一、造花之事、例年寺中其外近所懇意之仁等

集_リ、相調候処、当春ハ無人故、森町へ申遣候而、六百文_ニ而申、尙本相調献_ニ上_一之。

廿日

一、本堂莊嚴。打寄常式。

(5オ)

一、高平山^江直参。莊嚴相調了。

一、門前道心寮大工都合三人手間。壁塗等六七人。
御願供前出来。疊四条半、大師堂へ調求遣^レ之。
薄へり新三枚相水遣候者也。

廿一日 朝疊

(5ウ)

一、御願供 先早朝高平山^江諸衆同道。修法読経
了帰寺。御斎。客殿諸寺院諸旦家一座^ニ而
相伴。了而用意。

一、当日早朝食鐘を打。寺中^{門前}集り粥の

御膳献上。理趣経同音。其後茶之間^ニ而一座
粥小食有^レ之。先格也。

廿二日

一、飯後 本堂文舞。

廿三日 晴

(6カ)

一、高平山守与重方^方今年飯田村宗旨印形^ニ罷出候様申来^ル。

就^レ夫兼而篠右衛門儀不^レ得^ニ其意^ニ様相聞候間、兼而七郎右衛門殿^江
咄置候処、今日迄御無沙汰^ニ候へ者為^ニ問合^ニ、手紙^ニ而使を以申遣候。

其趣^江兼而貴様御入来刻御咄申置候。篠右衛門殿事貴様思召^も
^{〔衍カ〕}
思召も御座候様被^ニ仰下^ニ間、庄屋中^江御掛合申事も今日迄延引
致し候。然^ルニ今日火急何^ノ無^レ詮宗判申来、貴様思召も有^レ之
ニて承度候間、御返事致入候旨、家来平次を以申遣候。

一、大河内村金剛院^方 当先師三回調菜物早^ニ送^リ来^ル。尤手紙^ニ而
元真、智門へ申来^ル。

一、飯田村七郎右衛門^方使帰^ル。遠方^江罷越候間、帰り次第可^レ被^レ聞候由申来候。

(6カ)

一、宗旨判為ニ代僧岸之坊出勤申候。昼過歸リ飯田村五郎助方ニ而
宗判篠右衛門之外軒別之帳面故不_レ殘旦方印形相濟申候由
篠右衛門儀ハ七郎右衛門殿留守故、追而落着之上_与申置歸ル由
印形受取了。

一、掛川玄蕃殿入来。鷺目四拾八銅持参。去廿一日御願供不_レ参
失礼之旨断ニ入来。冷飯振舞返ス。

一、掛川へ家来平次・善之丞頼ニ遣_レ之。

廿四日

一、地藏講法用 寺中出仕。□齋宝蔵院相伴。

一、掛河 善之丞入来。

(7カ)

一、飯田村七郎右衛門・利左衛門兩人来_ル。昨_ハ日小笠参詣ニ罷越、
_(七郎右衛門申様ハ)

西郷辺初馬村郷里ニ一宿之心掛立寄候処へ、庄屋中_方飛脚

参。夜中帰宅之处、昨日宗旨印形ニ付、兼而御頼篠右衛門ニ付、御手札

披見等之口上、先月中御頼之時分善次郎へ申聞、異見申含候様

申候へ共、大方篠右衛門得心も参候様ニ相聞候間、是迄油断御当院へも

善惣可ニ申上ニ手拔_ケ之段申談も無ニ御座ニ候。兼而茶吞咄_シニハ仕候へ共、是ハ

表向ニ無_レ之候間、役人共ハ指掛リ帳面出来ノ上ハ左様ニ難渋被_レ成候而ハ、終_ニ者

無ニ仕方ニ公边迄も相問不_レ申候而ハ濟兼可_レ申段申来候。 利左衛門儀者

篠右衛門・善次郎ニ被_レ頼先達而御年玉返濟仕候儀不届至極。御免可_レ被_レ下候旨

申談ニ被_レ頼参り候。 答ヘニ不_レ得ニ其意、今日指当り、左様願不_レ聞事ニ候旨

申セハ、村役人ニ預_ニ吟味_(返リ点原文マメ)申談無_レ之。彼_与申事_(答ニ)手前不_ニ帰依_一旦那寺ノ

寺号の下ニ何事ニ印形致し候哉。先達而御印形被_レ成御座候節、

七郎右衛門殿ニわ御氣付なしと申事、彼様之事出来之前標

なり与申。先返ス。

(7カ)

一、飯田五郎助殿_江使僧元真房遣ス。口上_(X)今程七郎右衛門殿御入来。益而篠右衛門

儀如何ニ被ニ成下ニ候哉申候へ者、其儀拙乍ニ無念ニ指ぬかり、此方へハ申訳無レ之由。

然共御当山方表向役人共へ申・不レ申遣候者、又貴寺ノ御無念之由申され候弓段と利を申訳候へ者、申訳無レ之由ニ候間、是ハ只今兎哉角与申候而も

無量ニ存候間、利左衛門との篠右衛門へ被レ頼、御役人糺明ヲうけ得レ心仕候間、

西楽寺表申訳呉候様申間、然者印形相滞候儀無量ニ存候間、

篠右衛門存違之段、印を申出候様ニ被ニ仰付ニ被レ下候ハ、印形何時

ニ而も滞儀無レ之由申遣候処、五郎助殿被ニ出達ニ致ニ承知ニ候。

篠右衛門通申候迄御待可レ被レ下候由、御返事ニ候間、其分聞置候。

一、山中金剛院三廻供養ニ入来。般若院同断。

廿五日

(8カ)

一、先師英第三回法事。後二汁三菜御齋出座。金剛院、

岸之坊、梅本坊、松本坊、福智坊、堯伝房、真応、山梨孫兵衛、飯田

孫兵衛内貞秀、多法寺遠行、本堂用等其外四五十人相仰候而、

廟参了。

七ツ半時方

一、飯田村七郎右衛門殿入来。面談。岸之坊対座。篠右衛門并縁家五人組方

印紙取リ披見可レ成由ニ而持参別紙ニなり。

一、同村善次郎、利左衛門兩人入来。用事有レ之。^(暮)夜六半時 対面仕ル。

入来趣へ、篠右衛門并縁者ニ被レ頼御詫言ニ参り候由^(X至)七郎右衛門一通持参。

御一覽之通、無ニ相違^{兩人}由申セトモ、何ノ証^{シモ}無レ之候間、書付申□□旨

申含遣ス。

廿六日

(8ウ)

一、飯田村兩人被レ参候旨、岸之坊面談、委細承届候処、篠右衛門方書付

御取可レ被レ成旨、昨晚被ニ仰下ニ候へ共、七郎右衛門被レ申候ハ、筋立候儀無レ之様ニ村方

御役人中立寄内吟味之上口書五人組等之印形取御疑無レ之処ニ■

御申分ハ有レ之間敷処ニ又々重様ニ篠右衛門方方も可レ被レ成ニ御取被レ仰候ハ御了簡

(9ウ)

- 一、下村岳兵衛初三日廟参。大勢入来。
 一、飯田善次郎入来。 篠右衛門一分誤証文を判_ニ而持参。
 不_レ得_ニ其意_一、小事申返_ス。此方_方下書認_ニ為_ニ持遣_一。

廿八日

- 一、飯田村 平四郎入来。此方_方遣候下書通りニ誤証文相認、
 篠右衛門可_レ参筋_ニ御坐候处、今日疝氣_ニ而引込罷在候まゝ、
 今日ハ御断申上候。口上聞届帰_ス。 追付福智坊智門を以_テ
 七郎右衛門殿_江相済候趣断。次_ニ庄屋殿_江も相改印形_ヲ為_レ致_ニ遣候

(9オ)

違_与存候旨、書状_ニ而申来間、可_レ被_レ成_ニ御披見_一旨、手紙差出候。手前_ハ旦用
 血脉認掛_リ候間、岸之坊_方可_レ然返事申遣候様_ニ申渡候。其趣者
 済口証_モ無_レ之、且貴辺ノ御取被_レ成候一札_ハ、御内分之儀_ニ候へ者、当時_ハ何事
 無_レ之候共、為_ニ後代_一、住職中不埒無_レ之様_ニ仕度候間、右書付申_ニ受取_一候
 哉申遣候。

- 一、飯田七郎右衛門殿入来。 岸之坊出達、追否茶之間_ニ而岸之坊三人対談。

七郎右衛門殿被_レ申事_ハ、今般村役人共篠右衛門儀吟味仕候由_ハ、畢竟
 御出家之事何様_ニ付筋立候事御六ヶ敷も思召可_レ有_レ之段推察仕候而
 なり替_リ致_ニ吟味_一候儀を又候篠右衛門方_方一札御取可_レ被_レ成被_レ仰候而_ハ、村方役人共
 六ヶ敷_代者などあざけり可_レ申哉。拙者近所_ニ罷在候而承り、且那寺之事_ニ候へ共者、
 聞く耳も穢れいや_ニ存候間、御心得之ためと被_レ申候○挨拶_ニ者
 拙僧共元より筋立候事存も不_レ寄、何分各まかせ_ニ致し居り度候へ共
 寺役_ニ候へ者無_ニ是非_一右之仕合_ニ御坐候。勿論村方_ハ御取_リ被_レ成候五人組一通之
 写し_ニ御村役人中御口上書御印形被_レ下候_ハ、あつはれ御手柄_ニも
 相聞候。且ハ篠右衛門_ニ是非誤_リ不調法仕など為_レ申候も氣之毒千万_ニ存候
 間、何分御村役_ハ被_ニ仰入_一、可_レ然済口証文御勘_口可_レ被_レ下段申せは、又_と
 七郎右衛門殿申様_ハ、拙者何分とも口上書相添、印形仕、差出候而_ハ、如何_ニ思候哉
 被_レ申候間、御尤_ニ候へ共、先_一ト通り御役人中_ヘも御内談可_レ被_レ下候旨申入返_ス。

廿七日

処、無_レ滞宗旨印形相済返_ル。

廿九日、晦日、無_二別条_一。

四月朔日快晴

一、元真房、智門、同道_二而狀況発足_一。昼八_〇時寺中両寺相伴
目出度門出出世金貳拾貳兩包、順教院印_{〔カ〕}書状相添遣候
者満右衛門宿方頼可_レ遣由、池田_{〔カ〕}添状。

(10 村)
(朱字)
『宗旨指出 朔日』二日天氣

(朱字)
『弘五郎遣候。例年左_二三日切_二差出處、当年ハ』

一、下村伝之介昨日吉日_二候間、宅移仕候旨届来_ル。

(朱字)
『市場村方も無_二沙汰_一候間、余り延引故、其趣御断申上指出了。』

一、只七郎 米六口出シ呉候様入来_ル。

(西樂寺所蔵、豎帳、縦 262mm×横 175mm×厚 3mm)

九 天明二年（一七八二）四月付け「一札之事」（富永鉄夫家文書一）

一札之事

殿様ニも近年御物入多、猶又御差掛候御物入等も

有レ之候ニ付、此度村ニ江被ニ 仰渡一候趣者、此上万一

凶作有レ之候而も御手当難被レ遊、其上川除普請、

溜池等之儀も村ニ而致ニ手入一仕越、普請ニも致置、

追而相願、無レ抛計相願、随分村ニ申合、致ニ檢約一^{〔候以下同〕}

少ニ宛もたくわへ、違作之足しニ心掛ケ、然共格別成

違作之節者御見捨者不レ被レ遊、厚思召之段

被ニ 仰付一候趣被ニ仰渡一、難レ有承知仕候。然上者村ニ

申合万端檢約可レ仕候。

一、百姓第一農業出精仕、遊山がましき儀

堅ク相慎可レ申候事。

一、村方祝儀并節句留守見廻之儀、

重之内ハ勿論酒肴ニ而も取遣リ堅

不レ仕、家内限祝ひ可レ申候事。

一、仏事等之儀随分輕ク仕、無レ抛振廻

或ハかうしん待其外如何様之儀ニ而も

輕可レ仕候事。

一、衣類等之儀百姓身分相応之致ニ身形ニ

男女共ニ目立不レ申候様兼ニ心掛可

レ申候事。

一、家内暮方之儀平日心掛ケ檢約可

レ仕候事。

右者此度村ニ申合檢約仕候様被ニ 仰聞一承知仕候。

此上万端心得違無レ之様ニ可レ仕候。為ニ後日一札蓮印^{〔連〕}

仍如
レ件。

（二七八二）
天明二壬寅年四月

一色村

惣兵衛	仁左衛門	彦太郎	源藏	孫右衛門	唯七	權右衛門	久太郎	喜八郎	藤助	權三郎	全太夫	善助	定次郎	平兵衛	嶺助	孫右衛門	善九郎	小助	平助	平太郎
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
						<small>（唯一） 印抹消力</small>														

（字刈一色、卷紙、破損大、縦312mm×横1139mm）

一〇 寛政三年（一七九一）十一月「中泉神主と神宮寺一件」（西樂寺文書近世九七四）

〔表面〕

中泉神主と

神宮寺一件

寛政三亥十一月ヨリ

西樂寺住

字 仁岳

諱 元宜

〔裏面／前欠力〕

不敬ニ御座候哉■訳合ニ□候哉。公議御法度相背候歟。

出家不ニ相応ニ之儀無レ之候にハ、退院申付かたく候。■其儀ニて

耽与吟味之■上之事候。刑而神主被ニ申越一候旨、一心

訳合不レ知候間、使者難レ請旨、猶又先割神宮寺ト

届ケ来リ候ハ、神主方拙僧延慮可レ致与申ニ付請置候

由ニ候得共、神主方本寺ヘ対談之上、事之旨定リ候ラヘハ、

格別是とてモ□神主方可ニ申付一謂レ無レ之ニ付、延慮ニ不レ及旨。

神主等申達候。此領も神主ヘ申入レ可レ給与使者

伝達在レ之候。

〔翻刻注〕

下書きか。

（西樂寺所蔵、包紙力、縦425mm×横314mm）

一一 寛政六年（一七九四）五月二十一日「乍恐以書付奉申上候事」（西樂寺文書近世九七五）

乍恐以書付奉申上候事

一、拙寺儀、先達^而江戸御役寺様方直訴仕候^ニ付、
 段々御役寺様^ニ而御利解被^ニ仰聞^一候付、相登候而、
 御当院様^江右之段申上候处、御当院様方鎌田山^江
 相掛合被^レ遊候处、相手片此節大病之由、早速相掛合^ニも
 難^レ及段、種々御利解被^ニ仰聞^一候处、一両日中^ニも
 出立仕度段申上候处、御役寺様方被^ニ仰付^一候。内済掛合^も
 不^レ仕候以前出府候而者、難^レ相^ニ立筋^一^ニ而、殊之外御立腹段
 奉^ニ恐入^一候。然者相手方儀、大病^ニも御座候得者、露命
 難^レ計奉^レ存候。万一願後^レニ相成候而も如何御座候間、何卒
 当月中御掛合相済候様、偏^ニ奉^レ願候所、若内済
 不^ニ相調^一候ハ、其上御添翰被^ニ成下^一候様、幾重^ニも奉
^レ願候所。以上。

中泉

^{（一七九四）}
 寛政六寅五月廿一日

^{（有秀）}
 神宮寺（印）

西樂寺様

御役者中

（西樂寺所蔵、豎紙、縦330mm×横431mm）

一二 寛政六年（一七九四）五月「鎌田山金剛院・中泉神宮寺一件入」（西楽寺文書近世九七六）

西楽寺元宜代

鎌田山金剛院

中泉神宮寺 一件入

（一七九四）
寛政六寅五月認メ

（西楽寺所蔵、包紙、紐付き、縦424mm×横306mm）

一三 弘化二年（一八四五）十二月『正月御備莊取扣帳』（西樂寺文書近世一六八四）

（表紙）

弘化^{（一八四五）}二年極月改

正月御備莊取扣帳

西樂寺
知事

（1 札） 本堂御莊

（記号）

一、台式升 本尊様

壺前

一、台壺升 脇仏

式前

一、台三合 四天王

四前

十三仏

一、台壺合 地藏二

十六前

鎮守御莊

一、台七合 鎮守様

一、台老合 十式社
十式前

大師堂荘

一、台五合 大師様

老前

一、台三合 行基様

式前

〔力〕
與行様

一、台老合 八祖

十^{〔五〕}■前
外

(1ウ)

八十八ヶ所大師様荘

一、台老合

式前

年神様棚

一、台五合 年神棚

老前

一、台四合 //

三前 下山梨分

床

一、台老升 大神宮

老前

(2 材)

一、台三合 大黒様

式前 三面堂

稻荷様二

一、台老合 金毘羅様

十前 浅間様

秋葉様

三峯様

八幡様

不動尊

井戸神

大黒様荘

一、台老合 大黒様三

五前 毘沙門

薬師堂荘

一、台三合 薬師尊

老前

一、台老合 日光・月光

四前 十二神

庚申様荘

一、台三合

老前

一、台老合

(2ウ)

式前

大明神荘

一、台三合

壺前

多法寺荘

一、台一合

三
■
前

願成寺荘

一、台三合

壺前

天王様

一、台一合

壺前

弁天様

高平山荘

一、台四合

壺前

大師様

一、台壺□

七前

切餅引

林徳寺

一、台壺合

(3 ㊦)

五前

客殿道場荘

一、台老升 大日様

老前

〔ママ〕
大レ両師

一、台三合 不動尊

四前 愛染様

歛喜天

一、台三合

老

一、台老合

式

裏道場

一、台五合 東照宮

老前

一、台老合 御代と

十二前

寺中本尊

一、台老合

十五前

(3 ㊧)

宝蔵

一、台三合

(4才)

米蔵
一、台三合

釜神
一、マシ

松本坊莊

一、台三合 本尊

壺前

一、台壺合

七前

一、〃

式前 年神様

当院先師

寺中先師

一、壺合取

四十前

一、壺升取 五前

一、七合取 壺前 ■

一、四合取 六前

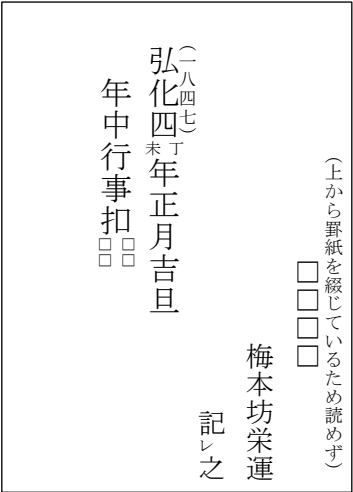
一、五合取 八前

一、三合取備廿四前

一、老合取備
百七十前

(西樂寺所藏、横帳、縦124mm×横331mm×厚1mm)

（表紙）



（表紙見返）

「年と三沢百姓へ免状差遣申候。□□□

中山梨・宇苧

松平丹後守様領

家別・人別・奥印・時之住持書判等入也。

春秋両度從_二役寺_一御触有_レ之。是者飛脚便_二而参

申候。拝見之上写_二取印形_一候_レ而差出申候。古来ハ当院_一例も

從_二役寺_一差向候得共、近頃文化之頃格番持込_二相成申候。

且請印之下_一請書刻付申候。 当日何日何之刻袋并宿何方相達、

御触之趣畏奉_二拝見_一候。直何日何之刻何_一

行達。或者何_一差出申候。以上。

「

(1 ㊦)

正月 年中行事覚

元日夜。凡七頃風呂入。出仕、本堂ニ而学頭ハ本尊法修之。衆徒中者理諏三昧。古例□束被_レ存。當時も

右ニ准し、拙僧師範有海代之仕来候。其後鎮守殿ニ

おゐて古例者仁王經一同読誦之趣御座候処、人数も少人数ニ而、有海代ニ者、氏子繁栄、病難消除之ため、秘鍵心經等

読誦いたし候。且又莊嚴向者鎮守殿へ御備大豆前小十式前相備、於ニ拝殿ニ神酒式陶精進供十式前上申候。尤、三菜也。

是等精進供等ハ古例如何御座候哉。先代有海代方相始申候。

本堂莊嚴向本尊脇立各備壹前宛、菱、みかん、串柿

相添、四天王■其外末仏者小備壹前宛相備申候。先精進供

本尊汁相備。是ハ有海代方相始申候。且十三仏ハ當時本堂ニ

案置仕候得共、許々福智坊庚申堂ニ福智坊有喜寄附ニ而

罷在候処、古仏ニ而許々仕立置候故、本堂へ當代栄岳差出申候。

只今宿堂老人役_{門前}ニ而相勤申候。百人之鐘之後、仏供精進供■_(X等)

神酒等取ニ参申候。其内当方ニ而風呂入仕度代仕_(マ)出申候。

大師堂莊嚴備夫々相借精進供なし。勤も外ニ而寸度相勤

申候。夫方下堂・薬師堂・庚申堂迄拝礼ニ参申、歸寺之上客殿

本尊諸靈_(マ)聖有經理趣經陀羅尼読誦。備物導場向

各々壹前宛相備申候。其外御代々先師。寺中、衆徒、且中聖靈

備相備申候。八祖へも右同様御座候。

其後年神棚前ニ而錫杖心經法、真言經向等祈念。其内

勝手_而喰物仕度申、諸仏神へ相供次第式礼ニ御座候。式礼者

上の間_而学頭・弟子共相寄、寺役共中ノ間へ差出、逸々相召召小供迄ニ

御礼相述、こんふ式枚宛学頭手数方被_レ下候。其後さらめ

三面宝主以上。屠蘇さかな等学頭之前へ差出、盃相開、弟子中・

寺役・子供迄下盃頂戴申、其促許之處へ行置申候。其後

(2 ㊦)

下部出入之者下の間^ニ而御礼申。夫^レ吸物上の間^ニ而吸申候。

其後寺領百姓中一同下之間^ニ而御礼仕来申候。且又寺中者

古例吸物後学頭へ御礼之趣承り申候。古例護摩ハ元日^方

一七日修行開始、学頭中ハ寺中弟子共^ニ而相勤候趣承申候。当代ハ

少^レ人^マ吳^マシ之寺故、正月ハ多用^ニ付、暮ニ七日七座修行申候。先年ハ廿一座

宛相勤候様子^ニ御座候。其後天下泰平之祈祷^ニ付、元日七日ニ修行ニ致候。

右、三日出仕等左之通御座候。

(2ウ白紙)

(3カ)

二日 出仕元日之通少し次第遅刻御座候。

古例油山寺^方年頭年玉物錢^{〔大■式〕}貳百文状、弟子へ五十文宛参申候。

当院^方も使僧^ニ而大祓式状、弟子へ五十文宛差遣申候。近頃

当院^方ハ五日久津部陣屋年頭席^{〔力〕}ニ相廻申候。油山寺^方者近頃

院代^ニ而、二日ニ相勤吳申候。今夕年玉茶相包申候。付木等ハ暮^ニ

相調申置。先年ハ煎餅^ニ御座候处、有日代^方付木ニ相成申。且又

買物^ニ而久津部陣屋へ之進物相調申候。

松平美作殿へ 両代官へ

三本入扇子箱 台付 式本入扇子箱無台

木札壹枚 紙札、付木貳わ、茶一

手代耆人へ 右之通相調置申候

二本位扇壹対 宿屋へ

紙札、付木、茶 年玉貳十疋

紙札、付木、茶也

年頭立寄申候^{〔X〕}■^{〔黒〕}■^{〔黒〕}今日之人足役人足^ニ而相勤申候。

年号 安養山

（種子）奉俣不動尊護摩講^{〔カ〕}七日武運長久如意祈所

月日 西樂寺

右之通相認。杳木ハ椴^ニ而も桧^ニ而も仕来、両板色^{〔カ〕}御座候。

（6才白紙）

（6ウ） 六日

今夕夕飯後、出入之者年神棚前^ニ而七草よはわり申候。古例^{〔老〕}

学頭出入、又蔵・彦右衛門^与申事^ニ而、年男迎手拭老筋・錢百文暮

遣候様承^リ、今ハ無^レ之。只出入之内人足内^ニ而御座候呼申候。尤先年ハ年男年神世話之様子也。

（7才白紙）

（7ウ） 七日

今朝本堂出仕。元日之通相勤申候。元宜代^ニ者薬師堂

参詣之後勘右衛門へ直と年始見舞候趣^ニ御座候。住職之砌

馬下り場^ニ折付所^ニ、元宜^与相定来、住職之砌ハ寸度立寄申候。

鎮守へ神酒。三日之通上^ル也。^{〔尤〕}今日七草粥餅を入、諸仏神へ

上^ル也。後寺領共当日之例^ニ参申候。

(8 ㊦)

八日^{〔文九旦〕} ■ ■ 十日無用。

(8 ㊧)

十日

西之山金毘羅様へ神酒差上^ル也。

(9 ㊦)

十一日

今日例式蔵開^ニ而神酒両蔵大黒天諸神へ

上^ル也。後蔵開備等下ケ、今朝備たり^ニ而地役

出入人足共参申候。後莊松等相片付申候。且本堂向御莊

古例之通門前へ下申候。先年右常遣之者軒別配候由、近来

当方^ニ而割渡申候。

(9 ㊧)

十二日

今日祖師興行大師法事於^ニ客殿^一。住心本半卷読誦仕候。

昔元宜代杯^ニ者十卷狀即故呼^ニ二宝秘善日と一卷宛

読誦之趣、元宜記録^ニ相見申候。古例客殿^ニ而寺中一同

読誦之趣御座候。

(紙背に文字の影あり／「中村」／上下転倒)

(10才白紙)

(10才)
十四日

出仕例之通中飯後。

〔符〕
一十五日例年之通般若転読。昔者大衆有_レ之_ニ付、六百軸

転読候得共、当时人少_ニ付、正・五・九三度_ニ六百軸読誦申候。紙切れ

四、五十枚入也。是者為_レ預申候。紙大札三枚相認置、加持之後

本堂・鎮守殿・客殿供申候。御供餅壺升也。御齋式菜也。

(11才)

(11才)

十五日 今日御齋三菜_ニ而御座候。朝粥煮_ル也。小豆

今朝例之通出仕。鎮守様_ニも神酒式陶差上_ル。昼後、

大般若經於_ニ本堂_ニ読誦。先住宥海代迄修法付_ニ而

相勤来、当时代者一通規法通_ニ而修法無_レ之。其共

開日仕置、転読申。且又先代元宜代_ニ者、当时日外

人少_ニ而十四日之夕三百卷、当日三百卷転読之趣、就中

当时人少_ニ付壺人_ニ五十卷宛漸式百卷、都合年内_ニ

六百卷之転読_ニ成申候。先例正・五・九月護摩札・般若

(12才)

札廿式枚宛、年内^ニ六枚諸寺へ相納之趣^ニ御座候。當時者
正・五月ハ配帙^ニ而納、九月^ニ相成六百卷之木札相納候。
護摩札同様候。

(12ウ・13才白紙)

(13才)

十六日
今日例年休日^ニ而、下男共年頭^ニ遣申候。為^ニ年玉備^一壹前錢百文、
暮遣申候。是等昔者如何御座候哉故不^レ申候。

(14才白紙)

(14才)

十七日
東將軍御円日^ニ付、例之通精進供差上、客殿^ニ而理趣經
陀羅尼読経候。

(15才白紙)

(15才)

廿日
今日將軍様御円日^ニ付、先之通相勤候。供物例之通。今朝松極^ニ而
休間候。

(16才白紙)

(16才)

廿一日
今日例之通大師堂へ出仕、理趣三昧御座候。^{供物進供}今之大師堂
先年者釈迦堂^与相唱。尤本尊入仏有^レ之。先代宥海再

造後大師堂ニ右ニ御唱申候。今日之三昧昔元宜代迄者衆徒
共当寺客殿へ出仕被ニ相勤ニ候様、旧記相見申候。猶又於ニ高平山一
毎月護摩修行之事是迄無レ之所、当代栄岳参詣之
貴賤願成之ため修行被レ申候。開白。

(17才白紙)

(17才) 廿四日

今朝將軍様御田日例之通相勤候。大先代鏝恵様
地蔵心厚ニ而、本堂寺中へも被ニ立置ニ候得共、是も彼人代
ニ者日ニ地蔵講相勤候趣、当代中絶仕。乍レ去古風耳ニ入
候間記録申候。

(18才白紙)

(18才) 廿五日

今日初之天神祭ニ而御座候。手習子供□書上ル也。今日淨恵
立日ニ而御座候。靈供等例之通差上申候。

(19才白紙)

(19才) 廿六日

今日中興尊照・宥実立日。例之通供申候。

(20才白紙)

(20才) 廿八日

例之通本堂出仕。尤今日者三尊之弥陀故觀音經

誦誦。朔日者理趣經、十五日ハ阿弥陀經相勤候儀、愚僧

相始申候。是迄ハ理趣經誦仕候処、改レ元、尤其中昔言、

十五日理趣經三昧之趣御座候。古例廿八日之出仕本堂無レ之哉

相聞。先年院代明弁代方相始候趣、承申候。

(21才白紙)

(21才) 廿九日

將軍様御田日例之通相勤申候。

(22才白紙)

(22才) 晦日

將軍様へ先之通御座候。

(23才)

(紙背に書き込みあり)

(23 ㊦)

十五日・廿八日

二月一日例之通出仕

今月初午。先年有実代ニ相始候得共、有海代相止申候。

彼岸門前薬師尊へ、彼岸入香花備。三前灯明等差上ル。

七夜中灯明上ル也。仏供者不レ及レ申、且本尊出仕以上。

当荣岳代、両度之彼岸出仕相始申候。入ニ中日ニ明三日者

本尊へ精進供上ル也。右精進器、拙荣運世話ニ而、位階

金を以壹分相加へ、真鍮ニ而壹具相求候。

二月二日開山行基入定日ニ付、於大師精進上ケ、

理趣三昧相勤来申候。

十五日、常楽会於本堂相勤、先年者規束之通被ニ相勤一

御趣、元宜代ニ者□經相勤候様子承リ記申候。當時者

人少なから只規束之形計相勵置申候。供物者香花・

灯明・仏供団子等也。■□□者本尊之前也。□□涅槃等也。

(24 ㊦)

二月五日祭礼。神酒壹升、樽二升五合、赤飯精進供

弊立替揚錢百十式文遣ス。□心經朝秘鍵出仕。

餅之儀古来祭へ遣候。五凡壹合取供物市講へ遣申候。

現住荣岳代且先々代有海代鎮守殿瓦葺ニ而御座候訳、

右之通こけら相仕立、右ニ付、^(X今般)其頃戸張も飾を以有海相調、

九月十五日祭日之時、御社中へ戸張申候。右之處、日待候間、寮ニ而氏子へ

強飯三升、むし遣右相止、当日氏子へなけ餅ニ相定申候。簾も掛。

正月ニ被レ下候通リ。灯燈御宮式許故式。是も有海代也。

八日・十日・十二日・十四日・十七日・廿日・廿四日・廿九日・晦日

将軍様御縁日。

(24 ㊦)

例年久津部陣屋へ差出候宗門扣

弘化四_未年扣

宗門一札

遠州周智郡宇刈郷

一、山城国醍醐報恩院末

西樂寺

寺内僧俗何人内僧五人
俗五人

一、西樂寺衆徒

七箇寺

寺内僧俗何人内僧何人
俗何人

一、西樂寺隱居所

願成寺

右寺数九ヶ寺

寺内僧俗何十人内僧何人
俗何人

一、西樂寺村百姓家数

式十八軒

右人数何十人内男何十人
女何十人

人数惣〆何十人内 僧何人

俗何人

女何人

(25 丁)

右者拙寺内并衆徒・西樂寺村百姓迄宗旨人別遂ニ吟味ニ

候処、御法度之邪宗門者不レ及レ申候。惣而□形成者一切無ニ御座ニ候間、

從ニ御公儀ニ御尋之節者、進達可レ被レ下候。以上。

遠州周智郡宇刈郷

弘化何年何

新義真言宗

二月 日

西樂寺^⑩

松平美作守様 様之字永様。役人之御役人

御役人中 御之字御之字。立可不写認類之通

可レ致也。

(25 ㊦)

三月 朔日・十五日・廿八日例之通。
 三日節句。今日出仕。理趣經也。供物強飯也。鎮守様へ同前
 神酒等上ル也。

以来、右之振合を以認差出可レ申候。

書面差出候得共、去午四日宗判之節書付認直し、使僧被レ頼印差出申候。

七年目ニ者使僧之趣書面差出来申候。尤是迄代僧之趣候。

今日諸領旦那宗判遣候次第。

掛川領旦那印形押方。

一、新義真言宗西樂寺旦那^{飯田村}④奥印^{下村・大日村・三沢・掛川神}右之通。
 是者軒別人別^{明・西郷・右}
 是者軒別人別^{〇印式宛}

(26 ㊦)

一、久津部領旦那^{飯田村}一、西樂寺旦那^{市楊村}④家内^〇何人^〇并
 奥^印帳面裏表^〇印表^〇裏^〇右^〇折^〇付^〇三判宛遣申候。

仕舞御請印形之次^〇時之住持之実名書判致遣申候。

右帳面之内^〇大日寺^〇返照寺^〇觀音寺^〇右三ヶ寺無住^〇付、
 本寺代印遣申候。

一、北条領^{上山梨 中山梨}右両村実明書判入。

(26 ㊦)

正月^〇印候通リ、將軍様御縁日。
 八日・十日・十二日・十四日・廿日・廿四日・廿九日・晦日
 十七日

廿日

今朝餅五升、描莊嚴向二本堂^〇也。堂番^〇人添役^〇而遣也。

供物者餅式前・菓子式。

莊嚴者仏天蓋・大天蓋・花蔭・大水引・小水引・大小打敷幡・内外幕・灯燈四燈、式燈四面・器万味・花簞。

(27 ㊦) 宵之勤、理趣三昧。古例也。今日出入之人足地役共参_二莊嚴手伝_一申候。高平へ莊嚴。戸帳、幡、打敷紺・萌黄、幕。灯燈式、小仏具、莊餅精進供具仏供米式升、人足式人役_二而遣申候。菜各料式_{〔力〕}百文。今夕遣申。明日一日人足共相勤申候。夕之宥経_二者当方古今被_レ参趣御座候。

(27 ㊦) 廿一日

今朝本堂供仕物仕度後粥_二而高平へ出仕。導師者不動法老座、大衆理趣三昧也。當時者栄岳日と護摩修行被_レ致候故、今日導師護摩修行申候。

後歸寺中飯御齋担中重立候者相招一同一飯出し申候。御齋_{〔且・檀〕}是迄五齋之处改革_二付三齋_二いたし申候。

皿 ひりやうす 差味
皿 長いも 皿 時之物
椎たけ 見合
壺 焼とふふ
外ニ見合

(28 ㊦)

平

御齋後休足後仕度候而二ヶ法事古例ニ付、宥海代まで
 人数相頼勤仕来申。当代ニ相成暫借財事檢約ニ付人少
 ニ而、理趣三昧相勤申候。猶仕度次第客殿ニ而習□いたし、
 俚出仕申共耆人。

(28 ㊦)

配役

葵供 祭文 表白 導師 唄 教花 前賛 調度
 後賛 廻向 右所定如^レ件。
 今日配役咲廻向油山也。古例仕来候。

(29 才白紙)

(29 ㊦)

四月

朔日出仕例之通。

八日。誕生会。於ニ本堂ニ花堂へ誕生仏入甘茶掛。盥者
 尊天したら相用候。甘茶者前日八百匁ニ而相求候。
 今朝出仕古例如何御座候哉。当代方法花経半卷
 読誦。陀羅尼勤後学頭始甘茶諸欲後ニ頂次第
 諸欲御座候。精進供等供申候。

(30 ㊦)

十七日

東照宮御祭祀、鎮守殿ニおゐて祭リ。神酒式陶精進供。
三菜ニ而外し赤飯三宝ニ盛上ル也。〔又候〕幕ハ木綿あを也。
紋付之幕張幟式下リ立、勤ハ理趣經心經等也。〔又陀羅尼〕
簾等掛之出仕。昼赤飯三升。

(30ウ・31才白紙)

(31カ)
五月。三日。出仕例之通。將軍様御縁日前同。

五日。節句。仕出。三日通仏供神酒強飯也。

(32ナ)

一、十五日。例之般若、昼飯後転読。御齋式菜見合御座候。

(32カ)

六月 三日。出仕例之通。將軍様忌日前節通。
廿八日。岸之坊浅〔又草〕間祭、神酒・赤飯等上。心經読誦候。

一、横須賀領下山梨 上山梨 市場 右三ヶ村者、一村旦中右請奥印一〔又刺〕而相済申候。〔二カ〕

(33 ㊦)

年之六月十一日横須賀表迄使僧遣申候。于□油山寺当未旨。

地頭奥印共遣右四刺也。十二日御□会所へ使僧罷出候。

右濟次第、退出後宿^ニ而中食後帰山候。供人足者

市場・上山梨・下山梨三ヶ寺廻番^ニ而御座候。七年目^ニ右出役

有^レ之、村と庄屋宅^ニ而、前書之通印判渡申候。使僧^ニ而

書付不^レ入。掛川領者村と^ニ而使僧之趣之書面差出申候。別紙

下書有。

十五日。三沢天王。

(33 ㊦)

晦日。餓鬼幡去也。新聖靈書出^レ、三界等之牌へ張、
客殿内縁^ニ曼荼羅を掛、香花、灯明、毎夕^来。晦日迄
上^ル。二十二日^ニ餓鬼棚へ移也。

七月一日

出仕例之通。今夕武大夫施餓鬼幡以外紙持参候。

二日。朝孫兵衛施餓鬼。

三日。夕八左衛門。

四日。朝下山梨右衛門。

五日。

六日。

七日。今日七夕出仕例之通。本堂御宮へ赤飯神酒等上^ル也。
朝勘右衛門・伊右衛門。夕権三郎。

(34 丁)

八日。孫左衛門。夕方源兵衛・五兵衛。

九日。源右衛門。夕源左衛門。

十日。朝藤左衛門。十一日。十二日定右衛門。

(34 乙)

今日願成寺へ経木二十式^三。灯明、錢平右衛門差入。

十三日。今朝出入人足三人参。庭掃除・墓掃除^{〔堂に以前花立と置候。〕}。右墓所

庭灯式本立、寺中者銘と大井坊・梅本源七掛、岸之坊

重吉代、福智坊猪之作掛、松本升作掛、花坪等も、

花も右准し掛と^ニ而改^レ。三日之間夜灯者当方

^ニ而付申候。今夕七頃学頭寺中弟子共迄、皆と聖靈

向参陀羅尼光明真言先代否^ニ者理趣三昧御座候。

墓所へ揚花灯明水水向物焼明松等也。其後帰寺

客殿^ニ而理趣經陀羅尼等也。子僧者新盆之家^{〔カ〕}へ百八飯送^ニ

参。尤以外被^ニ頼置^一候由、客殿表縁^{〔マ〕}内^ニ而聖靈棚莊、蔭を敷、

香花、灯明御茶等進候得共、当時者裏堂牌段^ニ而、沢山上^ル也。

軍^{〔マ〕}將樣^{〔マ〕}■^{〔御也〕}■^{〔也〕}■^{〔也〕}三^{〔也〕}宝^ニ而上^ル。先師旦那者無膳^ニ而上^ル也。其後

夕飯。又後懇意之新盆家へ素麵参持見舞参申候。

経木等牌檀へ莊申候。將軍樣御銘と、先師銘と寺中一本宛担中分式わ^{〔カ〕}、

凡五六十本也。

(35 丁)

十四日。朝くさぎ汁・白粥上ル。昼餅。夕飯。

今日使僧を以檀家棚經^ニ廻申候。

十五日。朝飯。強飯。^{〔通脱力〕}夕そうめん。^{〔餓脱〕}

今日、例之出仕。其後施鬼支度。客殿前へ聖靈棚莊尤常遣

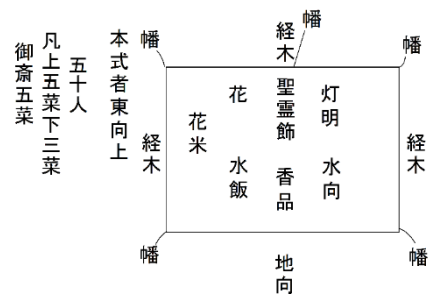
之役也。是^ニ強飯壹俵蒸也。但小豆五升入也。前夕煎置也。

(36才)

十七日。今後聖靈^冥。子供参。十六文位暮遣申候。

(35才)

十六日。朝^レ早御飯拔。菜計聖靈^冥へ供。理趣經読誦。經木等流也。



御飯少四頃配^レ座。法事理趣三昧也。唱礼なし。
 經頭梅^{寺中}本贊。子僧共導師不勸法下礼盟
 箸座。直様施餓鬼段^江参施餓鬼法修行^{廻□□[×]帰庵}。
 油山寺光明真言之頭書ス也。院主帰座段ニ上□前
 水向終テ[×]。過去帳枚之
 武大夫方段と水向也。院主靈供之作法後
 上段、次之座敷へ着座。両側へ衆僧列席。油山者
 院主之左座也。次間へ且中重立候者しやうばん
 強飯出ス。退座。其後五菜御齋。古来者且中一同有^レ之由。近来
 重立候者計ニ御座候。
 皿瓜もみ平^{角八文あけ} 蕘^{あんかけ} 猪口^{にんじん} 香之^ふ
 時之未合候。

廿四日。前夕於_二本堂_一地藏会。式鑊惠代_二者有_レ之由。
今日盂蘭盆也。

(36 頁) 晦日。餓鬼幡下ル也。

(37 才白紙)

(37 頁) 八月一日。例之通出仕。

(38 頁) 十五日。八幡山八幡宮祭祀。赤飯・神酒等上。寸後読経申候。

(38 頁) 九月。例之通出仕。

九日。強飯・神酒等御宮へ上ル。外ハ強飯計也。

十五日。例之般若転読。六百軸札_レ木御宮_レへ上ル也。外_二例之通_一。

十六日。元宜座月。

神酒一陶氏子へ春吉也。鍵取幸八也。

十九日三沢大明神祭礼。強飯二重、神酒貳陶。外^ニ米五升。
先代^カ方體米遣候。繫^カ口持参候。

(39 ㊦)

〔朝御備品代福豆腐^カ式升五合作候。〕

十二月十一日。今夕祖師鑲講。今飯けんちん^ニ而、其後
客殿へ参一列陀羅尼誦經。尤五十卷。後光明真言^ニ而
一人宛立。祖師へ奠香目札。次如^レ斯一同修^テ、両大師法号也。
法事修退座後、夜食。下でんかく、下ふろふき、菜飯等也。
十二日。御勤前贊。理趣經。後贊。導師不^ニ勤仕^カ一候。廻向^カ勺^カ
^ニ而一蕩廻無頭勺出ス也。其後御齋三菜也。

平^{にんしん}
あ^けけ

皿色と 猪口

招番<sup>八左衛門・拾三郎
勘右衛門</sup>

油山寺・神寺何も被^レ参候。

油山方例年式文、神寺口文也。

十三日。すゝ払。寺役人出入人足参候。先本堂始、客殿等也。

昼食作日下^リ餅。夕耆汁一菜也。

十四日方米搗。四五日式人宛入ル也。

十五日。本堂修法結願。

廿一日。出仕例之通。高平護摩結願。

廿四日。出入人足、昼後方参、明日之餅搗支度候。搗餅ハ三碓也。^カ

廿五日。餅搗。出入人足寺役人一同参候而、餅之手伝申候。

今日下男入替古例^ニ候。

(39 ㊦)

廿八日・九日。松莊_リ出入之者_ニ致候。

(西樂寺文書近世二六八六、豎帳、元の豎帳 縦240mm×横160mm、上に「静岡県袋井市立山梨高等家政学校」罫紙を針金で綴じている。

全体 縦259mm×横179mm×厚6mm)

（表紙）

（一八五二）
嘉永五年正月吉日改_レ之

正月御備莊取樣荒増記

西樂寺

知事

（1 札）

- | | |
|----------|----------------------|
| 一、台式升取壺前 | 本尊様 |
| 一、台壺升取式前 | 両脇土様 |
| 一、台三合取四前 | 四天王様 |
| | 十三仏 |
| 一、壺合取拾八前 | 地藏様式 |
| | 大黒様 |
| | 賓頭 _{（盧）} 羅様 |
| 一、台壺升取壺前 | 御宮 |
| 一、壺合取拾式前 | 御宮外 _ニ |
| | 末社共 _ニ |
| 一、台五合取壺前 | 大師堂 |
| | 釈伽様分 |
| 一、台三合取三前 | 両大師 |
| | 開山様分 |
| 一、壺合取六前 | 寺中 |

(1 ㄱ)

床間

一、台老升取老前

大神宮様

一、台五合取老前

年神様分

一、台三合取三前

〃

下山梨三軒分

一、〃三合取式前

大黒様

(靈力)
二西宝様

一、老合取

金毘羅様

拾式前

稻荷様式

八幡様

井戸

荒神様

不動様分

大黒様分

浅間様分

(2 ㄱ)

客殿

一、台老升取老

本尊様

一、三合取四前

両大師

不動様

愛染様

薬師様

一、台五合取老前

裏□

御代々

一、老合取拾式前

同

○

大師様分

(2ウ)

一、壺合取貳拾七前 八祖十二天

一、壺合取五前 五大尊
寺中

一、壺合取 本尊様
先住様

四拾前 寺中先住様分

一、壺合取 且中

三十前 聖霊様分

一、五合取壺前 歓喜天

一、三合取貳前 米蔵

宝蔵

一、五合取壺前 高平山

大師様分

一、壺合取四前 同断

切餅付

白米壺升

一、三合取壺前 庚申様

壺合取三前

一、三合取壺前 薬師様

壺合取四前

一、三合取壺前 大明神様

一、三合取壺前 願成寺

壺合取貳前 天王様分

燈明料三十式文添

(3 ㉔)

備数	
一、式升取台	壺前
一、壺升取台	五前
一、五合取台	七前
一、二合取台	三十
一、壺合取	百九十
ひしの	
一、のし餅	三枚

(3 ㉕)

一、壺合取五前	多法寺 本尊様
一、三合取壺前 壺合取六前	松本坊

(西楽寺所蔵、横帳、縦129mm×横330mm×厚1mm)

一六 安政二年（一八五五）（明治写）『安政元震災手記』（一二）宇刈近代役場文書五四二

(1 村) 安政元震災手記

周智郡宇刈村春岡

白紙

鈴川伊工茂

一、安政元^(一八五四)寅年十一月四日辰中刻大地震儀者、

乍^レ恐掛川御城皆潰、同町家火事。袋井宿

同断、人多損。横須賀御城皆潰。今切通、

相良辺津波^(海嘯ナラン)。山梨町上木戸ヨリ火事。浜

松海通^(浜松街通ナリ)ニ而留ル。可睡齋皆潰、西樂寺同

断、奥堂残ル。春日様御本社残。市場下村

皆潰。尤与平・小右衛門半潰。郷御蔵潰。堤通

不^レ残笑潰^(裂潰ナラン)。坎樋勿論之事、高三拾石余荒、当

家者本家・釜家潰、倉・雪隠半潰。伊右衛門八川

井村二大船寄合ニ行留リ戻候。秋作豊作翌卯^(一八五五)

年^(翌卯年ナラン)三月本家健^(本家建ナラン)大工家代村梅吉^与申者

也。卯年水損大違作ニ付検見ニ成大検見。伊

右衛門宅宿七分壺厘五毛ニ而相立申候。

右者大地震之事有増ニ書印置申候。

追而地震卯年不^レ止。同九月廿八日中地震及ニ家

損、寅暮中村中者屋部^(敷ナラン)ニ住居。家家

之者蔵の前之畑ニ坂囲ニ住居仕候^(坂囲ナラン)。

安政元震災周智郡宇刈村春岡鈴川伊工茂手記写

用紙白紙

一、安政元^甲寅年十一月四日辰中刻大地震儀者、乍^レ恐

掛川御城皆潰、同町家火事。袋井宿同断、人多損。

横須賀御城皆潰。今切通・相良辺津波^(海嘯ナラン)山^(×ニ而)

(2ウ)

〔X〕

梨街上木戸ヨリ火事。浜松海通^ニ而留ル。可睡
斎皆潰。西樂寺同断、奥堂残^ル。春日様

御本社残。市場下村皆潰。尤与平・小右衛門

半潰。郷御蔵潰。堤通不^レ残笑潰^{（裂潰）}。圪樋

勿論之事高三拾石余荒、当家者本家・釜家潰、

倉・雪隠半潰。伊右衛門ハ川井村ニ大船寄合ニ行留リ戻

候。秋作豊作。翌卯年^{（翌卯年ナリ）}三月本家健^{（本家建ナラン）}大工

家代村梅吉^ト申者也。卯年水損大違作ニ付検見ニ成大

検見。伊右衛門宅宿七分壺厘五毛^ニ而相立申候。

右者大地震之事有増ニ書印置申候。

追而地震卯年不^レ止。同九月廿八日地震。又家損。寅

暮中村中者屋部^{（敷ナラン）}ニ住居。『当家之者蔵』ノ前之畑

ニ坂田^{（板田）}住居仕候^{（ナラン）}。

安政二^{（八五五）}乙卯年

八太夫方五代目伊右衛門子

伊 吉 記 置

〔翻刻注〕

鈴川伊エ茂（伊右衛門）の子伊吉が鈴川伊エ茂の「安政元震災手記」を写したものを、おそらく宇刈村役場の職員が更に書き写したものを、

二通あり異同がみられる。二通目には、西暦注記はしなかった。

本文中に誤字とみられるものがあるが、書写者が、一部過剰修正もあるものの、「〇〇ナラン」と注記しているので、翻刻注は付けなかった。

（綴、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦 248mm×横 169mm×厚 1mm）

一七 慶応四年（一八六八）四月付け「覚」（西楽寺文書近世一九〇五）

覚

一、本地三尊阿弥陀仏

一、本尊大日如来

一、不動明王

一、弘法大師

右者神宮寺ニ在_レ之處、今般

御改革御触達ニ付、差当御預_ケ

申置候。以上。

中泉

八幡宮大称宜

（一八六八）

慶応四年辰四月

大場図書（印）

西楽寺

御執事

（西楽寺所蔵、豎紙、虫損甚大、縦275mm×横395mm）

一八 年月日不明（近世）「西樂寺堂社事」（西樂寺文書近世五）

西樂寺堂社事

一、阿弥陀堂 中門 二、王門

大師堂 塔 鐘樓堂

本地地藏堂

一、十所大権現

天照大神宮 八幡 春日

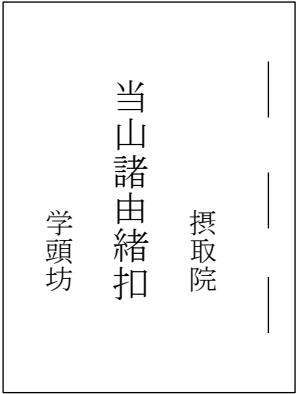
熊能三社^野 愛宕 白山

富士 牛頭天王

本社 天神 荒神

（西樂寺所藏、豎紙、縦252mm×横333mm）

(表紙)



(中略)

〔豎帳大〕

(3ウ)

奉為遠州周智郡宇苅郷西樂寺無量寿
十所大權現奇進鑄新鐘建立仏前〔寄〕
処也 諸行无常之金音是生滅法ツク時
水游泥澄、速自性之開心蓮朝○五障之迷
之〇〇以百人之発音驚覺施自他虫喰
法水添流而精現当二世之所願而
願以此功德 普及
我等与衆生 皆共

(4才)

奉為遠州周智郡宇苅郷。安養山西樂寺無量寿仏并
十所大權現奇進鑄新建立仏前。〔寄〕鐘樓而献所也夕諸行無常
金音是生滅法鏗時者五障。迷雲忽晴而濁水游泥澄

速身性之開心蓮朝雖汎三毒。五慾睡眠以百之レ八發音驚覺
亦四魔只障退告仍一韻之。鎮護故寺中安全諸人快樂何疑
爾者自他之巨益添法水流。精現当二世之所願而已
願以此功德 普及於一切 我等与衆生 皆共成仏道
時代常陸笠間生 法印權大僧都有宝
本大施主

高野山往生院谷

九度山 順泉

(二六二五)
寛永二乙

(六月)
林鐘吉日

重而及破損欲企所願砌。慶安三歲^(二六五〇)十月九日満夜

果然夢八言四句之鐘銘文^併。雖為無韻^音章今度成就之^{△印}

(4ウ)

△間載之物也 天下泰平国土安穩 夢想銘文曰

鐵丸水方日以黒随。鐘等鑄調一打鳴者

衆魔退散諸仏影向 音国郡響而吉慶也

時代奥州岩城御宝殿之生 学頭住 法印權大僧都有香

衆中時代 梅本坊有戒 願成寺有快 多宝寺有清

林徳寺有順 岸之坊有深 福智坊猛伝

大井坊有意 松本坊

本願 内藤誠夢斎

昌吉

森町

(二六五八)
于時万治元天^戊 閏極月吉辰日

(二八六八)
維于時慶応四^戊 辰歳八月十二日改

拾九葉現住有盛代 改加^江置者也

時代常陸国笠間生権大僧都法印宥宝学頭住

(5才)

(8) 林徳寺賢栄 福智坊円

大 坊尊悦 水之坊

円樹院舜清 願成寺

多法院宥敬 梅本坊○戒

大施主紀州高野山性生院觀音院之内九度山此内
此内

大工 山田九郎兵衛

小工 五郎右衛門

九右衛門

元和五(一六二九)未

下山梨村

厚見三郎右衛門

大石彦助

原田弥惣左衛門

(☆／右に九〇度顛倒した書込)

「古キ書有之間

文化十一(一八一四)年此所

写置者也
」

(中略)

(8ウ) 一、上山梨村(一六八五)貞享二丑年大火ニ而不レ残焼失いたし候。

尤古来今の古町通リニ有レ之由也。

乍恐口上書奉願候

一、遠州周智郡市場村春日大明神ハ、大同年中方

(9カ)

立来リ、其節^ニ私先祖神職相務来候。然^ニ貞享^(一六八五)
二年^丑年同郡上山梨村^ニ出火御座候折節、市場
村風下^ニ御座候故、同国秋葉山^江火難^ヲ遁候様^ニ
立願仕候。為^ニ願成就^ニ新祭礼取行申候。此段不届^ニ
罷成、拙者親平左衛門御追放^ニ被^ニ仰付^ニ候。其節
上山梨村^ニ仁右衛門と申百姓^ニ神職御預^ケ被^レ成候。
今神職相勤罷在候。其後拙者親平左衛門
親類^共御追放帰参之御訴訟申上、拾八年
^(一六九二)
以前申年蒙^ニ御免^ニ帰参仕間、上山梨村^ニ居住
仕、難^レ有奉^レ存候。然^共先祖以来神職相務候
拙者儀^ニ御座候得者、離^ニ家業^ニ何共迷惑仕候。^(ママ/被力) 哀
御慈悲^ヲ先規之通神職相勤申候様^ニ被^レ為^ニ
仰付^ニ被^レ下候ハ者難^レ有可^レ奉^レ存候。以上。
^(一七〇九)
宝永六^丑卯月 訴訟人

(9ウ)

村松新五右衛門
一、宝永六年楼門再建 年預
梅本坊
大工市場村
鈴木角左衛門
小工安右衛門
一、庚申堂者薬師堂ノ裏高札之上ノ段^ニ有^レ之候所^(一七三五)
享保式十年卯年福智坊屋敷内へ移申候
福智坊
淳栄代

(中略)

〔豎帳小〕（尊昭直筆ノートと考えられる）

(21 ㊦)

結衆帳序

遠州宇刈郷安養山

西楽寺

夫当山記曰創建者行基菩薩雖中古密場改真言地為新

義常法談所乱世之刻失其功或時事僧或時有守

住之法脉紛糾星霜押移自東照君御朱印頂戴以來隨

再住僧尊堯飛錫隨醍醐報恩院寬僧再正相統再兩部法流

特天下國家精誠繁多也于時段元祿九歲庚申春江府

四院內前真福性遍和尚召当寺及鎌田山金剛院ニ被

定当国之両談林依茲勸両山之衆徒門末等列二

九所化鳴夏冬不易論鼓以祈出台寿御願定為

万歲勤是以自新可初結其名為世階汲之龜鏡

者也

皆宝永元甲申林鐘日

(21 ㊦)

(22 ㊦)

当山并小高高平神社仏閣住僧次聊雖見縁起無詳是故
而隣里囑以老翁吹嘘記之後之註監之亦統之

一、本堂弥陀春日同脇立觀音勢至同作四天王持国多聞（※書込1）

有前仏（一七〇八）宝永五子年林徳寺有栄再興之

大師堂像有 每正月初三日月十五日出仕理趣三昧 七月十五日月次次ニ施餓鬼有

正五九月十五日ニ大般若転読

一、鎮守号十所大明神伊勢春日八幡熊野三所 祇園 愛宕 白山
富士 是為十所古記見

■社 天神 三宝慈神〔カ〕

。毎月朔日 節句 祇園出仕仁王經誦読
正月三之間 / 卯月十七日

一、釈迦堂〔割注抹消〕 本尊〔普賢〕 涅槃講 誕生講有リ
〔※書込2〕

〔※書込1〕

「福智坊
住僧有喜一
寄進之」

〔※書込2〕

「願主村忝氏道栄也
修覆金十両有子孫相
続而修覆之」

(22ウ)

一、薬師堂〔バイ〕 本尊〔サマ〕 月光〔ア〕 日光
是字頭ノ地也其ノ所法蔵寺江替地ニ渡スス有弁ノ代也
願主ハ太田氏一也散錢等集之修覆作〔符〕

一、庚申堂号青面金剛 願主一修覆等以前
一、八幡宮 頂上 ■■■中□ス尊昭山□ニ造営之
一、稻荷堂 客殿ノ後ニアリ

一、弘法大師願主 尊昭
有施入過去帳 両大師ハ福智坊有喜
寄附也宝永三亥九月
(一七〇七)

(23 才)

一、道場本尊不動 正五九月吉日次第一七ケ日護摩 衆徒洛刃^{〔カ〕}

御年礼隔年^{ニ勤来^ル爾^ニ甲^ニ一}■^{〔一七〇四〕}禄十七甲申年ヨリ中年二年過^テ参府ス

〔×元〕

正月十五ニ御礼献上極上十本入

同十六ニ護摩御板札二枚献上ス文云

年号

遠州宇刈郷

(カーンマーン) 奉修練不動尊護摩供廿一箇座御武運長久祈所

安養山西樂寺

(カーンマーン) 奉勤念不動尊護摩供廿一箇御願成就祈所

右寺御奉行日番^江相窺立て御礼ノ後外ノ御奉行へ相勤

掛川城主 五本入板札壹枚

■^{權現}

一、小高^{山願成寺}鎮寺^ハ

(バイ) 牛頭天王

白山

六月十五日祭礼之

(※書込1)

棟札云 奉再宮小高山牛頭天王宮一社大願主所願成就所

願主渡辺氏

一、高平山遍照寺大師堂 開山木食上人

〔一七二三〕

西国三十三所觀音願主木食直心正徳三癸巳 工匠角左衛門

二月点眼畢

一、同焰魔堂 又ハ骨堂 本堂

地蔵 当寺有香建立正徳元年再興 願主木食直心当院尊昭弟子

(※書込み1)

〔一七〇六〕

宝永三丙戌

九月江戸一氏

造営之

「

(23ウ白紙)

(24 才)

天下安全御武運長久御息^災延御子孫繁昌御祈祷之覚

正月三

一、元■間 理趣三昧

〔×朝〕

- (24 冊)

一、毎月■日同

一、七月十五日^(×五)施餓鬼

於本堂勤之

一、正月三之間 仁王經読誦

一、同七日 同

一、毎月朔日 同

一、三月三日 同

一、卯月十七日東照宮法要

一、五月五日 仁王經

一、祇園会 同

一、七月七日 同

一、九月九日 同

於十所権現勤之

一、涅槃講

一、誕生講
- (25 冊)

於釈迦堂勤之

一、正月九日不動護摩一七ヶ日

一、毎月御影供

一、節分経

一、^(マ)

(裏表紙白紙)

(西楽寺所蔵、大小二冊の縦帳と縦紙を綴じたもの。全体縦291mm×横200mm×厚10mm)

二〇 年月日不明（近世）「西樂寺鎮守」（西樂寺文書近世一二〇九）

〔第一断簡〕

西樂寺鎮守

一、十所権現 九尺宮

天照大神 春日大神 八幡宮

熊野三社 富士浅間 牛頭天王

愛宕山 白山

（又脇）
末社 荒神・天神者

三尺宮

右十所権現社者、仁皇四十五代

聖武天皇仍 御勅詔、神龜

元_{甲子}年行基菩薩草創之

梵閣。至_二中古_一堂社退転之時節

寛治元_{丁卯}年堀川院御宇

六条右大臣顯房公_金再興備_二

叡慮_二改而成_二真言之靈場_一。

（西樂寺所蔵、巻紙、返り点原文ママ、糊はずれ二点、第一断簡縦155mm×横(221) mm)

〔第二断簡〕

然所永祿_(一五六〇)三頃武田信玄公

遠州発向之刻堂社仏閣

被_レ及_二放火_一候。此旨 家康_公様

当国浜松御在城之節、奉

達^レ上^ニ聞^一、御取立相成候後、無^ニ退
轉^一御座候。

祭礼 毎年^{二月}五日御座候而^九献^レ供

法^レ樂^レ而^レ已^レ御座候。

林徳寺鎮守

一、沙汰大明神

鎮願年月相分^リ不^レ申候。

祭事

毎年九月十九日^法樂仕来候。

願成寺鎮守

一、牛頭天王

宝永元^{二七〇四}申年八月勸請仕候。

西楽寺尊照代。

祭事

毎年六月十五日^法樂仕来候。

右之通^リ相違無^ニ御座^一候。以上。

(西楽寺所蔵、巻紙、返り点杉山、糊はずれ二点、第二断簡 縦 155mm×横 (410) mm)

二一 未（明治四年（一八七一年）八月七日付け〔十所神社・津嶋神社社地書上〕（西楽寺文書近世二六九三）

宇荏郷

一、社地式反歩

十所神社境内

内壹畝歩 御見分之上 上地

此木数拾七本

此払代金所持物凡貳両貳歩

一、社地六畝歩

内貳畝八歩 上地

津嶋神社

此木数拾五本

此払代金所持物凡壹両壹歩

名主

只 七

社守

源四郎

未八月七日御出役入来御見分御役ニ相成候。

（西楽寺所蔵、豎紙、縦218mm×横288mm）

二二 壬申（明治五年（一八七二）か）六月二十七日付け「壬申六月廿七日五分方御下札扣」（西楽寺文書近世二七四九）

壬申六月廿七日五分方御下札扣

米 周知郡中村

一、三石九斗九升七合 西楽寺領、

同郡下村

一、米八石六斗壺升六合 西楽寺領、

同郡三沢村

一、米七石六斗壺升七合 西楽寺領、

同郡馬ヶ谷村

一、米壺石四斗七升四合 西楽寺領、

同郡市場村

一、米拾三石壺斗壺升壺合

西楽寺領、

五筆

米三拾四石八斗一升四合

周知郡三沢村

一、米九斗六升八合 西楽寺領之内、

十所神社領

同郡下村

一、米式石九斗式升八号 同領之内、

〃

同郡市場村

一、米六斗式升九合 同領之内、

〃

ノ三筆

四石五斗貳升五合

周知郡馬ヶ谷村

一、米三斗五升六合 多法寺領、

同郡三沢村

一、米壹石壹斗六升五合 林徳寺領、

十筆ノ四拾石八斗六升也

(西楽寺所蔵、巻紙、縦160mm×横486mm)

二三 明治六年（一八七三）五月付け〔西樂寺・十所神社立木調〕（西樂寺文書近世四一五六）

〔第一紙〕

〔赤鉛筆〕
遠江国周智郡市場村
西樂寺上地字塔之越

一、官 林

壹ヶ所

此反別壹町三反八畝壹歩

（☆）

所相場

（傍線赤鉛筆／以下同）

此地代金七円五拾錢

字同所

木数千五百六本

所相場

此木代金四拾九円五拾錢

内

松木八百五拾本

但目通り壹尺廻方
六尺廻迄

代金貳拾七円

杉木五拾六本

但目通り壹尺廻方
貳尺五寸廻迄

代金貳円

桧木五百九拾九本

但目通り壹尺廻方
四尺廻リ迄

代金貳拾円五拾錢

外

一、小苗木四百貳拾五本

一、雜木 三拾本

一、運送不弁利

一、嶮岨

(☆ 付箋／後補ならん)

「表記中

上地ノ字ヲ

解明ノコト

后必要全訳

『持下?』
(赤鉛筆)

西楽寺関係」

〔第二紙〕

遠江国周智郡市場村
西楽寺上地字八幡山

一、官林

老ヶ所

此反別老反四畝拾四歩

所相場

此地代金壹円

字同所

一、木数七拾五本

所相場

此木代金貳円五拾銭

内

松木四拾九本

代金壹円四拾銭

但
目通 老尺廻方
三尺五寸廻迄

杉木壹本

代金貳拾錢

桧木貳拾五本

代金九拾錢

但
目通 壹尺五寸廻方
三尺五寸廻迄

但
(×) 壹
目通 貳尺五寸廻
(×) 廻

外

一、小苗木 貳拾八本

一、雜木 六本

一、運送不弁利

一、嶮岨

〔第三紙〕

遠江国周智郡市場村

十所神社上地字塔之越

一、官林

壹ヶ所

此反別壹反拾貳歩

所相場

此地代金壹円

字同所

一、木数百六拾五本

所相場

此木代金四円

内

松木四拾壹本

代金壹円

但
目通 壹尺廻方
四尺廻迄

杉木老本 但目通り式尺五寸廻リ

代金拾銭

桧木老百式拾参本 但目通り式尺廻リ
三尺廻迄

代金貳円九拾銭

外

一、小苗木四拾五本

一、雑木 七本

一、運送不弁利

一、平地

〔第四紙〕

右相改候処相違無_二御座_一候。

第二大区十七小区市場村

戸長

(二八七三)
明治六年五月

児 玉 六 治 印
加藤啓三郎 印

林浜松県令殿

(西楽寺所蔵、綴、縦 226mm×横 300mm×厚 1mm)

(1 ㉔) (印)「浜松県／庶務課」(この他綴じ部分に印二点／どちらも内藤新太郎印)

独立学校願

第二大区拾三小区

久能分校宇荻村

宇荻学校

右者本年二月御県第廿七号御布告之趣一読

萬感ニ不_レ耐奉_レ存。村内有志之者協_{「^(押紙)議ノ上ニ層学資ヲ」}

拡張シ、将来ノ目途相立候ニ付、独立仕度、此段奉

_レ願候。就テハ学資金并ニ就学生人員詳細取

調奉ニ書上ニ候也。

(1 ㉕) 右村

小前惣代

明治八年三月 富永與三郎(印)

戸長

内藤新太郎(印)

長谷川四郎次(印)

浜松県令殿

(2 ㉖) (喉に印二点あり／以下同)

学資金書上

第二大区拾三小区

宇荻村

宇荻学校

(3ウ)

一、就学徒 百廿六人
内 男 八拾七人
女 三拾九人
一、夜學員外生徒 廿五人
但男計〔計〕に鉛筆の○囲みあり／袋井市史編纂者によるものか〕
右者今般独立学校願上候二付、就学生徒取調候

(3カ)

就学生徒調書
第二大区拾三小区
久能分校宇荻村
宇荻学校

(2カ)

一、金二百五拾円 〔一八七三〕
去明治六年ヨリ同十五年マテ
十ヶ年賦寄附
此尅ヶ年分
金貳拾五円
一、金貳千五円五拾銭 〔一八七五〕
今般新幕当明治八年ヨリ
同十七年マテ十ヶ年賦寄附
〔一八八四〕
此尅ヶ年分
金二百円五拾五銭
總計金貳銭〔押紙／×五〕「貳」百五拾五円五拾銭
此尅ヶ年分
金貳百貳拾五円五拾五銭
右者今般独立学校願上候二付、学資金取調書
上候処、相達無〔違〕「御座」候。

処、相違無^{〔ママ／上脱カ〕}「御座」候以。

右村

小前惣代

富永與三郎（印）

戸長

内藤新太郎（印）

長谷川四郎次（印）

(4 ㉔)

林浜松県令殿

（異筆）

『前願之趣相違無^{（異筆）}「御座」候ニ付、奥印致シ候也。』

右区長

須 永 信 夫（印）』

(4 ㉕)

（朱異筆）

『聞届候条第二中学区内

百二十八番小学宇荏学校

ト可^レ称事。

但御扶助金之義ハ追テ可^二相達^一

候得共、久能・山梨両校方

之一^レ頒与可^レ致事。

（^{（二）}松^{（一）}県^{（二）}□^{（一）}課^{（二）}）
割印

（^{（二）}八^{（一）}七^{（二）}五^{（一）}）
明治八年 三月二十四日（印）
（浜松県／令林厚／徳之印）

（縦帳、野紙使用、縦 249mm×横 169mm×厚 1mm）

〔翻刻注〕

袋井市史編纂委員会編『袋井市史 史料編四 近代現代』（袋井市、一九八三年）に「第二部 教育編」第一六号「宇刈学校独立願」として収録されている（三八〇―三八二頁）。

(1 村)

（署外押紙）
『是ハ二一通
認メ候事』

合 祀 願

第貳大区拾貳小区

周智郡

宇 苧 村

同村

該区村社

八 幡 社

員外

若宮八幡社

祭神 応仁天皇

員外

沙汰神社

祭神 猿田彦命 素戔鳴尊
天照皇大神

員外

若宮八幡社

祭神 応神天皇 菊利姫命
武甕槌命 天兒屋根命 大山祇命

員外

大年神社

祭神 豊受皇大神

員外

大 日 社

祭神 素戔鳴尊

右五社

（押紙）

『右社之儀從朱黒印除地等ヲ以當繕仕來候處、右

上地被ニ 仰付ニ、自後修覆』等出來兼、神殿既ニ復

築ノ期ニ臨ミ候得共、五戸拾戸或ハ廿戸ノ氏子殊ニ

貧民ニシテ當繕等不ニ行届ニ、於レ茲氏子一同協議

(2 ㉔)

之上、当区村社八幡社^ニ合祀仕度、依^レ之毎社氏子
總代并戸長連印ヲ以此段奉^レ願候也。

右村

氏子總代

(二八七六)
明治九年五月

富永市太郎 (印)

長谷川四郎次 (印)

内藤新太郎 (印)

村松宇平次 (印)

西尾八十七 (印)

戸長

富永與三郎 (印)

久永新一郎 (印)

村松平作 (印)

(2 ㉕)

林浜松県令殿

『^(異筆)前書員外社合祀願之通該社之既ニ廢亡

洩雨実ニ不敬神之至リニ御座候間、本願

之通村社八幡宮^ニ合祀被^ニ仰付^一候て村

中式百余戸ノ氏子同心協力将来營繕及祭

典不絶ノ基礎ヲ樹テ、永ク敬神之趣旨

報シ候様仕度、依^レ之奥印致候也。

区長

須永信夫』

(縦帳、罫紙使用、虫損大、縦 232mm×横 162mm×厚 1mm)

二六 明治九年（一八七六）六月二十九日付け「記」（宇刈村方文書五二）

(1 村)

〔（署外墨書）不二差出一候〕

記

第二大区十式小区

周智郡

宇刈村

当村内元中村小前一同ヨリ先般已ニ願済相成候
当区村社八幡社遷座之儀ニ付奉_二出訴_一、依_レ之
情実書面ヲ以可_二申上_一旨御達ニ付、左_ニ申上_一候。

一、右八幡社遷社之儀、一区之村社ニ候处、山間湿
地狭隘不潔之地ニ付、高阜眺望晴清潔弘広

ノ地ニ移座シ、大小祭典四方群参之弁_二供シ_一、或ハ
又当宇刈村之儀元<sub>（一色・三沢・馬ヶ谷・
中村・大日）</sub>五ヶ村去_ル（_{（一八七三）}明治六年

人民一般之依願ニ付合併仕、一ハ以四海一家五族兄弟
之御趣意ヲ奉体シ、一ハ以莫大之冗費ヲ減シ、富

国強勢之基ヲ開キ、学校盛大之礎ニ供セント昼

夜尽力之際ニ候得共、村中小前ニ於テハ互ニ旧村

之思_レ未タ不_レ止、動ハ彼我之隔ヲ成シ、真ノ一村一和

ヲ為シカタク、依_レ之一村適宜ノ地ニ彼ノ八幡社ヲ鎮座

シ、従前五戸拾戸ノ氏神_ト雖_モ、悉ク遷座シ、一村一社

之氏神ト為シ、破社漏雨ノ不潔モナク湿地狭隘ノ

憂モナク、營繕掃除等モ行届_キ、一村協和ノ一端

ニ可_レ有_レ之_ト、去_ル（_{（一八七四）}明治七年既其企アリシモ、地租御改

正之儀ニ付、多端ニ付、一応旧村々伍長_エ談判ノミニテ、昨

（_{（一八七五）}八年三月尚又談シ、村中一同_エ申聞有増承服

之旨ニ候得共、戸長人員少ク、諸事手廻_リ兼候故、

(1 村)

(2 村)

(2カ)

終ニ不_レ果、本年四月、猶又夫々最寄長立候者
 共_{ヨリ}無_ニ遺漏_一談判之末奉_レ願度旨申出_ニ付、元五ヶ村
 之儀_ニ付元村不_レ殘小前總代正副戸長連印ヲ以奉
_レ願候。然_ルヲ彼中村小前_{ヨリ}ノ出願書中ニ一応ノ

(3カ)

談示モ無_レ之趣、是詐欺ノ一タリ。又金五拾円差出
 可_レ申旨書載候。此儀本月廿日始テ發言仕候得共、
 右ハ学資或ハ学校新築_ノ為ナラス、素八幡社上地
 官林立木買取ノ心得_ニ付、右金為_ニ差出_一候。謂無_レ之。
 又村松宇平次ノ印形ヲ窃_ニ捺印候旨申立候。右ハ
 方今御布令モ有_レ之、我印形ヲ他人_ニ委ヘキ様無_レ之、
 右宇平次儀_モ旧藩之節ハ組頭役相勤、身分

(3ウ)

相応ノ者_ニテ、元中村_ニ於テ_ハ当戸長モ不_レ及程ノ者
 ニテ、御趣意ヲ不_レ弁大望印形ヲ豈他_ニ委シヤ、是詐
 ノニナリ。今般發願ノ事情ヲ聞_ニ、魁首_トシテ村中
 ヲ煽動セシ者ハ、独_リ旧神官村松九郎平ノミ。此者
 生質頓欲頑固ノ者_ニテ、八幡社上地ノ儀_ニ付、曩_ニ奉_ニ
 出訴_一候儀有_レ之、素ヨリ不条理ノ願_ニ付、御採用不_レ
 相成_一、爾後宅地御払下等ノ儀_ニ付、至大之御仁恤ヲ
 不_レ弁、己ノ私欲ニ迷ヒ、種々之望願戸長_エ申出候得共、
 素_{ヨリ}私情_{ヨリ}出_ル儀_ニテ不_レ可_レ採事_ニ付、説諭仕

(4カ)

置候。依_レ之今般事ヲ遷社_ニ寄、頑愚之小民ヲ
 煽動シ、県庁ヲ奉_レ驚候儀、全ク正副戸長共一同村
 協和ヲ為ントシ、復テ之ニ勝_ルノ弊ヲ作シ、一村維持ノ
 命ヲ奉シ、其本文ヲ尽ス不_レ能儀奉_ニ恐入_一候。仰願_クハ、
 前書之趣御賢察被_ニ成下_一、彼者共_エ御説諭
 被_ニ仰聞_一度、此談連印ヲ以奉_レ願候。以上。

右村

(4 ㊦)

明治九年六月廿九日

副戸長

寺田平九郎 (印)

村松里次郎

小野田久三郎 (印)

戸長

富永與三郎 (印)

久永新一郎 (印)

村松平作 (印)

(縦帳、罫紙使用、虫損、縦238mm×横168mm×厚1mm)

(1 ㉔) 示談約定書之事

宇刈村八幡社移遷之儀ニ付、旧中村之人民旧地据へ置キヲ願出タル処、既ニ其筋之御談示ニも相成リ、容易ク挽回致シ難キニ抛リ、左之約定ヲ取結ヒ、示談相整候者也。

第壹条

八幡社移延之儀者、（二八七四）明治七年五ヶ村合併宇

刈村ト改称之節取結ヒタル約定書ニ基キ

タルモノニテ、至当之儀ト相認メ候。依テ右約定書ハ有給確守可レ致事。

第貳条

八幡社旧境内ハ本村学校へ払下相願ヒタル

ウヘハ、一村ノ共有地ニ致シ置、毎歳大祭之節

ハ旅所トナシ、神輿此地へ渡御致様可ニ取計ニ事。

第三条

此度遷社之後タリト雖トモ、宇刈村闔村之（喉に印あり／以下同）

人民十分之六以上同意之上、新社地ヲ不便トナシ、

旧境内若クハ其他ニ良地所有之遷社スル

ヲ可トスル時ハ、出願順序ヲ踐テ、更ニ遷社

スルモ妨ナキ事。

右之通条約確定候処相違無レ之。仍テハ

惣代トシテ左之連署致タル上者、永ク違

変有レ之間敷候事。

第貳大区拾貳小区

(3 村)

明治九年七月廿七日

周知郡宇茹村
戸長

村松平治(印)

副戸長

山内権四郎(印)

元馬ヶ谷村

内藤新太郎(印)

元一色村

富永市太郎(印)

元三沢村

長谷川四郎次(印)

元中村

鈴木源九郎(印)

全

村松鉄蔵(印)

全

鈴木平七(印)

全

小野田達蔵(印)

全

村松九郎平(印)

全

村松庄八(印)

全

安間金平(印)

全

同彦蔵(印)

同

小野田長八（印）

全

村松宇平次（印）

（縦帳、罫紙使用、縦246mm×横166mm×厚1mm）

二八 年月日不明〔中村八幡社遷座に対し中村小前一同より異議につき〕（宇刈村方文書五四）

右者両村八幡社遷座之儀ニ付、

〔元中村小前一同ヨリ御庁^エ異議

苦願奉り候ニ付、戸長并ニ小前

惣代等ヨリ御答書及五ヶ村合併

之際□定約詔書相添申^レ上^{（この返り点原文にあり）}

仕候処、右願^{（候脱）}へ共、再応之御説

諭被^ニ成下^一候ニ付、異議無^レ之向申

出候間、答書取消及定約証書

御下渡奉^ニ願上^一候也。

〔翻刻注〕

年月日不明の史料だが、他の史料との関係から、この位置に収録した。

（堅紙、破損、縦 160mm×横 160mm）

(1 ㊦)

願

周智郡宇茹村

元中村小前惣代

小野田辰蔵

鈴木源五郎

安間 金十

外六人

(1 ㊧)

右小前惣代申上候。今般宇茹村学校旧馬ヶ谷村^江

新築相成候ニ付而者、同所^江八幡社ヲ移転致度段

願ニ^カ扨御聞届ケ相成候旨、本月十二日始テ承知、驚入

小前一同^江戸長中^カ手続尋問ヲヨフ処、当村小前惣代

村松卯平治願書ニ捺印有^レ之由ニ付、不^カ取敢ニ相尋候処、

同人申聞候者、「調印致候竟更ニ無^レ之、然ルニ貼用有^レ之者

戸長之手許^江印形渡置候儀有^レ之。竊ニ印形相用

候儀ニ相違無^レ之候」ノ答。加之学校新築ニ付而者八幡社ヲ

学校之境内^江遷シ、跡地社木ヲ御払下ケ願、学校

建築費用ニ致度旨、曩ニ屢談示有^レ之砌ニモ、

伐木代価見積^リ之半金五拾円、村中ニテ償金イタシ

更ニ伐木不ニ相成ニ儀ヲ相願候程之事故、右^ラ旧中村ニ

限^リ小前^ト一円談示^モ不^レ遂、村松卯平治之印形ヲ偽計シ

御指令御降書之上者、手戻シ不ニ相成ニ段、戸長^方ノ

申聞ニ候ヘ共、当八幡社之儀者千有余年来遷座

ノ敬神ニシテ、殊ニ廿一ヶ村ノ村社、当村人員ヲヨビ、別而

老人共ハ歎息。乍^レ恐願ニ村中ニ、一同談示仕候ニ、一人トシテ

帰復無^レ之。^又然^ル上者先般も社木ヲ学校築造入費ニ

(2カ)

差加^ルヲ偽計スル故ニ、乍^ニ難渋^一金五拾円ヲ差出候小前ノ
 請願も不^ニ相立^一、只社頭^ヲ移転^{スル}ノ云ニ学校新
 築ノ儀^ニ関スル儀^ニ無^レ之ヲ、移転^{スル}入費^モ不^レ厭
 候儀者、深キ手策有^レ之哉^と奉^レ存候。一端御指令
 相成候儀ヲ、強而奉^ニ歎願^一候ハ恐縮之至候得共、是迄之
 手続了解不^レ仕、且往古^カ之社、社殿^ニ付、何卒
 別格之以^ニ御賢慮^一、始素ノ八幡社ハ御置据、宇苅
 学校新築相成候様、奉^ニ懇願^一候也。

小前

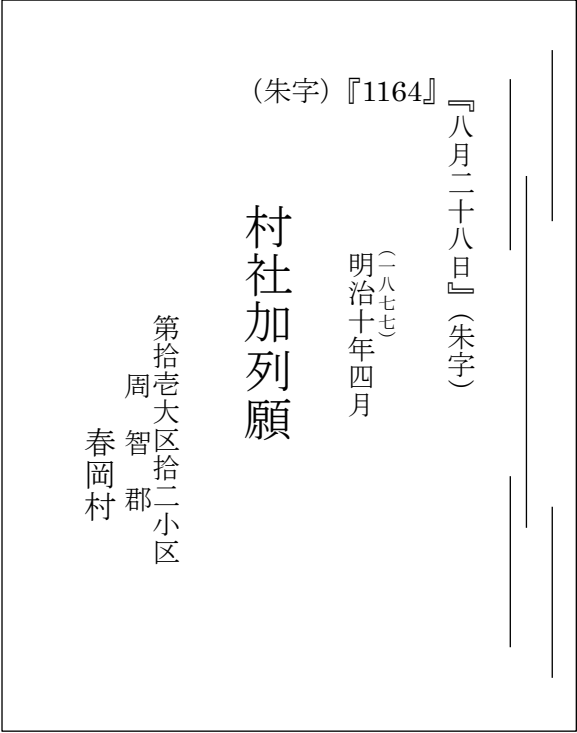
〔翻刻注〕

年月日不明の史料だが、他の史料との関係から、この位置に収録した。

(縦帳、罫紙使用、縦239mm×横168mm×厚1mm)

三〇 明治十年（一八七七）四月九日『村社加列願』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四五一）

（表紙）



(1 才) (喉に印あり／以下同)
第拾壹大区拾二小区

遠江国周智郡春岡村

十所神社

天照皇大神 素盞鳴尊

天兒屋根命 速玉之男命

祭神 応神 天皇 事解之男命

木花開耶姫命 軻遇突知命

伊邪那美命 伊弉諾キ命

鎮座 仁皇四十五代聖武天皇仍ニ御勅詔一、神亀元
甲子年行基菩薩被レ建候事。

(1 ㇿ)

拜殿 間口四間五寸
奥行二間
宮殿 間口七尺
奥行六尺
末社

奥津彦命 間口七尺
奥行六尺
奥津姫命 間口七尺
奥行六尺

境内反別九畝廿八歩官有第壹種

氏子数拾八戸
元朱印 高式拾石

右村
受持祠掌

河合左門(印)
明治十年四月九日 産子總代 寺田定吉(印)

加藤弥五郎(印)
加藤唯七(印)

静岡県令大迫貞清殿

(2 ウ白紙)

(3 ㇿ)

村社加列御願
第拾壹大区拾二小区
遠江国周智郡春岡村

十所神社

右別紙明細書之通格別由緒等無_レ之候
得共、從來村産土神_ト崇敬致_シ来リ、
旧浜松県_江申立二社居置ニ相成、
(押紙ノ×員外社ト)
『雑社』

(3ウ)

称来候処、本年一月十日乙第四号ヲ以
御達ニ付、産子一同協議仕、従前仕来之通、
営繕祭典入費等、産子限永続仕、村社ニ
被レ取候様、人民一同情願候間、何卒
御採用御聞届被レ下度、此段総代ヲ以
只管奉ニ懇願ニ候。以上。

(4カ)

明治十年四月九日

右村
受持祠掌

河合左門 (印)

産子総代
寺田定吉 (印)

加藤弥五郎 (印)

加藤唯七 (印)

右区戸長

平野久治郎 (印)

静岡県令大迫貞清殿

前書之通相違無レ之候也。

十二小区詰

副戸長須永信夫代理

戸長
長谷川四郎治 (印)

(4ウ)

割印
(静岡／県庶／務課)

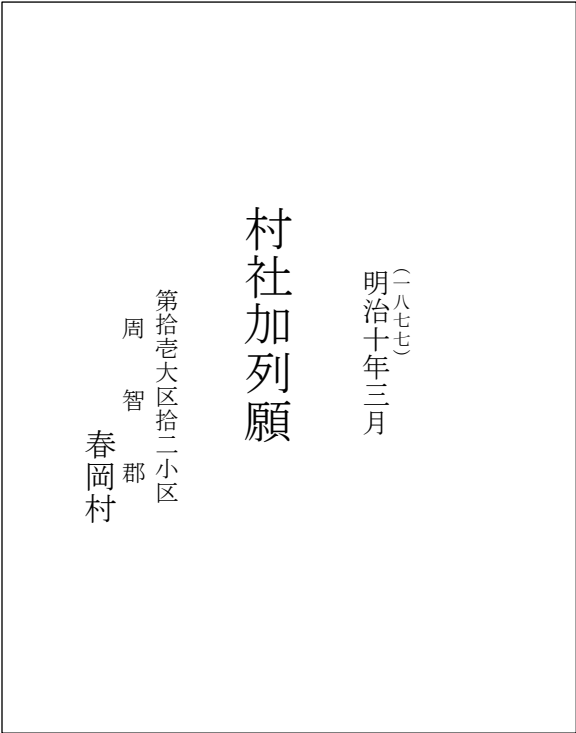
『書面願之趣聞届候事』
(朱字)

明治十二年八月廿六日

静岡県令大迫貞清 (印)
(静岡県／令大迫／貞清印)

(印「大井」)

(5才)



(5ウ白紙)

(6才) 第拾壹大区拾二小区

遠江国周智郡春岡村

十所神社

天照皇大神

天兒屋根命

応神天皇

祭神

木花開耶姫命

伊邪那美命

(7ウ白紙)

静岡県令大迫貞清殿

(7ウ)

明治十年三月

(二八七七)

産子總代

河合左門(印)

寺田定吉(印)

加藤弥五郎(印)

加藤唯七(印)

右村
受持祠堂

高式拾石

元朱印

境内反別九畝二拾八歩

奥津彦命

奥津姫命

間口七尺奥行六尺

末社

宮殿

間口七尺
奥行六尺

拝殿

間口四尺五寸
奥行二間

鎮座

仁皇四十五代聖武天皇仍_ニ御勅詔_一、神龜元_{甲子}年
行基菩薩被_レ為_レ建候事。

伊弉諾_キ命

軻遇突知命

事解之男命

速玉之男命

素盞鳴尊

(8 ㇔)

村社加列御願

第拾壹大区拾二小区

遠江国周智郡春岡村

十所神社

右別紙明細書之通格別由緒等無_レ之候
得共、從來村産土神_ト崇敬致_シ来リ、旧
浜松県_江申立一社居置_ニ相成、雜社_ト称来
候処、本年一月十日乙第四号_ヲ以御達_ニ付、
産子一同協議仕、従前仕来之通、營繕

(8 ㇕)

祭典入費等、産子限永続仕、村社_ニ

被_レ取候様、人民一同情願_ニ候間、何卒御採

用御聞届被_レ下度、此段総代_ヲ以只管奉_ニ

懇願_一候。以上。

右村
受持祠掌

河合左門 (印)

産子総代
寺田定吉 (印)

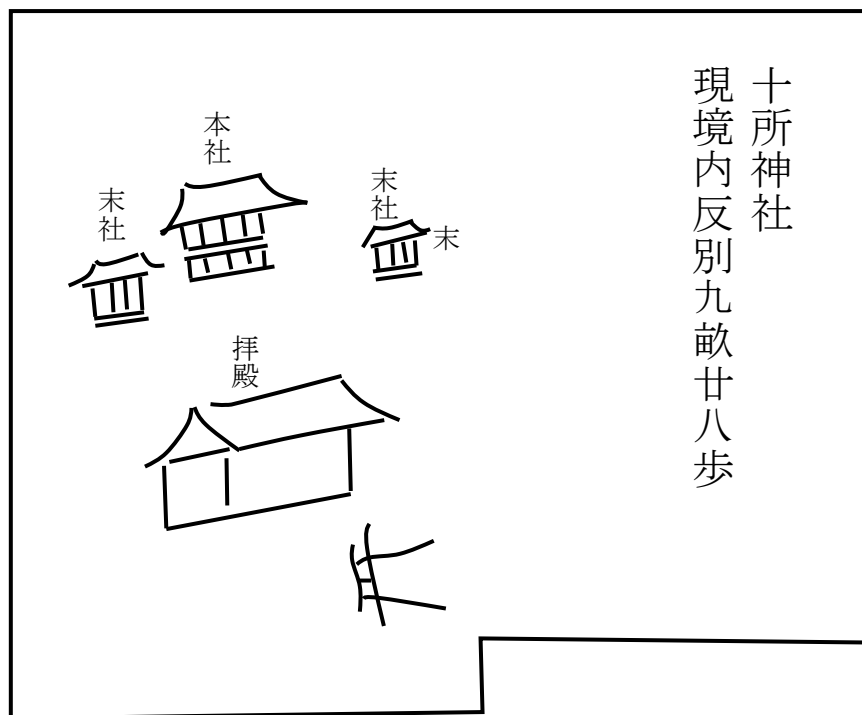
加藤弥五郎 (印)

加藤唯七 (印)

(9 ㇔)

(一八七七)
明治十年三月

静岡県令大迫貞清殿



十所神社
現境内反別九畝廿八歩

河合左門
寺田定吉 (印)
加藤弥五郎 (印)
加藤唯七 (印)

(縦帳、罫紙使用、縦258mm×横170mm×厚2mm)

三一 明治十二年（一八七九）七月十六日付け「番外」（一四春岡村外ニケ村戸長役場文書二四六六）

〔番外朱書〕
『長谷川四郎次』

番外 戸長

（一八七八）

明治十一年六月廿五日本県番外達之趣モ

有レ之候処、甚タ心得違ノ者之アルヤ、

七八月ノ候盆祭ニ際シ壮年輩各

所ニ麁集シ、所謂大念仏ニ類似シタ

ル地藏和讃願念仏杯ト唱へ、鉦鼓

ヲ鳴ラシ、領節ヲ擅ニスルモノ或ハ有レ之哉ノ

趣キニ候。是レ有用ノ資財ヲ無為ニ浪

費スルノミナラズ、之レヨリ醸成スル弊害

モ計ルベカラズ。故ニ曩年旧浜松県ニ

於テ禁止ノ趣キアリ。且本県該布達ノ

主趣アル所以テ告諭シ、尚亦緩慢等閑

ニ附シ候輩無レ之様、一層注意可レ致

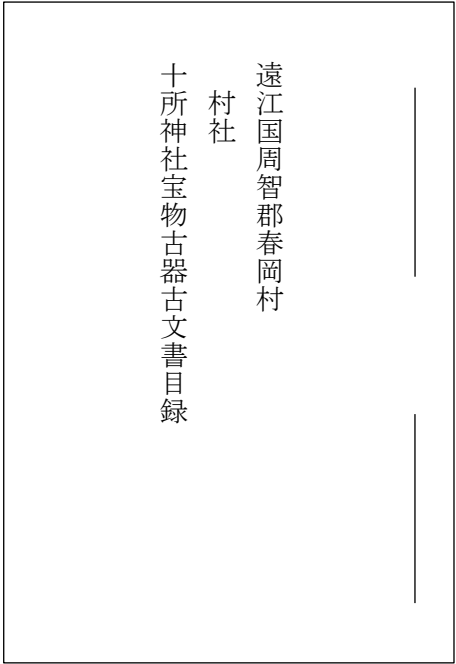
御旨相達候事。

（山折り線）

（一八七九）
明治十二年七月十六日周智郡長足立孫六

（縦紙、〔周智郡〕罫紙使用、縦 232mm×横 155mm×厚 1mm）

（表紙）



遠江国周智郡春岡村

村社

十所神社宝物古器古文書目録

(1 村)

十所神社宝物古器物古文書目録

一、縁起書

無レ之

一、今川治部大輔義元判物

天文十二癸卯年五月二十日

西楽寺領八町七反之内
鎮守田員数不レ分

一、関白豊臣秀吉公朱印

天正十八年十二月廿八日

西楽寺領百七拾石之内筆分
式拾石鎮守領

一、徳川家康公ヨリ御代々朱印

慶長八年九月十一日 末エ

西楽寺領百七拾石之内筆分
式拾石鎮守領

一、棟札 奉再建十所権現社二字

宝永三丙戌年十二月朔日

遠州周智郡宇荏安養山
西楽寺八世尊照敬白

右之通御座候也。

(1 村)

静岡県下

遠江国周智郡春岡村

明治十二年九月
(二八七九)

村社十所神社祠官

試補 幡鎌幸雄

十所神社氏子惣代

廣澤有盛(印)

(縦帳、縦290mm×横203mm×厚1mm)

三三 明治十二年（一八七九）十二月十二日付け「庶第四百九十七号」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四七四）

割印）『庶第四百九十七号』
（朱字）

本年本県甲第百七号社寺文庫経蔵
之儀布達相成、調限過去候条、至

急取調、来ル十八日迄_三無_二相違_一可_二差
出_一、此旨相達候也。

（一八七九）
明治十二年十二月十二日

周智郡役所

庶務課
（周智郡／役所庶／務課印）

宇刈村戸長

長谷川四郎次殿

（山折り線）

追テ九月廿七日十一月一日之両日差出相
成候分ハ、甲第百六号社寺宝物古器
物調并ニ并第三十号社寺明細帳ニ
有_レ之。全ク甲第百七号ハ未ダ届出無_レ之
候ニ付、為_レ念添申候也。

（縦紙、「遠江国周智郡役所」罫紙使用、開披不能、縦241mm×横152mm）

三四 明治十三年（一八八〇）二月二十日付け〔山名神社所屬戸数〕（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一五八）

遠江国周智郡上山梨村字 鎮座

郷社山名神社所屬

周智郡村松村 百七拾四戸

同 郡鷺巣村 八拾戸

同 郡宇苺村 貳百拾九戸

合三ヶ村 戸数四百七拾三戸

右之通相定候処相違無御座候也。

周智郡宇苺村

總代戸長

明治十三年二月廿日

長谷川四郎次

周智郡長足立孫六殿

（竪紙、罫紙使用、縦 243mm×横 164mm×厚 1mm）

三五 明治十三年（一八八〇）五月二十二日付け「丙第百拾貳号」（一〇春岡村外ニケ村戸長役場文書七五）

〔^{朱字}丙第百拾貳号〕

該村字前通八幡社遷座跡貳所官林

反別耆町貳反歩、這回還祿士族へ換

地トシテ払下ニ付、村方ニ於テ毫モ差閤

無レ之候得共、一応取調之上故障有無

可ニ差出「旨丙第百四号ヲ以相達候処、

該地ニ列シ、旧現境内八畝貳拾八歩ハ

神地ニ属スル箇所ニ付、其隣地官林

ハ風致タルヘク趣ヲ以据置出願。右ハ何

ヲ指シテ風致ト見做候哉、右ハ貳等官林

ニ有レ之、且旧現境内トハ如何様之地種

ニ有レ之候也。旧境内ニテ現今官有地ニ有

レ之候哉、詳細取調否大至急可ニ差出「

此段相達候也。

（山折り線）

山林局

（一八八〇）

十三年五月廿二日

浜松出張所

（内務省山／林局浜松／出張所印）
（印）

周智郡宇刈村

戸長中

（縦紙、〔内務省〕罫紙使用、縦240.5mm×横336mm）

三八 明治十三年（一八八〇）五月二十六日付け「上申書」（一〇春岡村外ニケ村戸長役場文書一六三）

(1 ㊦) 上申書

周智郡

宇荻村

字前通

八幡社遷座跡地

一、旧現境内反別八畝廿八分

官有地 第三種

字 同

同社上地

一、式等官林反別壹町二反分

(1 ㊧)

当村字前通官林御払下之儀ニ付、御局丙第百十二

号ヲ以再建有^レ之。前書八幡社遷座跡地旧現境内反別

八畝廿八分ハ静岡県浜松支庁^エ去^ル（^{一八七八}）明治十一年十二月

祭典之節神輿ヲ行幸致シ候^ニ付テハ、神地ニ編入

願書差出シ、未タ御指令無^レ之、爾後祠官掌ヨリ書上等

ニモ境外行幸旅所ニ書上仕候二等官林タル其周囲ニシ、

該社上地官林タリ。故ニ之ヲ御払下ケ相成候テハ払受

人持山ノ中^ニ八畝廿八分ノ官地有^レ之、其官地ニ神輿ヲ

遷シ、三日ニ夜祭事ヲ修シ候ハ、彼神輿ヲ原野

ニ置力如クナルヲ以、該土地^{『上地』}（^{小刀で削つて消そうとしたか}）^{第二}官林ヲ存在セハ、大ニ社地

ノ体裁ヲ為シ、其風景宜敷候故、氏子ニ於テ存在ヲ願候

儀ニ有^レ之。先般御出張之際、種々御談示モ有^レ之候趣

ヲ以氏子一同^エ説諭候處、旧現境内八畝廿八分ダニ存在

候上ハ、二等官林壹町二反トノミ御払下ケ相成候儀ハ、

敢テ故障無^レ之旨申出候^ニ付、則別紙請書相添、此

段上申ニ及ヒ候也。

(2 ㊦)

(2 ㊦)

明治^{二八八〇}十三年五月廿六日

右村村長

長谷川四郎次

内務省山林局

浜松出張所御中

(縦帳、 「宇都村役場」 罫紙使用、 縦 246mm×横 164mm×厚 1mm)

烟火打揚願

周智郡宇刈村

長谷川 総平

一、烟火四拾本『内』^{（朱書）} 壺本 下烟火 外五十二人
三十九本 打物』

但 昼夜
現場人家距離各六十間

右ハ当村氏神宇刈神社祭典ニ付、本月五日昼夜
烟火打揚ケ奉納仕度、尤モ火ノ元等別テ注意、
人家隔絶ノ地ニ於テ打揚ケ仕候ニ付、御聞届被
レ下度、此段奉レ願候也。

右
總代
（山折り線）

明治十三年十月一日
長谷川 総平

氏子 総代

村松 由平

静岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無ニ御座ニ候ニ付奥印仕候也。』^{（異筆）}

右村戸長

長谷川 四郎次』

三八 明治十三年（一八八〇）十月一日付け「御届書」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二二）

御 届 書

周智郡

宇刈村

当村々社宇刈神社之儀、本月四日より六日マテ
三日間例年之通祭典相営ミ候ニ付、此段
御届申上候也

右村氏子總代

明治十三年十月一日

岡本松五郎

村松由平

内藤新次郎

村田栄吉

星野藤治郎

（山折り線）

静岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無ニ御座ニ候也。』

右村戸長

長谷川四郎次』

（縦紙、罫紙使用、縦 242mm×横 322mm）

三九 明治十三年（一八八〇）十月一日付け「射的願」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二三）

射 的 願

周智郡

宇 刈 村

当村々社宇刈神社（押紙）典二付「×「本月四日『ヨリ』（抹消）六日両日」例年之通本月五日・六日」

両日射の開場仕度、依レ之射場図面相添、此段奉レ願候也。

右 村

射場世話人

（一八八〇）
明治十三年十月一日 内藤新太郎

氏子総代

村松 由平

（山折り線）

静岡県令大迫貞清殿

（異筆）
『前書之通相違無ニ御座ニ候ニ付、奥印仕候也。』

右村戸長

長谷川四郎次』

（堅紙、罫紙使用、縦 241mm×横 320mm）

四〇 明治十三年（一八八〇）十月二日付け「火薬購求願」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二四）

火薬購求願

周智郡宇刈村

長谷川總平

富永与三郎

一、烟火四拾本

此火薬四貫目

右ハ本月五日・六日村社宇刈神社例祭ニ付、

烟火奉納仕度候ニ付テハ、前記之火薬佐

野郡掛川駅字笠屋御免許商井上

萬平方ニテ購求仕度候間、御聞届被ニ成

（山折り線）

下ニ度、此段奉ニ願上ニ候也。

右

（一八八〇）
明治十三年十月二日

長谷川總平

富永与三郎

静岡県令大迫貞清殿

（縦紙、罫紙使用、縦 243mm×横 322mm）

四一 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「烟火打揚願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七一）

(1 ㊦)

烟火打揚願

周智郡宇茹村

長谷川總平

外五十三人

一、煙火四拾本 内 壹本 下煙火 筒口 四寸
打揚 壹本ニ付合薬百目

但 昼夜

現場人家距離各六十間余

（押紙／×本月五日）

右ハ当村氏神宇茹神社祭典ニ付、「本月五日・六日」昼夜煙火打揚

奉納仕度、尤モ火ノ元等別テ注意、人家隔絶ノ地ニ於テ打

（押紙／×此段奉願候也）

揚ケ仕度候ニ付、御聞届被レ下度、「別紙図面相添」、此段奉レ願

候也。

右 總代

(1 ウ)

明治十三年十月四日

長谷川總平（印）

氏子總代

村松由平（印）

（異筆） 静岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無ニ御座』候ニ付奥印仕候也。

右村戸長

長谷川四郎次（印）

（喉に印あり「見附警察署」）

(2 ㊦)

（朱異筆）『書面願之趣聞届

候事。

（一八八〇）明治十三年十月四日

割印）

見付警察署（印）（見附警／察署印）

（□□警察署）

(縦帳、「宇荻村役場」罫紙使用、縦242mm×横160mm×厚1mm)

四二 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「射的願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七二）

(1 ㊦)

射 的 願

周 智 郡

宇 荏 村

当村村社宇荏神社祭典ニ付寺田常吉持地ニ於テ
（押紙ノ×五日六日両日）
「本月五日・六日両日」射の開場仕度、依レ之射場図面
相添、此段奉レ願候也。

右 村

射場世話人

明治十三年十月四日

内藤新太郎（印）

村松由平（印）

(1 ㊧)

静岡県令大迫貞清殿

（異筆）

『前書之通相違無ニ御座」候ニ付奥印仕候也。』

右 村 戸 長

長谷川四郎次（印）』

(2 ㊦)

（喉に印あり「見附警察署」）

（朱異筆）

『書面願之趣聞届

候事。

明治十三年十月四日

割印）
（□□警察署）

見付警察署（印）
（見附警／察署印）

(縦帳、「宇茹村役場」罫紙使用、縦241mm×横158mm×厚1mm)

四三 明治十三年（一八八〇）十月四日付け「願書」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七三）

(1 ㊦) 願書

周智郡

宇薊村

一、屋台 壺組

一、山車 全

右ハ本月四日ヨリ六日マテ当村宇薊神社例祭

ニ付神輿行幸送迎之度、村内限り屋台并

山車ヲ曳ギ、鳴物相用囃子仕度奉レ存候。尤

路次相慎ミ諸事妨害等相成候儀ハ決テ

不レ仕候間、御聞届被ニ成下一度、此段奉レ願候也。

(1 ウ)

右村總代

(一八八〇)

明治十三年十月四日

内藤新次郎（印）

岡本松五郎（印）

静岡県令大迫貞清殿

(2 ㊦)

(異筆)

『前書之通相違無ニ御座ニ候也。』

(喉に印あり「見附警察署」)

右村戸長

長谷川四郎次（印）』

(2 ㍻)

(朱
其筆)

『書面願之趣聞届

候事。

(一八八〇)

明治十三年十月四日

(☐☐警察署)

割印)

見付警察署

(見附警／察署印)
(印)』

(縦帳、「宇荻村役場」罫紙使用、縦 245mm×横 162mm×厚 1mm)

（朱書）
『号外』

本年八月廿六日付ヲ以テ届出有レ之
候其村学校敷地内ニ於テ発堀
シタル埋蔵物之義、這回内務省
（割印）

博物局へ可ニ差出ニ旨達有レ之候条、
原体ヲ毀損セザル様厚ク御注意、
該品悉皆取纏メ、至急当署へ

可レ被ニ差出ニ、此段及ニ御達ニ候也。

（二八八〇）
明治十三年十月十八日 森町分署（印）
（□□警／察署森／町分署）

周智郡宇荏村

戸長役場

御中

（山折り線）

（縦紙、「静岡県」罫紙使用、縦241.5mm×横325.5mm）

記

一	茶壺	二個
一	トツコ	壺個
一	レマヒ	壺個
一	鏡	壺面
一	銅茶碗	七ツ
一	全水鉢	壺ツ
一	茶釜	壺個
(押紙ノ×合計六品)		
(山折り線)		

合計七品

右ハ明治十三年八月廿六日堀出セシ埋藏物前記
之通今回御達シニ付、三個ニ荷造リシ進送仕候
也。

遠江国周智郡宇荻村

戸長

明治十三年十月十九日
長谷川四郎次

(縦紙、 「宇荻村役場」 罫紙使用、 縦 246mm×横 321mm)

四六 明治十三年（一八八〇）十月十九日付け「記」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六五）

記

- 一、茶壺 二個
- 一、トツコ 壺個
- 一、レマヒ 壺個
- 一、鏡 壺個
- 一、銅茶碗 八ツ
- 一、全水鉢 壺ツ
- 一、茶釜 壺個

合計七品

右埋蔵品通送有レ之、正ニ受取候也。

（山折り線）

明治十三年十月十九日 森町分署（印）

（一八八〇）

（見附警／察署森／町分署）

周智郡宇荻村

戸長役場

御中

（竪紙、「静岡県」罫紙使用、縦249mm×横326mm）

四七 明治十三年（一八八〇）十一月二十二日付け「村第千六百二拾九号」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六六）

（朱書）
『村第千六百二拾九号』

周智郡宇荻村学校地内ニ於テ堀

出セシ物品、内務省博物館江差

出候处、考証之品ニ而悉皆代金七円

ニテ購求致度旨、該局ヨリ照会有レ之候。

右ニテ異存無レ之哉、堀出人及地主等

御取調之上否至急御申越可レ有レ之、

此段及ニ御照会ニ候也。

（一八八〇）

明治十三年十一月廿二日

警察本署

見付警察署

御中

（竪紙、「静岡県」罫紙使用、裁断、縦244mm×横337mm）

四八 明治十三年（一八八〇）十一月二十七日付け「乙第貳拾九号」（一〇春岡村外ニケ村戸長役場文書八六八）

『乙第貳拾九号』
（朱書）

其村学校地内ニ於テ発堀シタル

物品之義ニ付、別紙写之通リ警察

本署ヲ見付警察署ヘ照会有レ之

候旨、這回該署より達越シ候ニ付而

ハ、堀出人及ビ堀主等異存之有無

取調、書面之通可レ致ニ差出ニ、此

段及ニ御達ニ候也。

（一八八〇）
 明治十三年十一月廿七日 森町分署 （見附警／察署森／町分署）
 （印）

周智郡宇薊村

戸長役場

御中

（山折り線）

（縦紙、「静岡県」罫紙使用、縦242mm×横333mm）

四九 明治十四年（一八八一）一月二十二日付け「乙第八号」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八六九）

『乙第八号』
（朱書）

其村小学校敷地内ニ於テ曩ニ発堀
セシ埋蔵品、代金七円ヲ以テ買上之義異
存無レ之旨、該学校主幹学務委員

割印）

内藤新太郎并ニ堀出シ人佐藤岩藏ヨリ
申立候ニ付、其旨具申候処、這回内務省
博物館ヨリ代金七円送付相成候ニ依リ、
則可ニ下渡ニ候条、受書之通持参、本人共
当署へ出頭候様可レ被ニ相達ニ、此段及ニ御達ニ
候也。

（山折り線）

（一八八一）
明治十四年一月廿二日 森町分署（印）
（見附警／察署森／町分署）

周智郡宇茹村

戸長役場

御中

（縦紙、「静岡県」罫紙使用、縦241mm×横321mm）

五〇 明治十四年（一八八一）三月十九日付け「地目改称願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一〇五）

(1 ㊦)

地目改称願

遠江国周智郡

宇刈村

二千式百八十七番

字前通

旧村社八幡社現境内

遷座跡地

一、『反別』八畝廿八歩

（×廢社）

官有地

第三種

(1 ㊧)

右ハ去ル明治九年村社八幡社（一八七六）『ラ』（朱字）各社ヲ合祀シ字門田エ

遷座シ、宇刈（各社ニ合祀シ）社ト改称仕候ヨリ、前書之知所遷座跡地

則チ廢社跡之部分ニ編入相成候処、該社地儀ハ宇刈（遷座後）

社祭典之際神興行幸シ、式夜三夜（十月四日ヨリ全六日ヨリ）同地ニ於

テ祭事相営之候ニ付、祠官ヨリ社地之部ニ奉書上ニ既

客年丙第三十一号神社明細帳ニモ書上相成候ニ付テハ、廢

社跡之名称ニテハ書上（朱字）方不都合ニ付、去ル明治十年中神地ノ

部ニ編入願候得共、未タ御指令不ニ相成ニ候ニ付、『依レ之今般』（朱字）

更ニ奉レ願候ニ付、御聞届（被成下）、神地ニ御編入被ニ成

下ニ度、別紙絵図面相添、此段奉レ願候也。

右村氏子総代

星野孫治郎

明治十四年三月十九日

内藤新次郎

村田米蔵

村松由平

岡本松五郎

静岡県令大迫貞清殿

『^(異筆)前書之通相違無^二御座^一候^ニ付、奥印仕候也。

戸長

長谷川四郎次

祠官

幡^(マ)幡幸雄

(朱字)

『厚恩 握』

(^縦帳、「宇薊村役場」罫紙使用、^縦246mm×^横159mm×^厚1mm)

〔第一史料／豎紙〕

〔朱書〕
『会第六十五号』

〔朱書〕
『、』春岡村

其邸過般伺出相成候十所神社通
減祿之儀、別紙之通り指令有_レ之ニ付、
書面交付此段相達也。

割印）
（二八八二）
明治十四年六月六日 周智郡役処

〔第二史料／豎帳〕

（1才）

通減_{〔祿〕}録御下附伺

周智郡春岡村

十所神社

右社通減祿之義明治九年迄御
下附有_レ之候処以后御下附更_ニ無_レ之。
右ハ既ニ再三伺出候義モ有_レ之候得共、
何等御沙汰モ無_レ之候間、
尚此段奉_レ伺候也。

（豎紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用）

(1ウ)

右村戸長代理
用係
(二八八)
明治十四年五月十六日
廣澤誠一(印)

静岡県令大迫貞清殿

(2カ)

(朱書)
『伺之趣該社通減祿之儀者曩ニ同村
西楽寺江合併相成、其後該寺情願ニ因リ
一時繰上給与済ニ有レ之候事。』

(喉に印あり)

割印)

(一八八一)
明治十四年五月三十一日
静岡県令大迫貞清殿代理
静岡県少書記官永峯彌吉

(静岡県少書記官永峯彌吉)
(印)

(「春岡村戸長役場」罫紙使用)

(印「安藤」)

(「静岡県」罫紙使用)

(綴、罫紙使用、縦252mm×横168mm×厚1mm)

五二 明治十四年（一八八一）七月付け「官地御払下願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一一三）

(1 札)
(☆1) (☆2)

官地御払下願

周智郡宇刈村

二千二百八十七番

字前通

元村社八幡社現境内

遷座跡地

一、反別八畝廿八分

(☆3)

此地代金四円四拾六錢七厘 但反金五円

右者去ル明治九年村社八幡社ヲ字門田^(二八七六)エ遷座シ

廢社跡之名称ニ有レ之候得共、毎年宇刈神社大祭

(☆1 罫外頭書／朱字／横書)

[3726]

(☆2 罫外朱書)

「七月十八日」

(☆3 下げ札／朱字)

「(足立孫六印) 書面願之儀ハ客年田第十六号本県達

第一章第三款ヲ^{繪図面}準拠調整可ニ差出ニ候。此段

相達候也。

十四年七月十八日 周智郡役所 (印三点「忝下」「今村」「唐澤」)

(1ウ)

之節、該地エ神輿ヲ遷シ、一夜三日祭事相當ミ候ニ付、
 祠官掌ヨリハ社地之部分ニ取調奉ニ書上ニ候儀モ
 有レ之、其上今般周圀官林土族^{『工』(朱字)}御松下相成候ニ付テハ、
 元現境内之儀者一村氏子^{『工』(朱字)}御松下ケ被ニ成下ニ、大祭
 之節ハ、神輿ヲ遷シ、從來之通祭典相當ミ、祭日ハ
 遙拝地ニ仕、永ク敬神之御趣意ヲ遵奉仕度奉レ存候間、土地
 相当之代価奉ニ書上ニ候間、特別之御詮議ヲ以御松下ケ御
 相^{『度別紙図面相添』(朱字)}當^印被^{『被ニ成下』(朱字)}成^レ下^レ度^レ氏^レ子^レ總^レ代^レ連^レヲ^レ以^レ此^レ段^レ奉^レ願^レ候也。

右氏子總代

(2カ)

(二八八二)
 明治十四年七月 内藤新次郎

星野藤次郎

村田栄吉

岡本松五郎

村松由平

静岡県令大迫貞清殿

(2ウ)

(異筆)
 『前出願之通相違無ニ御坐ニ候ニ付、別紙
 保証書相添、此段上申候也。』

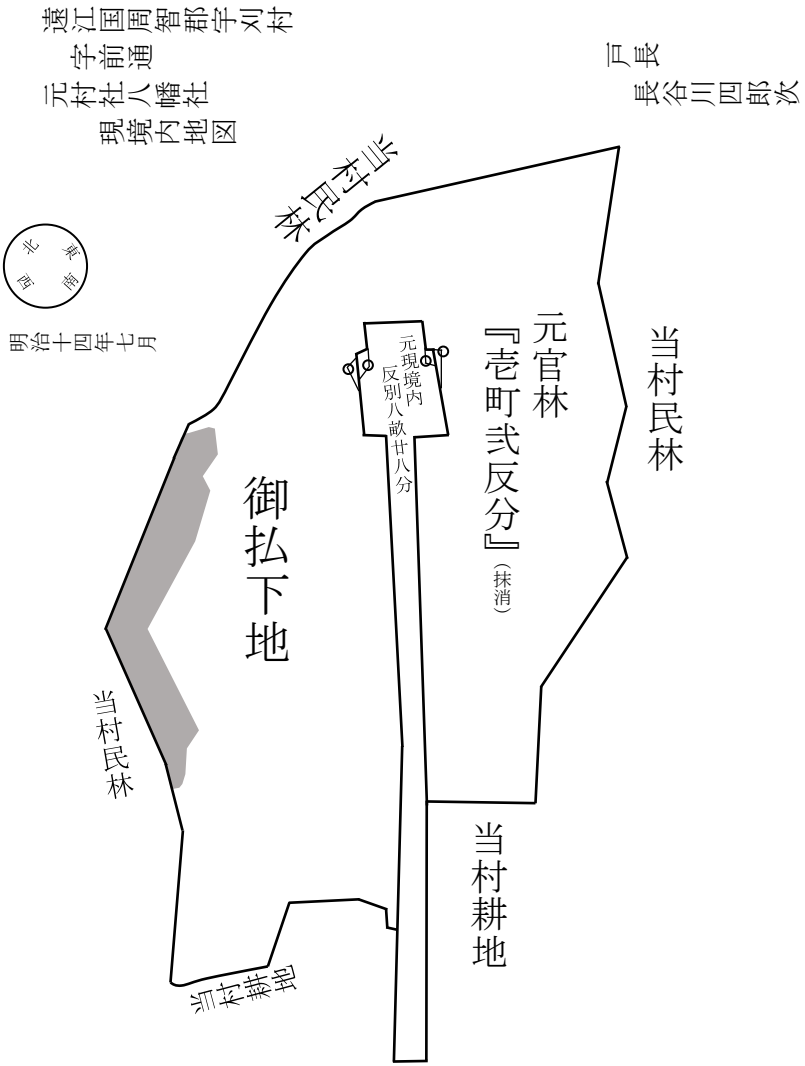
右村戸長

長谷川四郎次

(4才) (野外朱字)

『前書願之通相違無二御座一候二付、別紙保証書相添
此段上申致候也。』

保証書



別紙元八幡社現境内八畝廿八分者^{〔御松下願之儀〕}

当村中央ニシテ、四方村境ヲ距ル拾五町ヨリ
三拾余町ニ及ヒ、四隣他村ニ聊カ關係無^レ之、
且一村人民則チ氏子中之願^{〔御〕}ニ付、後日故障
等決テ無^レ之ニ付、願意御採用相成度、此段
保証仕候也。

周知郡宇刈村

戸長

明治十四年七月日
長谷川四郎次

(4ウ)

静岡県令大迫貞清殿

(縦帳、「宇刈村役場」罫紙使用、縦250mm×横156mm×厚1mm、下げ札込み 縦394.5mm)

五三 明治十四年（一八八一）九月二十日付け「煙火打揚願」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四八八）

(1 ㊦)

煙火打揚願

周智郡宇刈村

（×村松熊太郎）

一、煙火貳拾五本

『村松徳藏』

（朱字） 外四十五人

但購求

一、煙火三拾一本 内

五本 昼分 長谷川総平
廿五本 夜分 外五十人

下煙火壺本

右ハ当村々社宇刈神社祭典ニ付、来ル十月四日・五日・

六日之内煙火打揚奉納仕度。尤モ火之元等別テ

注意、例年打揚之場所人家隔絶之地ニ付、

該地ニ於テ打揚仕度候ニ付、御聞届被レ下度、

此段奉レ願候也。

(1 ㊧)

右願人

（×坂口熊太郎／ママ）

（二八八一）
明治十四年九月廿日

『村松徳藏』（印）

（朱字）

長谷川総平（印）

氏子総代

久永新一郎

富永与三郎

(2 ㊦)

静岡県令大迫貞清殿

（異筆）

『前書之通相違無ニ御座ニ候也。』

右村戸長

長谷川四郎次』

(竪帳、「宇荻村役場」罫紙使用、縦238mm×横160mm×厚1mm)

五四 明治十四年（一八八二）九月二十一日付け「祭典御届」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四八九）

祭典御届

周智郡

宇刈村

当村々社宇刈神社、例年之通

来_ル十月四日ヨリ六日マテ三日間祭

事相営候ニ付、此彈御届申上候也。

右村

宇刈神社氏子總代

明治十四年九月廿一日

久永新一郎（印）

富永與三郎（印）

（山折り線）

周智郡長足立孫六殿

前書之通相違無ニ御座一候也。

右村戸長

長谷川四郎次

（堅紙、「宇刈村役場」罫紙使用、虫損、縦237mm×横314mm）

五五 明治十四年（一八八二）九月二十二日付け「屋台車願」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九〇）

屋台車願

周 智 郡 宇 刈 村

一、屋台車 老輶

右ハ来ル十月四日ヨリ六日マテ当村宇刈神社祭典ニ付、
屋台車奥行仕度候ニ付、御許可被_レ下度、
此段奉_レ願候也。

右村願人

（一八八二）
明治十四年九月廿二日 寺田 宇平（印）

氏子總代 久永新一郎（印）

全 富永与三郎（印）

（山折り線）

静岡県令大迫貞清殿

（異筆）
『前書之通相違無ニ御座候一也。』

右村戸長

長谷川四郎次』

（竪紙、「宇刈村役場」罫紙使用、縦 238mm×横 316mm）

五六 明治十四年（一八八一）九月二十五日付け「火薬購求願」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九一）

火薬購求願

周智郡

宇刈村

長谷川総平

聖火十

外五十人

『一、火薬三本』『内抹消／「火薬三本」を「煙火十本」に修正しようとして諦めたものと見られる』

一、煙火拾本 久能村可睡齋奉納

外 壹本 下火花

此火薬 壹貫目

一、煙火三十本 当村宇刈社奉納

此火薬三貫目

合火薬四貫目

右ハ本月廿八日上久能村可睡齋不動尊及十月

（山折り線）

四日ヨリ六日マテ当村宇刈社祭典ニ付煙火打揚

奉納仕度候ニ付テハ、前書之火薬^{〔御免許簡〕}周智郡^{〔朱字〕}

天ノ宮村足立静一郎方ニ於テ購求仕度候

間、御許可被^ニ成下^一度、此段奉^レ願候也。

周智郡宇刈村

明治十四年九月廿五日 長谷川総平

静岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無^ニ御座^一候也。』

右村戸長

長谷川四郎次』

(縦紙、「宇茹村役場」罫紙使用、虫損、虫損により開披不能、縦(235) mm×横(155) mm)

(1 ㊦) 射的願

周智郡

宇刈村

当村々社宇刈神社祭典ニ付、例年之通

来ル十月四日ヨリ六日マテ三日間、従来之^(押紙／×場)『射的願』ニ於テ射的仕度候ニ付、此段奉^(押紙／×所)願候也。

右村

射場世話人

^(二八八二) 明治十四年九月 寺田平九郎（印）

右社

氏子総代

久永新一郎（印）

富永与三郎（印）

(1 ㊧)

静岡県令大迫貞清殿

^(異筆) 『前書之通相違無ニ御座ニ候ニ付奥印仕候也。』

右村

戸長

長谷川四郎次

』

(2 ㊦) 射的願

周智郡

宇刈村

当村々社宇刈神社祭典ニ付、例年之通

来ル十月四日ヨリ六日マテ三日間從來之的
場ニ於テ射的仕度候ニ付、此段奉レ願候也。

右 村

射場世話人

(二八八二)
明治十四年九月

寺田平九郎

右 村

氏子總代

久永新一郎 (印)

富永與三郎 (印)

(2ウ)

静岡県令大迫貞清殿

『^(異筆)前書之通相違無ニ御座ニ候ニ付奥印仕候也。』

右 村

戸 長

長谷川四郎次

』

(竪帳、「宇薊村役場」罫紙使用、縦238mm×横166mm×厚1mm)

五八 明治十四年（一八八二）十一月三日付け「届出」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九四）

届出

本日 天長節氏神^エ参

拝之序当社射場ニ於テ氏子

限リ稽古の仕度存候間、此段

御届申候也。

右世話人

(一八八二)
十四年十一月三日 内藤新太郎（印）

（山折り線）

戸長

御中

（縦紙、罫紙使用、縦 247mm×横 313mm）

(1 ㊦) (野外朱書) 『十二月五日』 (足立孫六印／史料番号シールが上に貼られている) (針谷「足立」(石川) (竹内))

(野外に印) 『公第四拾五号』 庶務課 (印二点) 会計課 (印)

(☆) (朱書) 御郡内春岡村十所神社通減禄ノ儀

二付伺書御差越二付、即ち別紙御指令

書差進候条、達方可然御取計有

レ之度、此段申進候也。

静岡県 静岡県／会計課

(一八八一) 明治十四年十二月二日 会計課 (印)

(割印「□□県／□□掛」)

周智郡役所

御中

(☆ 野外朱書)

「九

四

二

(1ウ白紙)

(2 ㊦) 十所神社通減禄御指令二付御伺

遠江国周智郡春岡村

十所神社

右社通減禄ノ義者明治九年迄御下附有

レ之候処、以後御下附無レ之ニ付、再三御伺申

(2ウ)

通減祿之義者、曩ニ同村西樂寺江合併
 相成、其後該寺情願ニ因リ一時繰上
 給与済ニ有レ之候事ト御指令有レ之候ニ付、
 該寺江照会仕候処、合併且ハ一時繰上
 願等之儀ハ決シテ不レ致旨確答有レ之。依テ熟
 考仕候ニ、西樂寺ハ元朱印百七拾石之内式拾
 石八十所神社ノ朱印ニシテ、社寺ノ区別判然
 タル上ハ、仮令該寺ニ於テ合併ノ情願仕候共、
 村中氏子ニテ承諾無レ之者ヲ御聞届可ニ
 相成一次第モ無レ之義ト想像仕候。雖レ然
 該寺之義ハ格別ノ由緒ヲ以テ合併ノ情願
 御聞届ニ相成候哉モ難レ測。何分氏子一同
 御指令之趣了解難レ仕候間、此段總代
 連署ヲ以テ再応御伺申上候。至急
 御指令奉レ願候也。

(3ウ)

右村氏子總代

(二八八二)
 明治十四年十月廿日 加藤 只七印

鈴木権三郎印

村松武一郎印

山名神社祠堂

幡鎌 幸雄印

静岡県令大迫貞清殿

(3ウ)
 (異筆)
 『前書之通相違無レ之ニ付、奥印仕候也。』

右村戸長

加藤啓一郎印』

(4 ㉔)

(喉に印あり)

『書面伺之趣ハ最前西楽寺^江合併相成

(朱筆)

云々ト指令及ヒタル意趣ハ、合社シタル儀^{ニ者}無^レ之。

其社朱印地貳拾石ノ分ハ西楽寺元朱印地

百七拾石ノ内ヨリノ配当禄ナルガ故ニ大蔵省於テ

逋減禄取調上^ニ扨^リ西楽寺逋減禄^江合併相成候条、此旨可^ニ相心得^一事。

但本文逋減禄之儀、十三年中西楽寺

情願^ニ仍^リ一時繰上^ケ、悉皆同寺^江

給与候事。

(4 ㉕)

静岡県令大迫貞清代理

(二八八二)

明治十四年十二月二日 静岡県少書記官永峰彌吉』

(静岡県／少書記官／永峰弥吉)

(割印「」県／「」掛)

(印)

(印「安藤」)

(堅帳、「静岡県」罫紙使用、縦240mm×横167mm×厚1mm)

六〇 明治十四年（一八八一）十二月二十日「上申書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四九五）

上申書

周智郡春岡村

鈴木権三郎（印）

久保田藤重（印）

中川惣七（印）

寺田儀平（印）

右之者、本年本県甲第百二十八号御達ニヨリ、
本村春日・十所神社両社ノ総代人ニ取
定候間、此段上申仕候也。

明治十四年十二月廿日
（一八八一）

（山折り線）

右村戸長

加藤啓一郎

周智郡長足立孫六殿

（竪紙、「春岡村戸長役場」罫紙使用、縦232mm×横322mm）

六一 明治十五年（一八八二）五月六日付け「上申書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三〇二〇）

(1 ㊦)

上申書

周智郡春岡村

地第四拾壹号ヲ以御達相成候地誌論
集参考ニ資候ニ付、人民及社寺等所
藏之地誌・歴史・系譜・金石・古文書
類精密搜索シ、目錄書可ニ差出ニ旨
御達ニ付村内人民及社寺取調候処、
更ニ無レ之宗申出候間、此以上申候也。

(1 ㊧)

右村戸長

（一八八二）

明治十五年五月六日 加藤啓一郎

周智郡長足立孫六殿

(2 ㊦)

上申書

周智郡春岡村

本郡地第三拾六号ヲ以テ社寺創立
年度及沿革等取調可ニ申出ニ旨御

達^ニ付、本村社寺之者取糺候処、右
ハ明治拾貳年中明細調差出候通
相違無^レ之。右之外創立年度及沿革
等之者無^レ之趣申出候^ニ付、此段上申
候也。

(2 ヲ)

右村戸長代理

用 係

(二八八二)
明治十五年五月

長谷川利三郎 (印)

周智郡長足立孫六殿

(綴、「春岡村戸長役場」罫紙使用、虫損大、縦241mm×横157mm×厚1mm)

六二 明治十五年（一八八二）十月二日付け「射的願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七九）

(1 村) 射的願

周智郡

宇茹村

右ハ本月四日ヨリ六日マテ当村宇刈神社
祭典ニ付、從來之の場ニ於射の奉納
仕度候間、御許可被ニ成下ニ度、別紙
絵図面相添、此段奉レ願候也。

右村

射の世話人

(一八八二)

明治十五年十月二日

寺田平九郎 (印)

内藤新太郎 (印)

(1 村)

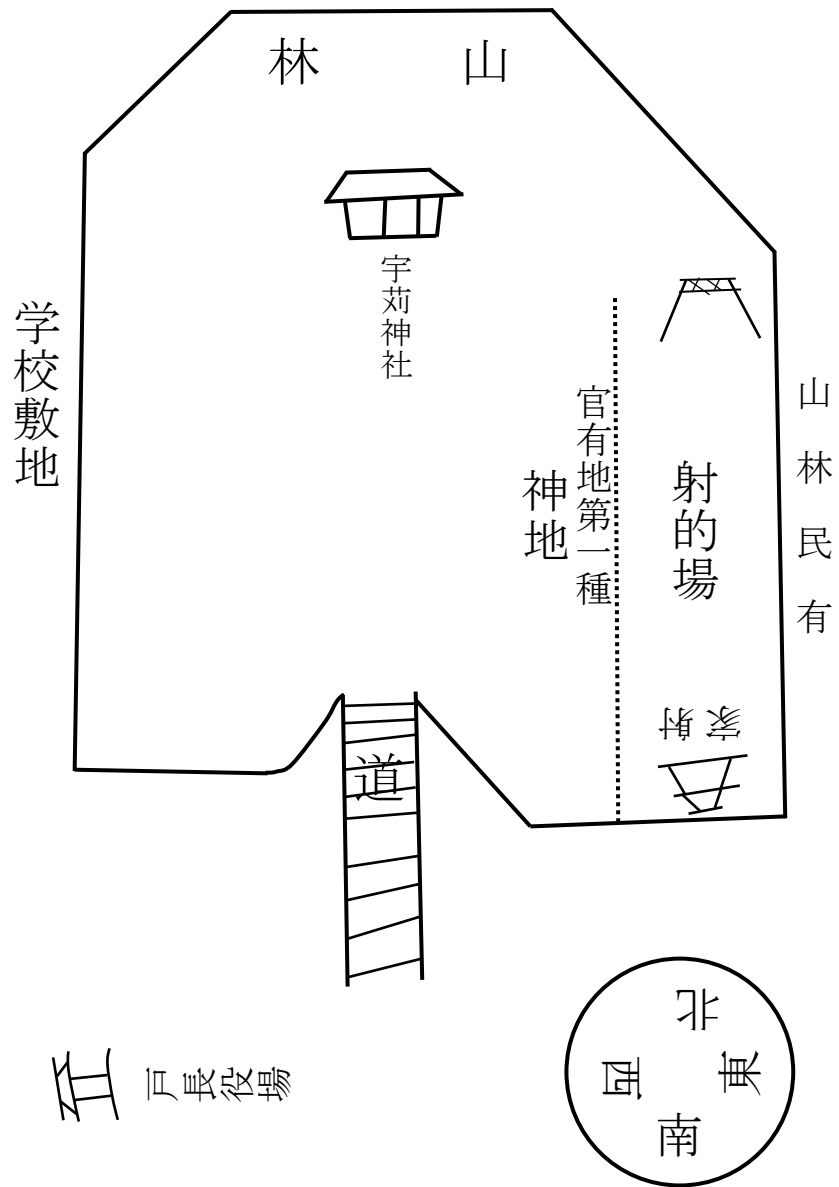
静岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無ニ御座ニ候間奥印仕候也。』
(異筆)

右村戸長

長谷川四郎次 (印)』

(2才・2ウ絵図面)



宇苅村
家島場之図

岡智郡宇苅村
寺田平九郎
(印)

(右に九〇度顛倒させて翻刻した)

(3 ㊦)

(喉に印あり「緘」)

『森^(朱異筆)第十号

書面願ノ趣聞届候事。

(☐附警/☐署森/☐分署)

割印)

静岡県

(一八八二)
明治十五年十月三日 森町分署

(見附警ノ察署森ノ町分署)
『印』

(縦帳、「宇都村役場」罫紙使用、縦 244mm×横 169mm×厚 1mm)

六三 明治十五年（一八八二）十月二日付け「屋台車願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八〇）

屋台車願

周智郡
宇刈村

一、屋台車 壱輛

右ハ
〔押紙ノ×来ル十月四日ヨリ〕
「本月四日ヨリ」六日マテ当村宇刈神社

祭典二付、例年之通屋台車ヲ以神輿行

幸供奉仕度候二付、御許可被_レ下度、此

段奉願候也。

右願人

明治十五年十月二日
寺田廣治（印）

(山折り線)

靜岡県令大迫貞清殿

『前書之通相違無二御座二候二付奥印仕候也。』

右村戸長

割印) 《森第八号》 長谷川四郎次 (印)

森署
《書面願ノ趣聞届候事。

静岡県

明治十五年十月三日 森町分署 (印) (見附警／察署森／町分署)

（竪紙、「宇荻村役場」罫紙使用、縦243mm×横337mm）

(1 ㊦) 烟火奉納願

周智郡宇刈村

長谷川総平

外四十九人

一、烟火 七拾本

内訳 昼揚 十九本
夜揚 五十一本

内 地花火壺本

(1 ㊧) 右ハ本月四日ヨリ六日マテ三日間当村宇
刈神社例祭ニ付、当国長上郡万斛村免
許製造人墨岡市三郎ヨリ前記之通買請
奉納仕度候間、御許可被ニ成下ニ度、別紙
売渡証写及打揚ヶ所地図相添、此段
奉レ願候也。

右願人

(一八八二) 明治十五年十月二日 長谷川総平 (印)

静岡県令大迫貞清殿

(異筆) 『前書之通相違無レ之ニ付奥印仕候也。
(喉に印二点あり) 右村戸長
(二〇〇警ノ〇〇森ノ〇〇署) 長谷川四郎次 (印)』

(朱異筆) 『森第九号

書面願之趣聞届候
事。

(二八八二) 静岡県
 明治十五年十月三日 森町分署 (見附警／察署森／町分署)
 署 (印)

(2ウ白紙)

(喉に印あり「緘」)

(3カ) 売渡証

一、烟火玉 七拾本
 内訳 昼揚 拾九本
 夜揚 五十壹本
 内 地花火壺本

此合額金四拾九円
 右之通製造正ニ売渡候也。

(3ウ) 静岡県長上郡万斛村

免許製造人

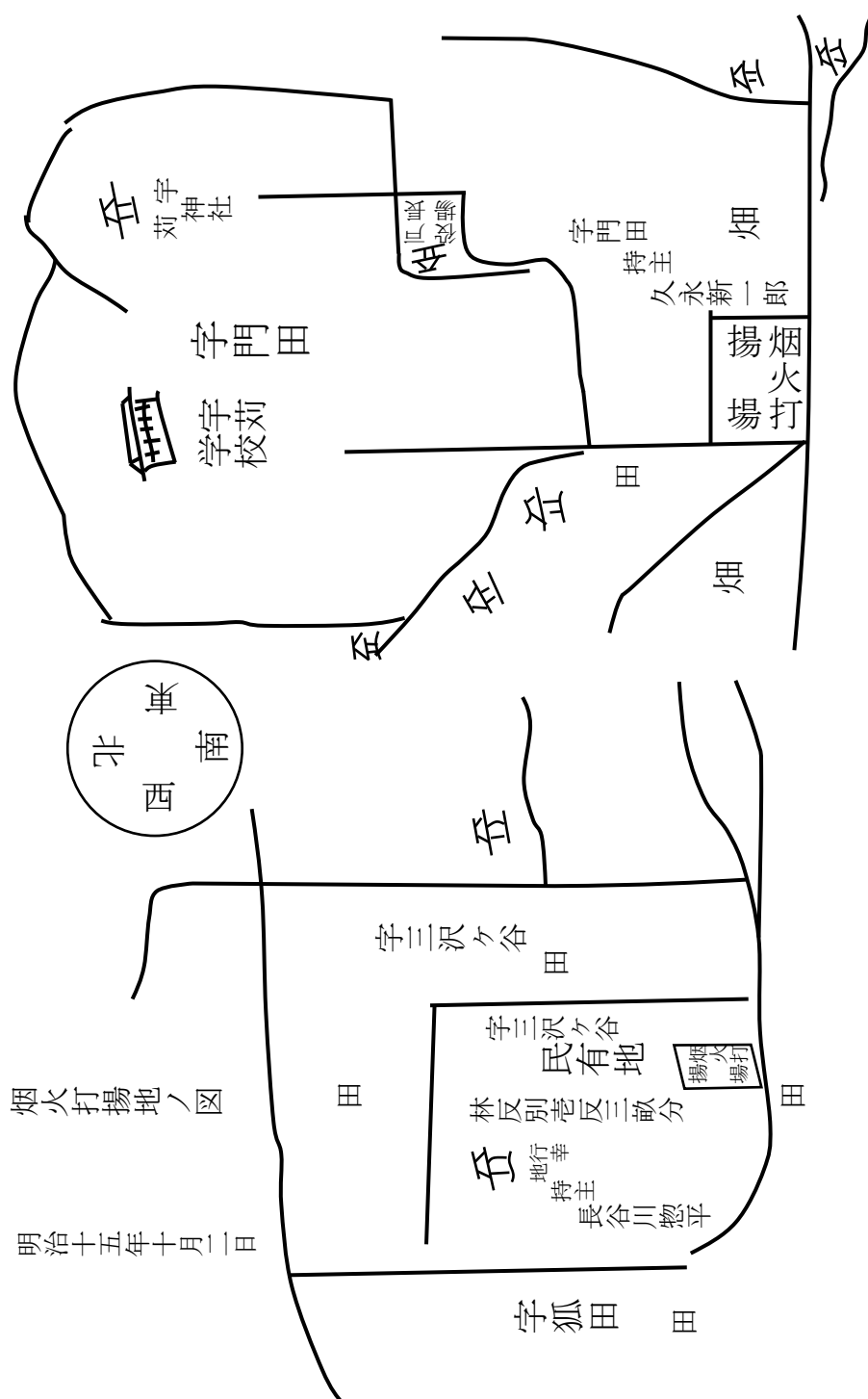
(二八八二)
 明治十五年十月一日 墨岡市三郎 (印)

周智郡宇刈村

長谷川総平殿

(4才・4ウ地図)

周智郡宇荊村
長谷川 総平



烟火打揚地、図

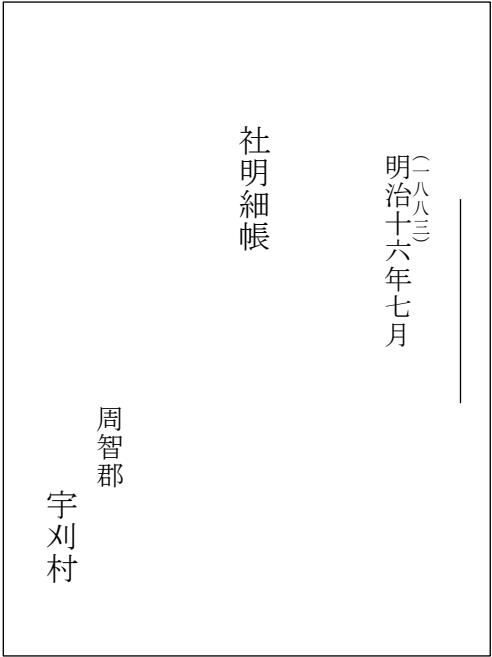
明治十五年十月十一日

(左に九〇度顛倒して翻刻した)

(縦帳、「宇茹村役場」罫紙使用、縦243mm×横169mm×厚1mm)

六五 明治十六年（一八八三）七月八日付け『社明細帳』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇〇―一）

（表紙）



(1 村) 静岡県管下遠江国周知郡宇刈村字門田千五百九拾番元馬ヶ谷村

村社元八幡社

式外 (印) 宇刈神社

一、祭神 応神天皇

合祀八社

白山神社

祭神 大山祇命

右社正合祀

若宮八幡社

祭神 応神天皇

春日社

祭神 天津児屋根命

津島社

(1 ㍻)

祭神素戔嗚命

山王社

祭神大山祇命

沙汰神社

祭神 大土命

猿田彦命

右社ニ合祀

津島社

祭神素戔嗚命

座王社

祭神不詳

神明社

祭神天照太神

天神社

祭神菅原道真命

津島社

祭神素戔嗚命

若宮八幡社

祭神応神天皇

右社ニ合祀

熊野神社

祭神 速玉男命

事解男命

若宮八幡社

祭神応神天皇

鎮守社

祭神武甕槌命

(2 ㍻)

(3ウ)

(3カ)

(2ウ)

大年神社

祭神豊受皇大神

熊野神社

祭神速玉男命

一、由緒

中央応神天皇八人皇六拾代

醍醐天皇ノ御宇延喜年中山城国久世郡雄徳山

鴿峰石清水八幡宮ヨリ遠江周智郡中村エ勸請シ以テ

村落ノ鎮守ト仰ク。茲ニ因テ当時ノ国司何ノ誰タルヲ不詳ヨリ神田

四町八反歩ヲ祭祀料トシテ寄附セラレ、代々ニ賜領ス。

然ルニ中古元弘建武ノ頃南北朝之爭乱ニ際シ社領殆

ト減少ス云々。而シテ后慶長元年伊奈備前守奉行ト

シテ檢地ノ節復ヒ神田高拾貳石ヲ寄附セラレ、其後

徳川三代将軍家光公ヨリ朱印ヲ以神領ニ賜リ、代々ニ伝フ。

之ヲ以社頭營繕及ヒ年々大小祭典ニ供シ、明治三(一八七〇)庚午年社領上地被(一八七三)仰付、全六年二月第二大区十七小区村社ニ列

セラレ、全九年九月願濟之上字前田ヨリ門田ニ遷座シ、全年

全月旧五ヶ村合併后五社ヲ合祀シ、尙社為ス。(一八七七)全十年八月

宇刈神社ト改称ス。

白山神社 本村元馬ヶ谷村字権現ニ鎮座

勸請年月不詳。天正十年社守久永十右衛門代旧ニ抛リ

再建ス云々。社領八反余歩ヲ賜リ(一六〇四)年号国司姓名不詳慶長九年檢地帳ニ明記ス

祭祀社頭修補セシ、慶長九年伊奈備前守奉行として檢

地之際社守久永家度々之火災ニ罹リ、旧記書類灰燼スルヲ

以テ没収セラルト云。而后拾余戸氏子中ニテ祭祀修繕ス。

(一八七四)明治七年一村一社之令出ルニ及テ若宮八幡社本村字門田ニ

鎮座春日社本村元馬ヶ谷村赤塚ニ鎮座津島社全上字堀
 関ニ鎮座山王社全上字丸田ニ鎮座セシヲ右白山社ニ合祀ノ后、
 明治九年九月許可之上当社エ合祀ス。

沙汰神社 本村元三沢村字三沢ヶ谷ニ鎮座

勸請年月不詳。元禄元(一六八八)辰年旧二抛リ再建ス云々。林徳寺

真言宗春崗村西樂寺末社僧タリ。神田貳町七反歩ヲ賜フ。大小祭典社頭

修理セシ当時ノ兵乱ニ際シ神田全キヲ不レ得、慶長九年(一六〇四)檢

地ノ際神田全ク没収セラル。檢地帳ニ判然ス。当村林徳寺社僧住職ヨリ

奉行伊奈備前守ニ愁訴シ、本村元三沢村高四百五拾石余ノ内

黒印高五石目ヲ賜フ。之ヲ以テ祭祀セシニ明治三年上知被ニ

仰付、全八年津島社本村元三沢村字小高ニ鎮座座王社字

全所ニ鎮座神明社本村元三沢村字時ヶ谷ニ鎮座天神

社本村元三沢村字三沢ヶ谷ニ鎮座セシヲ右社エ合祀ノ后同

九年九月許可之上当社エ合祀ス。

津島社 祭神素戔嗚命本村字通ヶ谷ニ鎮座

勸請年月不詳。寛永五年旧二依テ再建ス云々。社主小野田

求馬火災ニ罹リ書類燼滅ス。往古神田壺町余歩寛永年間檢地帳ニ明記ス。

寄附セラレ当国ノ国司年月不詳祭祀営ミシヲ元龜天正ノ間兵乱ニ

依リ神田自然ニ減。慶長年間伊奈備前守奉行トシテ檢

地ノ際更ニ神田高七石八斗ヲ寄附セラレ、其後徳川三代將軍

家光公ヨリ朱印ヲ以神領ニ賜リ、明治三(一八七〇)午年上地被ニ仰付、

全九年九月当社エ合祀ス。

応神天皇社名若宮八幡社本村元一色村字前田鎮座

勸請年月不詳。(一五八三)天正十一年富永半右衛門栄信再建ス云々。

往古ヨリ神田六反余歩神領タリシニ、数十年間ノ兵乱ニ因リ

社領モ全キヲ不レ得、慶長九年八月伊奈備前守奉行ト

シテ檢地ノ際先判之例ニヨリ更ニ高三石五斗寄附セラレ、而

后徳川三代将軍家光ヨリ朱印ヲ以神領ニ賜リ、代々受領ス。^(一八七〇)明治三^(一八七〇)午年朱印上地被^(一八七五)仰付^(一八七五)、全八年熊野社本村元一色村字前田ニ鎮座セシヲ右社ニ合祀ノ后^(一八七六)全九年九月当社ニ合祀ス。

若宮八幡社

祭神応神天皇

一、本村元中村字前通りニ鎮座シ、社守全村村松由平代々奉祀ス。
由緒不詳

鎮守社

祭神武甕槌命

一、本村元馬ヶ谷字門田ニ鎮座シ東光寺社僧タリシニ該寺無住^(年歴不詳)后元全村内藤三左衛門社守奉仕祭典相営。明治^(一八七六)

九年九月当社ニ合祀ス

大年神社 祭神豊受皇大神

一、本村元大日村字通ノ谷ニ鎮座シ元全村西尾八十七代々社守シ^(一八七六)祭典相営。明治九年九月当社ニ合祀ス。

熊野神社 祭神速玉男命

一、本村元中村字国木谷ニ鎮座シ、元一色村若宮八幡社祠官富永隼人兼勤祭典相営シ、明治九年九月当社ニ合祀ス。^(一八七六)

(朱筆)

一、神殿

間口老間『^(鉛筆)』
奥行五尺五寸『^(五)』

一、並宮

間口三尺五寸『^(五)』
奥行一間五寸『^(五)』

(押紙)

一、拝殿

間口四間五寸『^(五)』
奥行弐間『^(五)』

一、水屋

間口三尺五寸『^(五)』
奥行四尺七寸『^(五)』

一、手水鉢

高老尺三寸『^(五)』
長老尺七寸『^(五)』
巾老尺^(五)寸^(五)『^(五)』

一、石灯籠 二基『^(五)』

高老間『^(五)』(三州三影石^(御))

』

(押紙により抹消)

一、本社 間口 式間
奥行 式間

一、空殿 間口 七尺
奥行 七尺 遷座仮殿

(6 才)
(☆) 『一、玉垣 長九間五尺『✓』鉛筆/以下同
高三尺五寸『✓』 一、石段 (伊豆石) 長七尺五寸『✓』
十三段『✓』 一、石垣 (栗石) 長五間半『✓』
高三尺『✓』

一、石垣 (栗石) 長八間式尺『✓』
高八尺『✓』 一、鳥居 高式軒五尺『✓』
明一間四尺五寸『✓』 一、御幸所 間口九尺『✓』
奥行一丈『✓』

一、廊 間口老間『✓』 一、神楽殿 間口式間『✓』
奥行式間、
奥行九尺『✓』 一、拝殿 間口三間『✓』
奥行式間『✓』

一、手水鉢高一尺三寸『✓』
長二尺三寸『✓』

巾一尺三寸『✓』
(二九〇九) 明治四十二年一月廿五日付県司令
廊坪数訂正方再度出願
(二九〇九) 四十二年三月廿二日指令第一

社第一九七号ヲ以テ訂正方聞届
ケラル
〇四八号九聞届ケラル

(この二行齎付の糊付部分の下にあり)

一、拝殿 間口四間五寸
奥行 式間

一、水屋 五尺四方

一、境内坪数 三拾坪 官有地第壹種
(朱筆) 『境内老反老畝式歩増設ノ件四十二年十一月十五日静岡県指令社第五一五七号ヲ以テ聞届ラル』

一、境外行在所老ヶ所
反別八畝廿八歩 老村共有民有地

地価老円三拾四銭

(★) 但字前通^(旧字)元八幡社遷座跡官有地ニ有^(二八八二)之。明治十四年十一月『廿六』日
(朱筆)

当社大祭之節神輿行幸所ニ御払下許可セラレ、一村
共有地トナル。

一、氏子貳百三拾戸 但宇刈村中

(☆ 朱筆頭書)

「拝殿建設ノ義廿四年八月十日

付ヲ以テ出願ハ、全月廿五日本

県兵第四六七号ヲ以テ許

可 (印「大場」)

(★付箋／朱筆)

「大正四年八月九日建第二二二号乃至二二二号ヲ以テ登録済 (印「鈴木」)

・幣殿 間口二間 奥行一丈 石垣 長十二間五尺 高五尺 石段 長二尺五寸 巾八尺 三段

・神輿殿 間口二間三尺 奥行九尺 石垣 長二間二尺 高三尺

(印「鈴木」) ・向拝 間口九間 奥行六尺 玉垣 長六間三尺五寸 高三尺五寸

・社務所 間口四間三尺 奥行二間 石段 長八尺 巾八尺 九段

・便所 間口六尺 奥行六尺 石段 長四間 廿四段 巾八尺

『大正四年四月二十一日静岡県指令社第五七九号ノ一新築許可』 (印「鈴木」)

(6ウ) 一、静岡県庁迄距離拾五里拾八町

右者明治十二年本県丙第三拾壹号御達ニ因リ更ニ取調候
 处、相違無_レ之候也。

山名神社祠官

受持宇刈神社祠官

（二八八三）
 明治十六年七月八日
 幡鎌幸雄（印）
 （はたかまさちを）

氏子惣代

星野藤次郎（印）
 （操高カ）

富永與三郎（印）

久永新一郎（印）

村松由平（印）

西尾八十七（印）

（7カ）

静岡県令大迫貞清殿

前書之通相違無_レ之ニ付奥印仕候也。

右村戸長

長谷川四郎次（印）
 （宇刈村戸長／長谷川四郎次）

（以下図略）

〔翻刻注〕

付箋や鰭付などは、大正の頃に新築の宇刈神社の情報を書いたもの。

（宇刈、縦 275mm×横 194mm×厚 1mm）

一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇〇―二は、文字組は違うが、本文、付箋等同文。

(1 村) 風損木御払下願

周智郡春岡村

十所神社現境内

一、中途折桧 桧本 長四間
目通り三尺「」

一、同 桧 桧本 長四間
目通り三尺六〇回

一、同 桧 桧本 長四間
目通り三尺廻リ

一、同 桧 桧本 長四間
目通り三尺廻リ

一、同 桧 桧本 長四間
目通り四尺廻リ

合計五本

右者去ル九月十五日暴風二付、前記

之通り損木有レ之候間、該社宇修

繕之内へ無ニ代価ニ御下附相成度、此

段奉レ願候也。

周智郡春岡村村社

十所神社氏子総代人

(一八八四)
明治十七年十月廿日

加藤弥五郎 (印)

寺田定吉 (印)

廣澤誠一 (印)

右受持祠官

幡鎌幸雄 (印)

周智郡長足立孫六殿

(2 村)

『^(異筆)前書之通相違無レ之候也。』

『^(印)戸長 長谷川四郎次』

(堅帳、罫紙使用、虫損甚大、縦245mm×横159mm×厚1mm)

六七 明治十七年（一八八四）十一月十四日付け「庶第三百四十三号」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八九三）

割印）『庶第三百四十三号』
（朱書）

庶務課

自今売曆之儀者一般禁止相成、

特ニ神宮司庁ニテ製造大麻頒布之節

共ニ配付ノ都合ニ有レ之候間、入用之者ハ大麻

頒布ト共ニ申受候儀儀宜示達方可ニ取計

旨其筋ヨリ申越候間、御所轄内示達方

御取計相成度、此段及ニ御通知一候也。

但シ戸長役場江ハ一冊寄送之旨ニ付、此段

申添候也。

（×）

明治十七年十一月十四日周知郡庶務課

（周知郡／役所庶／務課印）
 （印）

春岡村組戸長役場御中

（堅紙、〔静岡県周知郡役所〕罫紙使用、縦251mm×横168mm）

六八 明治十七年（一八八四）十二月二十七日付け「依頼書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五一）

依頼書

来ル三拾九日大祓執行之儀、宇苅神社
ニ於勤務致候間、同日午後一時氏子
一同参拝被_レ致候様、毎戸へ御通知方及_二
御依頼_一候也。

右社受持祠官

幡鎌幸雄代理

（一八八四）
明治十七年十二月廿七日 幡鎌隆俊（印）

（山折り線）

戸長役場御中

（堅紙、「周智郡春岡村組戸長役場」罫紙使用、虫損大、開披不能、縦240mm×横167mm）

(1 ㊦) 周智郡宇刈村宇刈神社所有物予約書

宇刈神社

- 一 土地所有 無^レ之
- 一 賽物『^{〔押紙ノハ神官之ヲ所得ス〕}初穂ハ神官之ヲ管理ス』
- 一 通減禄修繕金等ハ氏子総代人之ヲ保管ス。

右之通予約仕候間、此段御届申候也。

(1 ウ) 周智郡上山梨村山名神社祠官
兼周智郡宇刈村宇刈神社祠官
明治十八年一月廿七日 幡 鎌 幸 雄
宇刈社氏子総代

西尾 八 十 七 (印)
村 松 由 平 (印)
久 永 新 一 郎 (印)
富 永 與 三 郎 (印)
山 内 八 郎 (印)

静岡県令関口隆吉殿

(2 ㊦)

『^{〔異筆〕}前書之通相違無^レ之候也。』

『周智郡春岡村』^{〔印〕}

『戸長 長谷川四郎次』^{〔印〕}

七〇 明治十八年（一八八五）二月六日付け「御届」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五一五）

御届

遠江国周智郡春岡村

村社

十所神社

右社収入物之義更ニ無レ之候間、
此段御届申候也。

右社氏子惣代人

^(二八八五)
明治十八年二月六日 加藤弥五郎（印）

寺田儀平（印）

（山折り線）

静岡県令関口隆吉殿

^(異筆)
『前書之通相違無レ之候也。』

^(印)
『周智郡春岡村』

^(印)
『戸長 長谷川四郎次』

（堅紙、「松郭堂製」罫紙使用、縦242mm×横327mm）

七一 明治十八年（一八八五）三月三十日付け〔春日神社境内神武天皇祭遙拝執行通知〕（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二二）

来四月三日神武天皇祭ニ付遙拝式執行。

春岡村々社春日神社境内ニ於

相勤候間、各村氏子惣代江御通知

被レ下度、此段及ニ御依頼ニ候也。

受持祠官幡鎌幸雄

代

十八年四月三十日 幡鎌隆俊（印）
（一八八五）

春岡村外式ヶ村

戸長役場御中

（縦紙、罫紙使用、縦 242mm×横 164mm）

七二 明治十八年（一八八五）四月十六日付け〔関口隆吉訓示〕（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二三）

郡 長
戸 長

県社以下神社維持方法決定之儀、今般丙第廿四号ヲ以相達候ニ付テハ、夫々計画ノ途モ可_レ有_レ之候得共、右ハ神社保護上最必要之儀ニ付、万一是迄ノ慣行ニ泥ミ、僅々タル社入等ニ頼リ、姑息ノ処置ニ付シ候様ニテハ、到底永続ヲ期シ難カルヘク候条、凡_レ壺ヶ年ノ収額、県社ハ_{二百四十}以上郷社ハ_{五十}以上無格社ハ_十以上若クハ各其十倍ノ資本ヲ設クルヲ程度トシ、猶實際ヲ查察シ、該社相当ノ準備ト認メ難キ限りハ精々説諭ヲ加ヘ、永遠維持ノ方法ヲ相立サス可シ。抑神社ノ儀ハ宗教祠宇ト異リ、決シテ放任スヘカラサル筈ニ付、此際厚ク注意致シ、保護ノ旨趣貫徹候様致スヘシ。此旨及ニ訓示ニ候也。

（山折り線）

明治十八年四月十六日

静岡県令関口隆吉（印）
（静岡県令／関口隆吉）

（堅紙、印刷、縦 276mm×横 384mm）

七三 明治十八年（一八八五）九月二十九日付け「庶第四百十三号」（一）春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五二

〔朱書〕
『庶第四百十三号』

従来県郷村社ニ奉仕ノ祠官掌試験

ノ儀ニ付、明治十六年六月本県丙第六

拾三郷達モ有レ之候処、於レ今何等不

届出「者有レ之、不都合不レ少。然ニ付、試

験未済者ハ各其社氏子総代ノ連

署シタル理由書為ニ差出「、本年十

月十日限当衙へ御回送可レ有レ之、其

筋ヨリ申越「

□□候也。

（山折り線）

庶務課長

（一八八五）
明治十八年
九月廿九日
周智郡書記針谷昌言（印）
（周智郡書／記／針谷昌言）
（墨書）

『春岡村外二ヶ村

戸長長谷川四郎次殿』

（縦紙、青焼き、縦 275mm×横 401mm）

七四 明治十八年（一八八五）十月一日付け「射的願書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三三）

〔第一紙〕

射的願書

当村々社宇刈神社祭典ニ付、本月四日ヨリ
六日迄三日ノ間、例年之通射的奉納
仕度候ニ付、御許可有レ之度、別紙図面
相添、此段奉レ願候也。

周智郡宇刈村

世話人惣代

（一八八五）

明治十八年十月一日

内藤新太郎（印）
（新太郎）

（山折り線）

森町警察分署

御中

（異筆）
『前書之通相違無レ之二付、奥書候也。』

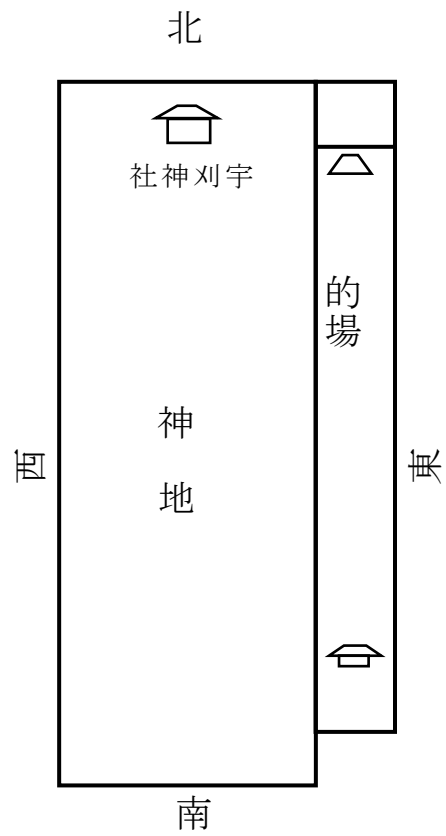
（印）
『周智郡春岡村外式ヶ村』

（異筆）
『明治十八年十月一日』

（印）
『戸長 長谷川四郎次』

（周智郡春／岡村外式／箇村戸長／長谷川四郎次）
（印）

〔第二紙〕



周智郡宇刈村
内藤新太郎 (印)
(新太郎)

(綴、第一紙「松郭堂製」罫紙使用、縦254mm×横183mm×厚1mm 第二紙縦243mm×横317mm)

七五 明治十八年（一八八五）十月三日付け「上申書」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三）

上申書

御郡庶第四百拾三号ヲ以祠官祠掌ノ儀御達
之處春岡村外二ヶ村内試験未済之祠官掌
無_レ之候間、此段上申候也。

（一八八五） 周智郡春岡村外二ヶ村
明治十八年十月三日 戸長 長谷川四郎次

周智郡長足立孫六殿

（豎紙、「周智郡春岡村外二ヶ村戸長役場」罫紙使用、縦249mm×横175mm）

七六 明治十八年（一八八五）十月十四日「御届」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五三四）

御届

周知郡春岡村

村社十所神社

右者例年之通り本月十四・十五

両日祭典執行仕候間、此段

御届申候也。

周知郡春岡村

右社氏子惣代

（一八八五）

明治十八年十月十四日

寺田儀平（印）

全

（山折り線）

加藤弥五郎（印）

右社受持祠官

幡鎌幸雄（印）

戸長

長谷川四郎治殿

（縦紙、罫紙使用、開披不能、縦241mm×横164mm）

七七 明治十八年（一八八五）十一月六日付け「庶第四百七十号」（一 春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五四）

『庶第四百七十号』
（朱書）

（印「山崎」）

（口務課）
（一八八五）
県郷村社奉仕ノ祠官・祠掌ニシテ、試験未済ノ者
割印）受験ノ義ニ付テハ、本年九月庶第四百十三号ヲ以テ

御通達ニ及ヒ候次第^モ有^レ之候処、今般本県丙第

八十八号ヲ以テ右之輩ハ十一月三十日限り悉皆試験

可^二相受^一旨御達ニ相成候。就テハ右之輩^江無^レ洩示

達受験候様御取計相成候儀ニハ可^レ有^レ之候得共、

為^レ念^二此段申進候也。
（一八八五）

明治十八年十一月六日 庶務課長

周智郡書記針谷昌言（印）
（周智郡書／記／針谷昌言）
（山折り線）

春岡村外二ヶ村

戸長と谷川四郎次殿

（堅紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦231mm×横300mm）

七八 明治十八年（一八八五）十一月七日付け「庶第四百七拾三号」（一）春岡村外ニケ村戸長役場文書二五五

（口務課）（朱書）
割印）『庶第四百七拾三号』

神宮大麻并ニ曆之義ハ内務省ノ達ニ依リ

（二八八四）
明治十七年ヨリ神宮教院ニ於テ頒布

之事ニ相成候処、近来類似曆ヲ刊行候者

間々有レ之、民間却テ之ヲ信用シ、為ニ大麻曆共不

レ受者有レ之哉ニ相聞候得共、右頒布之義ハ神

宮教院ニ限り候筈ニ付、無ニ疑念ニ相受候様、各町

村へ御示達相成度、其筋ヨリ申越之次第モ有レ之候ニ

付、此段御通達ニ及候也。

（山折り線）

庶務課長

（二八八五）
明治十八年十一月七日

周智郡書記針谷昌言

（印）（周智郡書ノ記ノ針谷昌言）

春岡村外ニケ村戸長

長谷川四郎次殿

（印二点「山崎」「岡埜」）

（竪紙、
「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦 228mm×横 300mm）

七九 明治十八年（一八八五）十二月十四日付け「庶第五百八十三号」（一 春岡村外ニヶ村戸長役場文書二五六）

（野外に印二点「山崎」「岡埜」）

（口務課）
（朱書）
割印）『庶第五百八十三号』

従来神仏例祭之義其都度届書差出シ来リ

候処、別ニ制限モ無レ之次第ニ付、自今届出ルニ及バズ

候条、各社寺へ御通達相成度、此段及ニ御通牒候也。

庶務課長

（二八八五）
明治十八年十二月十四日 周智郡書記針谷昌言（印）
（周智郡書／記／針谷昌言）

春岡村外ニヶ村戸長

長谷川四郎次殿

（竪紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、史料番号シールの糊で開披不能、縦234mm×横157mm）

八〇 年月日不明（明治十八年へ一八八五）「迂蘭盆念仏取締方之事」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書一三八七）

（足立）
（足立孫六印）

（孟以下同）
迂蘭盆念仏取締方之事

- 一、迂蘭盆大念仏及小供念仏者更ニ廃スヘキ旨毎村申合セヲ定メ、毎戸ノ調印ヲ要スルヲ。
- 一、右申合出来ノ上者、他郡ニ係ル接統ノ村落者戸長ヨリ戸長ニ照会シ、念仏立入ヲ謝絶スルヲ。
- 一、右決定ノ上者戸長ヨリ郡長^江届出ルヲ。

（鉛筆後補／袋井市史編纂者によるものならん）
『M18』

（堅紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦240mm×横158mm）

〔翻刻注〕

史料が入っていた封筒（袋井市史編纂者による）によると、「明一八年の綴中に」との由。綴り分解及び書き込みという史料破壊を受けたことが分かる。

八一 明治十九年（一八八六）一月三十日付け「旅行御届」（一四春岡村外ニケ村戸長役場文書三二一〇）

旅行御届

静岡県遠江国周智郡宇刈村

百四十八番地

平民

村松倉吉（印）

（八五五）

安政二年卯二月十日生

全村百六拾八番地平民

鈴木安蔵

（八四一）

天保十二年四月十二日生

私共儀心願右之伊勢大神宮^ニ参詣仕

度^ニ付、二月一日発足、全月十五日帰村可^レ仕^ニ付、此

（山折り線）

段御届申候也。

右

（八八六）
明治十九年一月三十日 村松倉吉（印）

周智郡春岡村外式ケ村

（二）『内朱異筆』

（割印）

『庶第老号』

戸長長谷川四郎次殿

（周智）

『岡村』

／箇村『役場』

『書面届出之趣聞届候事』

（八八六）

明治十九年一月三十日 周智郡春岡村外式ケ村戸長長谷川四郎次『

（縦紙、罫紙使用、縦235mm×横327mm）

(1 ㊦)

旅行御届

静岡県遠江国周智郡春岡村

第八番地平民農

柴田甚八

全県全郡全村

第六番地平民農

松川平太

全県全郡全村

第三十三番地平民
農柴崎孫十長女

なか

全県全郡全村

第三十三番地平民
農加藤熊太郎長女

ちよ

全県全郡全村

第六十三番地平民
農久保藤十長男
(田脱)

重次郎

全県全郡全村

第八十七番地平民
農鈴木五郎八長男

惣太

(2 ㊦)

右之者儀今般三重県下伊勢国

大神宮^(江)参指致度、本月十八日出

発、旅行日数十五日間、御暇免被二成下
度、此段御届申候也。

(2ウ)

明治十九年三月十七日

右

松川平太 (印)

柴田甚八 (印)

柴崎源重 (印)

加藤熊太郎 (印)

久保田藤重 (印)

鈴木五郎八 (印)

周智郡春岡村外式ケ村

戸長長谷川四郎殿

『前書届出之趣聞置候事。』

明治十九年三月十七日

周智郡春岡村外式ケ村

戸長長谷川四郎次』

(堅帳、「敬神堂製」罫紙使用、縦237mm×横162mm×厚1mm)

旅行御届

静岡県下遠江国周智郡

宇刈村八十六番地

新太郎長男

内藤 農夫

（一八八六）
明治十九年四月
廿三年九月

私儀今般三重県下伊勢国太神宮へ

参詣仕度（朱）本月五日出発、旅行日数廿四日

間御暇免被二成下一度、此段御届申候也。

右
（山折り線）

（一八八六）
明治十九年四月二日 内 藤 農 夫（印）

周智郡春岡村外二ヶ村

戸長と谷川四郎次殿

（朱異筆）
『前書届出之趣聞置候事。』

（一八八六）
明治十九年四月二日

（周智）
（割印）
岡村「」／役場「」
周智郡春岡村外式ヶ村

戸長長谷川四郎次代理

用係 長谷川利三郎』

八四 明治十九年（一八八六）七月十三日付け「御願」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五二九）

（署外墨書）
『戸長役場扣へ』

御 願

周智郡上山梨村

右者本月十三日より十五日マテ三日間
本村山名神社祭典ニ付、例年
之通村中曳屋台仕度候
間、御聞届被ニ成下「度、此段相願
候也。

（一八八六） 右村氏子惣代

明治十九年七月十三日 山 名 直 吉（印）

鈴木 源 十（印）
（山折り線）

森町分署長

警部補佐藤長三殿

（異筆）
『前書之通願出ニ付進達候也。』

（一八八六）
明治十九年七月十三日
（印）
『戸長 長谷川四郎次』

（堅紙、「敬神堂製」罫紙使用、縦 245mm×横 323mm）

八五 明治十九年（一八八六）八月二十日付け「庶第五百五十九号」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五七）

（口務課）（朱書）
割印）『庶第五百五十九号』

（野外に印二点「山崎」「岡埜」）

神社経費収支方法届差出方ニ付テハ屡御照会ニ及候。末客月一日付庶第四百六拾二号ヲ以テ遅緩ニ亘リ候向キハ其事由申立候様御取計相成度旨御照会ニ及候処、各神社氏子ヨリ未タ何等申出テス、右ハ貴官ニ於テ如何取計ラワレ候哉、且ツ其事由申出サルハ何ニヨリテ然ル乎、一応承知致度候条、此書御披見次第早々御回答有レ之度、右ハ其筋照会之趣モ有レ之ニ付、此段更ニ及ニ御照会ニ候也。

庶務課長

（一八八六）
明治十九年

八月廿日

周智郡書記宮地貞堯

（周智郡／書記宮／地貞堯）
（印）

（山折り線）

春岡村外二ヶ村

戸長長谷川四郎次殿

（堅紙、「遠江国周智郡役所」罫紙使用、縦235mm×横320mm）

八六 明治十九年（一八八六）九月付け「神社祠掌撰挙願」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三一）

(1 ㊦) 〔^{（野外朱書）}十九年
（一八八六）
九月廿七日
進達ス

神社祠掌撰挙願
静岡県遠江国周智郡
飯田村式百五番
山 田 左 内
四拾年三月

右之者周智郡宇刈村々社宇刈神社氏子
一同望ニ付、右社祠掌ニ相定メ度撰挙致シ
候条、御聞届相成度、最寄神官連署ヲ
以テ此段奉レ願候也。

(1 ㊦) 右神社氏子惣代
（一八八六）
明治十九年九月 山内八郎（印）

富永興三郎（印）
久永新一郎（印）
村松由平（印）
西尾八十七（印）

周智郡

森町村々社金守神社祠掌

森月英穂（印）

周智郡大鳥井村々社八幡宮祠掌

浅野清志（印）

静岡県知事関口隆吉殿
（喉に印あり）

(2ウ)

『前書之通相違無^(異筆)レ之候也。
〔周智郡春岡村外式ケ村^(印)〕
〔戸長^(印) 長谷川四郎次〕
〔周智郡春岡村外式ケ村戸長／長谷川四郎次〕
明治十九年九月七日』

印 割
假学証 本県平民 山田左内 四十年三月 三等仮試験合 格ヲ証ス。 明治十九年 九月二十一日 静岡県皇典講究分所

(堅帳、「敬神堂製」罫紙使用、縦 246mm×横 164mm×厚 1mm)

八七 明治十九年（一八八六）十月二日付け「御願」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三二）

御願

周智郡宇刈村

右者本月五日ヨリ六日マテ二日間本

村宇刈神社祭典ニ付、例年

之通村中曳屋台仕度候間、

御聞届被ニ成下ニ度、此段相願候也。

右村氏子総代

（一八八六）

明治十九年十月二日 西尾八十七（印）

（山折り線）

富永直七（印）

内藤農夫（印）

森町分署長

佐藤長三殿

『前書之通願出ニ付進達候也。』
（異筆）

（印）

「周智郡春岡村外式ヶ村」戸長長谷川四郎次代理

（一八八六）

明治十九年十月二日 用係 村 忝 八 十 郎 』

（堅紙、「敬神堂製」罫紙使用、縦 243mm×横 326mm）

八八 明治十九年（一八八六）十月二日付け「煙火打揚願」（一六春岡村外ニケ村戸長役場文書五三三）

「第一文書」

煙火打揚願

一、煙火七拾五本

右者本月五日ヨリ六日迄当村宇刈神社祭典ニ付、例年之通煙火前記之通奉納仕度、別紙図面相添此段奉_レ願候也。

（山折り線）

周智郡宇刈村

（一八八六）
明治十九年十月二日

煙火製造人

奉納人 富永直七（印）

仝 山内八郎

打揚場地主 中嶋才吉

接近惣代 寺田常吉

森町警察署長

佐藤長三殿

（異筆）
『前書之通願出ニ付進達候也。』

（一八八六）
明治十九年十月二日「周智郡春岡村外式ケ村戸長 長谷川四郎次」代理

用係 村 忝 八 十 郎』

(第二文書、絵図面)

(綴、第一文書「敬神堂製」罫紙使用、縦280mm×横199mm×厚1mm)

八九 明治十九年（一八八六）十月二日付け「祭典御届」（一六春岡村外二ヶ村戸長役場文書五三五）

祭典御届

明治十九年十月五日・六日両日周智

郡宇刈村宇刈神社例規之通祭

典執行仕候間、此段御届申候也。

周智郡宇刈村

宇刈神社氏子総代

富 永 直 七（印）

明治十九年十月二日
内 藤 農 夫（印）

西 尾 八 十 七（印）

豊田郡篠原村坂本神社祠官

幡 鎌 隆 俊（印）

（山折り線）

森町警察分署長

佐藤長三殿

『前書之通届出二付進達候進達候也。』
（異筆）

「周智郡春岡村外式ヶ村」戸長長谷川四郎次代理
（二八八六）
明治十九年十月二日 用係村松八十郎
』

（堅紙、「敬神堂製」罫紙使用、縦 243mm×横 326mm）

（野外に印二点あり「鈴木」「山口」）

（口務課）（朱書）
割印）『庶第六百七十九号』

天祖教会長松本時彦ナル者ノ委托
ヲ受ケ大麻類似ノ神札竊カニ配付
候モノ有_レ之趣、『若』（朱書）
御差止ノ上、族籍氏名等御取調御申
出有_レ之度、此段及ニ御照会ニ候也。

周智郡役所
（二八八六）
十九年十月廿二日
庶務課（印）
（周智郡／役所庶／務課印）
春岡村外二ヶ村戸長役場御中

（堅紙、
「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦234mm×横156mm）

九一 明治十九年（一八八六）十一月十九日付け「御請書」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三三三二）

御請書

周智郡春岡村字天白

阿弥陀堂現境内

一、^{（×）}桧末木^{（■）} 目通貳尺 長 壹間 三本

一、全 目通壹尺 長 壹間 三本

一、全 目通壹尺五寸 長 貳間 壹本

右八十所神社官林盜伐品_ト御認_メ相成、
外品御差押_ニ相成候_ニ付、正_ニ預_リ保管可_レ致候間、此段御請申上候也。

周智郡春岡村外貳ヶ村

（一八八六）
明治十九年十一月十九日 戸長 長谷川四郎次

（山折り線）

静岡大林区署

森町出張署御中

（縦紙、「周智郡春岡村外二ヶ村戸長役場」罫紙使用、縦272mm×横344mm）

九二 明治十九年（一八八六）十一月二十二日付け「庶第七百四十二号」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三二三三）

（朱書）
『庶第七百四十二号』

三重県山田宮川町中森重平外二人ニ於テ山
田宮川橋際へ鳥居建築ノ企有レ之候処、今般
神宮司庁ニテ差止候趣ニ付、自然全人而左記
ノ者、勸財類似ノ所業有レ之モ難レ計ニ付、
篤卜御注意相成度、此段御照会およひ
候也。

第一課長代理

（二八八六）
明治十九年十一月廿二日 周知郡書記長谷川越太郎

（豎紙、「周智郡春岡村外二ヶ村戸長役場」罫紙使用、縦271mm×横342mm）

九三 明治二十年（一八八七）一月十二日付け「庶第十四号」（一 春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五八）

（罫外に印「はせがわ」）

（口一課）（朱書）
割印）『庶第十四号』

神仏各宗管長ニ於テ教師ニ補シタル者其旨

届書差出候处、自今届出ニ及ハサル旨本県ヨ

リ通達有^{（又）}レ之候条、右御了知相成度、此段及ニ

御伝達ニ候也。

第一課長

（一八八七）
明治廿年一月十二日 周智郡書記宮地貞堯（印）（周智郡／書記宮／地貞堯）

春岡村外二ヶ村

戸長長谷川四郎次殿

（罫紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦231mm×横145mm）

九四 明治二十年（一八八七）三月二十六日付け「庶第百五十一号」（一）春岡村外二ヶ村戸長役場文書二六八）

（口一課）（朱書）
割印）『庶第百五十一号』

島根県下出雲大社維持ノ為メ保存会ヲ設

立シ、有志者ノ賛助ヲ得候為メ、全会長千家

尊福代理野上幸人巡回候旨、本県ヨリ被_ニ

申越_一候次第モ有_レ之。且又野上幸人ヨリ別紙

規則書差出候ニ付、老部及_ニ御回_一致候条可

_レ然御取計有_レ之度、此段申進候也。

第一課長

（二八八七）
明治廿年三月廿六日 周智郡書記宮地貞堯（印）（周智郡／書記宮／地貞堯）

（山折り線）

春岡村外二ヶ村

戸長長谷川四郎次殿

（堅紙、
「静岡県周智郡役所」
罫紙使用、
縦 229mm × 横 301mm）

九五 明治二十年（一八八七）三月三十一日付け「御願」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二六九）

（罫外朱書）
『四月一日』

御願

周智郡

一、屋台車 一輛 春岡村

右ハ四月二日ヨリ三日マテ二日間

本村春日社祭典ニ付曳屋

台仕度、此段奉_レ願候也。

右社氏子総代

（一八八七）
明治二十年三月卅一日

中川惣七（印）

久保田藤十（印）

渡邊和吉（印）

（山折り線）

森町警察署長

警部佐々木太郎殿

（竪紙、「池窪堂」〔力〕罫紙使用、縦272mm×横343mm）

九六 明治二十年（一八八七）三月三十一日付け「御届」（一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七〇）

〔（野外朱書）
四月一日着〕

御届

周智郡春岡村

員外社春日神社

右神社例年之通来ル四月二日

ヨリ三日マテ祭典執行仕候間、

此段御届申上候也。

右社氏子総代

明治二十年三月卅一日 中川惣七（印）

久保田藤重（印）

渡邊和吉（印）
（山折り線）

周智郡飯田村

宇刈神社祠掌

山田左内（印）

静岡県知事関口隆吉殿

（（ 縦紙、「池窪堂」〔力〕 罫紙使用、縦 271mm×横 342mm）

九七 明治二十年（一八八七）七月十一日付け「御届」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七四）

(1 ㊦) （罫外朱書）
『七月十一日請付
一〇三六号』

御届

本月十三日より全十五日迄例年之通当村郷社山名神社
大「祭」執行候間、此段御届申候也。
（押紙／＼×■）
（訂正印）

周知郡上山梨村

山名神社氏子総代

（二八八七）
明治貳拾年七月十一日 山名直吉（印）

木俣七蔵（印）

古瀬彦吉（印）

鈴木幸三郎（印）

村松幸吉（印）

鈴木孫十（印）

右社祠官未定ニ付

豊田郡篠原村坂本神社祠官

幡鎌隆俊

不在ニ付代理

権少教正
（重有）

小国重存（印）

静岡県知事関口隆吉殿

(2 ㊦) （異筆）
（朱書／＼届出ニ付進達候也）
『前書之通「相違無レ之候也。」
（印）

「周智郡春岡村外貳ヶ村」

(二八八七)
明治二十年七月十一日』

『戸長^(印)
長谷川四郎次』

(堅帳、
「敬神堂製」
罫紙使用、
虫損大、
縦243mm×横164mm×厚1mm)

九八 明治二十年（一八八七）七月十一日付け「御届」（一 春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七五）

御届

山名神社氏子惣代

山名直吉

鈴木源十

木俣七蔵

村松奉吉

鈴木奉三郎

古瀬清作

右氏子中投票ニテ別記六名

惣代人ニ相定リ候間、此段

御届申候也。

（山折り線）

上山梨村人民惣代

（一八八七）

明治二十年七月十一日

村忝藤十郎（印）

安達半十郎（印）

山名直吉

春岡村外二ヶ村

戸長長谷川四郎次殿

（縦紙、罫紙使用、虫損大、縦246.5mm×横320mm）

(1 ㊦) 御願

周知郡

上山梨村

右者本月十三日より十五日迄三日間本村山名
神社祭典ニ付、例年之通村中

曳屋台・踊り屋台仕度候間、御聞

届被ニ成下一度、此段相願候也。

右村氏子總代

(二八八七) 明治廿年七月十三日 山名直吉 (印)

鈴木孫重 (印)

木俣七三 (印)

村裕幸吉 (印)

鈴木幸三郎 (印)

古瀬彦吉 (印)

(1 ㊧)

森町警察署長

警部佐々木太郎殿

(2 ㊦) 『(異筆) 前書之通願出ニ付進達候也。』

(印) 「周智郡春岡村外式ヶ村戸長 長谷川四郎次」

(二八八七) 明治二拾年七月十三日 『(印) 用係 長谷川利三郎』

(豎帳、「敬神堂製」野紙使用、縦 243mm×横 163mm×厚 1mm)

一〇〇 明治二十年（一八八七）九月十四日付け「御届」（一一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七七）

（異筆外朱書）
『一二九六号

九月十四日受付』

（☆）

御届

周智郡上山梨村

村社 熊野王子社

右来_ル十四日より十五日迄、例年之如_ク

神事祭執行仕候ニ付、此段

御届申上候也。

周智郡上山梨村

氏子惣代

（二八八七）
明治二十年九月十四日 村松藤十郎（印）

同

（山折り線）

村松孫平次（印）

（異筆一）
『神官未定ニ付

豊田郡篠原村坂本神社祠官

幡鎌隆俊』（印）

静岡県知事関口隆吉殿

（異筆二）
『前書之通相違無レ之候也。

（二八八七）
明治廿年九月十四日』（印）
『戸長 長谷川四郎次』

(☆ 野外朱頭書)

「九月十四日

受領

奥書ノ上

総代人〔渡〕

(堅紙、野紙使用、縦 247mm×横 320mm)

一〇一 明治二十年（一八八七）十月二日付け「祭典御届」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八六）

（罫外に印「はせかわ」）

祭典御届

（一八八七）

明治廿年十月五日・六日両日周智郡宇刈

々社（訂正印）

村宇刈神社例規之通祭典執行仕候

間、此段御届申候也。

周智郡宇刈村

宇刈神社氏子惣代

（一八八七）

明治二十年十月二日

富永直七（印）

久永廣太郎（印）

西尾八十七（印）

村松由平（印）

星野藤次郎（印）

右神社受持祠掌

全郡飯田村

山田左内（印）

森町警察署長

佐々木太郎殿

（異筆）

『前書届出之通相違無レ之候也。』

（一八八七）

明治二十年十月二日

（印）『周智郡春岡村外二ヶ村戸長』

（印）『長谷川四郎次』

（山折り線）

（罫紙、「敬神堂製」罫紙使用、縦 246mm×横 323mm）

一〇二 明治二十年（一八八七）十月二日付け「御願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一八七）

（野外に印あり「はせかわ」）

御願

周智郡宇刈村

右者本月五日ヨリ六日マテ二日間、本村宇刈神社祭典ニ付、例年之通村中曳屋台仕度候間、御聞届被ニ成下「度、此段奉レ願候也。

右村氏子惣代

富永直七（印）

久永廣太郎（印）

星野藤治郎（印）

西尾八十七（印）

村松由平（印）

（山折り線）

森町警察署長

佐々木太郎殿

（異筆）
『前書之通願出ニ付進達候也。』

（印）
『周智郡春岡村外二ヶ村戸長』

（異筆）
『明治二十年十月二日』
（一八八七）
（印）
『長谷川四郎次』

（堅紙、「敬神堂製」罫紙使用、縦 246mm×横 323mm）

一〇三 明治二十年（一八八七）十月二日付け「煙火打揚願」（二一春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七八）

「第一文書」

煙火打揚願

（野外に印「はせかわ」）

一、煙火六拾本

内 四十五本 夜

十五本 昼

外 下花火 一

右者本月五日ヨリ六日マテ当村宇刈神社祭典ニ付、例年之通煙火前記之通奉納仕度、別紙図面相添此段奉レ願候也。

周智郡宇刈村

（山折り線）

煙火製造人

（一八八七）
明治二十年十月二日 奉納人 富永直七（印）

打揚場地主 中嶋才吉（印）

接近地惣代 寺田常吉（印）

森町警察署長

佐々木太郎殿

（異筆）
『前書之通願出ニ付進達候也。』

（この行野外にあり）
明治二十年十月二日 『周智郡春岡村外二ヶ村戸長』（印）
（一八八七） 『長谷川四郎次』

(紙、「敬神堂製」罫紙使用)

〔第二文書開披不能〕

(綴、第二文書絵図面開披不能、縦 272mm×横 170mm×厚 1mm)

〔翻刻注〕

第二文書絵図面が、絵図面のある面を内側にして折って綴られているため開披不能。袋井市史編纂者によるもの。

一〇四 明治二十年（一八八七）十月十四日付け「例祭御届」（一）春岡村外二ヶ村戸長役場文書二七九

（罫外朱書）
『一四一三号』

十月十四日受付』

例祭御届

周智郡春岡村

村社 十 所 神社

右社例年之通本月十五日祭

典執行仕候間、此段御届仕候

也。

右氏子惣代人

（一八八七）
明治廿年十月十四日

加藤弥五郎（印）

寺田定吉（印）

神官未定_{三付}

幡鎌隆俊（印）

（山折り線）

静岡県知事関口隆吉殿

（罫紙、「周智郡春岡村外二ヶ村戸長役場」罫紙使用、縦244mm×横317mm）

一〇五 明治二十年（一八八七）十一月六日付け「臨時祭典願」（一）春岡村外二ヶ村戸長役場文書二八一

(1 ㊦) 『^{（異筆）}受付十一月六日一五二六号』

臨時祭典願

周智郡宇刈村

宇刈神社

右村社宇刈神社儀、今般修覆仕候二

付、本月九日・十日両日臨時祭典執行仕度候間、

御聞届被_レ下度、此段奉_レ願候也。

右社

氏子総代

富永直七（印）
明治二十年十一月六日

山内八郎（印）

久永新一郎（印）

村杳由平（印）

西尾八十七（印）

右社祠掌

山田左内（印）

周智郡長足立孫六殿

『^{（異筆）}前書之通相違無_レ之候也。』

（喉に印あり）

（印）
「周智郡春岡村外式ヶ村戸長」

（一八八七）
明治二十年十一月六日

（印）
『長谷川四郎次』

（縦帳、「敬神堂製」野紙使用、縦 247mm×横 161mm×厚 1mm）

一〇六 明治二十二年（一八八九）四月十日付け「地第貳拾貳号」（二字刈近代役場文書二七〇）

（印「はせがわ」）

地第貳拾貳号

町村役場

社寺境内立木枯損等ニテ伐採方願出^ル

トキハ明治廿一年一月二十三日付本県庶第一^{（一八八九）}

○一号ニ抛り差出タル立木取調ノ類別及
番号ヲ附記セシムベシ。

但 竹林ハ坪数本数ヲ記載セシムベシ。^{（一八八九）}

明治二十二年四月十日

静岡県周智郡長片岡忠教

（堅紙、青焼き、劣化甚大、縦249mm×横172mm）

一〇七 明治二十二年（一八八九）四月十一日付け「訓第貳号」（一二字刈近代役場文書二七一）

（口一課）
割印）（印「はせがわ」）

訓第貳号

社寺境内立竹木ノ義ハ、仮令民有地タリト
モ官有地全様擅ニ伐採不ニ相成「ハ勿論ニ
候得共、若シ心得違ノ者有レ之テハ不都合
不レ少義ニ付、関係ノ者ヘ夫々示諭相加ヘ、
尚不取締ナキ様注意之レアルベシ。

右訓示ス。

明治二十二年四月十一日

（一八八九）

（静岡県／周智郡長／片岡忠教）
（印）

（墨書） 元周智郡『宇刈』戸長『長谷川四郎次』殿

〔翻刻注〕

印は史料番号シールが上に重なって判読困難となっている。一般的に史料番号シールは史料の裏側に貼る、あるいは文字を避けて貼ることを思うが、袋井市史編纂者にはその程度の配慮もなかったことがうかがえる。

（縦紙、青焼き、劣化甚大、縦249mm×横172mm）

一〇八 明治二十二年（一八八九）四月二十二日付け「祠掌兼務願」（一七宇刈近代役場文書七七六）

(1 ㊦)

祠掌兼務願

遠江国周智郡宇刈村宇刈村社

宇刈神社

祠掌 山田左内

右本村春岡村社十所神社祠掌欠

員ニ付、追テ本務人撰挙候迄、前書山

田左内（兼務為_レ致度、則皇典講求『_レ究』（朱書）

所試験済之証写相添、右御聞届相成

度、氏子惣代人并神官正副組長連署

ヲ以_テ、此段相願候也。

修学証

本県平民

山田左内

四十年式月

三等級試験合格

ヲ証ス（一八八九）

明治十九年九月廿一日

静岡県講典講究分所

十所神社氏子惣代

（一八八九）
明治廿二年四月廿二日

寺田定吉

加藤弥五郎

廣澤誠一

宇刈神社氏子總代人

久永弥右衛門

西尾八十七

周智郡内祠官掌副組長

(2 ㊦)

本町天宮郷社天宮神社祠掌

中村此雄

全上組長

犬井村県社

秋葉神社

祠掌 橋本茂登治

(2ウ)

静岡県知事関口隆吉殿

(一八八九)

(朱異筆)

『庶第二三六四号

願之趣聞届々。

明治廿二年六月六日

静岡県知事代理

静岡県書記官伊志田友方

印

』

(堅帳、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦245mm×横166mm×厚1mm)

一〇九 明治二十二年（一八八九）十一月十二日付け「庶第五四二号」（一七宇刈近代役場文書七八〇）

（「課」（とみなが））
割印）（罫外に印あり）『庶第五四二号』

（朱書）

郷村社神官之儀ニ付テハ、^{（一八八八）}明治十四年十二月本県丙第六拾七

号御達之次第モ有^レ之候処、^{（一八八八）}欠員之俣撰挙セザル向モ有

レ之、不都合不^レ少候ニ付、客年中旧戸長^{（一八八八）}ヘ対シ再応及^二照会^一置

タル次第モ有^レ之候処、貴村内神社中左記ノ分未ダ欠員

之俣ニ有^レ之不都合ニ候条、受持神官相定為^二届出^一候

様、至速御取計有^レ之度、此段更ニ及^二御照会^一候

也。

第一課長

（一八八九）

明治二十二年十一月十二日 周智郡書記宮地貞堯（印）

（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

宇刈村々長富永藤兵衛殿

宇刈村春岡

無格社 春日神社

（山折り線）

（罫紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦242mm×横326mm）

一一〇 明治二十二年（一八八九）十一月十六日付け「社境内損木無代下付願」（一七字刈近代役場文書七八一）

(1 ㊦) 社境内損木無代下付願

周智郡宇刈村春岡十所神社境内三百卅七番地字天白

現境内反別九畝廿八歩

一、桧根倒木壹本

但 目通り三間
長 貳間半

但第貳拾壹号

一、椎 枯木壹本

但 目通り六間
長 貳間

但第 六 号

前記之通り本社現境内損木有レ之。就

テハ、社殿小修理ノ節者、該木ヲ以て

修理仕度候間、無代価ヲ以下付相成

度、此段奉レ願候也。

右社氏子総代人

(一八八九)

明治廿二年十一月十六日

寺田定吉 (印)

加藤弥五郎 (印)

鈴木弥一 (印)

右受持祠掌

山田左内 (印)

周智郡長片岡忠教殿

『前書之通りニ付奥印候也。』
(異筆) (×相違無之)

村 長』

(2 ㊦) 社境内損木無代下付願

周智郡宇刈村春岡村春日神社境内壹番地字春日山

現境内反別貳反七畝廿歩

一、松中途折木壹本

但目通り六尺
長四間

但第貳十八号

前記之通り本社現境内損木有之。就

テハ社殿小修理ノ節者、該木ヲ以修理

仕度候間、無代価ヲ以テ御下付相成度、

此段奉レ願候也。

右社氏子總代人

(2ウ)

(二八八九)
明治廿二年十一月十六日

鈴木權三郎(印)

鈴木勝三郎(印)

右社受持

祠掌 山田左内(印)

周智郡長片岡忠教殿

(綴、「敬神堂製」罫紙使用、縦243mm×横170mm×厚1mm)

一一一 明治二十二年（一八八九）十一月二十八日付け「地第六十三号」（一七字刈近代役場文書七八四）

地第六十三号

町 村 役 場

（とみなが）（一八七八）

（印）明治十一年六月本県甲第七十四号布達ニ拠リ文明十八年

以後創立ノ社寺ニシテ官有地ニ在ルモノ、其境内ヲ該社

寺ヘ無代下付、民有地ニ組替ノ義許可相成候向モ有レ之候

得共、社寺境内之義ハ元来民有地タリト雖モ、許可ヲ得

ズシテ家屋ヲ建築シ、又ハ竹木ヲ伐採スル等不ニ相成ニ答ニ

シテ、本件ニ付テハ、本年四月本郡訓第二号ヲ以テ訓示ニ及

候趣^モ有^レ之、心得違無^レ之様、神官住職氏子檀信徒ヘ

懇篤諭示シ、猶今後民有地編入願出候社寺ヘハ、此旨

厚ク相心得サスベシ。

（一八八九）

明治廿二年十一月廿八日 静岡県周智郡長片岡忠教

（縦紙、青焼き、縦 238mm × 横 166mm）

一一二 明治二十二年（一八八九）十二月二十三日付け「御届書」（一七字刈近代役場文書七八五）

(1 ㊦) (印) 御届書

静岡県周智郡宇刈村春岡

無格社

春日神社

右社之義受持祠掌欠員ニ付、同村
村社宇刈神社祠掌山田左内ヲ受
持祠掌ト相定度氏子一同希望ニ付、
氏子惣代并ニ神官正副組長連署ヲ
以テ、此段御届出候也。

(印)

(1 ㊧) 右 春日神社

氏子惣代

加藤弥太郎 (印)

鈴木権三郎 (印)

鈴木勝三郎 (印)

周智郡内祠官掌副組長

同郡森町天宮郷社天宮神社祠掌

中村此雄 (印)

全上組長

全郡犬居村県社秋葉神社

祠掌橋本茂登治 (印)

(一八八九)
明治二十二年十二月廿三日

(2 ㊦) 静岡県知事時任為基殿

（表紙）

十所神社明細帳

『全村春岡神社へ合祀ノ義、
（朱字）
（二八九〇）
明治廿二年

三月廿二日付ヲ以テ願出、全年六月二日付

静岡県遠江国
周智郡

本県庶第三一八八号ヲ以テ聞届ケ、跡
地ハ官有地第三種へ編入スル旨指令アリ。』

春岡村

（1才）

静岡県管下遠江国周智郡春岡村^{字 天 白}
三百三十七番 元西楽寺村
一、祭 神 十 座 村 社 十 所 神 社^{（朱字）}

天照皇大神 『表書之通り全村無格社春日神社へ^{（大場）}

天児屋根命 合祀ス（印）』

誉田別命

木花開邪姫命

(1ウ)

一、由緒
仁皇四十五代聖武天皇御勅詔ニ依ツテ、神龜元^(七二四)甲子年
僧行基ノ勸請ト諸伝ニ見ヘタリ。其後堀河帝ノ
^(一〇八七)
寛治元年、源顕房卿発願トナリ再建。尋テ永
禄年間武田信玄ノ兵乱ニ罹リ焚失ス。尔后ノ再建
年度ハ不詳ト雖モ、凡ソ天正年間ト想像見認。猶
維新ノ際迄同所真言宗西楽寺鎮守ノ処、神
仏混淆判然御引分ケニ付、元西楽寺村寺領ノ者從
前々氏神ト称シ來リ候。縁由ニ泥ミ、村社ノ格ニ相定メ、
如レ件調整仕來候也。

(2カ)

一、本社
間口七尺
奥行七尺
一、拝殿
間口 四間五寸
奥行 二間
一、鳥居
高サ 一丈二尺
明キ 九尺
一、境内 式百九十八坪
官有地第一種
一、境内神社 二社
天神社
祭神 菅原道真命
由緒 不詳候得共、右ハ本社ニ準スト想察候。
社殿 間口 貳尺
奥行 一尺八寸
荒神社
祭神 奥津彦命

(2 ㇿ)

興津姫命
齋大魂命

由緒 不詳候得共、右ハ本社ニ準スト想察候。

社殿

間口 二尺
奥行 一尺八寸

一、氏子 十七戸 人口八十七人 但

春岡村全百十七戸
人口五百十七人之内

一、静岡県庁迄距離十六里三十町

(二八八〇)

右者明治十三年本県内第三十一号御達ニ依リ、更ニ
取調候処、相違無ニ御座一候也。

周智郡春岡村

右社受持

(二八八三)

明治十六年七月十日

廣澤誠一(印)

氏子惣代

寺田儀平(印)

同

(喉に印あり)

加藤弥五郎(印)

村松繁吉(印)

(3 ㇿ)

静岡県令大迫貞清殿

前書之通り相違無レ之候也。

戸長代理用係

鈴木勝三郎(印)

(3ウ白紙)

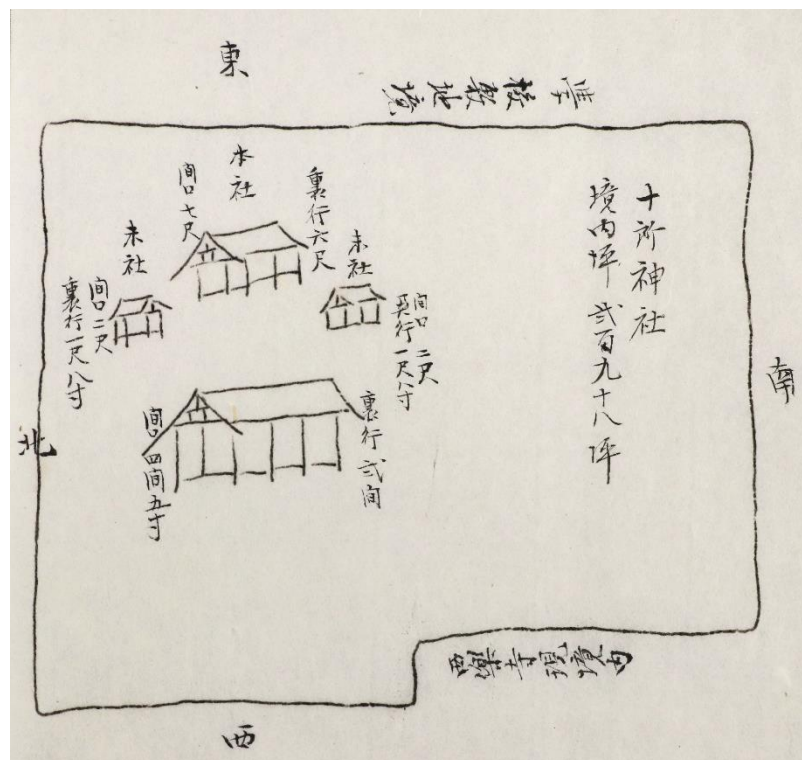
(4 ㇿ)

(抹消)
『氏子惣代

廣澤有盛(印)』

〔翻刻注〕

原本と写しの二冊あり。内容は同じ。翻刻は原本。
写し 縦 279mm×横 201mm×厚 1mm。



(縦帳、縦 278mm×横 202mm×厚 1mm)

一一四 明治二十三年（一八九〇）三月二十六日付け「庶第九十号」（二宇刈近代役場文書二七二）

『庶第九十号』

（朱書）

『拝』（印）（廣澤）

（カ／野外墨書）

宇刈村春岡神社十所神社・無格社春日神社合祠

之義、別紙之通関係人ヨリ出願相成候处、本願許可
割印）^{（□課）} 済之上ハ、十所神社現在ノ社殿其他建物ハ如何処置

スル義ニ候哉。若シ春日神社境内へ移転スル義ニ候

ハ、別紙神社名称替願書へ其移転建築之旨明

記シ、該図面即將来春岡神社ト称スベキ境内建物

之位置等詳細記載セル絵図面添付共ニ出願候様

為レ致度、或ハ春日神社現在之建物ヲ以テ^{（造力）}□用シ

移転建築等ハ為サヅル義ニ候乎。一応乎取札之上

何分之御取計可ニ相成一候。願書返戻此段及ニ御照会一候

也。

（山折り線）

第一課長

（二八九〇） 明治廿三年三月廿六日 周智郡書記宮地貞堯（印）
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

宇刈村と長富永藤兵衛殿

（豎紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦 245mm×横 326mm）

一一五 明治二十三年（一八九〇）四月七日付け「庶第九十八号」（二字刈近代役場文書二七三）

（野外墨書）
『5』

（野外に印「廣澤」）

（第一課）（朱書）
割印）『庶第九十八号』

予テ差出相成候貴村内社寺仏堂立木調中、左記
之分再調ヲ要スル旨ヲ以テ本県ヨリ照会有レ之。此条至
急御取調有レ之度、此段及ニ御照会ニ候也。

第一課長

（二八九〇）
明治二十三年四月七日 周智郡書記宮地貞堯（印）（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

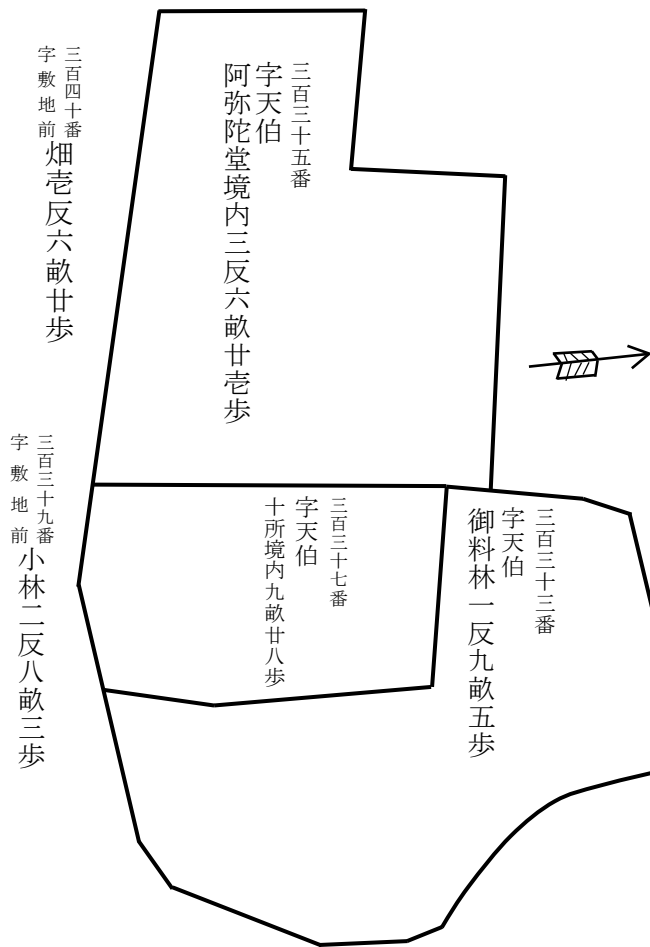
宇刈村と長富永藤兵衛殿

再調ヲ要スル件		大字	小字	社寺号
境内図面算出ヲ要ス		宇刈	前田	松吟庵
薬師堂ハ境外仏堂ナルニヨリ更ニ明細帳及ビ 立木調差出ヲ要ス		春岡	敷地式	西楽寺

（山折り線）

（堅紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦242mm×横329mm）

字天伯 十所境内九畝廿八歩
「」番
官有地



本図之通り相違無レ之候也。

静岡県周智郡宇刈村春岡

右十所神社氏子惣代

廣澤誠一印

寺田定吉印

受持神官

山田左内印

静岡県知事時任為基殿

（一八九〇）
明治廿三年四月廿七日

(豎紙、中損大、縦292mm×横390mm)

一一七 明治二十三年（一八九〇）六月二日付け「社第三一一八号・庶第三一八九号」（一七宇刈近代役場文書七八八）

〔第一文書〕

（野外受付印）

「 「三八」 「

□六三」 「

「 「

（野外に印「廣澤」

社第三一一八号

周智郡宇茹村春岡

十所神社兼務祠掌

山 田 左 内

（一八九〇）

明治廿三年三月廿二日附全村春日神社へ合

（割印／上矢／□岡／□庶／□課）

併願ノ件聞届ケ、跡地ハ官有地第三種へ編入

ス。

（一八九〇）

明治廿三年六月二日

（静岡県／知事時／任為基）

静岡県知事時任為基（印）

（「静岡県指令用紙」使用）

〔第二文書〕

(野外受付印／『内墨書』)

「周智郡／明治／□『三七』号／□『六』月『三』日受付」

(野外に印「廣澤」)

庶第三一八九号

周智郡宇荻村春岡

十所神社兼務祠掌

山田左内

春日神社受持神官

山田左内

明治廿三年三月廿二日十所神社ヲシテ春日神社ヘ

合併ノ上、村社春岡神社ト改称願ノ件聞届ク。

明治廿三年六月二日

静岡県知事時任為基
(静岡県／知事時／任為基)

(印)

(「静岡県指令用紙」使用)

(綴、縦 284mm×横 200mm×厚 1mm)

一一八 明治二十三年（一八九〇）六月三日付け「庶第百八十号」（二）宇刈近代役場文書二七四

（野外に印「廣澤」）

（朱書）
『庶第百八十号』

割印）貴村春岡村社十所神社ヲ無格社春日神社へ合祠
（第課）ノ件并ニ社格社号等改称願之件、今般御指令相

成候ニ付テハ、至急移転之上十二年本県丙第三十一号
（八七九）

社寺明細調書式ニヨリ、更ニ明細帳調製進達為

レ致候様御取計相成度、此段及ニ御照会ニ候也。

（二八九〇）
明治二十三年六月三日

第一課長

周智郡書記宮地貞堯（印）

（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

宇刈村と長富永藤兵衛殿

（堅紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦239mm×横329mm）

一一九 明治二十三年（一八九〇）六月五日付け「庶第百八十一号」（二）宇刈近代役場文書二七五

（袖に朱筆の線あり）

庶第百八十一号

貴部内社寺ノ内維新前旧政府ヨリ建物造修費ヲ支給
セシ分有^レ之候ハ、左記之廉即時御取調折返シ有無共
御回答有^レ之度、右ハ其筋ヨリ被^ニ申越^一候次第モ有^レ之。
特ニ至急ヲ要シ候条、別段之御手配有^レ之候様致度、
（割印）依命此段御通達候也。

第一課長

（二八九〇）
明治二十三年六月五日 周智郡書記宮地貞堯（印）
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

『宇刈村』と長『富永藤兵衛』殿
（墨書）

（山折り線）

一、旧政府ヨリ造修費ヲ支給セシ建物名称坪数支給
金高及ヒ建築ノ年度。

一、建物現今ノ有無

但風火災等ニ罹リタル年又ハ頽廃ニ及ビ取毀チタレバ
其年度。

一、建築費ノ幾分ヲ支給シ、余ハ勸化モ差免シタルモノハ
其年度及ヒ勸化ヲ為シタル国名。

（縦紙、青焼き、縦 232mm×横 310mm）

一二〇 明治二十三年（一八九〇）九月十八日付け「庶第貳百八十八号」（一二宇刈近代役場文書二七七―一）

（罫外に印「廣澤」）

〔（朱書）庶第貳百八十八号〕
〔（第二課）（一八九〇）

割印）

本年六月三日付庶第百八十号ヲ以テ及ニ御照会ニ置候

春岡神社明細帳之件、于レ今何等取計無レ之差支

候条、速々御処理有レ之度候。此段及ニ御照会ニ候也。

第一課長

（一八九〇）
明治二十三年九月十八日 周智郡書記宮地貞堯（印）
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

宇刈村と長富永藤兵衛殿

（罫紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦240mm×横329mm）

一一一 明治二十三年（一八九〇）九月二十二日付け「庶第貳百九十四号」（一二宇刈近代役場文書二七七―二）

（朱書）

『庶第貳百九十四号』

（竊）

割印）

貴村と社春岡神社明細帳調製方之義ニ付、本年六月

（一八九〇）

三日付庶第百八十号及本月十八日付庶第貳百八十八号ヲ

以テ及「御照会」置候処、右ハ従前之明細帳ニ依リ便宜

訂正可レ致ニ付、別ニ調製ヲ要セザル旨更ニ本県ヨリ申越

之次第モ有レ之候条、明細帳進達方之義ハ別ニ御取計

ヲ要セズ候間、右ニ御了知相成度、此段申進候也。

第一課長

（一八九〇）

明治二十三年九月二十二日 周智郡書記宮地貞堯（印）

（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

宇刈村と長富永藤兵衛殿

（竪紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦 240.5mm×横 330mm）

一二三 明治二十三年（一八九〇）十月十日付け「庶第三百十六号」（二二宇刈近代役場文書二七八）

（朱書）

『庶第三百十六号』

（印「廣澤」）

（口一課）（一八九〇）

本年四月本郡庶第九十八号ヲ以テ及「御照会」候貴村春岡

西楽寺所属薬師堂之義ニ付、本年八月一日付ヲ以テ本

県へ上申書進達相成候处、阿弥陀堂之方ハ素ヨリ該寺

本堂ト現認候ニ付、明細帳モ亦該寺飛境内トシ編製相

成候得共、薬師堂之方ハ阿弥陀堂ト同一視難ニ相成、就

テハ明細帳受持之項へ「從來西楽寺付属ニシテ受持替

ルヲナシ」トノ明文ヲ記載候ハゞ、則該寺付属之境外仏

堂ナルニヨリ、別ニ不都合無レ之旨更ニ本県ヨリ照会之次

第モ有レ之候条篤ト関係人へ御示諭之上曩ニ及「御照会」

候通、支給明細帳差出候様御取計相成度、依命

此段及「御照会」候也。

（山折り線）

第一課長

（一八九〇）

明治二十三年十月十日 周智郡書記宮地貞堯

（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）（印）

宇刈村と長富永藤兵衛殿

（堅紙、「静岡県周智郡役所」罫紙使用、縦 243mm × 横 328mm）

一二三 明治二十三年（一八九〇）十一月四日付け「庶第三百五拾五号」（一二字刈近代役場文書二八〇）

（口一課）
割印）庶第三百五拾五号

（二八九〇）
明治廿三年末神宮大麻曆頒布之為メ

頒布係袴田八百吉ナル者本郡下へ者出候

趣、就テハ一般人民へ告知方神宮教静岡

本部ヨリ以来有レ之候条、此旨御了知、夫と

御通知置相成度、此段申進候也。

周智郡役所

（二八九〇）
明治廿三年十一月四日 第一課（印）（周智郡／第式課）

（墨書）
周智郡『宇刈村』役場

御中

（堅紙、青焼き、縦231mm×横150mm）

（印）「西尾」／史料番号シールが上から貼られている／裏面から見て読んだ）
（印）庶第百七十号

左之通及「御照会」候也。

（八九一）
明治二十四年七月二日

第一課長

（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）
周智郡書記宮地貞堯（印）

宇刈村と長西尾八十七殿

一、社寺総代人改選方之義ニ付、客月廿五日付本郡地第十三号
ヲ以テ達相成候ニ付テハ其手続之如キハ素ヨリ各社寺代表
者即受持神官住職等ニ於テ主トシテ之レヲ為スベキハ当然
之義ニハ候得共、各社寺へ放任候時ハ、或ハ不行届之義ナシト
モ断言難レ致ニ付、貴職ニ於テモ精々御注意之上相当之
監督方可レ然御取計相成度候。

（縦紙、青焼き、縦 242mm × 横 169mm）

一二五 明治二十四年（一八九一）八月十日付け「願」（一二字刈近代役場文書二九三）

(1 ㊦)
(受付印)

願

周智郡宇刈村宇刈

村社 宇刈神社

一、拝殿 壹棟

但 総瓦葺 奥行式間 間口四間五寸

右者宇刈神社氏子中有志者寄附金ニテ
建築仕度候間、御許可被ニ成下_一度、
別紙仕用帳_写并ニ絵図面相添へ、此段
奉_レ願候也。

周智郡宇刈村宇刈

村社宇刈神社氏子惣代人

(一八九一)
明治廿四年八月十日 長谷川孝太郎 (印)

内藤農夫 (印)

村松芳太郎 (印)

村社宇刈神社祠掌

周智郡飯田村飯田

山田左内 (印)

静岡県知事時任為基殿

(異筆)
『前書之通リ願出ニ付進達也。』

(一八九一)
明治廿四年八月十二日『周智郡宇刈村村長西尾八十七』(印)
(周智郡宇刈村村長／西尾八十七)

(印)「静岡県／＼」／喉の割印か

(受付印／朱印)
「」／明治廿四年／「八」月「廿六」日受付

(第一紙「商盛堂」罫紙使用)

(2 才)
割印) 『兵第四六七号
(朱異筆)
(岡県／務部／式課)
願之趣聞届ク。
(八九一)
明治廿四年八月廿五日
静岡縣知事時任為基』(印)
(静岡縣／知事印)

(第二紙「静岡縣」罫紙使用)

(2ウ白紙)

(3 才) 願

周智郡宇刈村宇刈
村社 宇刈神社

一、拝殿 壹棟

但 総瓦葺 奥行貳間 間口四間五寸

右者宇刈神社氏子中有志者寄附金ニテ建築
仕度候間、御許可被レ成度別紙仕用帳写
并ニ絵図面相添ヘ此段奉レ願候也。

周智郡宇刈村宇刈

村社宇刈神社氏子総代人

(八九一)
廿四年八月十日 長谷川孝太郎

内藤農夫

村松芳太郎

静岡県知事時任為基殿
『^(異筆)前書之通り願出ニ付進達候也。
^(八九)廿四年八月十二日』 『^(印)周智郡宇刈村村長西尾八十七』

(第三紙「周智郡宇刈村役場」罫紙使用)

(4カ)

神社拝殿建築仕用帳

一、棟 杓本

長式間杓尺
廻り三尺八寸

代金貳円五拾錢

一、梁 八本

長式間杓尺
廻り貳尺五寸

代金四円

杓本代金五拾錢

一、垂_ル木七拾本

代金壹円五錢

杓本代金壹錢五厘

一、柱 拾貳本

長式間
六寸角

代金六円

杓本代金五拾錢

一、貫_キ五拾丁

代金三円

杓丁代金六錢

一、床板十間

代金貳円五拾錢

厚サ六分
杓円ニ付四間

一、板三拾間

代金五円

厚サ四分
杓円ニ付六間

一、椽板 八間

厚サ壹寸

代金貳円六拾六錢六厘

杓円ニ付三間

(5 才)

一、桁六本

長式間
八六角

代金三円

壹本代金五拾錢

一、(×床接)
根架八本

長式間
八六角

代金四円

〔老〕本代金五拾錢

一、椽ヶ持チ八丁

長式間
四八角

代金 貳円四拾錢

壹丁代金三拾錢

一、広コマイ貳百拾六丁

代金四円三拾貳錢

壹丁代貳錢

一、杉皮百貳拾束

代金拾円

壹束八錢三厘

一、釘 五貫目

代金 五円

一、針(金偏に「赤」のような字形)
□ 三貫目

代金 五円

一、大工百貳拾人

壹人

給料金三拾三円六拾錢

金廿八錢

一、平瓦千拾五枚

百枚ニ付

外□瓦八百五十枚

金五十錢

(×五円七錢五厘カ)
此代金貳拾五円

(☆) 右仕用之通相違無レ之候也。

周智郡宇刈村□□□

請負人 高木助十

宇刈神社氏子惣代人

御 中

(☆) 頭書

「合計金

百十九円

三錢六厘

□入」

(6 才)

右之通_リ宇刈神社拝殿新築仕
用帳写相添奉_レ願候也。

村社宇刈神社氏子惣代人

(二八九)
廿四年八月十日 長谷川孝太郎

内 藤 農 夫

村松芳太郎

静岡県知事時任為基殿

(神社拝殿建築仕用帳「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、破損)

(罫帳、罫紙使用、縦 264mm×横 173mm×厚 1mm)

（印／史料番号シールが上から貼られており判読不能）

庶第貳百五号

左之通依命及ニ通牒一候也。

（二八九一）
明治二十四年八月十七日 第一課長

（二〇一課）
（印） 周智郡書記宮地貞堯（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

（墨書）
『宇刈村』と長『西尾八十七』殿

社寺総代人改選方之義ニ付嚮ニ達相成候処、婦女ハ選

定難ニ相成一旨、其筋通牒之次第モ有レ之候条、右御心得可

レ有レ之候。

（堅紙、青焼き、縦 245mm×横 167mm）

一二七 明治二十四年（一八九一）九月八日付け「庶第二百二十一号」（二字刈近代役場文書二九八）

（口一課）
割印）庶第二百二十一号

左之通為_レ念及_二通牒_一候也。

（八九）
明治二十四年九月八日 第一課長

周智郡書記宮地貞堯
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）
（印）

（異筆）
『宇刈村』と長『西尾八十七』殿

神道出雲教会拡張之為メ、今般一等司事松浦栄

ナルモノヲシテ、信徒結収ノ為メ本部内へ出張巡回致サセ候

趣就テハ各町村役場へ通知方同教会副長北嶋勝

孝ヨリ願出候ニ付、右ニ御了知相成度候。

（堅紙、青焼き、縦245mm×横168mm）

庶第貳百貳十三号

左之通為レ念及ニ通牒一候也。
（「」課）
（八九一）
割印）
明治二十四年九月十二日

第一課長

（墨書）
周智郡書記宮地貞堯（印）
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

（墨書）
『宇刈村』と長『西尾八十七』殿

本月五日本県地第十六号ヲ以テ官有地社寺境内使用
及収益規程之件達相成候処、客月九日本県令第
三十九号ヲ以テ郡長分任条件中更正相成候ニ付テハ、
随テ該規程中知事トアル分ハ延喜式内国史現

（山折り線）

在之神社ヲ除クモ外悉皆郡長ニ於テ処分可ニ相成一筈
ニ候条、右ニ御承知置社寺ヨリ書面差出之節ハ
宛名等御注意相成度候。

但地第十六号達文中但書ニ係ル伺出ハ、本文
分任外ニ付即知事ヘ伺出ヘキモノニ候条、是亦申添
候。

（縦紙、青焼き、縦 248mm × 横 334mm）

一二九 明治二十四年（一八九一）九月二十一日付け「庶第貳百三十五号」（一二字刈近代役場文書三〇〇）

（第一課）
割印）庶第貳百三十五号

左之通依命及「通達」候也。

（八九一）
明治二十四年九月二十一日

第一課長

周智郡書記宮地貞堯（印）
（静岡県周／智郡書記／宮地貞堯）

（墨書）
『宇刈村』と長『西尾八十七』殿

（八九一）
本年九月本県地第十六号達第拾貳条中伺出之順序ハ総テ第

六条ニ抛ルベキ筈ニ候処、枯損木障碍木之内ニハ或ハ危険

等急速処分スヘキモノ可レ有レ之。此場合ニ於テハ特ニ管長ノ

添書ヲ要セズ伺出候モ不レ苦義ニ候条、右御了知寺院へ

御達御成度也。

（堅紙、青焼き、縦248mm×横169mm）

一三一 明治二十五年（一八九二）四月二十六日付け〔回答〕（一二字刈近代役場文書三〇八）

左記之通り御回答におよひ候也。

明治^{（八九二）}廿五年四月廿六日 『周智郡宇刈村村長西尾八十七』

第一課長

宮地貞堯殿

御郡庶第八拾三号ヲ以テ県郷社其他延

喜式内外ノ古社ニ伝ハリタル祭典式等ノ者当村

内取糺シ候処更ニ無^レ之候。

『明治^{（野外印刷）}廿 年 月 日 周智郡宇刈村役場』

（堅紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦248mm×横168mm）

一三二 明治二十六年（一八九三）二月十九日付け「御届」（一七宇刈近代役場文書七九八）

(1 村)

御 届

静岡県周智郡宇刈村春岡

春 岡 神 社

内 訳

元春日神社

一、宝 物

元春日神社

一、古器物

元春日神社

一、儲 書

元春日神社

一、古文書

徳川家康公ヨリ御代々朱印

高七石目

鏡老面

但^{（徑）}無名直經四寸
重量百五拾四匁

元春日神社 天下大平

棟 札 奉造営春日社 村松源右エ門秀茂

国家安穩氏子安全

（二六六八）

寛文五^乙巳年秋八月十日重珍本庄山

大工棟梁

鈴木角右エ門

元十所神社

今川治部大輔義元判物

西樂寺領八町七反之内
鎮守田員数不^レ分

（二五四三）
天文十二^{癸卯}年五月二十日

元十所神社

関白豊臣公朱印

西樂寺領百七拾石ノ内筆分
式拾石鎮守領

（二五九〇）

天正十八年十二月二十八日

元十所神社

徳川家康公ヨリ御代々朱印

西楽寺領百七拾石ノ内筆分
貳拾石鎮守領

(一六〇三)
慶長八年九月十一日、末_ニ万延元年九月十一日

元十所神社

棟札奉再建十所権現社一字

遠州周智郡宇刈安養山
西楽寺八世尊照敬白

(一七〇六)
宝永三_{丙戌}年十二月朔日

元十所神社

縁起書

無_レ之

(一八九一)

右本郡明治廿四年地第九号御達_ニ依_リ取調候处、相違無_レ之候也。

(一八九三)

明治二十六年二月十九日

右神社祠掌

山田 左内 (印)

右社氏子総代

久保田藤重 (印)

加藤弥太郎 (印)

廣沢 誠一 (印)

鈴木勝三郎 (印)

(2ウ)

静岡県周智郡長原綏胤殿

(異筆)
『前書之通_リ相違無_レ之候也。』

(一八九三)
明治廿六年二月廿日『周智郡宇刈村村長西尾八十七』

(縦帳、「商盛堂」罫紙使用、縦 249mm×横 165mm×厚 1mm)

一三三 明治二十六年（一八九三）六月一日付け「地第三三八号」（二字刈近代役場文書三一〇）

（頭書／手書）

「静岡県指定用紙」

地第三三八号

周智郡宇刈村春岡

西 楽 寺

（二八九）
明治廿四年六月廿二日付出願宇刈村

春岡元十所神社跡地式畝廿六歩阿

弥陀堂境内へ編入ノ件聞届ケ難

シ。

（二八九三）

明治廿六年六月一日 静岡県知事小松原英太郎

（罫外印刷）
『明治廿

年 月 日

周智郡宇刈村役場』

（罫紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦245mm×横170mm）

一三四 明治二十八年（一八九五）十一月十二日付け「庶第三十三号」（一七宇刈近代役場文書八〇〇）

〔庶〕¹⁾（朱書）
（割印）『庶第三十三号』

御郡老第七百四十一号ヲ以テ御照会ニ相成候

本年八月三十一日本村春岡神社及ニ拝殿焼

失ニ之儀、其関係人ニ就キ原因取調候処、

当神社ハ古来ヨリ例トシテ毎月拾四日及月末

ニハ必ス神殿ニ燈火ヲ点スルヲ以テ、即チ八月三

十一日午后七時三十分頃、例日ノ通り燈火ヲ点

シ、終リテ凡ソ一時三十ヲ經過シタルト覺ヘシ頃、

右出火ニ及ヒシヲ以テ見レバ、出火ノ原因確ト不^ニ

相分^ニ候ヘ共、其燈明木製紙張ナルガ為メ

燈火ノ火過テ紙ニ焼付キ、之レガ原因ヲナセル

モノナランカト相考候旨申出候間、此段及ニ

回答^ニ候也。

（印）『周智郡宇刈村々長内藤農夫』代り

（二八九五）
明治二十八年十一月十二日 『周智郡宇刈村助役富永直七』

第一課長心得

周智郡書記大原曠殿

（豎紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦 246mm×横 334mm）

（山折り線）

一三五 明治二十九年（一八九六）一月十六日付け「神社焼失二付再建願」（一七字刈近代役場文書八〇一）

〔第一文書〕

神社焼失二付再建願

周智郡宇刈村

村社春岡神社

一、本殿

但 間口 壹丈二尺五寸
奥 行 七 寸

右者村社春岡神社之儀、明治二十八年八月三十一日火災ニ罹リ、本殿・末社及拝殿共烏有ニ帰シ候ニ付、今般氏子一同ノ寄附金ヲ以テ、別紙絵図面之通り本殿再建致シ度候間、絵図面并ニ建築目論見帳相添へ、此段奉レ願候也。

（山折り線）

遠江国周智郡春岡

春岡神社氏子総代

（一八九六）
明治二十九年一月十六日 鈴木勝三郎（印）

久保田藤重（印）

加藤弥太郎（印）

全社々掌

幡鎌隆俊（印）

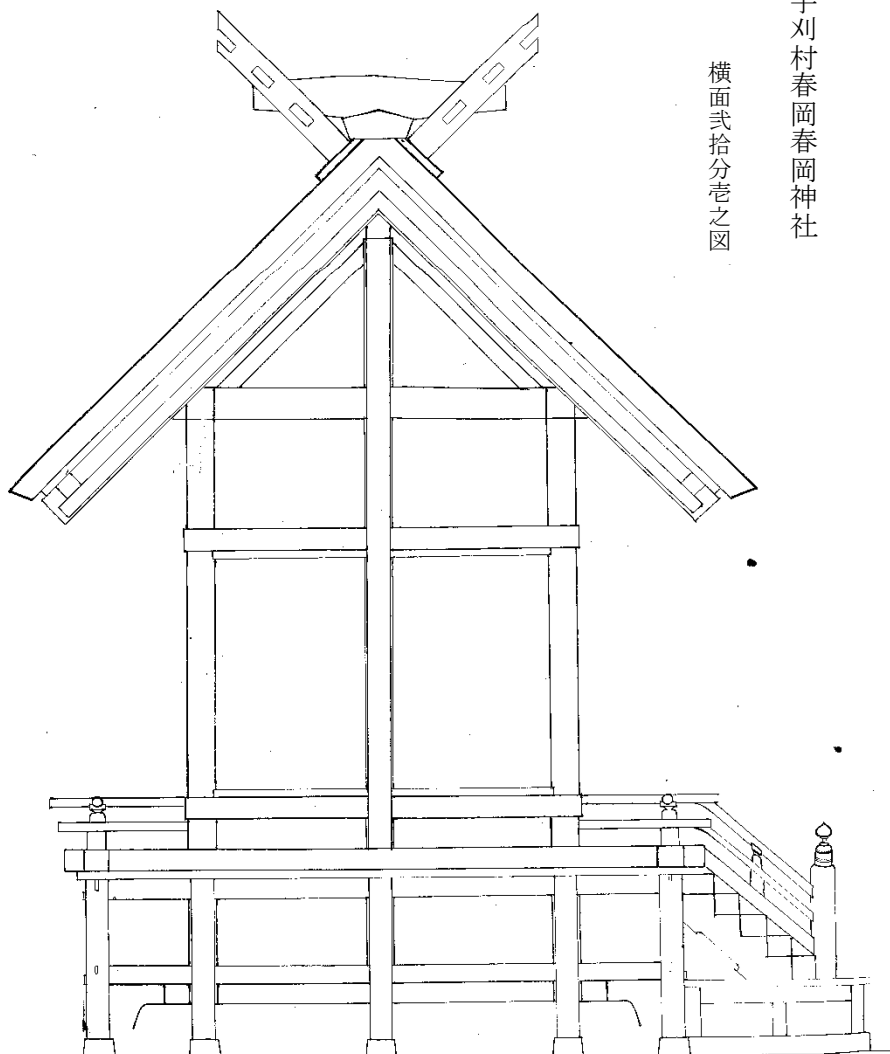
静岡県知事小松原英太郎殿

(竪紙、商盛堂製「周智郡宇刈村役場」罫紙使用)

〔第三文書／絵図面〕

宇刈村春岡春岡神社

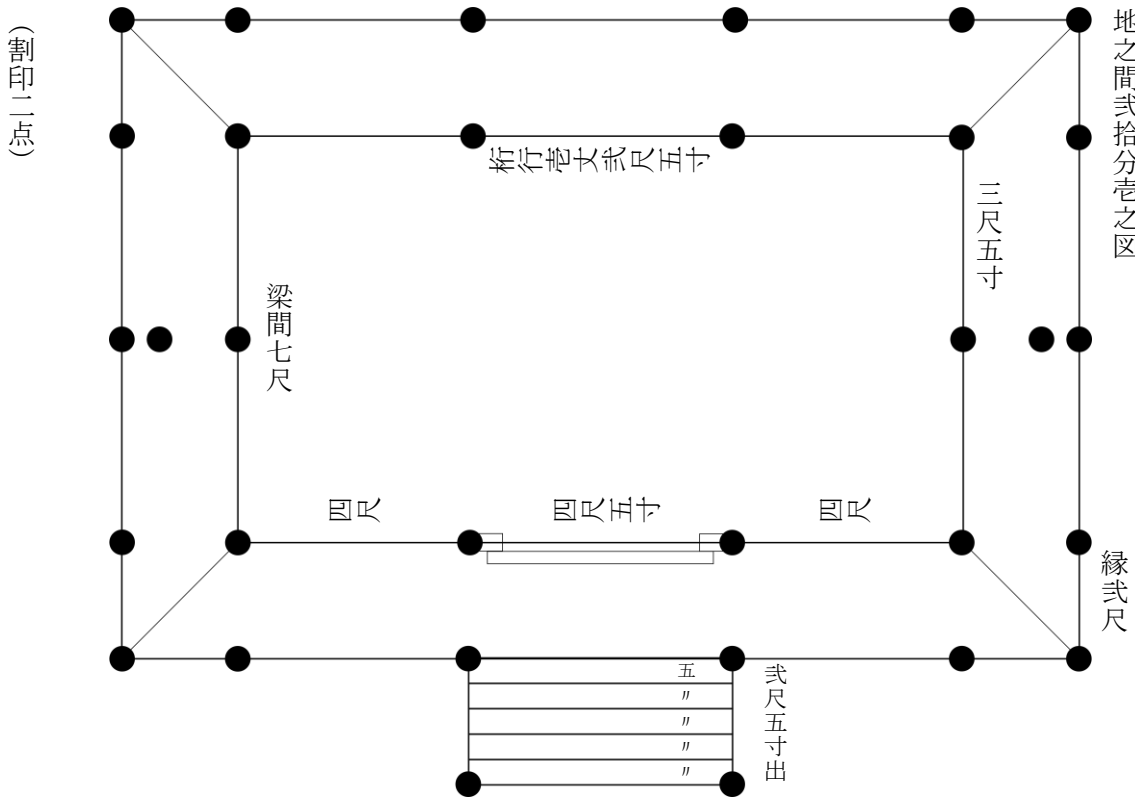
横面式拾分壹之図



(絵図面、縦 380mm×横 280mm)

〔第四文書／絵図面〕

宇刈村春岡春岡神社
地之間貳拾分毫之図

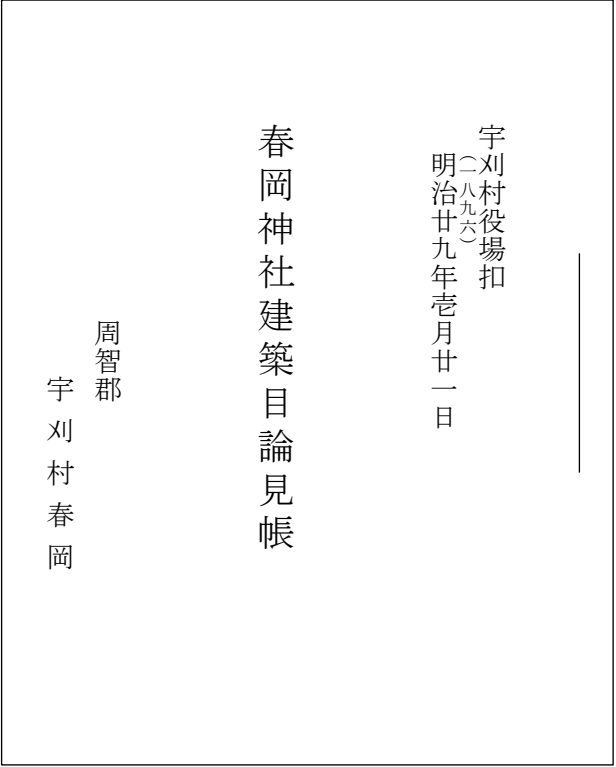


(絵図面、縦 370mm×横 280mm)

(綴、全体縦 277mm×横 201mm×厚 1mm)

一三六 明治二十九年（一八九六）一月二十一日付け『春岡神社建築目論見帳』（一七宇刈近代役場文書八〇七）

（表紙）



（表紙見返）

「春岡神社建築目論見帳

春岡神社」

（喉に印あり／以下同）

（1 札）

一、本殿 奥行七尺
間口壹丈貳尺五寸

内 訳

一、桧柱長壹丈貳尺

七寸ノ八角

拾本

(2 材)

(1 材)

(2 材)	一、全破風板長老丈	巾尺厚貳寸	四枚
	一、全裏押長老丈五寸	四寸ニ二寸	八町
	一、全萱負長老丈五寸	三寸ニ四寸	四本
	一、全垂木長老丈	貳寸ニ貳寸貳分	八十本
	一、棟トイ長老丈五寸	五寸角	貳本
	一、全箱棟長老丈五尺	巾尺厚老寸五分	八枚
	一、全アフリ板長老丈五尺	巾尺厚貳寸	四枚
	一、全勝男木長六尺	八寸ニ貳寸	四本
	一、全千木長五尺	六寸	五本
	一、全縁土台長六尺	三寸ニ四寸	三町
	一、全地土台長九尺	五寸ニ六寸	貳町
	一、全地土台長老丈四尺	五寸ニ六寸	貳町
	一、全土台長六尺	三寸五分ニ四寸	四町
	一、全土台長老丈三尺	三寸五分ニ四寸	貳本
	一、全土台長九尺	三寸五分ニ四寸	貳本
	一、全高欄長九尺	貳寸五分角	四本
(1 材)	一、全高欄長六尺	貳寸五分角	八本
	一、全敷居鴨居四尺五寸	五寸ニ二寸	貳拾丁
	一、全長押長老丈四尺	五寸五分ニ三寸	六丁
	一、全小短柱老尺五寸	三寸角	貳拾本
	一、全短柱長五尺	四尺五分角	貳本
	一、全棟木長老丈五尺	四寸ニ五寸	貳本
	一、全梁長八尺	五寸ニ六寸	四本
	一、全丸桁長老丈五尺	五寸ニ六寸	四本
	一、全ニタ柱長老丈六尺	六寸ノ八角	貳本
	(根太柱のことか)		
	一、全ニタ柱長老丈六尺	六寸ノ八角	貳本
	一、全丸桁長老丈五尺	五寸ニ六寸	四本
	一、全梁長八尺	五寸ニ六寸	四本
	一、全棟木長老丈五尺	四寸ニ五寸	貳本
	一、全短柱長五尺	四尺五分角	貳本
	一、全小短柱老尺五寸	三寸角	貳拾本

(2ウ)

(3ウ)

(3ウ)

一、全キタハシ長六尺

五寸^ニ六寸

五丁

一、全雁木長四尺

巾尺二寸厚^ニ式寸

二枚

一、全横長老丈三尺五寸

五寸^ニ老寸五分

六丁

一、全横長九尺

五寸^ニ一寸五分

六丁

一、全横長^ニ式間

巾四寸厚一寸

拾四丁

一、全小舞長^ニ式間

巾三寸^ニ六分

八拾丁

一、全野垂木長老丈

二寸^ニ一寸五分

式十本

一、全根駄長七尺

二寸五分

式十本

一、全戸板四尺五寸

巾尺五寸
厚一寸五分

六枚

一、全縁板二尺五寸

巾尺

拾^ニ式間

一、全破風板四尺

八分板

拾^ニ式間

一、全床板六尺

六分板

三間半

角^ノ参拾四本^ニ式分四厘

此代金百七拾老円式拾錢

桧板三拾間半

此代金参拾円五拾錢

杉四分板拾間

此代金三円三拾三錢

屋根体^〇人工

此代金三拾円

大工・木挽^式百五拾人

此金八拾三円式拾五錢

計金参百拾八円式拾八錢

周智郡宇刈村春岡氏子惣代人

明治廿九年

老月廿一日

久保田藤重(印)

加藤弥太郎(印)

周知郡長近藤準平殿

社掌 鈴木勝三郎（印）
幡鎌隆俊（印）

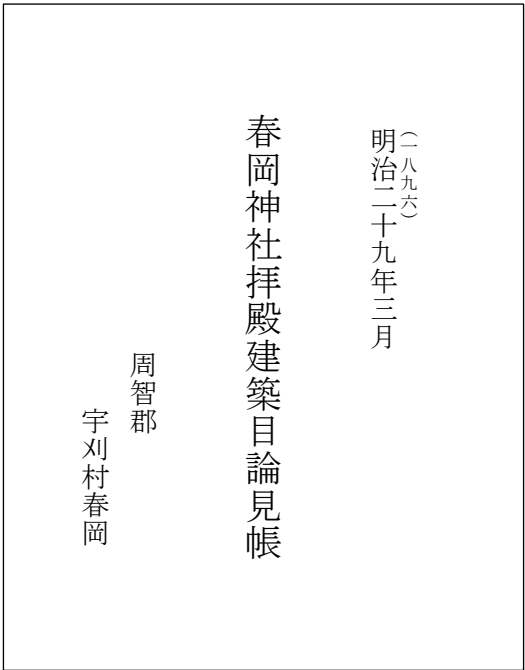
（縦帳、「敬神堂製」罫紙使用、縦248mm×横167mm×厚1mm）

〔翻刻注〕

史料に貼られている史料番号シールの番号には「806」とあり。史料番号は史料が入っていた封筒に書かれた番号に随う。

一三七 明治二十九年（一八九六）三月付け『春岡神社拝殿建築目論見帳』（一七宇刈近代役場文書八〇三）

（表紙）



（1才）

春岡神社拝殿建築目論見帳			（又仕用書）
一、	拝殿	間口三丈	
		奥行壹丈五尺	
一、	桧柱長壹丈三尺	拾六本	柱
一、	全長壹丈五尺	六本	土台
一、	松長壹丈	貳丁	鴨居
一、	全長壹丈三尺	四本	桁
一、	全長壹丈五尺	貳本	桁
一、	全長九尺	貳本	桁
一、	全長壹丈五尺	貳本	野物
一、	全長壹丈貳尺	三本	野物

(1 ㄱ)

一、松長老丈五尺

六本

野物

一、杉長老丈貳尺

貳本

棟木

一、全長老丈貳尺

八本

母屋

一、全長老丈八尺

四本

角木

一、全長老丈五尺

五本

尾引

一、桧長九尺

貳本

御拝柱

一、全長九尺

貳本

土台

一、松長老丈四尺

老本

紅梁

一、全長五尺

貳本

御拝扣

(喉に印あり／以下同)

(2 ㄱ)

一、杉長老丈貳尺

拾老本

短柱

一、松長老丈

六枚

段板

一、全長四尺

三枚

雁木

一、全長六尺

四枚

破風板

一、全長六尺

四枚

裏甲

一、全長九尺

貳枚

雨蓋

一、全長九尺

貳枚

雨蓋

一、桧六尺

老本

短柱

角 桧 六本六分九厘老毛

松杉

角 桧 拾九本三分一厘

(2 ㄱ)

造作之部

一、松長老丈三尺

百本

榿

一、全長六尺

貳拾本

榿

一、全長老丈貳尺

十一本

茅負

一、全長老丈貳尺

十一本

瓦棧

一、全長老丈貳尺

角二拾丁

小舞

一、杉長老丈五尺

八丁

上檼

(3 才)

一、全長老丈貳尺 貳十二丁 上櫓
一、全長老丈貳尺 十丁 中櫓
一、松長五尺 六十本 根駄
一、松長老丈五尺 六丁 長押
一、全長老丈五尺 八丁 長押
一、全老丈 貳丁 樞
一、全六尺 七丁 敷居
『一、杉長老』丈貳尺 拾四丁 檼櫓
『(押紙・訂正印)』

(3 才)

一、全長五尺 貳丁 角櫓
一、全六尺 貳十七本 檼根駄
一、全長老丈貳尺 六丁 根駄掛
一、杉四分板 拾六間
一、全六分板 貳十間
一、杉皮 百束 床
一、松板六分 拾貳間 檼
一、松板長三尺 拾貳間
『一、(押紙・訂正印)雨戸』 貳拾本

(4 才)

一、格子戸 八本
造作物 金百七拾老円九十三銭
角 物代金百三拾円〇〇五厘
瓦代金六拾五円八拾銭
大工作料六拾六円六拾銭
惣 金四百参拾四円三拾三銭五厘
右之通り候也。

春岡神社
周智郡宇刈村春岡氏子惣代人

(二八九六)
明治廿九年三月

鈴木勝三郎 (印)

久保田藤重 (印)

加藤弥太郎（印）

右社々掌

幡鎌隆俊（印）

（4ウ白紙）

（5ナ）

春岡神社末社建築目論見帳

一、末社 間口壹尺五寸
奥行壹尺貳寸

貳棟

一、桧代金六円

一、大工作料金八円

右之通り候也。

遠江国周智郡宇刈村春岡

春岡神社氏子惣代人

（二八九六）
明治二十九年三月

鈴木勝三郎（印）

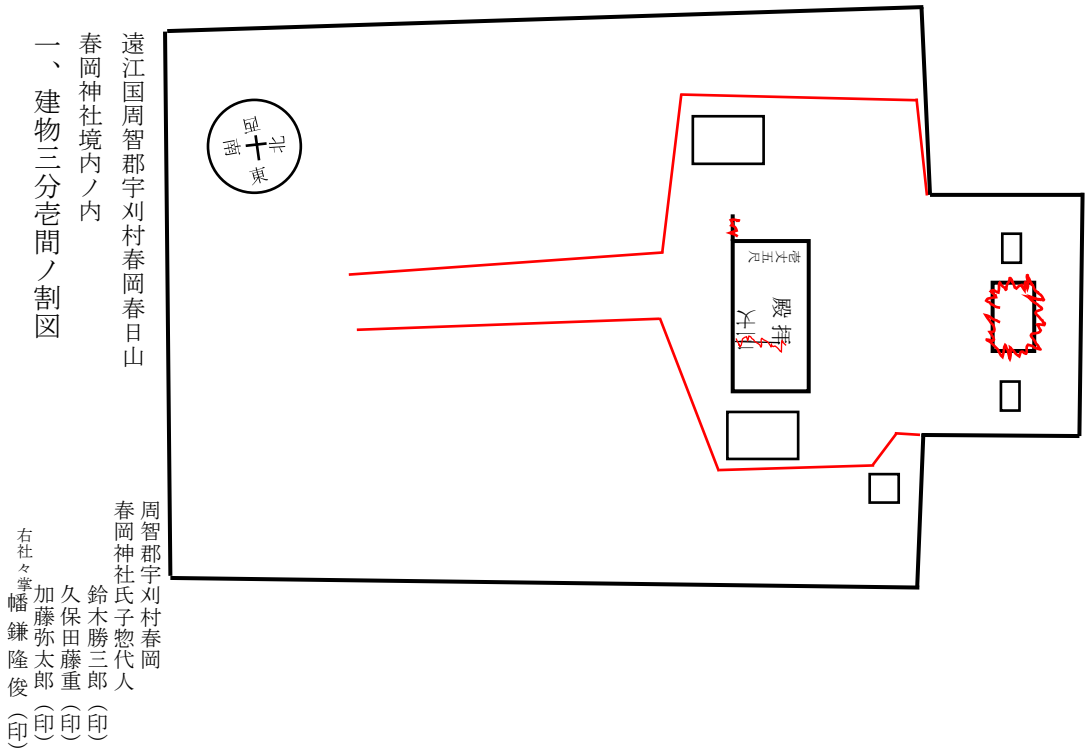
久保田藤重（印）

加藤弥太郎（印）

右社々掌

幡鎌隆俊（印）

〔絵図面1〕



〔絵図面2〕

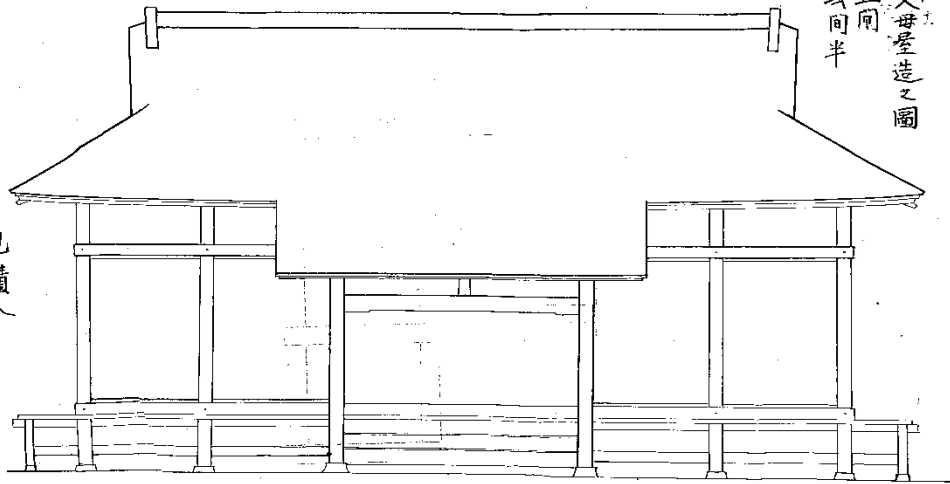
春岡神社拜殿

通常入母屋造之圖

桁行五間

梁間五間半

見積人
高木助重

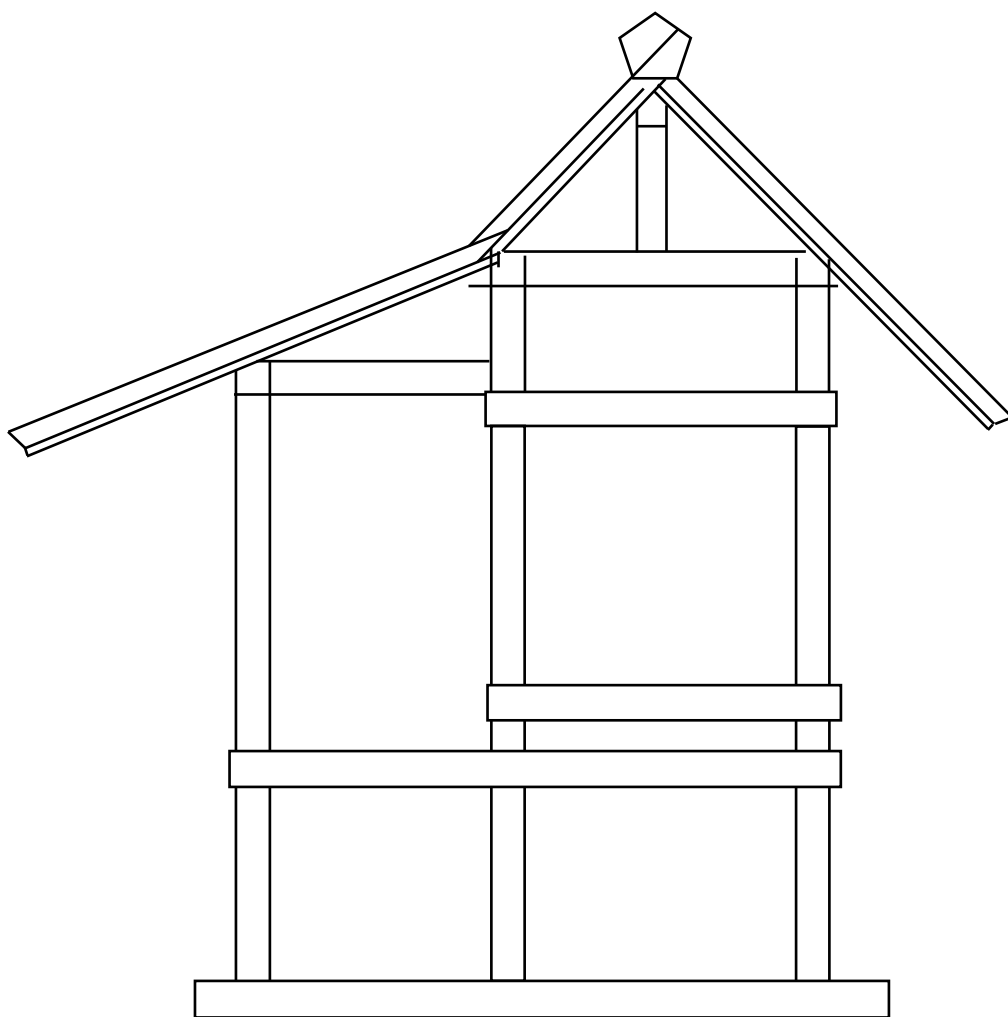


「絵図面3」

春岡神社末社

間口 壹丈五尺

奥行 壹尺二寸



(綴、縦 282mm×横 185mm×厚 2mm)

一三八 明治二十九年（一八九六）三月付け「春岡神社末社拝殿再建二付立木無代御下附願」（一七宇刈近代役場文書八〇四）

(1 ㊦)

春岡神社末社拝殿再建二付立木無代御下附願
遠江国周智郡宇刈村春岡字春日山老番地
春岡神社現境内

第拾号

一、杉

目通り

三尺

第四拾壹号

一、杉

全

六尺

第四拾四号

一、桧

全

五尺

第四拾八号

一、桧

目通り

五尺五寸

第八拾三号

一、杉

全

四尺

第八拾四号

一、榊

全

老尺五寸

第七拾三号

一、桧

全

四尺五寸

第六拾七号

一、杉

全

三尺三寸

第百貳号

一、松

全

四尺

(2 ㊦)

(喉に印四点あり)

第七拾壹号

一、桧

全

三尺五寸

第七拾九号

一、杉

全

三尺五寸

第六拾七号

一、杉

全

三尺三寸

合計拾式本

(2ウ)

右春岡神社明治廿八年八月三十一日火災ニ罹リ本殿鳥

有二帰シ候際類焼仕候ニ付、今回末社及拝殿再建

仕度、就テハ前記之立木用材ニ使用仕度候間、実

地御点檢之上無代御下附相成度、此段奉

レ願候也。

周智郡宇刈村春岡

春岡神社氏子惣代

(一八九六)

明治二十九年三月

鈴木勝三郎(印)

久保田藤重(印)

加藤弥太郎(印)

右社々掌

幡鎌隆俊(印)

〔翻刻注〕

史料に貼られている史料番号シールには「83」とあるが、目録や、史料が入れられていた封筒を見ると、本史料は「二七宇刈近代役場文書八〇四」とナンバリングされた史料で間違いが無い。史料番号シールの番号に誤りがあると解釈した。

(綴、罫紙使用、縦 245mm×横 168mm×厚 1mm)

一三九 明治二十九年（一八九六）三月付け「春岡神社末社拝殿焼失二付再建願」（一七字刈近代役場文書八〇五）

春岡神社末社拝殿焼失二付再建願

周智郡宇刈村

村社春岡神社

一、末社

式棟

但 間口一尺五寸
奥行壹尺

一、拝殿

壹棟

但 間口三丈
奥行壹丈五尺

右者村社春岡神社末社及拝殿之義昨明

治廿八年八月三十一日火災ニ罹リ本殿烏有ニ

帰シ候際類焼仕リ候ニ付、今回再建仕度候

『氏子一同ノ寄附金ヲ以テ別紙之通拝殿末社』（朱筆）

／絵図面并建築目論見帳相添／
間、此段奉レ願候也。

遠江国周智郡宇刈村春岡

春岡神社氏子総代人

（一八九六）
明治廿九年三月

鈴木勝三郎（印）

久保田藤重（印）

加藤弥太郎（印）

右社々掌

幡鎌隆俊（印）

静岡県知事小松原英太郎殿

（堅紙、罫紙使用、縦 243mm×横 336mm）

〔翻刻注〕

史料に貼られている史料番号シールには「85」とあるが、目録や、史料が入れられていた封筒を見ると、本史料は「二七宇刈近代役場文書八〇五」とナンバリングされた史料で間違いが無い。史料番号シールの番号に誤りがあると解釈した。

(1 才)

神社落成御届

周智郡宇刈村春岡

村社春岡神社

一、本殿 壹宇

但 間口壹丈貳尺五寸
奥行七尺
〔×〕
〔×〕

一、拝殿 壹宇

但 間口三丈
奥行壹丈五尺

一、末社 貳宇

但 間口壹尺五寸
奥行壹尺貳寸
〔×〕
〔×〕

右者明治廿八年八月三十一日火災二付、其后再

建出願致置候処、今般落成相成候処、
〔×〕
〔×〕

本月廿五日上棟祭、引続_キ遷宮式執行仕
〔×〕
〔×〕

候二付、此_レ段御届候也。
〔押紙〕
〔×〕
〔×〕

周智郡宇刈村春岡

春岡神社氏子惣代人

明治廿九年十月廿三日 鈴木勝三郎 (印)

久保田藤十 (印)

加藤弥太郎 (印)

右社々掌

幡鎌隆俊 (印)

(2 才)

静岡県知事小松原英太郎殿

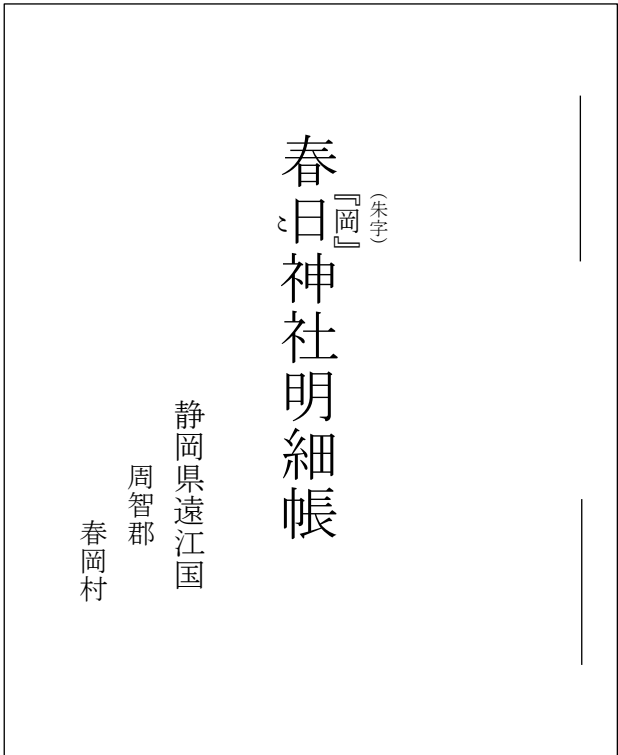
〔翻刻注〕

史料に貼られている史料番号シールの番号には「807」とあり。史料番号は史料が入っていた封筒に書かれた番号に随う。

(縦帳、罫紙の紙背使用、縦 246mm×横 167mm×厚 1mm)

〔原本〕

(表紙)



(1才)

静岡県管下遠江国周智郡春岡村元市場村
字春日山一番地
一、祭神五座

(☆1)

春日神社

武甕槌命

斎主命

天兒屋根命

太玉命

姫大神

一、由緒 遠江国風土記傳二曰ク、村松氏系譜二曰ク、春日社者

(2オ)

祭田七町歩ヲ寄附シ、永祿年間徳川家康公
 ヨリ社領七石目及ヒ山林ヲ添付セラレ、慶長十一^(二六〇六)丙午年
 春三月十三日公命ニヨリ村松左京茂行社ノ管領^(二六五)ト
 ナル。元和元年徳川家光公ヨリ社領七石目ノ御朱
 印ヲ得、後慶安三^(二六五〇)庚寅年会々徳川家光公職ヲ

(1ウ)

(☆1 掛紙)

(大場) 村社 春岡神社

(印) 『全村社十所神社ヲ合祀ノ上、村社春岡神社ト改称之義、

(大場) 明治二十三年三月廿二日付ヲ以テ願出、全年六月二日本県

(大場) 庶第三一八九号ヲ以テ許可ノ指令アリ。(印)

三

言伝フ云云。是旧記ニシテ、事実ヲ知ル能ハス。現存伝

記ニ曰ク、宗良親王嫡子興良親王南山ヨリ出テ遠

江国ニ下向シ、駕ヲ山名郡高部村^(今高尾村)ニ駐ム。三位中

将藤原茂氏陪從焉ス。茂氏陪從焉ス。茂氏親王ノ命ニヨリ南都ニ

摹シテ、春日ノ祠ヲ本庄山^(今春岡村字春日山)ニ建ツ。春日卒

川ノ根芹ヲ用ヒ、以テ旗章トナス。時人又之ヲ呼デ春

日ノ^(マヤ)祓世利ト云フト。稍信ニ近シ。是創建ナリ。棟札願

主左衛門尉藤原茂氏ナリ。此時神宝長刀一振之ヲ

寄進ス。而シテ村松氏世々神職タリ。天文十七^(二五四八)戊申年

夏四月、村松郷右エ門尉茂国重ネテ本祠ヲ建テ、

祭田七町歩ヲ寄附シ、永祿年間徳川家康公

ヨリ社領七石目及ヒ山林ヲ添付セラレ、慶長十一^(二六〇六)丙午年

春三月十三日公命ニヨリ村松左京茂行社ノ管領^(二六五)ト

ナル。元和元年徳川家光公ヨリ社領七石目ノ御朱

印ヲ得、後慶安三^(二六五〇)庚寅年会々徳川家光公職ヲ

三位中将藤原茂氏卿越後国村松ニ住居。^(八〇六)大同
 元^(丙戌)年遠江国高部村ニ下着。同国宇薊郷春日
 大明神此時ヨリ斎奉ル。春日乃波札ト云事、古ヨリ

(2ウ)

家綱公ニ禪^ルニアヒ、改メテ御朱印ノ社領ヲ得タリ。
寛文五^乙年秋八月十日村松玄蕃秀茂本社・拝
殿・末社等悉ク造立ス。同七年夏五月、鳥居ノ
損シテ久シク修メサルヲ以テ之ヲ修シ、並ニ石垣、
石灯籠等築造ス。天和元^辛酉年御代替ニ付、
徳川綱吉公ヨリ御朱印ヲ得タリ。貞享二^乙丑年
冬十一月六日、故アリテ村松氏神職ヲ罷メ、同四年
五月ヨリ河合左門ナル者代テ其職ヲ勤ム。此間三
年、喜六ナル者神供献上ノ事ヲ行ス。後、享保
十^乙年十月廿六日本社ヲ修覆シ、天明八^戊申年六
月十三日拝殿ヲ建ツ。然ルニ安政年間震災ニヨリ
大ニ破損シタルヲ以テ、同五^戊年正月十六日再ヒ拝
殿ヲ建立ス。明治六年改革ニヨリテ御朱印ヲ返上ス。同
十二年十月、鉾旗等ノ神器ヲ設ケ、爾来村内
氏子中共ニ永ク従持ス。

(☆2)

- (☆3) 一、本社 間口二間一尺二寸 奥行二間四寸 本殿 間口 老丈二尺五寸 (一八九六)(朱字) (二石野)
(☆4) 一、拝殿 間口 三間三尺 奥行 二間 三丈 間口 三丈 奥行 一丈五尺 『廿九年一月廿四日』再建許可 (印)
一、神饌所 間口 二間半 奥行 九尺 『廿九年四月十五日』再建許可 (印)
一、社務所 間口 二間半 奥行 九尺 (朱字)

(☆2) 掛紙／朱字／間口・奥行・高の下に鉛筆でチェックあり以下同)

- 一、神殿 間口一丈五寸 奥行六尺五寸 一、拝殿 間口 五間 奥行 二間三尺 一、神饌所 間口 老間 奥行 九尺 一、廊
(頭書) 一、神庫 間口二間三尺 奥行九尺 一、社務所 間口 二間二尺 奥行 九尺 一、鳥居 高一丈二尺 明九尺
一、石灯籠壺対(石造) 高各七尺五寸 一、石灯籠壺対(石造) 高各七尺
一、御明屋 間口 三尺八寸 奥行 四尺五寸 一、手水鉢(石造) 高式尺

(頭書)

『四十二年五月十日県
(一九〇九)

指令社第

一〇四八号一九ヲ

以テ訂正方

聞届

ケラル。

(☆3 朱字頭書)

〔明治廿八年八月三十一日午後七時
(八九五)

三十分焼失ノ旨、全九月二日
(大場)

関係人ヨリ本県へ届出(印)〔

(☆4 朱字頭書)

〔同上(印)〕

(3才)
(☆5)

一、鳥居

高サ一丈三尺
明キ七尺七寸

一、石灯籠 二灯

但高七尺五寸

一、境内八百三十坪

官有地第一種

一、境内神社三社

廣戸神社

祭神 大巳貴命
(二七〇二)

由緒 元禄十五年九月創建ニシテ、従前ヨリ境内ノ末社ナリ。

(☆6) (☆7) 社殿 間口一尺三寸五分 奥行一尺二寸
磯部神社 間口一尺二寸 奥行一尺二寸
『(一八九六) 再建許可 (石野) 印』
(朱字)

(☆5) 掛紙／朱字
「一、石垣」 長八間 高五尺五寸
「一、石垣」 長三間 高四尺五寸

(☆6) 朱字頭書
(一八九五)
「明治廿八年八月三十一日午後七時三十分
焼失ノ旨、全九月二日關係人ヨリ
(大場) 本県へ届出(印)」

(☆7) 掛紙／朱字
「社殿 間口 壹尺貳寸 奥行 壹尺七寸」

(3ウ)

祭神 事代主命 (一七〇二)
由緒 元禄十五年九月創建。全上。 (一八九六)
(☆8) (☆9) 社殿 間口 二尺三寸五分 奥行 一尺二寸
於久和神社 間口 二尺三寸五分 奥行 一尺二寸
『再建許可 (石野) 印』
(朱字)

祭神 不詳 (一七〇二)
由緒 元禄十五年九月創建。全上。
社殿 間口 一尺二寸四分 奥行 一尺六寸
『壹尺壹寸 (朱字) 壹尺五寸 (朱字)』
『三末社雨覆 間口 九尺 奥行 三尺五寸 (朱字)』
一、氏子 九十九戸 人口四百三十人 但 春岡村全百十七戸
一、静岡県庁迄距離十六里三十町 五百十七人之内

(☆8 朱字頭書)

「焼失同上(印)」

(☆9 掛紙／朱字)

「社殿 間口 壹尺五寸
奥行 二尺二寸」

(4カ)

以上

右者明治^(二八七九)十二年本県丙第三十一号御達ニヨリ取調
候処、相違無^ニ御座^ニ候也。

周智郡春岡村

右社受持

明治^(二八八三)十六年七月十日

村松武一郎(印)

右村

氏子総代

久保田藤重(印)

同 中川惣七(印)

同 村松繁吉(印)

(4ウ)

静岡県令大迫貞清殿

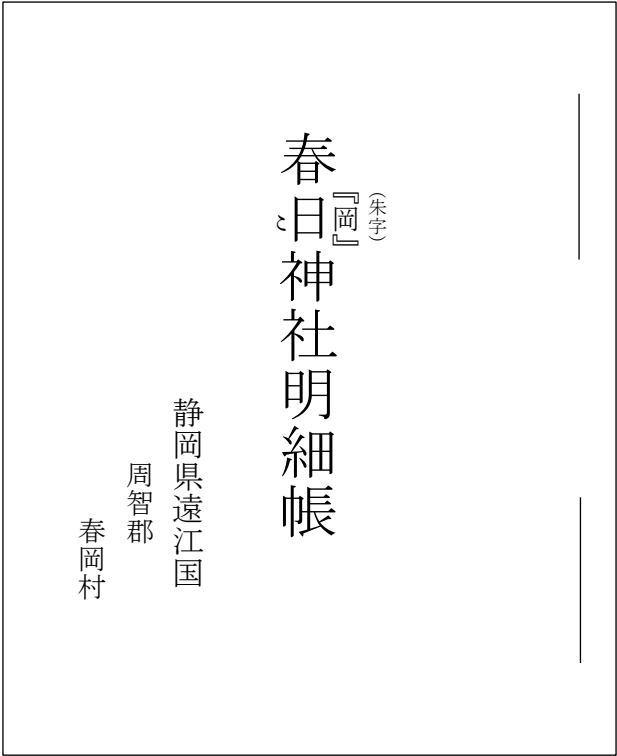
前書之通り相違無^レ之候也。

右戸長

廣澤誠一(印)
(春岡村戸／長／廣澤誠一)

「写し／年号の西暦換算は省略した」

（表紙）



(1 枚)

静岡県管下遠江国周智郡春岡村元市場村
字春日山一番地
一、祭神 五座
『(切り抜き修正)春日神社』

武甕槌命(☆1)

斎主命

天兒屋根命

太玉命

姫大神

一、由緒 遠江国風土記傳ニ曰ク、村松氏系譜ニ曰ク、春日
社者三位中将藤原茂氏卿越後国村松ニ住居。

大同元^{丙戌}年遠江国高部村二下着。同国宇茹郷春
日大明神此時ヨリ齋奉ル。春日乃波礼ト云事、古ヨリ

(☆1 掛紙)

「村社 春岡神社

『^{朱子}全村村社十所神社ヲ合祀ノ上、村社春岡神社ト改称之義、

明治二十三年三月廿二日付ヲ以テ願出、全年六月二日日本県

庶第三一八九号ヲ以テ許可ノ指令アリ。④

」

(1ウ)

言伝フ云云。是旧記ニシテ、事実ヲ知ル能ハス。現存

伝記ニ曰ク、宗良親王嫡子興良親王南山ヨリ出テ

遠江国二下向シ、駕ヲ山名郡高部村^(今高尾村)ニ駐ム。三位

中将藤原茂氏陪從焉ス。茂氏親王ノ命ニヨリ南都

ニ暮シテ、春日ノ祠ヲ本庄山^(今春岡村字春日山)ニ建ツ。春日卒川

ノ根芹ヲ用ヒ、以テ旗章トナス。時人又之ヲ呼テ春日ノ

祓世利ト云フト。稍信ニ近シ。是創建ナリ。棟札願主

左衛門尉藤原茂氏ナリ。此時神宝長刀一振之ヲ寄

進ス。而シテ村松氏世々神職タリ。天文十七^{戊申}年夏四月、

村松郷右エ門尉茂国重ネテ本祠ヲ建テ、祭田七町歩

ヲ寄附シ、永祿年間徳川家康公ヨリ社領七石目及

ヒ山林ヲ添付セラレ、慶長十一^{丙午}年春三月十三日公命

ニヨリ村松左京茂行社ノ管領トナル。元和元年徳川

家光公ヨリ社領七石目ノ御朱印ヲ得、後慶安三

年^{庚寅}会々徳川家光公職ヲ家綱公ニ禪ルニアヒ、

改メテ御朱印ノ社領ヲ得タリ。寛文五^{乙巳}年秋八月十

(2オ)

(2ウ)

日村松玄蕃秀茂本社・拝殿・末社等悉ク造立ス。

同七年夏五月、鳥居ノ損シテ久シク修メサルヲ以テ之ヲ修シ、並ニ石垣、石灯籠等築造ス。天和元^{辛酉}

年御代替ニ付、徳川綱吉公ヨリ御朱印ヲ得タリ。貞

享二^{乙丑}年冬十一月六日、故アリテ村松氏神職ヲ罷メ、

同四年五月ヨリ河合左門ナル者代テ其職ヲ勤ム。此間

三年、喜六ナル者神供献上ノ事ヲ行ス。後、享保十

三^{乙巳}年十月廿六日本社ヲ修覆シ、天明八^{戊申}年六

月十三日拝殿ヲ建ツ。然ルニ安政年間震災ニヨリ

大ニ破損シタルヲ以テ、同五^{戊午}年正月十六日再ヒ拝

殿ヲ建立ス。明治六年改革ニヨリテ御朱印ヲ返上ス。

同十二年十月、鉾旗等ノ神器ヲ設ケ、爾来村

内氏子中共ニ永ク従持ス。

(☆2)

(☆3)

一、本社

間口二間一尺一寸
奥行二間四寸

本殿

間口 老丈二尺五寸
奥行 七尺

『廿九年一月廿四日
再建許可』(朱字)

(☆4)

一、拝殿

間口 三間二尺
奥行 二間

拝殿

間口 三丈
奥行 一丈五尺

『廿九年四月十五日
再建許可』(朱字)

一、神饌所

間口 二間半
奥行 九尺

一、社務所

間口 二間半
奥行 九尺

一、鳥居

高サ一丈三尺
明キ七尺七寸

一、石灯籠 二灯

但高七尺五寸

(☆2 掛紙／朱字)

一、神殿

間口一丈五寸
奥行六尺五寸

一、拝殿

間口 五間
奥行 二間三尺

一、廊

間口五間五寸
奥行二丈二尺五寸

一、神倉

間口二間三尺
奥行九尺

一、社務所

間口 二間三尺
奥行 九尺

一、神饌所

間口 老間
奥行 九尺

一、石灯籠老对(石造) 高各七尺五寸

一、石灯籠老对(石造) 高各七尺

- 一、御明屋 間口 三尺八寸
奥行 四尺五寸
- 一、石垣 長三間
高四尺五寸
- 一、手水鉢（石造）高貳尺 一、鳥居 高一丈二尺
明九尺

四十二年五月十日県指令社第一〇四八号一九ヲ以テ訂正方
聞届ケラル。

(☆3 朱字頭書)

「明治廿八年八月卅一日午后
七時卅分焼失ノ旨、全九月
二日関係人ヨリ本県へ届出」

(☆4 朱字頭書)

「同上」

(3カ)

- 一、境内 八百三十坪 官有地第一種
- 一、境内神社 三社

廣戸神社

祭神 大巳貴命

由緒 元禄十五年九月創建ニシテ、従前ヨリ境内ノ末社ナリ。

(☆5) (☆6) 社殿 間口二尺三寸五分
奥行二尺六分 『廿九年四月十五日』 (朱字)
再建許可

磯部神社

祭神 事代主命

由緒 元禄十五年九月創建。全上。

(☆7) (☆8) 社殿 間口一尺三寸五分
奥行一尺一寸 『廿九年四月十五日』 (朱字)
再建許可

於久和神社

(☆5 朱字頭書)

「明治廿八年八月三十一日午后七時
世分焼失ノ旨、全九月二日關係人
ヨリ本県へ届出[㊦]」

(☆6 掛紙／朱字)

「社殿 間口 老尺貳寸
奥行 老尺七寸」

(☆7 朱字頭書)

「焼失同上[㊦]」

(☆8 掛紙／朱字)

「社殿 間口 老尺五寸
奥行 二尺二寸」

(3ウ)

祭神 不詳

由緒 元禄十五年九月創建。全上。

社殿 間口一尺二寸四分
奥行一尺六寸 『老尺老寸』(朱字)

『三末社雨覆 間口 九尺
奥行 三尺五寸』(朱字)

一、氏子 九十九戸 人口四百三十人 但 春岡村全百十七戸
五百十七人之内

一、静岡県庁迄距離十六里三十町

以 上

右者明治十二年本県丙第三十一号御達ニヨリ取
調候処、相違無ニ御座一候也。

(4 村)

明治十六年七月十日

周智郡春岡村

右社受持

村松武一郎



(朱字)

右村

氏子総代

久保田藤重



(朱字)

中川惣七



(朱字)

村松繁吉



(朱字)

静岡県令大迫貞清殿

前書之通り相違無_レ之候也。

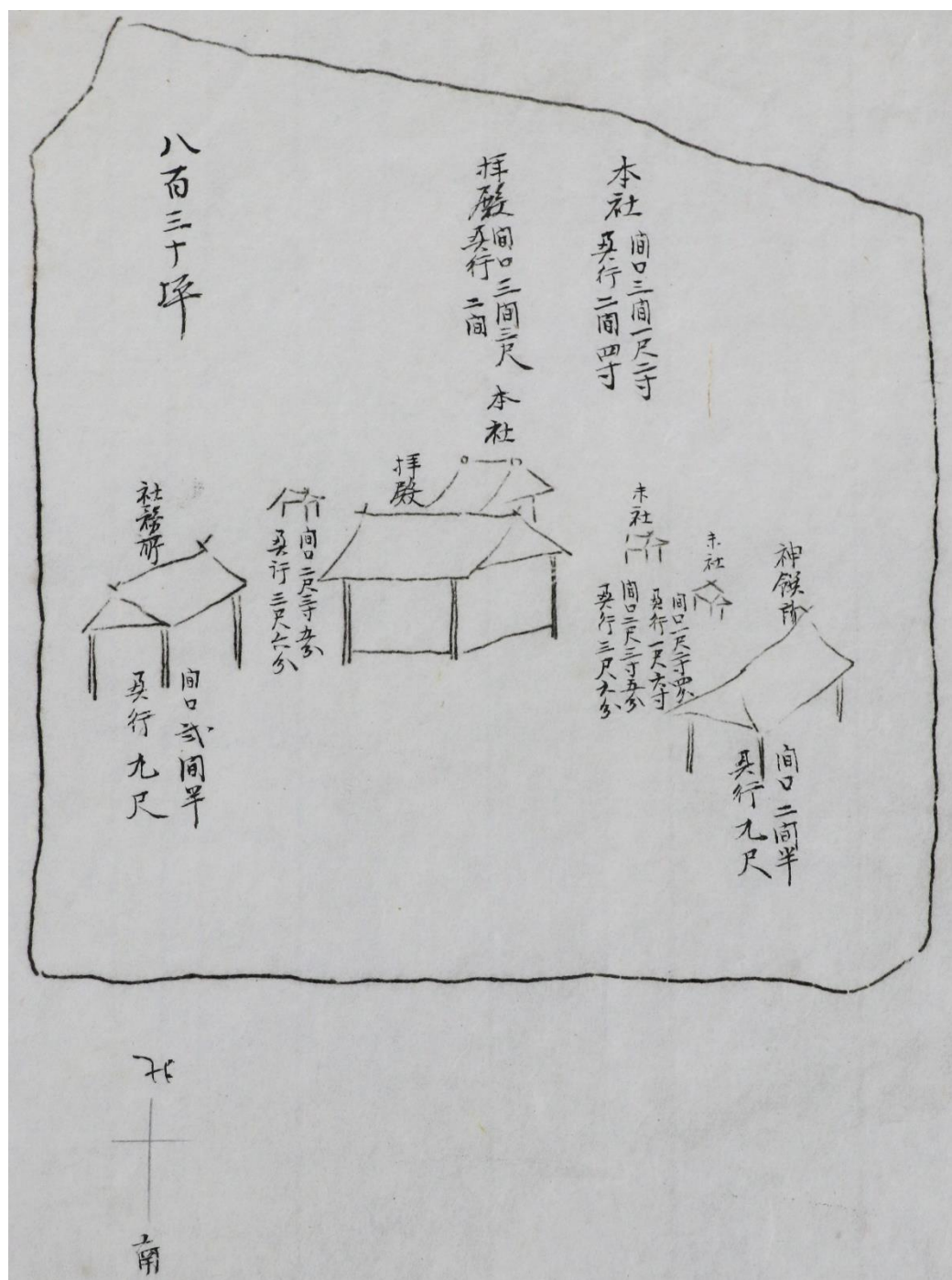
右戸長

廣澤誠一



(朱字)

(4ウ白紙)

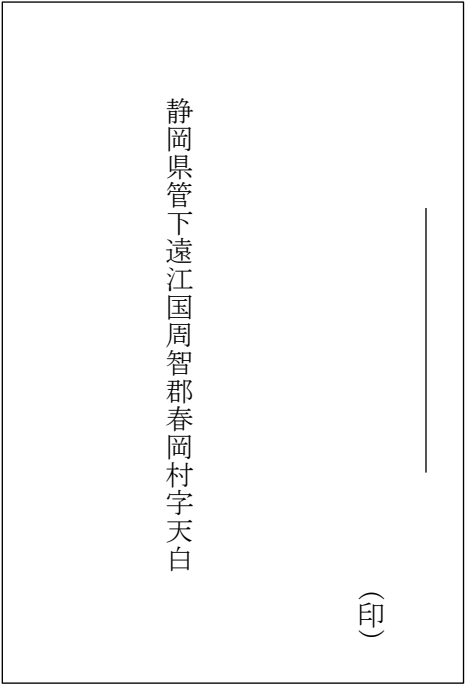


(縦帳、縦 280mm × 横 201mm × 厚 1mm)

〔翻刻注〕

春岡神社明細帳に加筆し春日神社明細帳としたこと（本書一二一号）、本書一三四〇号にある春岡神社焼失のことを踏まえ、最終的な加筆が終わったこの位置に本史料を収録することとした。

(表紙)



(1 村)

静岡県管下遠江国周智郡

春岡村字天白

村社
十所神社

天照皇大神 素戔嗚尊

天児屋根命 速玉之男命

一、祭神
応神 天皇 事解之男命

木花開耶姫命 軻遇突知命

伊邪那美命 伊弉諾弋命

一、由緒

仁王四拾五代聖武天皇仍勅詔一
神龜元^甲子年行基菩薩之開基也。

一、本社 裏行六尺間口七尺

(1 ㍻)

一、境内反別九畝式十八歩 官有地
第一種

一、末社二字拝殿一字

祭神 奥律彦命
奥律姫命

一、末社 奥行老尺八寸間口式尺
但シ式社共同断

一、拝殿 奥行式間 間口四間五寸

一、氏子戸数百九戸

一、管轄庁迄之距離拾六里三十丁 (×七)

右請持祠官

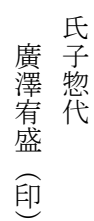
上山梨村

幡鎌幸雄 (印)

(2 ㍻)

(2ウ白紙)

学校敷地境



西樂寺現境內

(縦帳、縦289mm×横202mm×厚1mm)

一四三 年月日不明（明治）「庶第六九号」（一七宇刈近代役場文書八四八）

（野外に習書「背キ」二点）

（レミなが）
（野外に印）

庶第六九号

（印「廣澤」／上下転倒）

本月五日ヨリ六日ハ村社宇刈神社之祭典

当日ニ候処、本年度者非常之風害_モ有

レ之、村内一般生活上ニモ大影響ヲ及シ候

年柄ニ付、例年之如ク費用ヲ要シ候。祭

典ハ難ニ出来ニ付、^{（×■）}旁飲食ヲ節減シ、冗費

ヲ減シ不レ申而者、被害地上申等ノ精

神ニ□戻スルノミナラス、自然費用之点ニ

響キ候事故、其辺御注意夫とへ御

伝達被_レ下度、此段及_二御依頼_一候也。

周智郡宇刈村々長富永藤兵衛

（山折り線）

惣代人
祭事係 御中

（堅紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦 243mm×横 332mm）

一四四 大正八年（一九一九）三月二十四日付け「報告書」（山梨役場文書二二二六）

報告書

周智郡山梨町郷社山名神社

社司 幡 鎌 隆 俊

（一九一八）

右大正七年拾貳月貳拾四日死亡仕候二付キ

此段及「報告」候也。

（一九一九）

大正八年参月貳拾四日

氏子惣代

本間藤次郎

佐藤市十

山名清作

（山折り線）

廣岡金太郎

鈴木幸太郎

児玉利八

塚本平八

静岡県令赤池濃 殿

（縦紙、ガリ版印刷、縦245mm×横339mm）

一四五 昭和十三年（一九二八）二月八日付け「官国幣社以下神社昭和十三年紀元節祭ニ関スル件依命通牒」（一七字刈近代役場文書八二三）

〔朱印〕
『至急』

兵第一七〇号

昭和十三年二月八日

静岡県学務部長（印）

市町村長殿

官国幣社以下神社昭和十三年紀元節祭ニ関スル件

依命通牒

標記ノ県一月三十一日内務省令第一号（同日官報第三、三二二号登載）ヲ以テ公布相成候処、右ハ去ル一月十六日発表ノ支那事変ニ対スル帝国政府ノ声明ニ基ツキ、此ノ際国民ハ一層時局ニ対スル認識ヲ深クシテ堅忍持久ノ節ヲ持シ、一致団結シテ国威ノ宣揚ヲ祈請スルノ要アルモノト認メラレ、官国幣社以下神社ニ於テ昭和十三年紀元節祭ニ際リ右旨意ヲ祈願セシムル義ニ有レ之候
（九二八）
条貴部内神社ニ対シ右趣旨ヲ徹底セシメ、当日多数氏子並ニ崇敬者ヲ参列セシメ、該祭典ヲシテ意義アラシムヘク、執行方特ニ御配意相成度。

（山折り線）

追而該祭祀祝詞ニ附ス辞別ハ、静岡県神職会ヨリ便宜県

下神職ニ対シ無レ洩配付済ニ付、御了知相成度申添候。

〔翻刻注〕

おそらく昭和十三年（一九二八）の時点で、ステープラーで綴じられていた痕跡あり。

（縦紙、ガリ版印刷、縦 244mm×横 331mm）

一四六 昭和十三年（一九三八）二月二十四日付け「庶第九四号 祈年祭執行ノ間」（一七宇刈近代役場文書八二四）

庶第九四号

（一九三八）

昭和十三年二月二十四日

宇刈村長 森下嘉市

（手書）

『宇刈春岡
氏子總代』 殿

祈年祭執行ノ件

（宇刈、春岡、「読点原文ママ」）

来ル二十六日、左記ニ依リ宇刈、春岡、両神社ニ於テ祈年

祭執行候ニ付、此段及ニ通知ニ候也。

記

宇刈神社 二月二十六日午前十一時執行

春岡神社 二月二十六日午後三時執行

（縦紙、ガリ版印刷、縦243mm×横166mm）

一四七 昭和十三年（一九三八）五月二十七日付け「周第一四号 冊子「神社と祭祀」送付ノ件」（一七字刈近代役場文書八二九）

（受付印）

周第一四号

（一九三八）

昭和十三年五月二十七日 周智郡町村長会長（印）

（周智郡／町村長／会長印）

各町村長殿

冊子「神社と祭祀」送付ノ件

敬神思想普及作興資料トシテ標記冊子本県ヨリ送付越候ニ付、
左記ノ通り送付候条、氏子總代其他適當ニ御配付相成度候也。

記

「神社と祭祀」 四十五部

（受付印）

（一九三八）

「周智郡宇刈村役場／受付／昭和13・6・1／第 号」

（縦紙、ガリ版印刷、縦242mm×横333mm）

一四八 昭和十三年（一九三八）七月五日付け「庶第三五七号」（一七字刈近代役場文書八三三）

『内手書ノ以下同』

『庶』第『三五七』号

（庶一）（一九三八）

（割印）

昭和『十三』年『七』月『五』日 周智郡宇刈村長「森下嘉市」^{（印）}

静岡県『学務部長』殿

本月『二』日付『兵』第『八九八』号ヲ以テ左記事項御照会

ノ件本村該当事実無_レ之此段及_二回報_一候也。

記

一、『神社水害被害状況調査方ノ件』

（堅紙、印刷、縦248mm×横168mm）

一四九 昭和十三年（一九三八）十月六日付け「庶第五六五号」（一七宇刈近代役場文書八三六）

庶第五六五号
(九三八)

昭和十三年十月六日 宇刈村長森 下 嘉 市

氏子惣代 殿

村社^{春岡}宇刈神社例祭執行ニ付、左記日時供進使参向可_レ致候間、此段及ニ
通知一候也。

宇刈神社

十月九日午后二時

春岡神社

十月十日午后二時

（縦紙、ガリ版印刷、縦234mm×横164mm）

村社大祭供進使参向ニ付警衛願

〔庶〕 本村々社 宇刈神社 春岡神社大祭執行ニ付キ、

〔割印〕 左記ノ日時ヲ以テ供進使参向可レ致候間、警衛トシ

テ警察官派遣方此段申請候也。

〔九三八〕
昭和十三年十月六日

〔印〕
『静岡県周智郡宇刈村長森下嘉市』

森町警察署長

田中 貢殿

記

（山折り線）

宇刈神社 〔九三八〕
昭和十三年十月九日午後二時

春岡神社 〔九三八〕
昭和十三年十月十日午後二時

（野外印刷）

「土井印刷所印行」

（堅紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦 246mm×横 335mm）

一五二 昭和十三年（一九三八）十月六日付け「村社例祭執行御届」（一七宇刈近代役場文書八三八）

村社例祭執行御届

周智郡宇刈村々社 宇刈神社

周智郡宇刈村々社 春岡神社

（庶「三」）
（割印）

右本村両神社例祭例年ノ通り拾月九日・拾日ノ両

日執行仕候条、此段及「御届」候也。

（九三八）
昭和十三年十月六日

（印）
『静岡県周智郡宇刈村長森下嘉市』

森町警察署長田中貢殿

（野外印刷）

「土井印刷所印行」

（堅紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦246mm×横334mm）

一五二 昭和二十年（一九四五）十月五日付け「周総第五〇四号 神社ノ制札等ニ関スル件」（一七宇刈近代役場文書八四七）

〔第一紙〕

周総第五〇四号（印「久永」）

（一九四五）
昭和二十年十月五日

（受付印） 周智郡地方事務所長（印）
（地方／事務官／之印）

『宇刈村』 長殿

神社ノ制札等ニ関スル件

今般聯合軍進駐ニ伴ヒ、駐屯地所在ノ神社又ハ之等
駐屯軍人ノ来往ヲ予想セラル、地域ノ神社ニ在リテハ、境
内地其ノ他適當ノ場所ニ別紙添付記載例ノ如キ制札
又ハ標示ヲ建設セシメラレ度旨通牒ノ次第モ有レ之候
条、可レ然御取計相成度、及ニ通知一候。

（受付印）

「周智郡宇刈村役場／受付／昭和20・10・8／第 号」
（一九四五）

〔翻刻注〕

No Thoroughfare For
Hoeses and Vehicles

車馬乗入禁止

No Thoroughfare

通 行 禁 止

The Shrine Office

社 務 所

The Worshipping Place

拝 所

Kindly Refrain From
Smoking

禁 煙

〔第三紙〕

THE MEIJI-SHRINE
Notice

It is prohibited to take any
conductin the compounds that
will violate the sanctity of
this shrine

(訳文) 明 治 神 宮
注 意

境内ニ於テ神社ノ尊厳ヲ
冒スベキ一切ノ行為ヲ禁ズ

〔第二紙〕

(綴、ガリ版印刷、縦 236mm×横 168mm×厚 1mm)

一五三 昭和二十年（一九四五）十月五日付け「周総第五〇四号 神社ノ制札等ニ関スル件」（山梨役場文書二五〇八）

〔第一紙〕

周総第五〇四号

（一九四五）
昭和二十年十月五日

（印）四点「本間」「久野」「土屋」「近藤」
（地方ノ事務官ノ之印）
（受付印）
周智郡地方事務所長

（印）
『山梨町』 長殿

神社ノ制札等ニ関スル件

今般聯合軍進駐ニ伴ヒ、駐屯地所在ノ神社又ハ之等
駐屯軍人ノ来往ヲ予想セラル、地域ノ神社ニ在リテハ、境
内地其ノ他適當ノ場所ニ別紙添付記載例ノ如キ制札
又ハ標示ヲ建設セシメラレ度旨通牒ノ次第モ有レ之候
条、可レ然御取計相成度、及ニ通知一候。

（受付印）

「受付／第『1836』□／20.10.8.／」「山」「」

〔翻刻注〕

一七字刈近代役場文書八四七と同史料。参考としてここに収録した。

No Thoroughfare For
Hoeses and Vehicles

車馬乗入禁止

No Thoroughfare

通 行 禁 止

The Shrine Office

社 務 所

The Worshipping Place

拝 所

Kindly Refrain From
Smoking

禁 煙

〔第三紙〕

THE MEIJI-SHRINE

Notice

It is prohibited to take any
conductin the compounds that
will violate the sanctity of
this shrine

(訳文) 明 治 神 宮
注 意

境内ニ於テ神社ノ尊厳ヲ
冒スベキ一切ノ行為ヲ禁ズ

〔第二紙〕

(綴、ガリ版印刷、縦 236mm×横 163mm×厚 1mm)

一五四 年不明四月六日付け〔宇刈神社境内増設につき〕（一七宇刈近代役場文書八五〇）

拝啓

宇刈神社境内増設ノ件再三御照会
ヲ重ね候モ、尚ホ御箋之通り疑義
有レ之、何分進達ノ運ヒニ不レ至候ニ付、
篤卜御取調相成被^{〔ママ〕}、此段重テ得ニ
貴意一候。草々。

四月廿六日 片桐

村松君

追テ是迄ハ単ニ願書ノミ御提出ニテ

本月十二日一第四一五号御照会以来後文御

回答無^レ之處、□□差支候ニ付、右

（山折り線）

御答之今回ニ而公文係付御差来ヲ乞フ。

〔翻刻注〕

全体的に文字が読みにくい。

（堅紙、〔静岡県周智郡役所〕罫紙使用、縦248mm×横333mm）

一五五 年不明四月八日付け〔春日神社例祭通知〕（一七宇刈近代役場文書八五三）

本月三日当宇刈村春日神社

（春岡）例祭ニ付、全日ハ必ス参詣致候様致度、其／＼へ御通知相成

度、右ハ予テ御承知之事トハ被レ存候得共、尚御注意為メ申上候也。

四月八日 宇刈役場

惣代 御中

（堅紙、「周智郡宇刈村役場」罫紙使用、縦246mm×横342mm）

〔翻刻注〕

罫紙や文字の雰囲気から明治の史料だろうかと思われるが、確証が持てず。

一五六 年月日不明〔中村八幡社古器物古文書等目録〕（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七六）

〔第一文書／袋井市史編纂者が綴りに失敗したか〕

「 物古器物古文書目録

一、文書

徳川家朱印写

遠江国宇都郷中村八幡社領拾貳石事任ニ先規ニ寄リ附之ニ訖。全

可ニ收納ニ永不レ可有ニ相違ニ者也。

慶安元年二月廿四日

外八通 同文ニ付略レ之。

右以上九通明治元年十月本書奉還ス。

元禄八^{（二六九五）}亥年霜月卅日

（山折り線）

市場村

一、棟 札 一枚 大工 鈴木角兵衛

一宮 小國弾正藤原重正代

遷宮 神主 村松左京橘在宣

神宮

鈴木民部藤原重房執リ行之ニ訖

裏二

遠州周智郡宇都郷中村八幡者、蓋 人皇六拾代醍醐天皇御宇

延喜年中自ニ山城国久世郡雄徳山鴿峰石清水八幡宮ニ奉ニ勸請ニ、

于レ這所ニ崇敬ニ、当所鎮守当時代々国司被レ寄リ附神田四町八反地ニ、

恒例之祭祀無ニ懈怠ニ可レ祈ニ理世安民ニ也。然中頃遇ニ世変乱ニ而社

領悉放之也云々。然后慶長九年御檢地之砌、予先祖七郎左衛門尉訴ニ

(第一文書、 縦紙、 袖欠、 綴りに失敗したか、 縦 241mm×横 360mm)

〔第二文書／ 縦帳〕

(1 ㊦)

先件^一之事、則伊奈備前守殿御書出、神田拾貳石被^レ寄^レ之、慶安
元子年春 家光公御朱印、九郎兵衛尉橘吉次奉^レ頂^三戴^一之也。其後
貞享当御代 御朱印奉^二頂戴^一也。
^(六二〇)慶長十五年^{戊戌}年秋父吉次所^レ奉^二造立^一之宮殿漸及^二零落^一故、今^(二六九五)元禄八^{乙亥}年
^冬^{祠官在宣}新本社若宮拝殿共奉^二再建^一也。
抑当御神祿者人皇第十六代聖主誉田天皇又奉^レ号^二応神天皇^一。是則
源家祖先也。尊神之聖德勝烈代而日本宗広伊勢太神宮並而
所^二奉崇^一国家擢護之宗広八幡太神宮也。可^レ仰可^二信慎^一而奠怠矣。

(1 ㊧)

元禄 一
正徳 一
棟札 八枚 同 一 此分 合祀ノ社ノ分ト見エ。
元治 二
此余不^レ記
アリ

一、鏡 二面 渡リ 三寸 四寸 此分合祀ノ神璽也。

座王社 八幡社 八幡社
白山社 神明社 熊野社
合祀ノ神名

(2 村)

右之通^三御座候也。

山王社	春日社	西宮社	合十七社
沙汰社	津島社	天神社	
大年社	鎮守社	八幡社	

静岡県下遠江国周智郡宇都村

同郡上山梨村

郷社山名神社祠官

試補 幡鎌 幸雄

右氏子惣代

富永與三郎

戸長

長谷川四郎次

(2 村)

(綴、
縦 246mm×横 163mm×厚 1mm)

史料読解のガイド

はじめに

本書には明治の史料を中心に、江戸時代・昭和の宇刈・春岡における神社関係の文献資料を一五六点収録しています。

きちんとした学問的な検討には、宇刈・春岡の諸分野にまたがる史料集の整備、他の地域の（少なくとも）宗教史関係史料集の整備、また、何よりも、仏教関係史料の整備が、神社史にとっても必要です。

そうした大部の史料集の整備にはまだまだ時間が必要です。なので、本書では史料の紹介のみに徹し、詳細の検討は読者各位に委ねることにしています。

とはいえ、明治は近代ではありますが、百〇百五十年ほども昔です。そんな昔の文献をそのまま「さあ読むんだ！」と言うのも酷かと思えますし、本書に収録した史料は、おそらくほぼ全ての方にとって初見の史料ばかりだと思います。

そこで、簡単ながら、本書に収録した史料を読むためのガイドとして、本稿を書きました。

言うまでもないことですが、本稿は宇刈・春岡の神社史、宗教史に関する決定稿でもなければ、網羅的な分析を加えたものでもありません。あくまで本書収録史料の読解ガイドとして、皆様の研究の参考程度にお考えください。

一 神社の明治史

明治維新は、日本の宗教史にとって、後戻りのできない大きな影響を

与えました。

明治維新と宗教史と言うと、「神仏分離」、「廃仏毀釈」という言葉が真っ先に浮かぶかと思います。

慶応四年（一八六八）三月十三日の布告により、王政復古、祭政一致、神祇官復興の理念が述べられ、同年三月十七日には諸国大小の神社に勤めている別当・社僧といった僧職身分の者の「復飾」（還俗）が命じられ、閏四月には別当・社僧などは還俗の上神主・社人などと改称して神勤し、反対の者は立ち退くように命じられました^①。

慶応四年（一八六八）三月二十八日の布告では、礼拝対象の神仏分離——つまり、仏像をご神体だとすることが禁止されました^②。

仏像をご神体、というのは、今の感覚だと奇異に感じるかもしれませんが、江戸時代までは神仏習合の世の中でしたから、そうしたこともございました。かなり長くなるので、今回は神仏習合までは詳しく触れませんが、江戸時代までは、神社にも仏像や僧侶がいて、お寺にも神様がいた、と考えてください。

西楽寺文書には、礼拝対象の神仏分離に関する史料が残されています。

【史料一——①】

覚

- 一、本地三尊阿弥陀仏
- 一、本尊大日如来
- 一、不動明王
- 一、弘法大師

右者神宮寺ニ在^レ之处、今般御改革御触達ニ付、差当御預^ケ申置候。以上。

(二八六八)
慶応四年辰四月

大場図書(印)

西楽寺

御執事 ㉔

中泉の八幡宮にあった神宮寺の本地三尊阿弥陀仏・本尊大日如来・不動明王・弘法大師像について、「御改革御触」があったので、さしあたり西楽寺に預けておきたい、と言っています。

この神宮寺は西楽寺の門徒寺院でした㉕。

礼拝対象の神仏分離が布告されたのが三月二十八日付けで、史料一―①は四月付けですから、布告からすぐに仏像を逃がしたということのようです。神仏分離・廃仏毀釈の中で仏像が破壊された例も多くあります㉖から、ひとまずは難を逃れたといったところですが、これらの仏像がその後どうなったのかは、詳らかではありません。

西楽寺文書には、一連の政策に対する不安と、お寺を守るために奔走した当時の住職宥盛の記録が(夥しく)残っています。

私も講座や展示で度々ご紹介していますが、それを収録すると、本書のかんりの割合を占めることになり、バランスが崩れて読みにくい史料集になってしまいますので、今回は割愛しました。

神仏分離・廃仏毀釈で寺院も大打撃を受けましたが、神祇官復興から始まる神道国教化の中で、神社も大きな変化を余儀なくされました。

制度的なことで言うと、明治新政府は、版籍奉還の一環として、全社寺領を官収する方針を採り、明治四年(一八七二)正月には、境内地を除く全社寺領の上知を命じました㉗。本書収録史料で境内地がどうの、とか、官有地、とか言った文言が多く登場するのはこのことによります。

神社、寺院に対しては、それぞれ禄制を定め、国費公費による支出が基本方針となりました㉘。

同明治四年(一八七二)五月の太政官符で官社、諸社の別と社格が定められました。

官社は官幣社(大、中、小)の合計九十七社で神祇官所管、諸社は府社、藩社(廃藩置県後は県社)、県社、郷社で地方官の所管です。七月の郷社規則で、府県社、郷社、村社という社格に定まり、以上の社格が無い神社は無格社となりました。

こうして社格は、官社(官幣社、国幣社)―府県社―郷社―村社―無格社の五段階に序列化されました㉙。

村社は、村ごとに一村一社を原則とする村氏神で、区ごとに郷社を置き、その区の村社は郷社の付属とする、という構造になりました㉚。

あまり考えずとも想像が付きませんが、江戸時代までの神社は必ずしも一村一社とは限りません㉛。すなわち、このときに神社の整理が行なわれたわけで、本書に収録した史料でも、それに関わるとみられる事件が伝えられています。

明治四年(一八七二)七月には、この他にも氏子調規則が定められ、江戸時代の宗門改めにかわり、神社に人々の把握が求められました㉜。

明治新政府による神社整理は、神社の数だけでなく、祭神にも及びました。

神仏分離で神社から仏教色を取り除き、神のみを祀らせたわけですが、その際、神社には、それまでの信仰とは全く異なる神格が外から(明治新政府による宗教政策を推し進めた官から)持ってこられました。その際には多くの場合、皇室ゆかりの神が持つてこられ、疱瘡神が神武天皇になるなど、江戸時代までの信仰がここで断ち切られてしまった例もあります㉝。

明治新政府が考える理想的な神道世界が求められたわけで、その宗教政策においては、民俗信仰、民俗行事も抑圧されました。地域差もありそうですが、明治五、六年頃から、神仏に托した種々の講や勧化、祭の類

が禁止され、盂蘭盆会なども禁止されました⁽²⁾。

こうした動きに関係するとみられるのが、明治十二年（一八七九）七月十六日付け「番外」（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四六六）です。

【史料一—②】

（野外朱書）

『長谷川四郎次』

番外 戸長

明治十一年六月廿五日本県番外達之趣モ有レ之候処、甚タ心得違ノ者之アルヤ、七八月ノ候盆祭ニ際シ壮年輩各所ニ麀集シ、所謂大念仏ニ類似シタル地蔵和讃願念仏杯ト唱へ、鉦鼓ヲ鳴ラシ、領節ヲ擅ニスルモノ或ハ有レ之哉ノ趣キニ候。是レ有用ノ資財ヲ無為ニ浪費スルノミナラズ、之レヨリ醸成スル弊害モ計ルベカラズ。故ニ曩年旧浜松県ニ於テ禁止ノ趣キアリ。且本県該布達ノ主趣アル所以テ告諭シ、尚亦緩慢等閑ニ附シ候輩無レ之様、一層注意可レ致御旨相達候事。

（一八七九）

明治十二年七月十六日周智郡長足立孫六⁽³⁾

七、八月の盆祭に際して、いわゆる「大念仏」に類似した「地蔵和讃願念仏」などと唱えて、鉦や太鼓を鳴らすものは禁止、と言っています。明治十一年（一八七八）六月二十五日にも静岡県の達で禁止をしたが、と冒頭で言っていて、末尾を見ると、それよりも前、浜松県の頃から禁止していたことが記されています。明治五、六年頃の流れからずっと継続して禁令が出されていたということでしょう。

つまり、それだけ禁止の効果が無かったということでもあります。

史料一—②の書きぶりでは、大念仏の禁止ではなく、「大念仏に類似した地蔵和讃などを唱えて鳴り物を鳴らすもの」を禁止しているようですが、大念仏も禁止されていたかもしれません。そのことがうかがえるの

が、年月日不明ながら、もとは明治十八年（一八八五）の綴りに綴じられていたという「迂蘭盆念仏取締方之事」です。

【史料一—③】

（足立）
（足立孫六印）

（足立以下同）
迂蘭盆念仏取締方之事

- 一、迂蘭盆大念仏及小供念仏者更ニ廃スヘキ旨毎村申合セヲ定メ、毎戸ノ調印ヲ要スルヲ。
- 一、右申合出来ノ上者、他郡ニ係ル接続ノ村落者戸長ヨリ戸長ニ照会シ、念仏立入ヲ謝絶スルヲ。
- 一、右決定ノ上者戸長ヨリ郡長^江届出ルヲ。⁽⁴⁾

ここでは、盂蘭盆会の念仏、子供念仏、その他の念仏行事を禁止しています。ここで禁止されている「小供念仏」は、子供たちが初盆の家に行き念仏を唱える「かさんぼこ」と関係するのでしょうか。

ところで、明治新政府の宗教政策では、伊勢神宮（神宮）も大きく帰られました。

いろいろと変わりますが（詳しくは注にある安丸著書などを御参照ください）、明治四年（一八七一）七月の神宮改革で御師職が廃止され、大麻（この場合の「大麻」は、マリファナの類ではなく罪穢を払う神具（お札のようなもの）の名称です）頒布も禁止されました。この後、御師にかわって神宮司庁が大麻を製造し、地方官を通じて全国に配付しました⁽⁵⁾。この大麻強制配付はそれまでの信仰にはなかったことで、各地でトラブルが起こったようです⁽⁶⁾。静岡県でも明治六年（一八七三）にトラブルがあったようで、安丸著書に紹介されています⁽⁷⁾。

そのあたりの事情が記されているのが明治十七年（一八八四）十一月十四日付け「庶第三百四十三号」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書八九

三)です。

【史料一—④】

『庶第^(朱書)三百四十三号』

自今売曆之儀者一般禁止相成、特ニ神宮司庁ニテ製造大麻頒布之節共ニ配付ノ都合ニ有^レ之候間、入用之者ハ大麻頒布ト共ニ申受候儀^(儀)宣示達方可ニ取計^一旨其筋ヨリ申越候間、御所轄内示達方御取計相成度、此段及ニ御通知^一候也。

但シ戸長役場^江ハ一冊寄送之旨ニ付、此段申添候也。

明治十七年十一月十四日周知郡庶務課^(x)
(周知郡/役所庶/務課印)

春岡村組戸長役場御中 (g)

この史料は一般の売曆禁止が主眼ですが、神宮司庁で大麻を製造し頒布することになっているが、その大麻とともに曆を云々、と書かれていて、大麻頒布に関する禁止についても言及されています。

大麻強制頒布には反発も多かった、と先ほど述べましたが、そのことについては、一応、左のように説明されていました。

【史料一—⑤】

『庶第^(朱書)四百七拾三号』

(二八八四)

神宮大麻并ニ曆之義ハ内務省ノ達ニ依リ明治十七年ヨリ神宮教院ニ於テ頒布之事ニ相成候处、近来類似曆ヲ刊行候者間々有^レ之、民間却テ之ヲ信用シ、為ニ大麻曆共不^レ受者有^レ之哉ニ相聞候得共、右頒布之義ハ神宮教院ニ限り候筈ニ付、無^ニ疑念^一相受候様、各町村ヘ御示達相成度、其筋ヨリ申越之次第モ有^レ之候ニ付、此段御通達ニ及候也。

庶務課長

(二八八五)
明治十八年十一月七日

周智郡書記針谷昌言 (印)
(周智郡書/記/針谷昌言)

春岡村外ニヶ村戸長

長谷川四郎次殿 (g)

史料一—⑤の冒頭で参照している明治十七年(一八八四)の達は史料一—④のことです。

近頃類似の曆を刊行しているものがあり、民間はかえってそちらを信用し、そのため大麻や曆を受け取らないが、大麻と曆の頒布は神宮教院に限定されているので、疑わずに受け取れ、と言っています。

明治十八年(一八八五)になっても(むしろこの時期になってきたから?)、大麻と曆の頒布はこのような状況だったようです。

何というか、神宮司庁の大麻と曆が全く受け入れられていないことを自分で言っているような内容で、語るに落ちる、といったところですが、違法ながら、民間の造曆業者などが活発化してきていることを物語っています。

なお、民間業者だけでなく、大麻や曆の類似品を密造していた怪しい人物もいたようです。

【史料一—⑥】

『庶第^(朱書)六百七十九号』

天祖教会長松本時彦ナル者ノ委托ヲ受ケ大麻類似ノ神札窃カニ配付候モノ有^レ之趣、著^(朱書)シ果シテ有^レ之候事御差止ノ上、族籍氏名等御取調御申出有^レ之度、此段及ニ御照会^一候也。

周智郡役所

(二八八六)
十九年十月廿二日

庶務課 (印)
(周智郡/役所庶/務課印)

春岡村外二ヶ村戸長役場御中⁽¹⁾

天祖教会長松本時彦という人物の委託を受け、大麻に類似した神札の密造、頒布をしている者がいる、とのこと。

明治十九年（一八八六）ころに存在した天祖教という宗教については調べてもよく分かりません。興味がおりの方各自お調べください。結局、大麻や暦の頒布については、「これこれこういう担当者が行くから、良いように対応して！」とする方針になったようです。

【史料一—⑦】

庶第三百五拾五号

(一八九〇)

明治廿三年末神宮大麻暦頒布之為メ頒布係袴田八百吉ナル者本郡下へ者出候趣、就テハ一般人民へ告知方神宮教静岡本部ヨリ以来有之候条、此旨御了知、夫々御通知置相成度、此段申進候也。

周智郡役所

(一八九〇)

明治廿三年十一月四日

第一課 (印)

(周智郡/第七課)

周智郡『宇刈村』役場^(墨書)

御中

明治二十三年（一八九〇）末に、神宮大麻と暦頒布のため、頒布係袴田八百吉が周智郡を回るので、一般人民へ知らせるように、つまりは「この人は確かな人だから、怪しまずに受け取るように」と知らせて、というわけです。

ひとまず、本書収録史料に関わりそうな明治新政府の神社関係政策の一般的なところはこのようなものでしょうか。

以下では、宇刈・春岡の個別の神社について、簡単な紹介をしていき

ます。

二 十所権現（十所神社）

宇刈・春岡の神社の内、史料の残り方の都合もありますが、早い時期からの確実な史料が残っているのは、西楽寺鎮守の十所権現です。十所権現は、明治以降、「権現」という仏教色のある名称をやめ、「十所神社」と改称しました。

十所権現が登場する最も古い文献は元和五年（一六一九）付け「十所大権現鐘銘」（西楽寺文書近世一三八二）です。

こちらは、近世西楽寺の初代住職宥宝が元和五年（一六一九）に寄進した十所権現の鐘銘を書き写したものです（本書一号）。

十所権現は西楽寺縁起にも登場し、延宝四年（一六七六）付け「遠江周智郡宇刈之郷西楽寺謹言上」（西楽寺文書近世三）には「鎮守者 十所大権現 社頭拝殿有」とあり、その横には「荒神天神 此向末社者十所大権現之為末社」とあって、荒神と天神が十所権現の末社として存在していたことも記されています⁽²⁾。

また、延宝八年（一六八〇）の「西楽寺記」には、その位置について、「堂東鎮三十所権現霊社」⁽³⁾と、本堂の東側にあったことを記しています。この位置はその後と同様です。

十所権現の祭神については、明治の明細帳（本書一一三号など）を御参照していただいても良いですが、幸いなことに、江戸時代の祭神が分かっています（ちなみに、明治の明細帳にある十所神社の由緒は西楽寺縁起と同じ文面です）。

宝永三年（一七〇六）付け「十所大権現棟札下書」（西楽寺文書近世一六五五）を見ると、春日大明神・富士大権現・白山妙理権現・天照太神宮・熊野三所・牛頭天王宮・八幡太菩薩・愛宕大権現の十柱です⁽⁴⁾。

熊野三所は家津美御子大神・熊野速玉大神・熊野夫須美大神の三神です。この三柱と他の七柱を合わせて十所権現です。〔十所大権現棟札下書（本書四号）〕では、神名の上に記された種子に対応する仏様を注記しておきました。間違っていたらごめんなさい。そのときは直しておいてください。

この十柱が、明治には天照皇大神・天児屋根命・誉田別命・木花開邪姫命・伊弉諾命・伊邪那冉命・素盞鳴命・速玉之男命・事解之男命・軻遇突知命となりました⁽⁹⁵⁾。より皇室とゆかりの深い神様となった、といったところでしょうか。

ただ、宝永三年（一七〇六）の十柱についても、〔十所大権現棟札下書（本書四号）〕には左のようになりますから注意が必要です。

【史料二―①】

（前略）

当山十所権現本節昔乱世以来糾紛而不_レ定。近來林徳寺之住有栄当山之古記見_コ出_ニ之_一。依_レ之新記之後棄。住僧不_レ可_ニ孤疑_一。現住尊昭并衆徒有相有栄有勸有範有元有山有喜異口同音。

敬白⁽⁹⁶⁾

十所権現は乱世以来祭神がよく分からず定まっていなかったが、最近林徳寺の有栄が当山（西楽寺）の古記から見出した。その記録によって祭神を定め、それまでのものは棄てた。住僧は疑ってはならない、とのこと。

疑ってくれ、と言っているような書きぶりです。この文章を書いた近世西楽寺八葉尊昭は、西楽寺住職となつてから、西楽寺一山の整備を企画し、宝永地震による中断はあったものの、宝永地震からの西楽寺一山復興、西楽寺末寺の高平山遍照寺（現森町）の整備、高平山大仏の建立――

――これはおそらく東大寺大仏再建にインスピレーションを受けたとみられます⁽⁹⁷⁾――など、数多くの事業を成し遂げた人物です⁽⁹⁸⁾。

尊昭は、たまたま自身が西楽寺の八世住職であり、名前の一字目が「尊」であつたことから「八葉尊昭」と自著し、胎蔵曼荼羅の中心と自身の名前を結び付け、それを踏まえて高平山大仏（胎蔵大日如来）を建立するなど、かなり個性が強い（残された尊昭のメモを見ると、寺院興隆、地域振興にも相当真剣に取り組んでいたことが分かります）人物ですから、宝永三年（一七〇六）の十所権現の祭神の選定には、古記以上に、尊昭による理論的、思想的な設計があつたと見た方が良いと思います。

祭神については依然不明点があるものの、十所権現でどのようなことが行なわれていたか、ということが重要かと思えます。

先にも紹介した延宝四年（一六七六）付け「遠江周智郡宇刈之郷西楽寺謹言上」では、徳川家の祈禱所として、祈禱、護摩とともに、十所権現へのお供えを退失無く勤める、と言っています⁽⁹⁹⁾。

『当山諸田緒扣』（西楽寺文書近世一一）に綴じられた尊昭直筆ノート⁽¹⁰⁰⁾を見ると、一七〇〇年頃には、十所権現で仁王経を唱えるなどの儀礼を行なっていたことが分かります⁽¹⁰¹⁾。『真俗二諦留記』という記録を見ると、安永四年（一七七五）頃にも、十所権現で仁王経を唱えています⁽¹⁰²⁾。

弘化四年（一八四七）の記録ですが、本書一四号『年中行事扣』（西楽寺文書近世一六八六）で「鎮守」が登場する箇所を見ていただければ、江戸時代に十所権現で行なわれた儀礼が分かります。

十所権現は、明治十年（一八七七）に村社となり⁽¹⁰³⁾、後、明治二十三年（一八九〇）に、春日神社と合祀され、春岡神社になりました⁽¹⁰⁴⁾。

当時の神官を見ると、これは十所神社や春日神社に限らず、どの神社でもそうですが、どうも人が少なかつたようで（その原因の一つに試験を受けないとイケなかつたことがあるようです）、一人が多くの神社を兼

務していました。

例えば明治二十二年（一八八九）四月二十二日付け「祠掌兼務願」（一七字刈近代役場文書七七六）には「右本村春岡村社十所神社祠掌欠員ニ付、追テ本務人撰挙候迄、前書山田左内へ兼務為_レ致度、則皇典講究所試験済之証写相添、右御聞届相成度、氏子惣代人并神官正副組長連署ヲ以テ、此段相願候也」(82)とあり、十所神社の祠掌が欠員のため、山田左内に兼務してもらいたいと、試験を受けてもらいました、と言っています。このとき山田左内は宇刈神社の祠掌をしていました。

十所神社と春日神社の合祀のとき、山田左内は十所神社兼務祠掌（宇刈神社と兼務）・春日神社受持神官でした(83)。

もしかしたら、十所神社と春日神社合祀の背景には、神官がいくつも神社を兼任していたので、一つにまとめないとしてもやってられない、という事情もあったかもしれません。

山田左内の前には、山名神社の幡鎌幸雄祠官が宇刈神社を兼任していますし、豊田郡篠原村坂本神社の幡鎌隆俊祠官も上山梨村の熊野王子社などを兼任しています。いくつも兼任していたらこんがらがったりしないかと不安になってしまいます。

現在、西楽寺本堂の東脇に、小さく十所神社の跡地が残されています。

三 中村八幡

十所権現の次に古い史料が知られているのは、宇刈の中村八幡です。久能山東照宮に、慶安元年（一六四八）の朱印状が残されています。

【史料三―①】

（折封ウハ書）

「遠州宇茹中村

八幡宮領」

遠江国周智郡宇茹中村八幡宮領、同村之内拾貳石事、任_二先規一寄_一附之_一訖。全可_二社納_一。并社中山林竹木諸役御免除、永不_レ可_二有相違_一者也。

慶安元年二月廿四日



（朱印「家光」）

(84)

こちらの朱印地は、江戸時代を通して維持されていたようです。詳しいことは分かりませんが、断片的に史料が分かっています。

【史料三―②】

遠江国知智郡宇茹之郷中村高辻寛

一高貳百三拾七石六斗七升七合

外

中村

拾貳石 御朱印地

中村

八幡領

宇茹

拾三石 御朱印地百七拾石之内 西楽寺領

此高西楽寺領正保貳西之年御改之郷村帳ニハ無_二御座_一候。其節之名主不念と存候。古来方此高西楽寺へ納所仕候。

中村

壺反壺畝歩

梅慶寺領

是ハ慶長九辰之年伊奈備前守様御檢地之節御縄除ニ而御墨印ハ無_二御座_一候。

一溜池壺ヶ所豎七拾七間半横拾八間 延宝三年卯年出来仕候

右書面之通相違無^二御座^一候。以上。

元禄十二年^(一六九五)

遠江国周智郡中村

卯十一月

三郎兵衛

御奉行所^(三)

中村八幡の棟札裏書に、中村八幡の由緒が書かれているそうです。棟札を写した文書があるので、引用してみます。棟札の年代は、元禄八年(一六九五)十一月三十日です。

【史料三―③】

遠州周智郡宇苅郷中村八幡者、蓋 人皇六拾代醍醐天皇御宇延喜年中自^二山城国久世郡雄徳山鴿峰石清水八幡宮^一奉^二勸請^一、于^レ這所^二崇敬^一、当所鎮守当時代々国司被^レ寄^二附神田四町八反地^一、恒例之祭祀無^二懈怠^一可^レ祈^二理世安民^一也。然中頃遇^二世変乱^一而社領悉放^レ之也^(脱あるか)云々。然后慶長九年御檢地之砌、予先祖七郎左衛門尉訴^二先件^一之事、則伊奈備前守殿御書出、神田拾式石被^レ寄^レ之、慶安元子年春 家光公御朱印、九郎兵衛尉橘吉次奉^レ頂^二戴^一之也。其後貞享当御代 御朱印奉^二頂戴^一也。慶長十五^(一六〇四)年秋父吉次所^レ奉^二造立^一之宮殿漸及^二零落^一故、今元禄八^(一六九五)年冬^(亥)祠官在^宣新本社若宮拝殿共奉^二再建^一也。抑当御神躰者人皇第十六代聖主誉田天皇又奉^レ号^二応神天皇^一。是則源家祖先也。尊神之聖徳勝烈代而日本宗広伊勢太神宮並而所^二奉崇^一国家擢護之宗広八幡太神宮也。可^レ仰可^二信慎^一而奠怠矣。^(三)

元禄八年(一六九五)の新社若宮拝殿の再建に際して書かれたものようです。

延喜年間に石清水八幡宮から勸請したもので、戦乱の中で火を放たれたりしたが、慶長九年(一六〇四)の伊奈備前守の検地を機に復興が始

まり、徳川家光から朱印状をもらった、というようなことが書かれています。

明治十六年(一八八三)七月八日付け『社明細帳』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇〇―一)に書かれた中村八幡の「由緒」も見ておきましょう。

【史料三―③】

一、由緒

中央応神天皇八人皇六拾代
醍醐天皇ノ御宇延喜年中山城国久世郡雄徳山鴿峰石清水八幡宮ヨリ遠江周智郡中村エ勸請シ以テ村落ノ鎮守ト仰ク。
茲ニ因テ当時ノ国司^{何ノ誰タルヲ不詳ヨリ}神田四町八反歩ヲ祭祀料トシテ寄附セラレ、代々ニ賜領ス。然ルニ中古元弘建武ノ頃南北朝之争乱ニ際シ社領殆ト減少ス云々。而シテ后慶長元年伊奈備前守奉行トシテ檢地ノ節復ヒ神田高拾式石ヲ寄附セラレ、其後徳川三代将軍家光ヨリ朱印ヲ以神領ニ賜リ、代々ニ伝フ。之ヲ以社頭營繕及ヒ年々大小祭典ニ供シ、明治三^(一八七〇)午年社領上地被^二仰付^一、全六年二月第二大区十七小区村社ニ列セラレ、全九年九月願濟之上宇前田ヨリ門田ニ遷座シ、全年全月旧五ヶ村合併后五社ヲ合祀シ、老社為ス。^(一八七三)
全十年八月宇刈神社ト改称ス。^(一八七六)

内容は概ね元禄八年(一六九五)十一月三十日の棟札と同じです。棟札を見ながら書いたのでしょう。史料三―③の由緒では、明治の動きが書かれています。

明治三年(一八七〇)の上地(上知)、明治六年(一八七三)の村社加列などは、本稿「一 神社の明治史」も御参照ください。

その後、宇刈の五ヶ村（一色・三沢・馬ヶ谷・中村・大日）が合併したことを受け、それぞれの村社五社が、一村一社の原則により合祀する、となったことが、中村八幡にとって大きな事件でした。

明治九年（一八七六）五月付け『合祀願』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四四一）は、神社を合祀しようとした書類です（三〇）。

見ると、五社の合祀は「右社之儀従朱黒印除地等ヲ以営繕仕来候処、右上地被^ニ 仰付^ニ、自後修覆等出来兼、神殿既ニ復築ノ期ニ臨ミ候得共、五戸拾戸或ハ廿戸ノ氏子殊ニ貧民ニシテ営繕等不^ニ行届^ニ」（三〇）、つまり、五社の氏は貧しい人が多いので、修覆などが行き届かないため、合祀してまとめてしまいたい」と言っています。

ただ、この五社合併については、中村は反対の立場を取っていたようです。

明治九年（一八七六）六月二十九日付け「記」（宇刈村方文書五二）は合併推進派の主張ですが、「当宇刈村之儀元^{一色・三沢・馬ヶ谷・中村・大日}五ヶ村去ル明治六年人民一般之依頼ニ付合併仕^{（三〇）}」——明治六年（一八七三）に五ヶ村が合併して宇刈村になったことを受け、「悉ク遷座シ、一村一社之氏神ト^{（三〇）}しようとしたものの、明治七年（一八七四）に一度話が持ち上がったときは、地租改正で人手不足になり手が回らず、合祀できずにいたところ、明治九年（一八七六）になって、中村が反対してきた、と言っています（三〇）。

なお、推進派が中村八幡を遷す（他の神社に合祀する）理由として挙げているのは、「山間湿地狭隘不潔之地^ニ付^{（三〇）}」という地理的なものと、「一ハ以莫大之冗費ヲ減シ、富国強勢之基ヲ開キ、学校盛大之礎^ニ供セント昼夜尽力之際^ニ候^{（三〇）}」という、経費削減（これは本書二五号でも言っていました）と、学校を建てるため、という理由でした（三〇）。

年月日不明「願」（宇刈村方文書五五）が、合祀反対派の主張です。それによると、中村側では、宇刈村の宇刈学校を旧馬ヶ谷村に建築し、

「同所^江八幡社ヲ移転」、「学校新築^ニ付而者八幡社ヲ学校之境内^江遷シ、跡地社木ヲ御払下^ケ願、学校建築費用^ニ致度旨」、八幡社の建物を学校に転用する、また、神社の木を切って学校建築費用に充てる、ということは聞いていない、村松卯平治の印が調印されているというが、これは印を偽造したものだ、とのこと（三〇）。

中村八幡は古い神社でもあるので（社伝によれば延喜年間です）、「何卒別格之以^ニ御賢慮^{（三〇）}」、始素ノ八幡社ハ御置据、宇刈学校新築相成候様、奉^ニ懇願^{（三〇）}候也^{（三〇）}」、八幡社は据え置きにして、宇刈学校を新築してほしい、と言っています。

この問題は、明治九年（一八七六）七月には一応示談となったようです。明治九年（一八七六）七月二十七日付け「示談約定書之事」（宇刈村方文書五三）によると、明治七年（一八七四）の約定書は有効だとして、中村八幡の移遷は行なう（第一条）、とした上で、第二条で次のように言っています。

【史料三—④】

第三条

八幡社旧境内ハ本村学校へ払下相願ヒタルウヘハ、一村ノ共有地ニ致シ置、毎歳大祭之節ハ旅所トナシ、神輿此地へ渡御致様可^ニ取計^{（三〇）}事。（三〇）

八幡社旧境内は一村の共有地として、毎年大祭のときは旅所として、神輿をこの地へ渡御させるように取り計らう。

総合すると、神社としては合祀するが、旅所として八幡社旧境内は残す、ということのようです。この辺りが落としどころだったのでしょう。さて、これで解決かと思いきや、最終段階でこの問題は再燃します。

【史料三—⑤】

『丙第百拾貳号』
（朱字）

該村字前通八幡社遷座跡式所官林反別老町式反歩、這回還禄士族へ換地トシテ払下ニ付、村方ニ於テ毫モ差閤無^レ之候得共、一応取調之上故障有無可^ニ差出^ニ旨丙第百四号ヲ以相達候處、該地ニ列シ、旧現境内八畝貳拾八歩ハ神地ニ属スル箇所ニ付、其隣地官林ハ風致タルヘク趣ヲ以据置出願。右ハ何ヲ指シテ風致ト見做候哉、右ハ式等官林ニ有^レ之、且旧現境内トハ如何様之地種ニ有^レ之候也。旧境内ニテ現今官有地ニ有^レ之候哉、詳細取調否大至急可^ニ差出^ニ此段相達候也。

山林局

（一八八〇）
 十三年五月廿二日 浜松出張所（印）
（内務省山ノ林局浜松ノ出張所印）

周智郡宇刈村

戸長中（[㊟]）

平たく言えば、「中村八幡の跡地を士族への換地として払い下げるにつき、村方では少しも差支えない、と言っていたが、念のため一応問題が無いかわ調べてみたところ、『その隣の土地は風致だから据え置いて』など色々と言ってきたのだけど、これはどういうこと？ 詳細を取り調べて大至急報せて」というわけです。

明治十三年（一八八〇）五月二十六日付け「上申書」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三）によると、風致云々は、「其風景宜敷候故、氏子ニ於テ存在ヲ願候儀ニ有^レ之」というわけで、風景がよろしいから、と言って、氏子たちが中村八幡の存続を願っているとのことでした。

合祀推進派は「山間湿地狹隘不潔之地ニ付」（[㊟]）と言っていました、このあたりは立場の違いというものでしょう。

実際のところは「前書八幡社遷座跡地旧現境内反別八畝廿八分ハ静岡

（一八七八）
 県浜松支庁^エ去ル明治十一年十二月中祭典之節神輿ヲ行幸致シ候ニ付テハ、

神地ニ編入願書差出シ、未タ御指令無^レ之、爾後祠官掌ヨリ書上等ニモ境外行幸旅所ニ書上仕候ニ等官林タル其周囲ニシ、該社上地官林タリ。故ニ之ヲ御払下ケ相成候テハ払受人持山ノ中ニ八畝廿八分ノ官地有^レ之、其官地ニ神輿ヲ遷シ、三日ニ夜祭事ヲ修シ候ハ、彼神輿ヲ原野ニ置力如クナルヲ以^ニ（[㊟]）——官林を払い下げられると、神輿を原野に置くようなことになる、という主張だったようです。

明治十四年（一八八一）七月付け「官地御払下願」（一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一一三）によると、この問題は、以下のような解決を見たようです。

【史料三—⑥】

（一八七六）

右者去ル明治九年村社八幡社ヲ字門^エ遷座シ廃社跡之名称ニ有^レ之候得共、毎年宇刈神社大祭之節、該地ニ神輿ヲ遷シ、二夜三日祭事相當ミ候ニ付、祠官掌ヨリハ社地之部分ニ取調奉^ニ書上^ニ候儀モ有^レ之、其上今般周囲官林士族^エ御払下相成候ニ付テハ、元現境内之儀者一村氏子^エ御払下ケ被^ニ成下^ニ、大祭之節ハ、神輿ヲ遷シ、従来之通祭典相當ミ、祭日ハ遙拝地ニ仕、永ク敬神之御趣意ヲ遵奉仕度奉^レ存候間、土地相當之代価奉^ニ書上^ニ候間、特別之御詮議ヲ以御払下ケ被^ニ成下^ニ度別紙図面相添氏子總代連印ヲ以此段奉^レ願候也。（[㊟]）

士族へ周囲の官林を払い下げることについては、境内は、一村氏子へ払い下げることとし、宇刈神社大祭で中村八幡へ神輿を遷すことは従来どおり行なう、とのことでした。

中村八幡の境内地は氏子へ払い下げられたようです。

四 春日神社

春日神社については、断片的なものではありますが、江戸時代の記録が西楽寺文書に残っています。

【史料四—①】

一、上山梨村貞享^(一六八五)二年大火^(一六八五)ニ而不^レ残焼失いたし候。尤古来今の古町通^リ有^レ之由也。

乍恐口上書奉願候

一、遠州周智郡市場村春日大明神ハ、大同年中^(一六八五)立来^(ママ)其節^(被カ)私先祖神職相務来候。然^ニ貞享二年^(一六八五)同郡上山梨村ニ出火御座候折節、市場村風下ニ御座候故、同国秋葉山^(江)火難^ヲ遁候様ニ立願仕候。為^ニ願成就^ニ新祭礼取行申候。此段不届^ニ罷成、拙者親平左衛門御追放^ニ被^レ仰付^一候。其節上山梨村ニ仁右衛門と申百姓ニ神職御預^ケ被^レ成候。今神職相勤罷在候。其後拙者親平左衛門親類^(共)御追放帰参之御訴訟申上、拾八年以前申年蒙^(一六九二)御免^ニ帰参仕間、上山梨村ニ居住仕、難^レ有^レ奉^レ存候。然^共先祖以来神職相務候拙者儀ニ御座候得者、離^ニ家業^一何共迷惑仕候。哀御慈悲^ヲ先規之通神職相勤申候様^(二)被^レ為^ニ仰付^一被^レ下候ハ者難^レ有^レ可^レ奉^レ存候。以上。
(一七〇九) 宝永六^(丑)卯月 訴訟人

村松新五右衛門 (印)

【現代語訳】

一、上山梨村は、貞享二年（一六八五）大火によって残らず全焼した。もつとも、昔の街並みは今の古町通りにあるということだ。

乍恐口上書奉願候

一、遠州周智郡市場村春日大明神は、大同年中（八〇六〜八一〇）か

ら続くもので、その頃から（大同年中から）私の先祖が神職を務めてきました。しかし、貞享二年（一六八五）、同郡（周智郡）上山梨村にて出火した時には、市場村は風下にありますから、同国（遠江国）秋葉山へ、火難を遁れるようお願いいたしました。願いが成就しましたので、新たに祭りを執り行いました。このことが不届きとされ、拙者の親、平左衛門が追放を仰せ付けられました。その時、上山梨村の仁右衛門という百姓に、神職を預けました。（仁右衛門は）今、神職を勤めております。その後、拙者の親平左衛門と親類は、追放から帰参し、訴訟（江戸時代語の「訴訟」は、裁判というよりも、「願い出る」というような意味に近い）を申し上げました。十八年以前申年（一六九二）に御免を蒙り（許されて）帰参したので、上山梨村に居住しておりますこと、有難く存じております。しかし、先祖以来神職を勤めてきましたが、拙者につきましては、家業（神職）を離れ、なんとも困っております（江戸時代語の「迷惑」は「困っている」の意。誰かを責める意味合いは無い）。御慈悲をこうむり、以前のように、神職が勤められますよう、仰せ付けてくだされば、ありがたく存じます。以上。

宝永六丑の卯月 訴訟人

村松新五右衛門

『当山諸由緒扣』は、虫損がひどい文書などを、保存のために書き写したものです。内容は誠実に書写しているようなので、信頼して使用して良いでしょう (印)。

宝永六年（一七〇九）四月付け「乍恐口上書奉願候」が西楽寺にもたらされた経緯は不明ですが、村松新五右衛門は西楽寺と付き合いのあった人物ですから（『当山諸由緒扣』の他の箇所などにも登場します）、西楽寺に仲介か応援を依頼しに、この文書を持って来たのかもしれない。

さて、宝永六年（一七〇九）四月付け「乍恐以口上書奉願候」の内容をまとめると以下のようになります。

- ① 遠州周智郡市場村春日大明神は大同年中以来のもの、
- ② 村松新五右衛門の先祖は、大同の頃から神職を勤めて来た。
- ③ 貞享二年（一六八五）、周智郡上山梨村にて出火の際、市場村は風下であつたため、遠江国秋葉山へ、火難を遁れるよう願つた。
- ④ 願いが成就した（火難を遁れた）ので、新たに祭礼を執り行つたところ、不届きとされ、新五右衛門の親平左衛門は追放となつた。
- ⑤ 上山梨村に仁右衛門という人物がいたので、神職を預けた。
- ⑥ その後、平左衛門と親類は、十八年前（一六九二年／江戸時代の数え方は、○がないので、江戸時代の「十八年前」は、現代の「十七年前」に相当する）に御免を蒙り、上山梨村に帰つてきた。
- ⑦ 先祖以来の神職を、御慈悲をもつて、先規の通りに認めてほしい。

ちなみにこれは秋葉祭に関する史料でもあります。

火防の神、秋葉山を信仰する秋葉信仰は、近世以降、特に十八世紀以降に急速に発展したといえます⁽⁵¹⁾。

近世の秋葉山は、秋葉寺と秋葉社から成り、秋葉社は秋葉大権現などと呼ばれていました。三尺坊は、その中に祀られていた護神です⁽⁵²⁾。

右は、『袋井市史 通史編』の記述を参考にしたのですが、その『袋井市史 通史編』に、以下のような記述があります。引用の都合上、孫引きになってしまう箇所も出てきてしまいましたが、ご容赦ください。

（前略）

こうして近世に入ると秋葉信仰がしだいに広まり、秋葉祭も盛大に行われるようになった。祭では、鉦・太鼓を打鳴らし、秋葉山の御

幣や神輿を村継ぎで送つていったが、行列の人数は数千人に及ぶほどであつた。このため幕府は貞享二（一六八五）年一月に、「今度於「遠州」、秋葉祭と申ならハシ、在々村次に送渡、末々に人多集、他国迄送^レ之、不届之仕形に付、段々御仕置被^ニ仰付^一候事」^(『御触書成』二十一頁、六三七頁)として、秋葉祭を禁止するに至つたのである。この年の秋葉祭は、四月頃から大居村近所の村々から始まり、浜松からさらに国を越えて東西に拡がっていったのであつた^(旅籠町平右衛門記録『浜松市史』史料編一)。

また他方では、現在袋井市域にあたる「遠州山名郡下村」から始まつたとする説もある。すなわち、下村に火災が起つた時、春日明神の神主村松源左衛門が神社への類焼を恐れ、頻りに秋葉山を祈念したところ、たちまち風向が変わり、火災を免れた。そこで源左衛門は喜び、柴小屋を新造し、厚く神供を供え、多くの紙幟を建て、祭典後これを隣村に送つて祭らせ、秋葉祭と称した。そして紙幟や祭具などを作り増して順次隣村に送り、ついに大井川を越えて島田に至り、さらに東漸の勢となつたので、島田代官所がこれを究明し、源左衛門は神職を没収されたというのである^(鈴木寛馬『駿南記』第五巻、二七三頁)。もとよりこれは風説にすぎないであろうが、火防の神としての秋葉信仰の浸透を示すものではあつたろう。

（後略）⁽⁵³⁾

本多隆成によれば、秋葉祭は鉦や太鼓を打ち鳴らす盛大なもので、貞享二年（一六八五）十一月には禁止されたほど、規模が大きかったと言います。

また、秋葉祭が、遠州山名郡下村（今の袋井市春岡）から始まつたという説があり、下村に火災が起こつた時、春日明神の神主、村松源左衛門が秋葉山に祈願したところ、火災を免れたので、お礼のために始めたのが秋葉祭りの起源だ、というものなのだと思います。

本多は「もとよりこれは風説にすぎないであろう」と判断しています。

本多が文章を書いた頃には、まだ風説に過ぎない話でしたが、宝永六年（一七〇九）四月付け「乍恐以口上書奉願候」の存在により、この話題は、一考の価値がある歴史的な出来事となったのではないでしようか。

江戸時代の春日神社に関する、信頼できる史料は右の宝永六年（一七〇九）四月付け「乍恐以口上書奉願候」です。『春日（春岡）神社明細帳』（一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇二）は、春日神社の明細帳に加筆修正をしたもので、内容は春日神社に関するものです。その由緒の部分引用して、ひとまず春日神社の紹介とします。

【史料四―②】

一、由緒

遠江国風土記傳ニ曰ク、村松氏系譜ニ曰ク、春日社者三位中将藤原茂氏卿越後国村松ニ住居。（八〇六）大同元丙戌年遠江国高部村ニ下着。同国宇茹郷春日大明神此時ヨリ齋奉ル。春日乃波礼ト云事、古ヨリ言伝フ云云。是旧記ニシテ、事実ヲ知ル能ハス。現存伝記ニ曰ク、宗良親王嫡子興良親王南山ヨリ出テ遠江国ニ下向シ、駕ヲ山名郡高部村（今高尾村）ニ駐ム。三位中将藤原茂氏陪從焉ス。茂氏陪從焉ス。茂氏親王ノ命ニヨリ南都ニ摹シテ、春日ノ祠ヲ本庄山（今春岡村字春日山）ニ建ツ。春日卒川ノ根芹ヲ用ヒ、以テ旗章トナス。時人又之ヲ呼デ春日ノ祈世利ト云フト。（マ）稍信ニ近シ。是創建ナリ。棟札願主左衛門尉藤原茂氏ナリ。此時神宝長刀一振之ヲ寄進ス。而シテ村松氏世々神職タリ。（二五四八）天文十七戊申年夏四月、村松郷右エ門尉茂国重ネテ本祠ヲ建テ、祭田七町歩ヲ寄附シ、永祿年間徳川家康公ヨリ社領七石目及ヒ山林ヲ添付セラレ、慶長十一丙午年春三月十三日公命ニヨリ村松左京茂行社ノ管領トナル。元和元年徳川家光ヨリ

社領七石目ノ御朱印ヲ得、後慶安三（一六五〇）寅寅年会々徳川家光公

職ヲ家綱公ニ禪ルニアヒ、改メテ御朱印ノ社領ヲ得タリ。

寛文五（一六六五）乙巳年秋八月十日村松玄蕃秀茂本社・拝殿・末社等

悉ク造立ス。（二六六七）同七年夏五月、鳥居ノ損シテ久シク修メサ

ルヲ以テ之ヲ修シ、並ニ石垣、石灯籠等築造ス。天和元（一六八八）辛酉年御代替ニ付、徳川綱吉公ヨリ御朱印ヲ得タリ。貞享

二（一六八五）乙丑年冬十一月六日、故アリテ村松氏神職ヲ罷メ、同四

年五月ヨリ河合左門ナル者代テ其職ヲ勤ム。此間三年、

喜六ナル者神供献上ノ事ヲ行ス。後、享保十（一七二五）乙巳年十月廿

六日本社ヲ修覆シ、天明八（一七八八）戊申年六月十三日拝殿ヲ建ツ。

然ルニ安政年間震災（嘉永七年ニ安政元ニ一八五四）ニヨリ大ニ破損シタルヲ以テ、同五（一八五八）戊

午年正月十六日再ヒ拝殿ヲ建立ス。明治六年改革ニヨリテ

御朱印ヲ返上ス。同十二（一八七九）年十月、鉾旗等ノ神器ヲ設ケ、爾

来村内氏子中共ニ永ク従持ス。（三）

この記述を年表にする作業は各自行なってください。

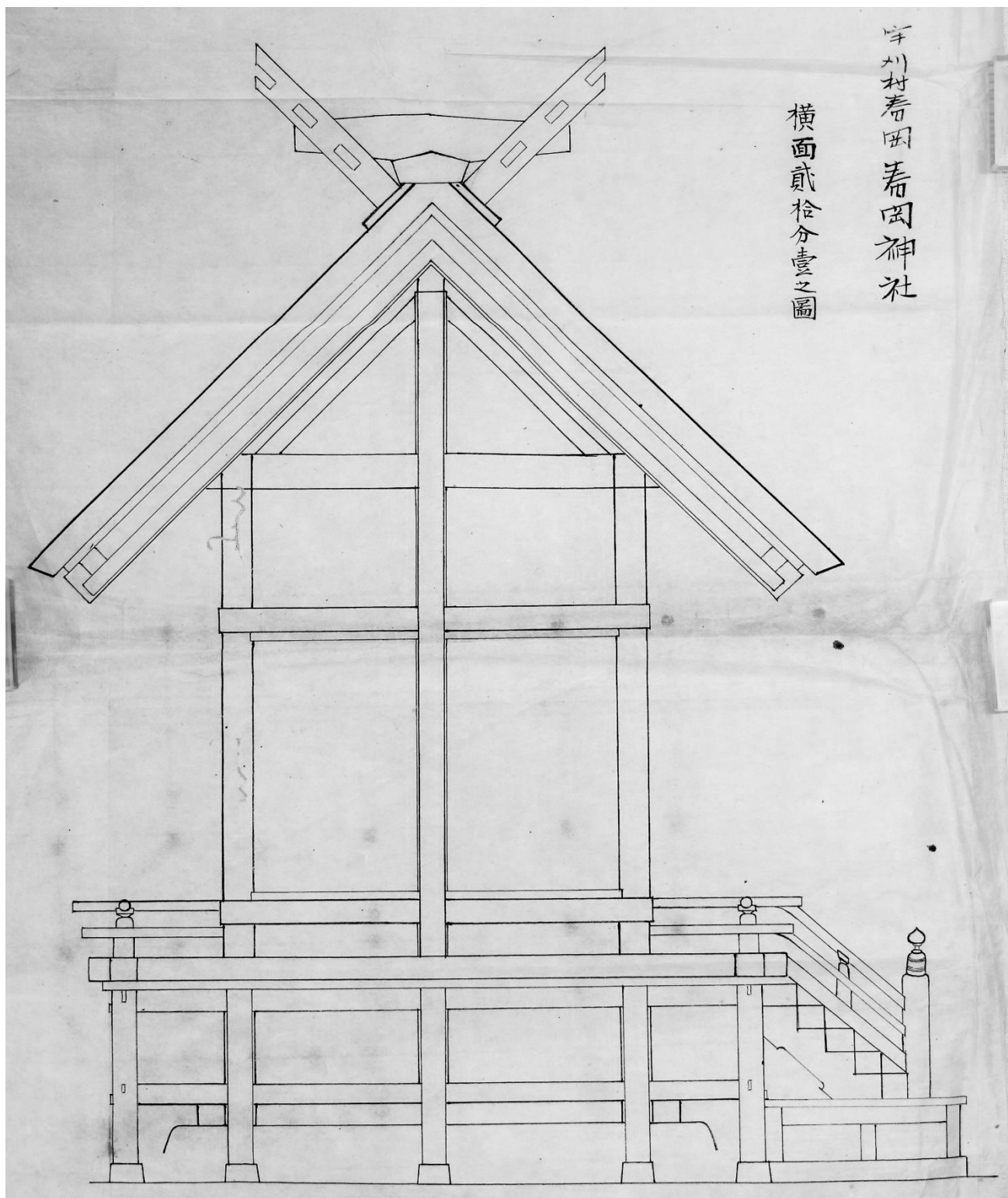
先述のとおり、春日神社は、明治二十三年（一八九〇）に十所神社と合祀され、春岡神社となりました。

明治二十八年（一八九五）に、春岡神社は火災で焼失してしまいました。本書一三四―一四〇号は、春岡神社焼失から再建までの史料です。

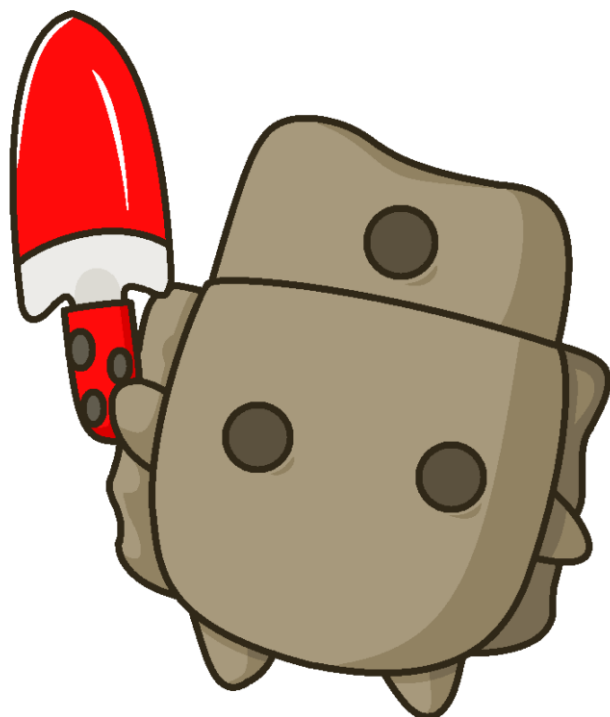
よければ御参照ください。

- (1) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(岩波新書、一九七九年)五〇―五一頁。
- (2) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)五一―五二頁。
- (3) 慶応四年(一八六八)四月付け「寛」(西楽寺文書近世一九〇五)本書一七号。
- (4) 延宝三年(一六七五)八月十五日付け『遠江国周智郡宇刈之郷西楽寺本末帳』(西楽寺文書近世八〇三)本書二号。
- (5) 仏像破壊の事例は安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)などで数多く紹介されている。
- (6) 村上重良『国家神道』(岩波新書、一九七〇年)九四頁。
- (7) 村上重良『国家神道』(前掲注6参照)九四―九五頁。安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一三二―一三三頁。
- (8) 村上重良『国家神道』(前掲注6参照)九五頁。
- (9) 「安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一三二頁。
- (10) 逆に、一向宗門徒のみの村などの場合、村氏神が無い、村に鎮守がないこともあった。安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一六四―一六五頁。
- (11) 村上重良『国家神道』(前掲注6参照)九六―九七頁。
- (12) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)「IV 神道国教主義の展開」「V 宗教生活の改編」。疱瘡神云々は新潟県越御堂村の床浦社の例で、同書一六四頁に紹介されている。
- (13) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一六二―一七九頁、特に一七二―一七五頁。
- (14) 明治十二年(一八七九)七月十六日付け「番外」(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四六六)本書三二一。
- (15) 年月日不明(明治十八年(一八八五))「迂蘭盆念仏取締方之事」(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二三八七)本書八〇号。
- (16) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一三四―一三五頁。
- (17) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一三四―一三五頁。
- (18) 照)一三四―一三五頁。
- (19) 安丸良夫『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』(前掲注1参照)一三五―一三六頁。
- (20) 明治十七年(一八八四)十一月十四日付け「庶第三百四十三号」(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書八九三)本書六七号。
- (21) 明治十八年(一八八五)十一月七日付け「庶第四百七拾三号」(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五五)本書七八号。
- (22) 明治十九年(一八八六)十月二十三日付け「庶第六百七十九号」(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書三三三〇)本書九〇号。
- (23) 延宝四年(一六七六)付け「遠江周智郡宇刈之郷西楽寺謹言上」(西楽寺文書近世三三)本書三三。
- (24) 延宝八年(一六八〇)四月「遠州周智郡安養山西楽寺記」(西楽寺文書近世九)『袋井市史 史料編一 古代中世』(袋井市役所、一九八一年)に第二部 縁起・系譜二号として収録されている(三〇四頁下段)。返り点で悩んでいる部分があり、『袋井市史』に収録されていることから、本書には収録しなかった。
- (25) 宝永三年(一七〇六)付け「十所大権現棟札下書」(西楽寺文書近世一六五五)本書四号。
- (26) 明治十年(一八七七)四月九日『村社加列願』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四五一)本書三〇号、明治二十三年(一八九〇)三月二十二日『十所神社明細帳』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇一)本書一一三三。
- (27) 宝永三年(一七〇六)付け「十所大権現棟札下書」(前掲注24参照)。
- (28) 拙稿『袋井市歴史文化館令和二年度企画展 中遠の古利 真言宗西楽寺Ⅱ 高平山』(袋井市歴史文化館、二〇二二年)、拙稿『中遠の古利 真言宗西楽寺 補遺 八葉尊昭と木食直心』(袋井市歴史文化館、二〇二二年)、安養山西楽寺開創一三〇〇年記念講座「住職、江戸城へ行く」(講師・杉山侑暉、二〇二四年九月八日)。
- (29) 前掲注27及び拙稿「江戸時代における災害復興と災害情報伝達―北原川村(現袋井市国本)と西楽寺(袋井市春岡)の元禄地震・宝永地震―」(『静岡県博物館協会研究紀要』第四八号、二〇二五年)参照。

- (29) 延宝四年(一六七六) 付け「遠江周智郡宇刈之郷西楽寺謹言上」(西楽寺文書近世三) 本書三号。
- (30) 『当山諸由緒扣』(西楽寺文書近世一一) の史料学的考察については、拙稿「江戸時代における災害復興と災害情報伝達」(前掲注28参照)を参照。
- (31) 『当山諸由緒扣』(西楽寺文書近世一一) 本書一九号。
- (32) 『真俗二諦留記』(西楽寺文書近世九七) 安永四年(一七七五)正月元日条。本書八号。
- (33) 明治十年(一八七七) 四月九日『村社加列願』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四五) 本書三〇号。
- (34) 明治二十三年(一八九〇) 三月二十二日『十所神社明細帳』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇) 本書一一三号、明治二十三年(一八九〇) 三月二十六日付け「庶第九十号」(一二宇刈近代役場文書二七二) 本書一一四号、明治二十三年(一八九〇) 六月二日付け「社第三一一八号・庶第三一一八九号」(一二宇刈近代役場文書七八八) 本書一一七号、明治二十三年(一八九〇) 六月三日付け「庶第八十号」(一二宇刈近代役場文書二七四) 本書一一八号。
- (35) 明治二十二年(一八八九) 四月二十二日付け「祠掌兼務願」(一二宇刈近代役場文書七七六) 本書一〇八号。
- (36) 明治二十三年(一八九〇) 六月二日付け「社第三一一八号・庶第三一一八九号」(一二宇刈近代役場文書七八八) 本書一一七号。
- (37) 静岡県編集発行『静岡県史料 第四輯』(一九三八年)「宇刈村八幡宮徳川家朱印状」一号、静岡市久能 別格官幣社東照宮所蔵文書、八八六頁。
- (38) 袋井市史編纂委員会編『袋井市史 史料編二 近世』(袋井市、一九八二年) 三六号、西楽寺文書、二八六頁。
- (39) 年月日不明「中村八幡社古器物古文書等目録」(二〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一七六) 本書一五六号。
- (40) 明治十六年(一八八三) 七月八日付け『社明細帳』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇) 本書六五号。
- (41) 明治九年(一八七六) 五月付け『合祀願』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四四) 本書二五号。
- (42) 明治九年(一八七六) 五月付け『合祀願』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二四四) 本書二五号。
- (43) 明治九年(一八七六) 六月二十九日付け「記」(宇刈村方文書五二) 本書二六号。
- (44) 明治九年(一八七六) 六月二十九日付け「記」(宇刈村方文書五二) 本書二六号。
- (45) 明治九年(一八七六) 六月二十九日付け「記」(宇刈村方文書五二) 本書二六号。
- (46) 年月日不明「願」(宇刈村方文書五五) 本書一九号。
- (47) 年月日不明「願」(宇刈村方文書五五) 本書一九号。
- (48) 明治九年(一八七六) 七月二十七日付け「示談約定書之事」(宇刈村方文書五三) 本書一七号。
- (49) 明治十三年(一八八〇) 五月二十二日付け「丙第百拾式号」(一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書七五) 本書三五号。
- (50) 明治十三年(一八八〇) 五月二十六日付け「上申書」(一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三) 本書三六号。
- (51) 明治十三年(一八八〇) 五月二十六日付け「上申書」(一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三) 本書三六号。
- (52) 明治十三年(一八八〇) 五月二十六日付け「上申書」(一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三) 本書三六号。
- (53) 明治十三年(一八八〇) 五月二十六日付け「上申書」(一〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一六三) 本書三六号。
- (54) 明治十四年(一八八一) 七月付け「官地御払下願」(二〇春岡村外二ヶ村戸長役場文書一一三) 本書五二号。
- (55) 『当山諸由緒扣』(西楽寺文書近世一一) 所引宝永六年(一七〇九) 四月付け「乍恐以口上書奉願候」 本書一九号。
- (56) 拙稿「江戸時代における災害復興と災害情報伝達」(前掲注28参照)。
- (57) 本多隆成「庶民信仰と地方寺院」(袋井市史編纂委員会編『袋井市史 通史編』第四編第六章、袋井市役所、一九八三年) 七〇六頁。
- (58) 本多隆成「庶民信仰と地方寺院」(前掲注57参照) 七〇六―七〇七頁。
- (59) 本多隆成「庶民信仰と地方寺院」(前掲注57参照) 七〇七頁。
- (60) (明治四十二年(一九〇九) 五月十日)『春日(春岡) 神社明細帳』(一四春岡村外二ヶ村戸長役場文書二五〇) 本書一四一号。



本書 135 号明治 29 年（1896）1 月 16 日付け「神社焼失ニ付再建願」（17 宇刈近代役場文書 801）より



宇刈・春岡 神社関係史料集

令和八年（二〇二六）一月五日 初版

編著 杉山侑暉（袋井市教育委員会生涯学習課文化財係）

袋井市歴史文化館

八百五坪

本社 間口三丈五寸
奥行三丈五寸

拝殿 間口三丈五寸
奥行二丈五寸 本社

本社 間口三丈五寸
奥行三丈五寸

拝殿

本社 間口三丈五寸
奥行三丈五寸

本社 間口三丈五寸
奥行三丈五寸

神饌所

間口三丈五寸
奥行三丈五寸

奥行九尺

間口三丈五寸

本社 間口三丈五寸
奥行三丈五寸



奥行九尺

間口三丈五寸

